新発田市埋蔵文化財調査報告　第 57

板山館跡 発掘調査報告書

県営担い手育成基盤整備事業（加治川右岸地区）
に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅳ

２０１８

新発田市教育委員会

例　　言

1　本報告書は，新潟県新発田市板山字舘ノ越 2279 番 1 ほかに所在する板山館跡（いたやまやかたあと）の発掘調査記録である。

2　発掘調査は，「県営担い手育成基盤整備事業（加治川右岸地区）」に伴う本発掘調査であり，新潟県新発田地域振興局から委託を受けて，新発田市教育委員会が調査主体となって実施した。平成 25(2013) 年 5 月 29 日から 12 月 25 日に現地調査を行い，整理作業は，発掘調査終了後の平成 25 年度と翌 26 年度に基礎整理作業を，平成 27 ～ 29 年度に本格整理作業・報告書作成を行った。

3　本発掘調査に要した経費は，総額の 92.5%を事業者である新潟県新発田地域振興局が負担し，残りの 7.5%を文化財保護担当部局である新発田市が負担した。なお，文化財保護担当部局負担分については，その半額を国庫補助，残りを県費補助と市費で負担した。

4　遺物と図面・写真ネガ・日誌などの記録類は，新発田市教育委員会が一括保管している。遺物の注記は，土器・陶磁器類については遺跡名を「板山」と略記し，グリッド・遺構・層位・遺物番号・年月日を記したうえで分類・収納している。

5　本報告書の作成は，本田祐二（新発田市教育委員会）を中心に行い，田中耕作（新発田市教育委員会）と坂野岳史（新発田市教育委員会 臨時職員），整理作業員がこれを補助した。

6　本書掲載の写真は，遺構を本田が撮影し，遺物は縄文土器を田中が，木製品・石器を㈱ノガミが，残りを本田が撮影した。

7　第Ⅳ章の自然科学分析は，１を㈱パレオ・ラボ，２を㈱加速器分析研究所，３を㈱古環境研究所に委託し，それぞれの業務報告と結果を掲載した。

8　本書の編集は本田が行い，第Ⅲ章６を田中が，第Ⅳ章を除くほかを本田が執筆した。

9　石製品・石器の石材の同定は，鈴木 暁（新発田市教育委員会）が肉眼観察により行った。

10　遺物番号は，挿図・写真図版とも同一の通し番号を付したが，第Ⅳ章のみ節ごとに独立した番号である。

11　表番号・挿図番号・図版番号は，第Ⅳ章のみ節ごとに独立した番号である。

12　発掘調査から本書の作成まで，下記の多くの諸氏・機関からご助言・ご支援を賜わった。記して感謝の意を表す次第である。（五十音順，敬称略）

相羽重徳　伊藤久司　小林 弘　関 雅之　高橋春栄　増子正三　水澤幸一　新潟県教育庁文化行政課　新潟県新発田地域振興局　川東土地改良区

目　　次

第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置と立地 …… 1
2　歴史的環境と周辺の遺跡 …… 2

第Ⅱ章　調査の概要

1　調査に至る経緯と調査体制 …… 6
2　調査経過 …… 7

第Ⅲ章　遺構と遺物

1　グリッドの設定と基本土層 …… 9
2　遺構の概要と記載方法 …… 9
3　遺構各説 …… 20
4　遺物の概要と記載方法 …… 75
5　中・近世の遺物 …… 75
6　先史時代の遺物 …… 94

第Ⅳ章　自然科学分析

1　板山館跡出土木製品の樹種同定 …… 116
2　板山館跡における放射性炭素年代測定（AMS 測定） …… 119
3　板山館跡採取土壌分析（トイレ遺構分析） …… 128

第Ⅴ章　まとめ

1　土器・陶磁器の変遷 …… 140
2　建物の消長と遺跡の変遷 …… 141
3　結　　語 …… 144

引用・参考文献 …… 145
報告書抄録 ……後付

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置……　1
第２図　周辺の主な中世遺跡……　3
第３図　遺跡の立地と周辺の遺跡……　4
第４図　遺跡範囲と確認トレンチ……　7
第５図　グリッドと基本土層……　10
第６図　調査区全体図……　12
第７図　平面分割図（１）……　13
第８図　平面分割図（２）……　14
第９図　平面分割図（３）……　15
第 10 図　平面分割図（４）……　16
第 11 図　平面分割図（５）－１（掘立柱建物・柵列）……（16 － 17 折込）
第 12 図　平面分割図（５）－２（その他の遺構）……（16 － 17 折込）
第 13 図　平面分割図（６）……　17
第 14 図　平面分割図（７）……　18
第 15 図　平面分割図（８）……　19
第 16 図　１号掘立柱建物……　20
第 17 図　２号掘立柱建物（１）……　21
第 18 図　２号掘立柱建物（２）……　22
第 19 図　３号掘立柱建物（１）……（22 － 23 折込）
第 20 図　３号掘立柱建物（２）……　23
第 21 図　４・５号掘立柱建物……　24
第 22 図　６・７号掘立柱建物……　25
第 23 図　８号掘立柱建物……　26
第 24 図　９号掘立柱建物（１）……　27
第 25 図　９号掘立柱建物（２）……　28
第 26 図　10 号掘立柱建物 ……　29
第 27 図　11・12 号掘立柱建物 ……　30
第 28 図　13・14 号掘立柱建物 ……　31
第 29 図　15・16 号掘立柱建物（１）……　32
第 30 図　16 号掘立柱建物（２）……　33
第 31 図　17 号掘立柱建物（１）……　34
第 32 図　17 号掘立柱建物（２）・18 号掘立柱建物……　35
第 33 図　19 号掘立柱建物 ……　36
第 34 図　20・21 号掘立柱建物 ……　37
第 35 図　22・23 号掘立柱建物 ……　38
第 36 図　24 号掘立柱建物（１）……　39
第 37 図　24 号掘立柱建物（２）……　40
第 38 図　25 号掘立柱建物（１）……　41
第 39 図　25 号掘立柱建物（２）・26 号掘立柱建物……　42
第 40 図　27 号掘立柱建物 ……　43
第 41 図　28 号掘立柱建物 ……　44
第 42 図　29 号掘立柱建物 ……　45
第 43 図　30 号掘立柱建物 ……　46
第 44 図　31 号掘立柱建物 ……　47
第 45 図　32 号掘立柱建物 ……　48
第 46 図　33 号掘立柱建物 ……　49
第 47 図　34 号掘立柱建物 ……　50
第 48 図　35 号掘立柱建物 ……　51
第 49 図　36 号掘立柱建物 ……　52
第 50 図　37 号掘立柱建物 ……　53
第 51 図　１号竪穴建物……　54
第 52 図　１～３号柵列……　55
第 53 図　１～３号井戸……　56
第 54 図　１～ 10・13 号土坑 ……　58
第 55 図　11・12・14 ～ 18 号土坑 ……　59
第 56 図　19 ～ 26 号土坑 ……　61
第 57 図　27 ～ 36 号土坑 ……　62
第 58 図　37 ～ 41 号土坑 ……　64
第 59 図　42 ～ 48 号土坑 ……　65
第 60 図　49 ～ 54 号土坑 ……　66
第 61 図　55・56 号土坑 ……　67
第 62 図　柱根を検出したピット……　68
第 63 図　１～ 10・12 ～ 20 号溝……　70
第 64 図　20 ～ 32 号溝，１号杭列 ……　72

第 65 図　堀…… 73
第 66 図　川跡…… 74
第 67 図　掘立柱建物出土 土器・陶磁器 …… 76
第 68 図　掘立柱建物・竪穴建物・井戸・土坑出土 土器・陶磁器 …… 78
第 69 図　土坑出土 土器・陶磁器 …… 79
第 70 図　ピット・溝出土 土器・陶磁器 …… 80
第 71 図　溝・堀・攪乱出土 土器・陶磁器…… 81
第 72 図　遺構外出土 土器・陶磁器（１）…… 82
第 73 図　遺構外出土 土器・陶磁器（２）…… 83
第 74 図　土製品…… 84
第 75 図　石製品（１）…… 85
第 76 図　石製品（２）…… 86
第 77 図　銭貨・金属製品…… 87
第 78 図　木製品（１）…… 88
第 79 図　木製品（２）…… 89
第 80 図　木製品（３）…… 90
第 81 図　木製品（４）…… 91
第 82 図　木製品（５）…… 92
第 83 図　木製品（６）…… 93
第 84 図　縄文土器…… 95
第 85 図　石器…… 96
第 86 図　土器・陶磁器の組成と消長…… 140
第 87 図　建物類の変遷（１）…… 142
第 88 図　建物類の変遷（２）…… 143

表　目　次

表１　調査体制…… 6
表２　遺構一覧表…… 97
表３　遺物観察表…… 107

図　版　目　次

図版１　調査区遠景・全景
図版２　基本土層，遺構検出状態，１・２号柵列
図版３　３・９・17・24 号掘立柱建物柱穴
図版４　25・26・33 号掘立柱建物柱穴，１号竪穴建物，１・３号井戸
図版５　２号井戸，20・40・50 号土坑
図版６　４・10・14・20 号溝，１号柵列，堀
図版７　堀，川跡
図版８　土器・陶磁器（１）
図版９　土器・陶磁器（２）
図版 10　土器・陶磁器（３）
図版 11　土器・陶磁器（４），土製品，石製品，銭貨，金属製品
図版 12　石製品，石器
図版 13　木製品（１）
図版 14　木製品（２）

凡　　例

1　本書掲載の地形図は，国土地理院発行の 1/50,000「新発田」（平成 15 年）・「中条」（平成 15 年），1/25,000「上赤谷」（平成 14 年）および新発田市作成 1/200「板山館跡本発掘調査地形測量業務委託平面図」を縮小したものを使用している。

2　地形図は図の「天」が真北で，遺構図の方位記号は真北を示す。

3　グリッド杭の国家座標は第Ⅷ系である。基準となる杭とその座標については，第Ⅲ章 1 を参照願いたい。なお，南北グリッド軸の方位は，真北に対して N -19°　42′　30″ -W である。

4　挿図の縮尺は，遺構平面図・断面図ともに 1/40 ～ 1/100，遺物は 1/3 を基本とする他，2/3・1/6・1/8 とし，適宜スケールと縮尺を示した。

5　土層説明および遺物の色調での土色は，小山正忠・竹原秀雄 2003『新版　標準土色帖』日本色研事業株式会社を使用した。

6　遺構図に示した遺物の原位置は，土器・陶磁器・土製品を●，石製品を■，木製品を▲とした。

7　遺構写真で，スケールとして用いたピンポールは，直線部分が 50cm の長さである。

8　引用・参考文献は巻末に一括掲載し，本文中では著者と発行年を括弧書きで示した。ただし，業務委託した第Ⅳ章は，各節の文末に記した。

9　挿図中の網掛け等で示す範囲は，下記の内容を表す。

〈土器・陶磁器〉

- 施釉範囲
- 目跡
- 漆
- 青磁釉（肥前系磁器）
- 薄い鉄釉
- 銅緑釉
- 濃い鉄釉
- ススス

〈石製品・木製品〉

- 磨面
- 砂付着
- 赤漆
- 黒漆
- 炭化

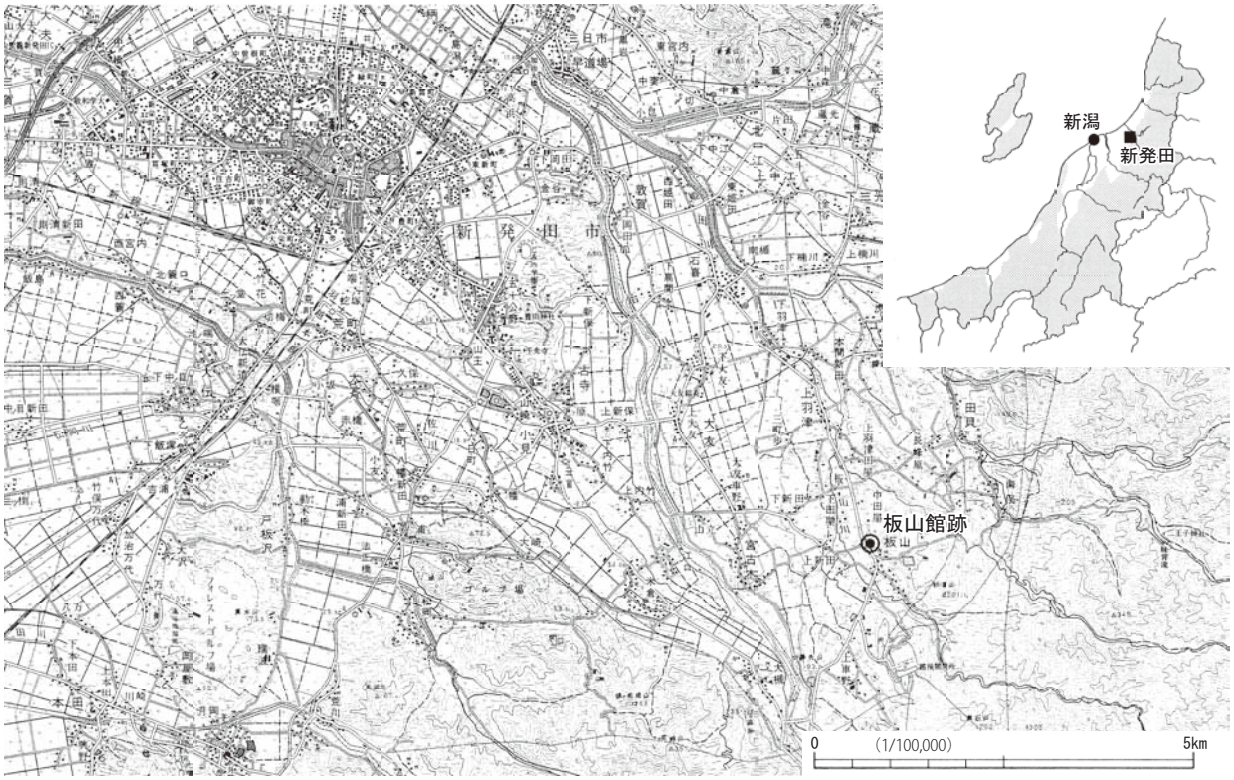
第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置と立地

新潟県新発田市は，新潟市の東に隣接する人口約９万８千人の県北部の地方都市である。市域は，東は山形県との県境となっている飯豊山地から，西は日本海に面する藤塚浜までの範囲にわたり，総面積は533.10㎢である。市街地は，旧新発田藩城下町とその周辺部に発達し，その周囲には加治川水系の恵みを豊かに受けて営まれる稲作農村地帯が広がる。

市域の東側は，飯豊山地・櫛形山脈・五頭山地といった山々が連なり，平野に面して五十公野丘陵や真木山丘陵などの独立丘陵が点在している。山々から西流する加治川水系の河川は,越後平野の一部を成す河成段丘や扇状地,沖積低地を形成した。かつてこれらの河川は，下流域で海岸線に並行して延びる新潟砂丘にぶつかり，日本海へは直接注ぎ込むことができず，福島潟や塩津潟（紫雲寺潟）などの潟湖へ流れるほか，砂丘沿いを流れて阿賀野川と合流していた。また，その阿賀野川は河口付近で信濃川と合流し，日本海へと流れていった。このような自然条件の元，当時の人々は，海や河川，潟を利用した水上交通を媒介として，盛んに交易を行っていたと考えられている。

板山館跡は,新発田市板山字舘ノ越2279番１ほかに所在する中世の城館跡である。市街地中心部から南東へ約8.5㎞に位置し，周辺の標高は約64ｍ，加治川によって開析された河成段丘を板山川が開析して形成した河成段丘中位面の，板山川右岸に遺跡は立地している。遺跡の周囲には，東にある丘陵から延びる緩傾斜地を造成した田畑が広がり，丘陵の裾部から湧出する水がこれらの田畑を潤している。今回の調査でも旧河川が検出されており，当時もこの河川が下流域の田畑を潤していたと想像されよう。



第１図　遺跡の位置

2 歴史的環境と周辺の遺跡

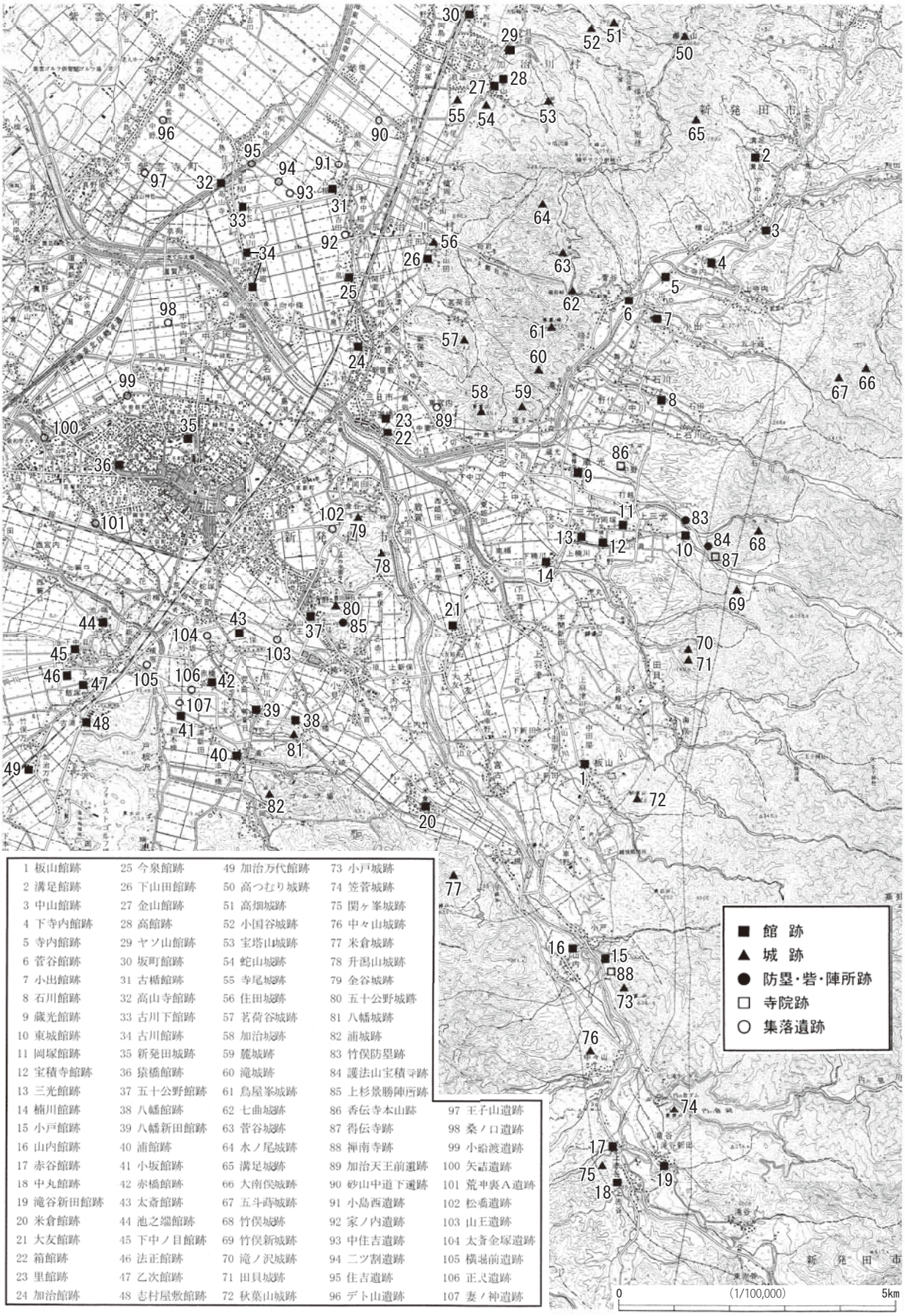
市域東縁の山麓部は，市内でも旧石器時代や縄文時代，中世の遺跡が多く集中している場所である。板山館跡が所在する加治川中流域も同様で，本遺跡を含む加治川右岸の板山地区・小戸地区，同左岸の山内地区にもそれら時代の遺跡が多く分布している。

旧石器時代から古代　本遺跡から南へ約２㎞に広がる車野原には，上車野Ａ遺跡（第３図 109）をはじめとした旧石器時代の遺跡が広がり，「上車野・上ノ山遺跡群」を形成している。また本遺跡の西へ 400 mの地点には上新田Ｂ遺跡（108）（鈴木・田中ほか 2004）が所在する。本遺跡と同地区のほ場整備事業に伴い平成 14・15 年度に本発掘調査が行われ，後期旧石器時代にあたる尖頭器石器群の製作跡が確認されている。

また，縄文時代の遺跡も，本遺跡の周辺で数多く確認されている。過去に発掘調査が行われた遺跡だけでも，縄文時代早期前葉から中期前葉の扉山岩陰遺跡（120）（扉山遺跡発掘調査会 1988），早期中葉と前期前葉から末葉の小戸Ａ遺跡（119）（田中 1983），早期中葉と前期前葉から末葉の狐森Ｂ遺跡（116）（田中・坂野井ほか 2007），中期中葉の上車野Ｅ遺跡（115）がある。また，本遺跡から 200 m圏内の同じ段丘上に立地する中期後葉から後期初頭の漆田遺跡（113），中期末葉から晩期末葉の中野遺跡（112），中期末葉から晩期初頭の庄道田遺跡（114）（田中・鈴木ほか 2014），加治川対岸の山内地区にある中期末葉の館ノ内遺跡Ａ地点（117），中期末葉と晩期中葉の館ノ内遺跡Ｄ地点（118）（田中・鶴巻 1992）があげられる。

弥生時代については，小戸Ａ遺跡で中期前半，上車野Ｅ遺跡で後期後半の土器がごく少量出土している。古墳時代については，狐森Ｂ遺跡で前期の土器が出土している。この土器は，本遺跡と同地区のほ場整備事業に伴い平成 17 年度に本発掘調査を実施した際に出土したものである。それ以外には目ぼしい資料は見られず，両時代とも本遺跡の周辺の状況は詳細不明である。また，古代に至っては，本遺跡周辺では明確な遺跡は見つかっていない。この時期の市内では平野部への進出が著しい一方，加治川沿いの河成段丘上の様相はほとんどわかっていない。

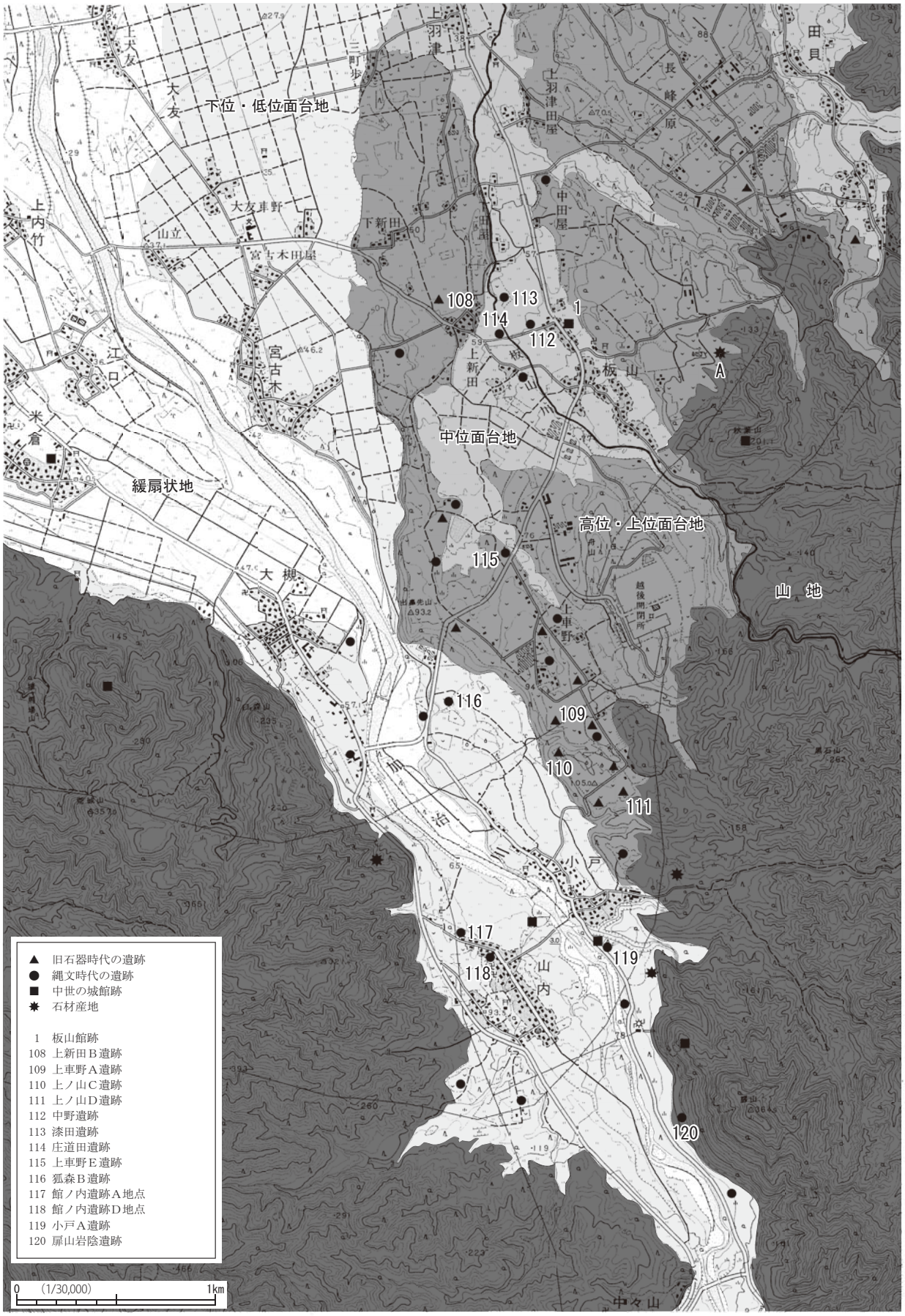
中世　平安時代後半になると，律令国家を支える公地公民制の維持が難しくなり，各地で在地有力者により荘園が開発される。その後の土地の支配制度は，荘園と国衙領を元とする公領による，いわゆる荘園公領制へと移行する。新発田市を含む下越地方では荘園が多く立てられ，現在の市内には，北部に摂関家領の奥山荘，その南には金剛院領加地荘，旧豊浦町を中心とした市域南部に東大寺領豊田荘，赤谷地区には小川荘が存在していた（新発田市史編纂委員会編 1980）。なお，板山地区がどの荘域に属していたか，中世以前の当地域に関する資料が残存せず不明である。文治元（1185）年に源頼朝は，全国に守護・地頭を設置する勅許を得て，御家人や在地領主を各地の守護・地頭に補任した。奥山荘には三浦和田氏，加地荘には佐々木氏，豊田荘には開（関）瀬氏が地頭に任じられている（小川荘は不明）。開（関）瀬氏は建仁二（1202）年の史料を最後にその消息は不明となるが，三浦和田氏や佐々木氏の子孫は在地領主となる。新発田市内を根拠地とした佐々木氏は，後に加地氏を称して在地領主化し，その領地は分割相続され，新発田・竹俣・五十公野などの諸氏が派生した。惣領家である加地氏と新発田・竹俣・五十公野の四氏は，戦国時代の初期の頃には肩を並べる存在となり，国人領主としてそれぞれ独立した存在となっていたことがわかっている（阿部 2017）。なお，史料や伝承，地名などから，加治川右岸北西部の地域を加地氏，加治川右岸南東部の地域を竹俣氏，加治川左岸の地域を新発田氏が（戸根・田中ほか 2017），また，板山の北西に近接する上・下羽津を現在の阿賀野市内に本拠を持つ大見安田氏が（菅編 1961），赤谷地区を会津芦名氏の家臣小田切氏がそれぞれ領有していたと考えられている。その後，越後国主の座を巡る管領上杉氏と守護代長尾氏の争い，上杉謙信の死後，上杉氏の跡目を巡る争いを経て，上杉景勝と新発田重家の間で行われた新発田合戦と新発田氏の滅亡，上杉氏の会津への移封をもって当地区も新たな時代を迎えることとなる。



1 板山館跡	25 今泉館跡	49 加治万代館跡	73 小戸城跡
2 溝足館跡	26 下山田館跡	50 高つむり城跡	74 笠菅城跡
3 中山館跡	27 金山館跡	51 高畑城跡	75 関ヶ峯城跡
4 下寺内館跡	28 高館跡	52 小国谷城跡	76 中々山城跡
5 寺内館跡	29 ヤソ山館跡	53 宝塔山城跡	77 米倉城跡
6 菅谷館跡	30 坂町館跡	54 蛇山城跡	78 升潟山城跡
7 小出館跡	31 古橋館跡	55 寺尾城跡	79 金谷城跡
8 石川館跡	32 高山寺館跡	56 住田城跡	80 五十公野城跡
9 蔵光館跡	33 古川下館跡	57 茗荷谷城跡	81 八幡城跡
10 東城館跡	34 古川館跡	58 加治城跡	82 浦城跡
11 岡塚館跡	35 新発田城跡	59 麓城跡	83 竹俣防塁跡
12 宝積寺館跡	36 猿橋館跡	60 滝城跡	84 護法山宝積寺跡
13 三光館跡	37 五十公野館跡	61 鳥屋峯城跡	85 上杉景勝陣所跡
14 楠川館跡	38 八幡館跡	62 七曲城跡	86 香伝寺本山跡
15 小戸館跡	39 八幡新田館跡	63 菅谷城跡	87 得伝寺跡
16 山内館跡	40 浦館跡	64 水ノ尾城跡	88 禅南寺跡
17 赤谷館跡	41 小坂館跡	65 溝足城跡	89 加治天王前遺跡
18 中丸館跡	42 赤橋館跡	66 大南俣城跡	90 砂山中道下遺跡
19 滝谷新田館跡	43 太斎館跡	67 五斗蒔城跡	91 小島西遺跡
20 米倉館跡	44 池之端館跡	68 竹俣城跡	92 家ノ内遺跡
21 大友館跡	45 下中ノ目館跡	69 竹俣新城跡	93 中住吉遺跡
22 箱館跡	46 法正館跡	70 滝ノ沢城跡	94 二ツ割遺跡
23 里館跡	47 乙次館跡	71 田貝城跡	95 住吉遺跡
24 加治館跡	48 志村屋敷館跡	72 秋葉山城跡	96 デト山遺跡

97 王子山遺跡	
98 桑ノ口遺跡	
99 小船渡遺跡	
100 矢崎遺跡	
101 荒中裏A遺跡	
102 松橋遺跡	
103 山王遺跡	
104 太斎金塚遺跡	
105 横堀前遺跡	
106 正尺遺跡	
107 妻ノ神遺跡	

第２図　周辺の主な中世遺跡



第３図　遺跡の立地と周辺の遺跡

当遺跡の存続時期である室町時代以降の遺跡のうち，発掘調査を行ったものについて概観していく。

城館跡では，宝積寺館跡（第２図 12）・三光館跡（13）・箱館跡（22）・寺内館跡（５）・新発田城跡（35）・五十公野館跡（37）・太斎館跡（43）などで調査が行われている。宝積寺館跡は，一辺が 200 m以上の単郭式方形居館である（田中・鶴巻ほか 1990）。掘立柱建物 51 棟・柵列 28 列のほか墓や茶毘跡と想定される土坑 25 基などが検出されている。出土遺物は，15 世紀を主体に 14 ～ 16 世紀のものが大部分を占めている。15 世紀頃の竹俣氏の本拠地と考えられ，16 世紀以降は寺院となり竹俣氏の菩提寺として存続していたと言われている。三光館跡は，東西 100 m，南北 85 mの方形居館である（田中・鶴巻ほか 1990）。狭い範囲での調査のため，堀を除き遺構の詳細は不明であるが，宝積寺館跡と同様に 15 世紀を主体とする 14 世紀後半から 16 世紀代の遺物が出土している。箱館跡は，佐々木加地氏の本拠と考えられる加治城跡（58）の麓に位置する一辺約 70 mの方形居館である（伊藤・鶴巻ほか 2006）。堀の一部などが検出され，14 世紀後半から 15 世紀後半を主体とする 13 世紀から 16 世紀代の遺物が出土している。惣領家加地氏の庶子や被官の館跡と考えられ，16 世紀前半には館は廃絶されたとする。寺内館跡は，一辺 74 mの方形居館である（鶴巻・高橋 1999）。掘立柱建物５棟・竪穴建物１棟などが検出され，12 世紀から 16 世紀前半の遺物が出土し，館の存続時期を 13 世紀から 16 世紀前半としている。箱館跡と同様，小領主の館跡と想定されている。新発田城跡は近世の城郭跡であるが，第８地点として調査した箇所は古丸と呼ばれ，新発田氏の居館がかつてあったとの伝承がある（鶴巻・清水ほか 1997）。堀や土塁は検出されず，掘立柱建物も１棟が復元されているのみで，館としての詳細は不明であるが，９世紀から 19 世紀代までの遺物が出土し，中でも中世土師器の変遷を追えることが注目される。五十公野館跡は，新発田合戦の際に上杉景勝に攻め落とされた五十公野城の西麓に立地する根小屋式の居館または同城の副郭と考えられる方形居館である（戸根・田中ほか 2017）。13 世紀から 16 世紀の遺物が出土し，15 ～ 16 世紀を主体とする。太斎館跡は，一辺約 80 mの単郭式方形居館である（津田 2011）。堀と郭内の一部が調査され，13 世紀から 16 世紀前半の遺物が出土しているが，14 世紀から 15 世紀前半のものでほぼ占められ，15 世紀前半には館としての機能は終息したとされる。

このように，14 世紀代から 15 世紀を中心とする城館跡と 16 世紀まで存続する城館跡がある一方で，集落跡の多くは鎌倉時代である 13 世紀から 14 世紀前半代を中心とする遺跡が多く，16 世紀代に営まれる集落跡は市内ではわずかに確認されるだけである。加治天王前遺跡（89）はその一つで，加治城跡の麓に位置する集落である（伊藤・鈴木ほか 2008）。15 世紀後半以降の居住地と，それに隣接する畑地が検出されているほか，16 世紀前半に比定される大型掘立柱建物と想定される柱穴列が検出されており，富裕者の居住地と考えられている。荒神裏Ａ遺跡（101）は，加治川扇状地の自然堤防上に立地する，古墳時代から戦国時代まで断続的に存続する集落遺跡である（鶴巻・永井ほか 2005）。中世の掘立柱建物や木棺墓などが検出されているが，中世集落の様相はあまり判然としていない。12 世紀後半から 17 世紀初頭までの遺物が出土している。小船渡遺跡（99）は，加治川扇状地扇端部に位置する古代と中世の集落遺跡である（加藤・石垣ほか 2014）。12 世紀後半から 15 世紀末まで，途中洪水による被害を受けながらも継続的に集落が営まれていたことがわかっている。

近世　上杉氏が会津へ移封されると，板山地区を含む周辺の村々は村上氏の支配下に組み込まれることとなり，江戸時代には村上藩領となる（新発田市史編纂委員会編 1980）。当初の藩主村上氏は領内を十余組に分かち，その下に各村を置いて領内を統治，上・下板山村は加治組に属していた。寛永十九（1642）年村上氏の跡を受け藩主となった堀氏が断絶，加治組の村々は幕領となった。正保元（1644）年に本多氏が村上藩主に移封されると，それに伴い加治組の村々も村上藩領に復する。慶安二（1649）年に松平氏が村上藩主に任じられた頃，領内の組の細分・再編が行われ，上・下板山村は通称加治六組の大友組に属した。その後，宝永六（1709）年に村上藩主の死去に伴い大友組の村々は再び幕領に収公され，享保九（1724）年黒川藩領となり，そのまま幕末を迎えた。

第Ⅱ章　調査の概要

1　調査に至る経緯と調査体制

板山館跡が所在する県営担い手育成基盤整備事業加治川右岸地区は，平成10年に事業が採択され，事業面積は396haである。新発田市教育委員会（以下，「市教委」）は，事業者である新潟県新発田農地事務所（以下，「県農地事務所」）や地元代表者である川東土地改良区と協議を行い，同地区内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地のうち７遺跡が確認調査の対象となった。市教委は，平成11年11月の上新田Ｂ遺跡の確認調査を皮切りに，平成15年11月の板山館跡まで，秋の稲刈り後の時期に７遺跡の確認調査を行った。また，平成14･15年に上新田Ｂ遺跡，平成17年に狐森Ｂ遺跡，平成22年に中野遺跡，平成23年に庄道田遺跡の本調査を実施している。

板山館遺跡周辺の工事が平成17年度に着手される計画となったため，平成14年12月に県農地事務所と市教委は協議を行い，板山館跡の範囲確認調査を平成15年度秋季に実施することで合意した。事業主体である県農地事務所長は，平成15年８月27日付け芝農地第557号の１で文化財保護法（昭和25年法律第214号）第57条の３第１項に基づく埋蔵文化財発掘の通知で周知の埋蔵文化財包蔵地内での工事計画を提出した。それを受け，新潟県教育委員会教育長（以下，「県教育長」）は，平成15年９月８日付け教文第819号で確認調査の実施を市教委に通知した。市教委は，平成15年10月27日付け生学836号で確認調査への着手を県教育長へ報告し，11月18日から11月28日の期間に板山館跡の範囲確認調査を実施した。市教委はトレンチ４か所を調査して遺跡範囲の把握に努め，工事対象地内の約4,000㎡規模に遺跡が広がることを確認，平成15年12月５日付け生学第953号で，県教育長へ確認調査の終了を報告した。その後，新潟県新発田地域振興局（旧県農地，以下「県振興局」）と市教委は，施工計画の見直しを含めた協議を重ねていった。その後，平成24年10月の協議で，遺跡範囲内の面工事部分南半分と用排水路部分，農道沿いの側溝部分の合計1,700㎡を，平成25年５月から９月に市教委が直営により本発掘調査を実施することで合意した。なお，調査体制は表１のとおりである。

表１　調査体制

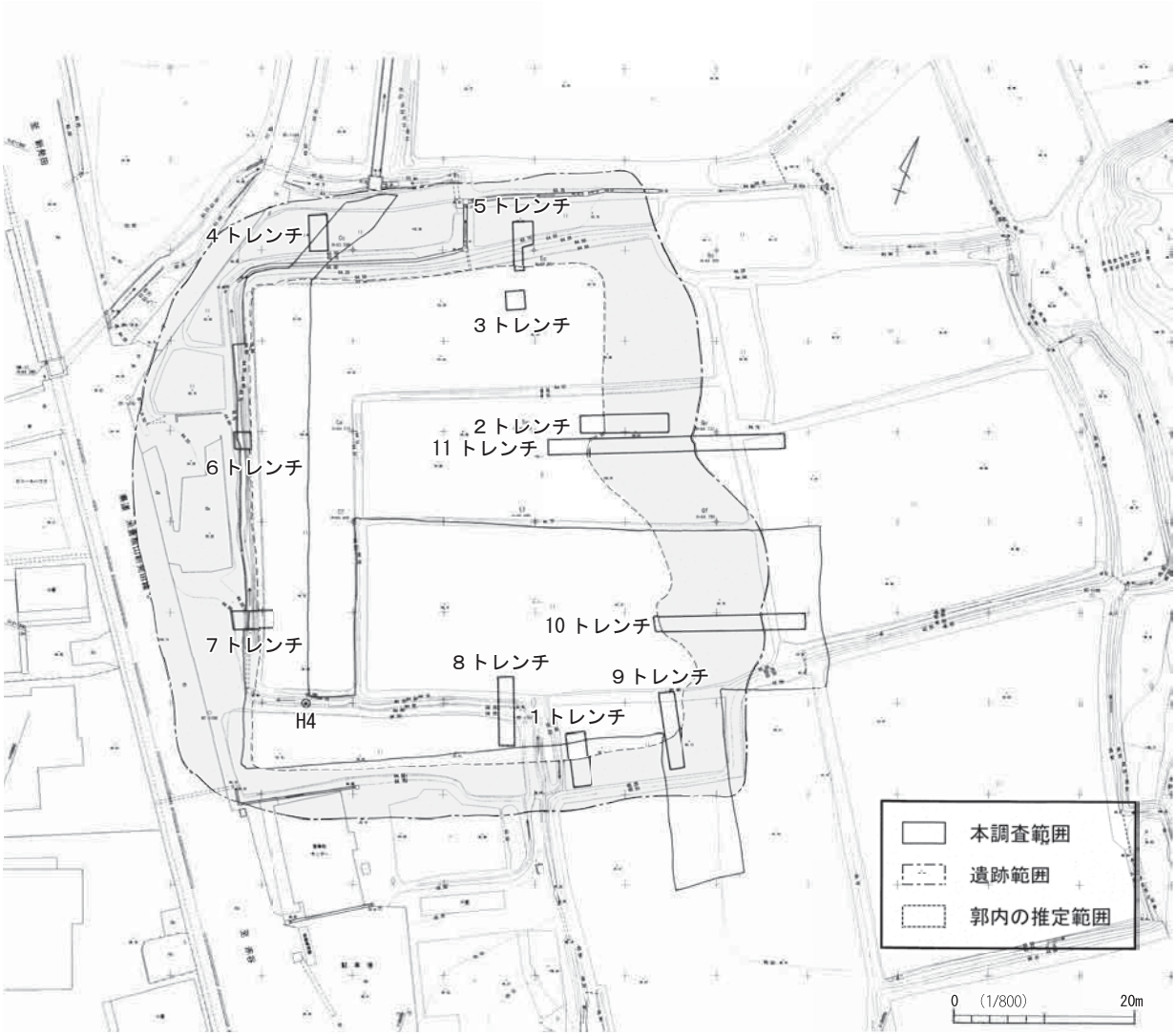
平成15年度（確認調査）					
調査主体者	新発田市教育委員会（教育長　大滝　昇）		調査担当者	田中　耕作	（生涯学習課 副参事）
監　理	内本　隆	（教育部長）	調査員	鈴木　暁	（生涯学習課 文化財技師）
総　括	小島　一修	（生涯学習課長）	庶　務	青木　勇	（生涯学習課 主事）
				福地　孝男	（生涯学習課 主事）
平成25年度（本発掘調査）					
調査主体者	新発田市教育委員会（教育長　大山 康一）		調査担当者	本田　祐二	（生涯学習課 文化行政室 主任）
監　理	船山　隆	（生涯学習課長）	調査員	渡邊美穂子	（生涯学習課 文化行政室 主任）
総　括	田中　耕作	（生涯学習課 文化行政室長）	庶　務	鈴木　暁	（生涯学習課 文化行政室 主任）
平成26年度（整理作業）					
調査主体者	新発田市教育委員会（教育長　大山　康一）		調査担当者	本田　祐二	（生涯学習課 文化行政室 主任）
監　理	船山　隆	（生涯学習課長）	調査員	坂野　岳史	（生涯学習課 文化行政室 臨時職員）
総　括	田中　耕作	（生涯学習課 文化行政室長）	庶　務	鈴木　暁	（生涯学習課 文化行政室 主任）
平成27年度（整理作業）					
調査主体者	新発田市教育委員会（教育長　大山　康一）		調査担当者	本田　祐二	（文化行政課 主任）
監　理	田中　耕作	（文化行政課長）	調査員	坂野　岳史	（文化行政課 臨時職員）
総　括	平山　真	（文化行政課長補佐）	庶　務	渡邊美穂子	（文化行政課 主任）
平成28年度（整理作業）・平成29年度（整理作業・報告書作成）					
調査主体者	新発田市教育委員会（教育長　大山　康一）		調査担当者	本田　祐二	（文化行政課 主任）
監　理	平山　真	（文化行政課長）	調査員	坂野　岳史	（文化行政課 臨時職員）
総　括	坂井　喜行	（文化行政課長補佐）	庶　務	渡邊美穂子	（文化行政課 埋蔵文化財係長）

そして，県振興局長は平成 25 年３月４日付け芝振農整第 1119 号埋蔵文化財発掘の通知により，市教委との合意内容に基づいた遺跡部分の工事計画を県教育長へ提出した。それを受けて県教育長は，平成 25 年３月 13 日付け教文第 1333 号の２で工事に着手する前に本発掘調査を実施するよう通知した。また，県振興局長は市教委に対し，平成 25 年４月２日付け芝振農整第 10 号で本発掘調査の実施を依頼し，両者は平成 25 年４月 10 日に発掘調査費用の負担契約を締結した。なお，調査費用の負担割合は例言を参照されたい。その後，市教委は平成 25 年４月 30 日付け文行第 100 号で県教育長へ発掘調査の着手を報告し，同年５月 29 日に調査に着手した。

２　調査経過

発掘調査の経過（調査日誌抄）　平成 25 年５月８日～６月６日　測量業者に委託して，発掘調査前の地形測量と調査で使用する基準点を打設する（成果品は５月 31 日に納品）。この間，県振興局が調査区の丁張りと用排水路の迂回工事を行う。地形測量終了後，発掘調査支援業者に委託し，現場器材と設備の設営作業を実施する。

６月７日～ 27 日　現場器材の引越しや現場事務所の設営を行う。まず，遺跡の範囲と現況確認のためトレンチ６か所を掘削する。その後，用排水路部分のうち，調査区西側と南西部の調査を行う。地山の粘性が強く，掘削・検出作業に手間取る。堀の肩は大幅に攪乱を受けており，原形をとどめているのはわずかな範囲と判明する。



第４図　遺跡範囲と確認トレンチ

６月 28 日～７月 31 日　雨が多く，作業が滞る。調査区西側の遺構掘削と記録作成を継続しつつ，調査区南側と面工事部分南西部，調査区南東部の調査に着手する。一段低い調査区南側は大幅に削平され，遺構がほとんど残っていない。その後，調査区南東部を重機掘削するが，降雨の影響や所々に使用中の水道管が埋設しており作業が滞る。重機掘削の結果，東辺の堀は川を利用したものと判明する。西側調査区で新たに小規模な掘立柱建物１棟を検出する。面工事部分南西部の遺構調査に着手し，多数の溝や土坑，小穴と井戸１基を検出。そのうちの土坑１基から，桶が据えられていたと思われる状態で箍が出土，分析用の土壌サンプルを採取する。

８月１日～８月 30 日　面工事・用排水路南東部の遺構調査に着手する。調査区南西部で井戸１基を検出する。７日に県振興局・施工業者と現地で協議する。東辺の堀と川跡は底面まで完掘しないことと，調査期間の延長について了承を得る。東辺の堀・川跡の断面の記録作成のためトレンチを掘削する。お盆休みを挟み，クローラーの通路を兼ねた調査区土層帯の記録を作成し撤去する。面工事北東部の遺構調査に着手する。

８月 31 日　地元向けの現地説明会を開催する。20 名が来場する。

９月１日～ 25 日　面工事北西部の遺構調査に着手する。遺構検出の結果，相当数の遺構が集中していると判明する。館東辺の川跡を掘削する。館周辺では中世の遺物が出土し，調査区南東部では縄文土器片数点が出土する。

９月 26 日～ 10 月 18 日　県振興局と現地で協議を行う。その結果，遺跡北側農道沿いの側溝部分は工法変更により調査対象外とし，遺跡北側は現存する集水枡へつなぐ管埋設部分のみを調査対象とすることに決まる。他の区画の遺構調査は概ね終了してきたことから，面工事北西部の遺構調査を中心に進めつつ，空中写真撮影に向けた準備を行う。なお，遺構をすべて完掘してからでは写真撮影が困難な時期となるため，未掘の遺構は，上空から遺構の位置を確認できる深さまで掘り下げた状態で撮影を行う。10 月 18 日に空中写真撮影を実施する。

10 月 19 日～ 12 月２日　面工事部分北西部の遺構調査と並行して，堀・川跡の図面を作成する。調査区外の遺跡部分保護のため敷設した鉄板を搬出，重機の通行用に残していた畔を掘削する。その後は雨天続きの中，面工事北西部の遺構調査を進めつつ，管埋設部分にあたる堀北辺の調査を行うが，地盤が軟弱で作業に手間取る。

12 月３日～ 12 月 16 日　悪天候が続き，降雨・降雪の中，作業を行う。面工事部分北西部を中心に記録作成を進めながら，調査区壁で基本土層の記録作成と遺構の断ち割り・記録作成作業を行う。

12 月 17 日～ 25 日　残りの記録作成を行いながら撤収準備を進める。19 日に現地での最終確認を行い，撤収作業と一部器材の片づけ，25 日は現場設備の撤去を行い，現地調査を終了する。

平成 26 年３月 12 日～ 14 日　残った現場器材の水洗・片づけを行う。

現地調査終了後，平成 25 年 12 月 27 日付け文行第 647 号で新発田警察署長に遺物発見届を，同年同日付け文行第 648 号で県教育長に遺物保管証を提出した。これらの出土遺物は，平成 26 年２月 18 日付け教文第 1399 号の２で文化財認定を受けている。また，市教委は平成 26 年１月 16 日付け文行第 699 号で，県教育長へ発掘調査の終了を報告した。

整理作業の経過　現地調査終了後は，遺物の水洗や写真・図面等記録類の基礎的な整理作業を行った。平成 26 年度は，遺構図面の整理作業と，遺物の注記・接合・復元作業を行った。また，出土木製品の樹種同定及び放射性炭素年代測定，採取土壌の寄生虫卵等分析といった自然科学分析を，外部の専門業者に委託して実施した。その成果は，第Ⅳ章に掲載している。平成 27 年度は，引き続き遺構図面の整理作業と，出土遺物の実測図作成・トレース・拓本採取を行い，報告書版下作成のためのレイアウト作成作業に着手した。なお，出土遺物のうち石器と木製品は，外部の業者に委託して実測図作成・トレース・写真撮影を行った。平成 28 年度は，現場図面から建物を復元する作業とその図面作成・トレース作業と並行し，報告書のレイアウトや版下の作成，報告書掲載写真の選び出し，遺構・遺物の一覧表作成作業を行った。平成 29 年度は，残りの版下作成作業と遺物の写真撮影，原稿執筆を行い，発掘調査報告書を印刷・刊行した。また，出土遺物や調査記録の収蔵・収納作業を行った。

第Ⅲ章　遺構と遺物

1　グリットの設定と基本土層

調査区とグリットの設定（第４・５図）　板山館跡は中世の城館跡で，一辺が約 44 ～ 58m，方半町規模のいわゆる方形居館である。遺跡範囲は，地籍図の区画を基に，平成 15 年度に行われた確認調査成果と合わせて周知化されている。館部分の土地区画は，当時の地形や区画を明瞭に残していると考えられていたことから，今回の調査で使用するグリッドは，館の軸線に合わせて設定することが合理的と判断し，そのようにグリッド軸を定め，遺跡範囲全面を覆うようにグリッドを設定した。

ほ場整備工事のために打設された H4 杭（国家座標 X=211302.969，Y=79978.267）を起点に，70°　-17′　-30″東方向へ 25 ｍの位置（Eh グリッド杭）から，直角に北方向へ 20 ｍ移動した地点を Ef グリッド杭（X=211330.228，Y=79995.058）とした。そして，Ef-Eh ラインをグリッドの南北軸とし，10 ｍメッシュの大グリッドを設定した。グリッドは，西から東へアルファベットの大文字で「A」･「B」･「C」…，北から南へアルファベットの小文字で「a」･「b」･「c」…として，両者の組み合わせで，「Aa」や「Bc」のように呼称し，10 ｍメッシュの北西の杭を各グリッドの起点とした。さらに，大グリッドを東西・南北の各方向に五等分した２ｍメッシュを小グリッドとして，西から東，北から南へそれぞれ「1」･「2」…として，「1-1」･「1-2」…と呼称し，大小のグリッドを組み合わせて「Aa1-1」･「Ab1-2」と表示した。

また，標高の原点は，ほ場整備工事のために打設された B.M.10（H=64.380 ｍ）を基準点とし，調査区へ標高を移した。

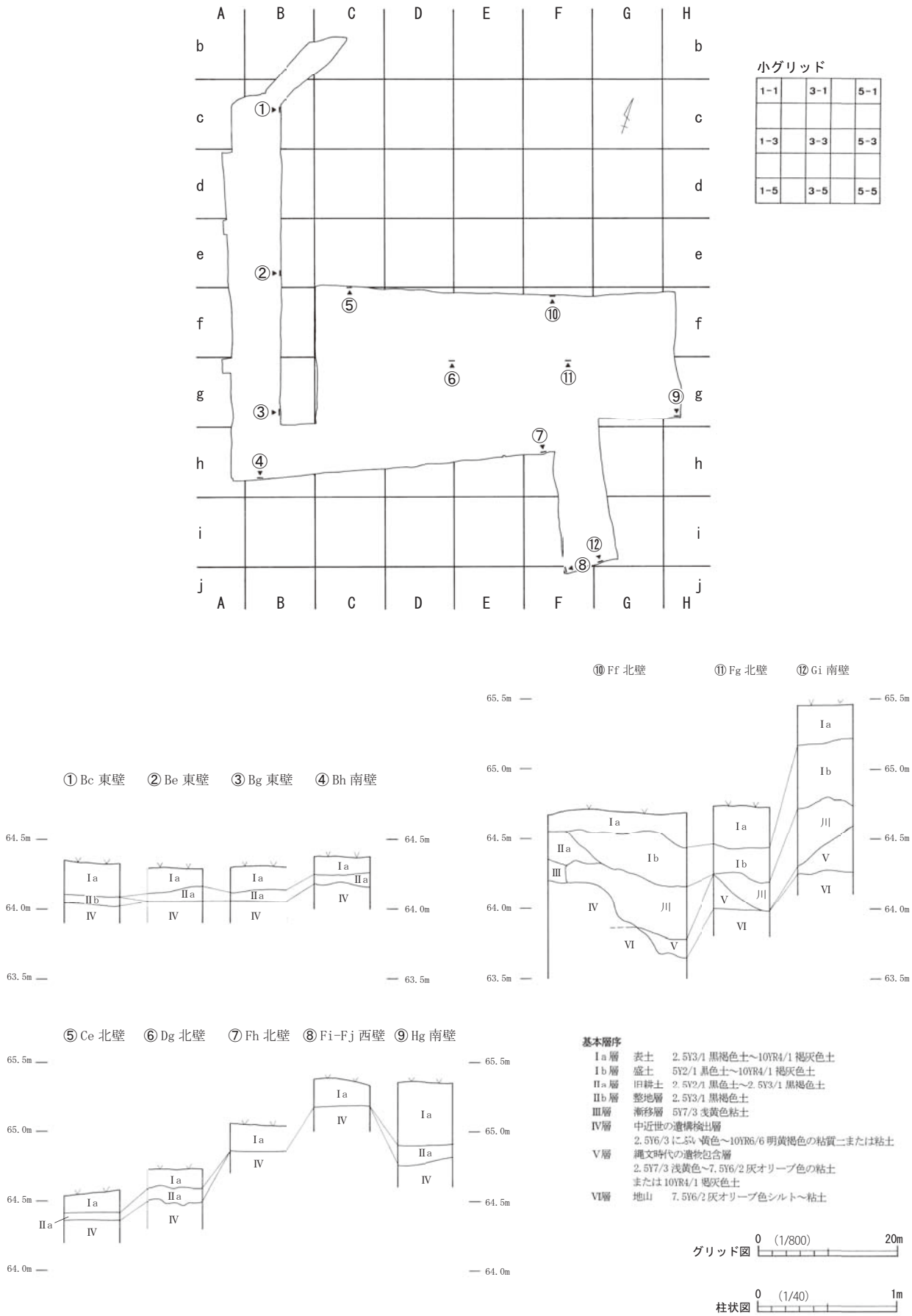
基本土層（第５図）　基本土層の観察は，調査区壁を利用し，攪乱などの影響を受けていない箇所で観察・記録を行った。基本土層はローマ数字，遺構埋土は算用数字で表記し，その細分にはアルファベットの小文字を付している。

調査区の基本的な層序は，表土を含めⅠ～Ⅵ層に分類できる。Ⅰ層は表土で，耕土である a 層と盛土である b 層に分けられる。Ⅱ層は，表土直下の現代の層で旧耕土（a 層）と整地層（b 層）に細分される。現代に田畑を造成した際の盛土層や，整地後の作付のために耕された土である。Ⅲ層は上層とⅣ層との漸移層であり，調査区の東側でのみ検出されている。Ⅳ層は中近世の遺構検出層で，にぶい黄色～明黄褐色の粘土または粘質土である。遺構はいずれもこの層からのみ掘り込みを確認でき，中近世の遺物包含層は確認されていない。Ⅴ層は，縄文時代の中期後葉から後期中葉の遺物を包含する層で，調査区東側を流れていた川跡とその周辺でのみ確認されている。Ⅵ層は地山で，灰オリーブ色のシルトまたは粘土である。

今回の発掘調査では，Ⅰ～Ⅲ層の掘削には重機を使用し，中近世の遺構検出層であるⅣ層上面で人力により遺構検出の作業を行った。なお，中近世の遺構面検出標高は 64.0 ～ 65.0 ｍ程であり，調査区の南東から北西へと緩やかに下っている。

2　遺構の概要と記載方法

遺構の概要　今回の調査では遺跡範囲の約半分を調査し，800 基を超えるピットと，それらから復元した掘立柱建物 37 棟と柵列３列，井戸３基と土坑 57 基，溝 31 条と杭列１列，館周囲を巡る堀と川跡１筋を検出した。



第５図　グリッドと基本土層

なお，調査区は全体に地下水位が高く，柱根や杭，木製品が比較的良好な状態で遺存していた。

遺構の多くはCf・Cg・Df・Dg・Ef・Egグリッドに集中しており，調査区西側と南側の堀際部分と調査東側の川跡沿いには遺構がほぼ見られない。このことから，館が存在していた当時はこれらの箇所に土塁が築かれていたと考えられる。また，柱穴と考えられるピットの大多数が郭内のCf・Cg・Dfグリッドに集中し，多数の建物がこの範囲で復元できることから，限られた狭い範囲の中で幾度も建物が改築されたようである。そのため，現地調査時に建物を復元できたものはごくわずかであり，それらのほとんどが現地調査終了後に図面を基に復元したものである。なお，Bh・Ch・Dhグリッドは，後世に大幅な削平を受けたと考えられ，井戸1基を除き，遺構は検出できていない。

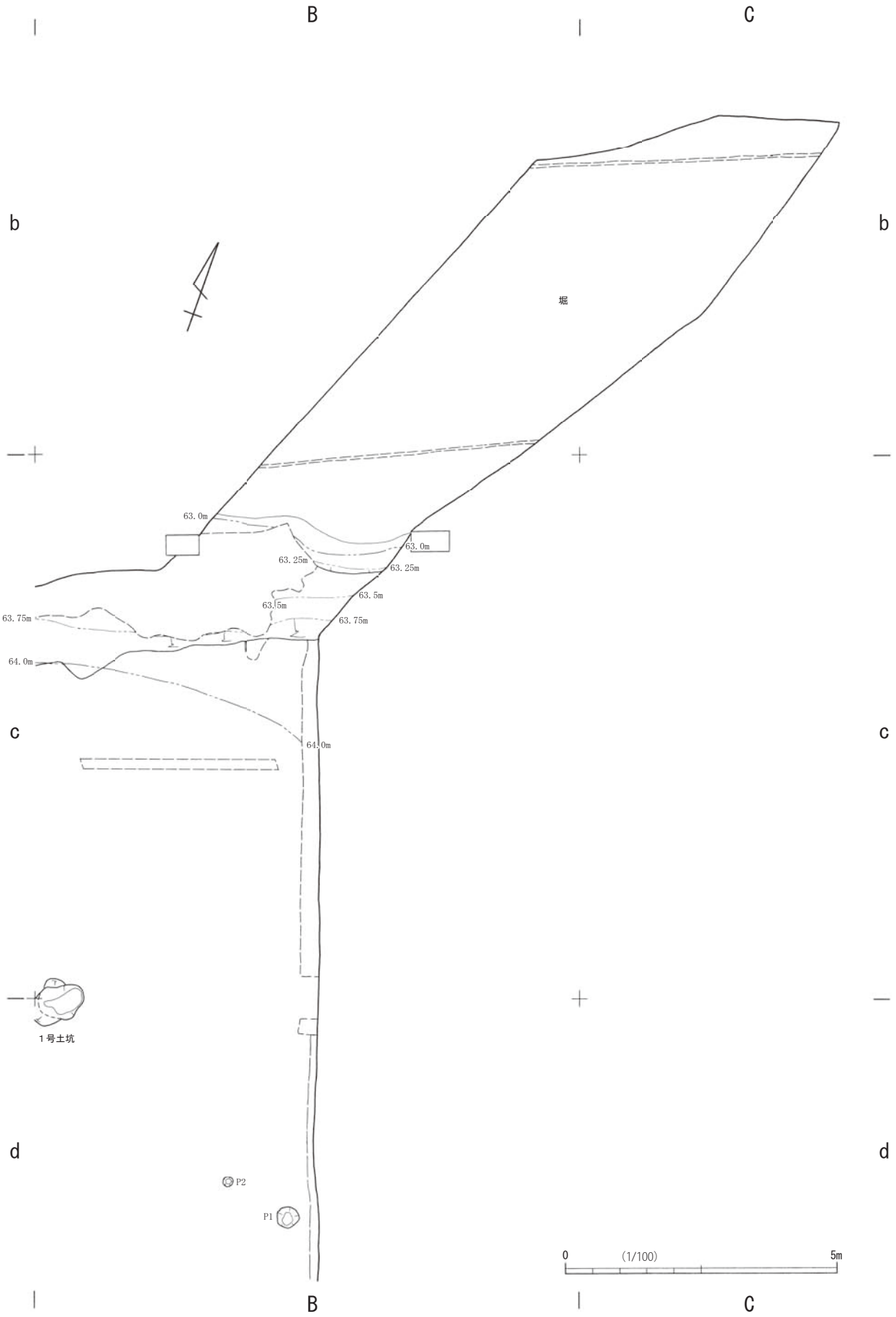
今回の調査で検出した遺構は出土遺物の年代から，14世紀中頃から18世紀前半頃のものと考えられる。中世に築かれた堀に囲まれた館の敷地を，近世もそのまま屋敷地として利用していたことが，今回の調査により判明した。各遺構の帰属時期や，遺跡の変遷については後述するとしたい。

遺構の記載方法　遺構の記載は，種類ごとに遺構番号順で掲載することを基本としたが，重複関係にある同種の遺構は極力まとめて記載している。各種遺構の記載方法は下記のとおりであり，各遺構の詳細な計測値は，遺構一覧表を参照されたい。なお，遺構番号は現地調査時に遺構種別の調査着手順に番号を付し，現地調査終了後，原則現地調査時の番号をそのまま使用したが，見直しの結果，遺構の種別を変更，または欠番が生じた場合については当初の遺構番号や遺構名を随時変更している。ただし，掘立柱建物や柵列の柱穴とピットの番号は，両者を区別せず，通しで番号を付している。

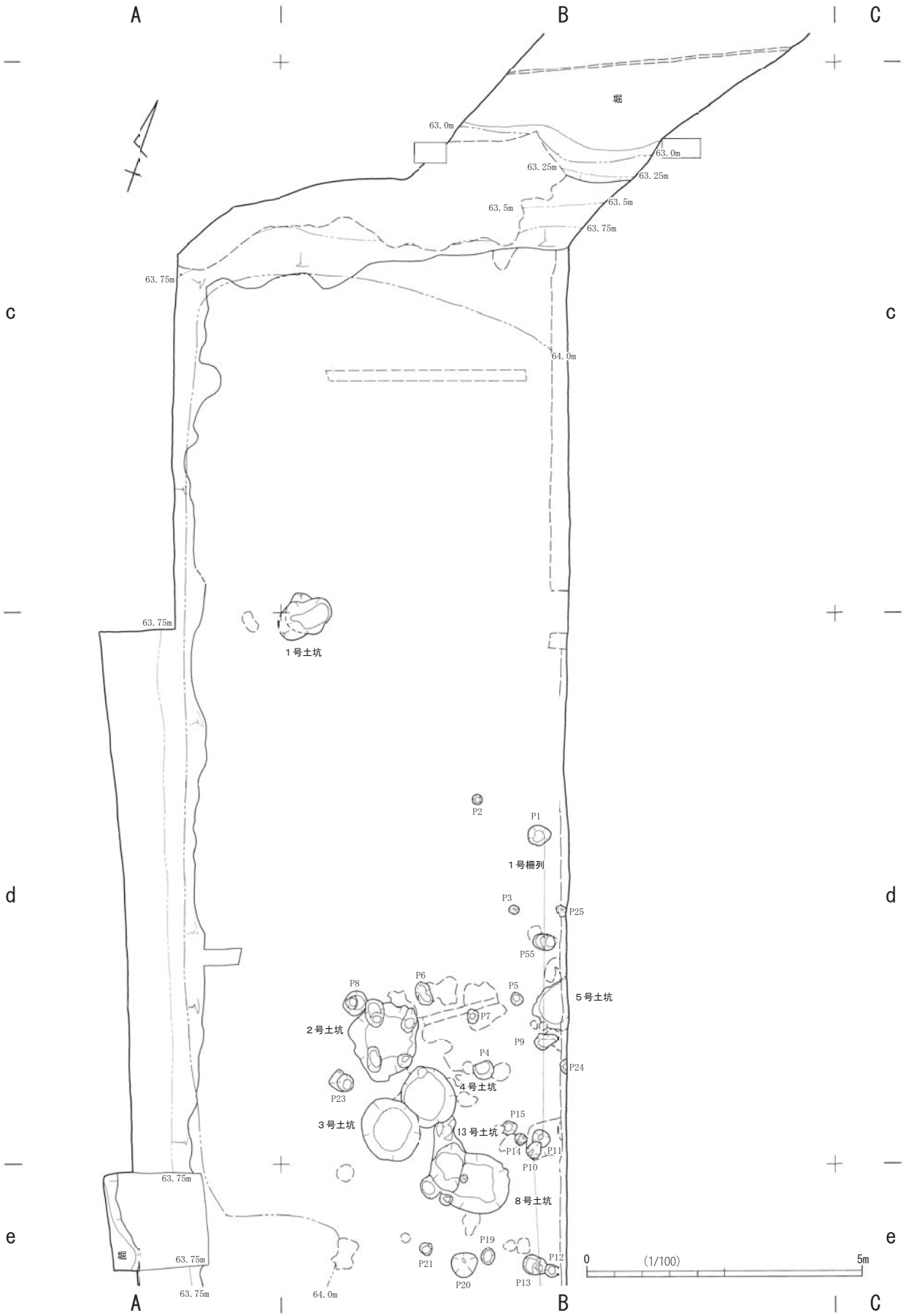
掘立柱建物は，柱間数の多い方向を桁行（長軸），少ない方向を梁行（短軸）とし，建物規模は「（桁行）○間（長軸）×（梁行）○間（短軸）」と表記し，身舎部分のみの規模を示している。なお，間数が同じものは長辺を長軸，短辺を短軸とした。建物の分類は，中村準人氏の身舎の梁間間数と庇や下屋の有無に基づいた分類（中村2015）に準拠している。桁行および梁行の長さは，身舎の両端の柱根または柱痕跡（柱位置が不明なものは柱掘方の中心）の心々距離で測り，建物面積は身舎の桁行（長軸）の数値に梁行（短軸）の数値を乗じて算出し，それに庇部分や下屋の面積を加えた建物の総平面積である。主軸方位は，桁行（長軸）の方向が北を基準に東西に振れる角度で示している。遺存していた柱根は，図化・計測に耐えうるもののみを木製品として5節に掲載し，柱材の木取りは，加藤氏・猪狩氏の分類（加藤・猪狩2004）に準拠した。柵列は，検出した両端の柱穴の柱または柱痕跡（柱位置が不明なものは柱掘方の中心）の心々距離で長さを計測している。両端の柱穴を結んだラインを主軸とし，主軸方位はこの軸が北を基準に東西に振れる角度で示している。井戸・土坑・ピットは，平面形のうち最も長い部分を長軸とし，主軸方位はこの軸が北を基準に東西に振れる角度で示している。深さは検出面からの計測値で，平面形及び断面形は加藤氏の分類（加藤1999）に準拠した。溝は，同一線上に延びるものを同じ溝と捉え，途中で断絶しているものも一条の溝としている。長さは断絶部分も含めた距離の総延長で示している。深さの計測方法や断面形の形態分類は，井戸・土坑・ピットに準ずる。主軸方位は溝の中心線を元に示しているが，屈曲または湾曲しているものは，それぞれの方位を併記している。

各遺構の図面は，掘立柱建物・柵列・竪穴建物は平面図・エレベーション図を1/80，柱穴の断面図を1/40に統一して掲載し，井戸・土坑・柱根を検出したピット・杭列は平面図・断面図・エレベーション図を1/50で，それぞれ遺構ごとに掲載している。溝や堀・川跡は，紙幅の都合により1/50で断面図のみを遺構ごとに掲載しており，平面図は1/100の各平面分割図を参照されたい。

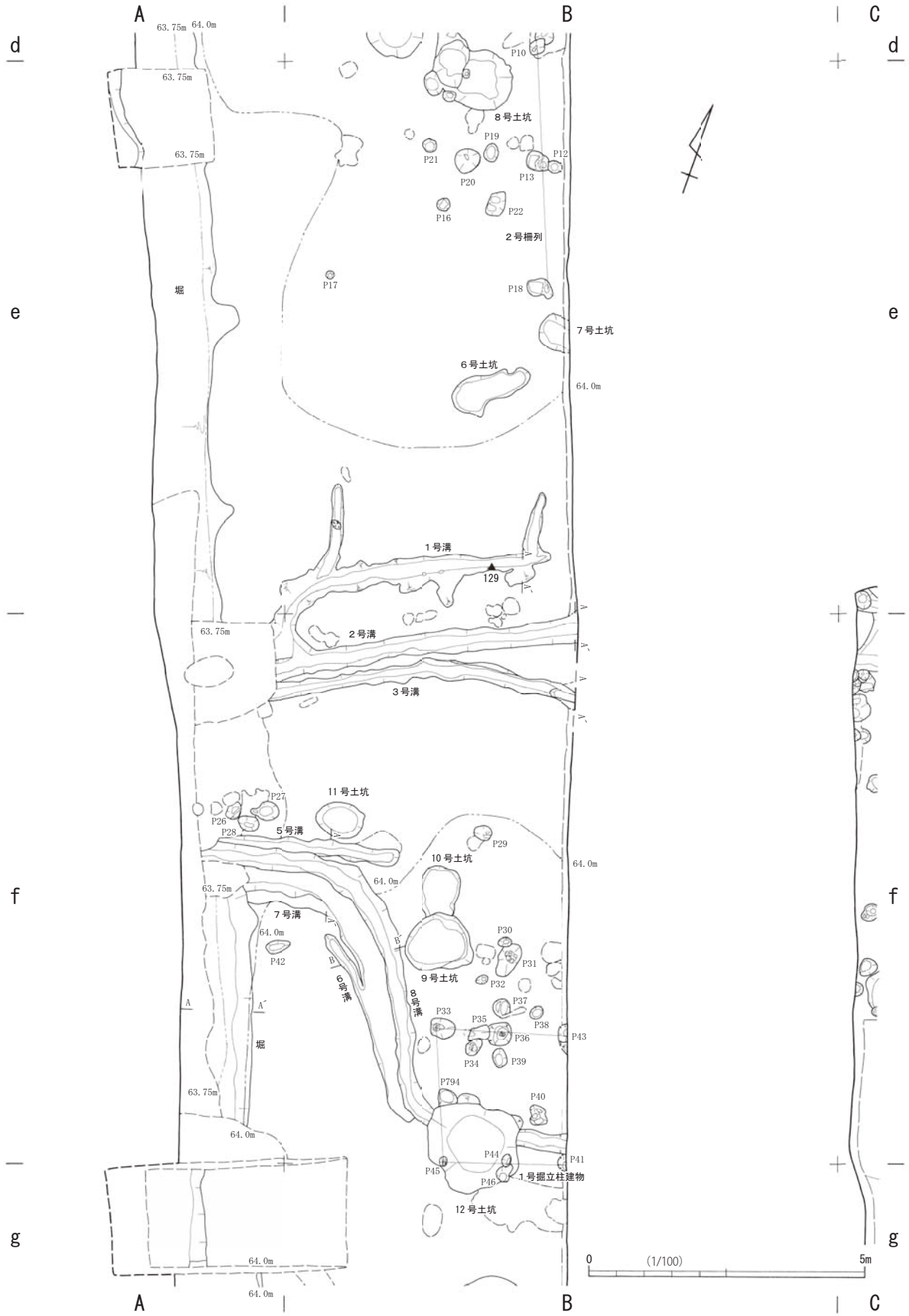
第６図　調査区全体図


B
C
b
b
堀
63.0m
63.0m
63.25m
63.25m
63.5m
63.5m
63.75m
63.75m
64.0m
c
c
64.0m
1号土坑
d
d
P2
P1
0
(1/100)
5m
B
C

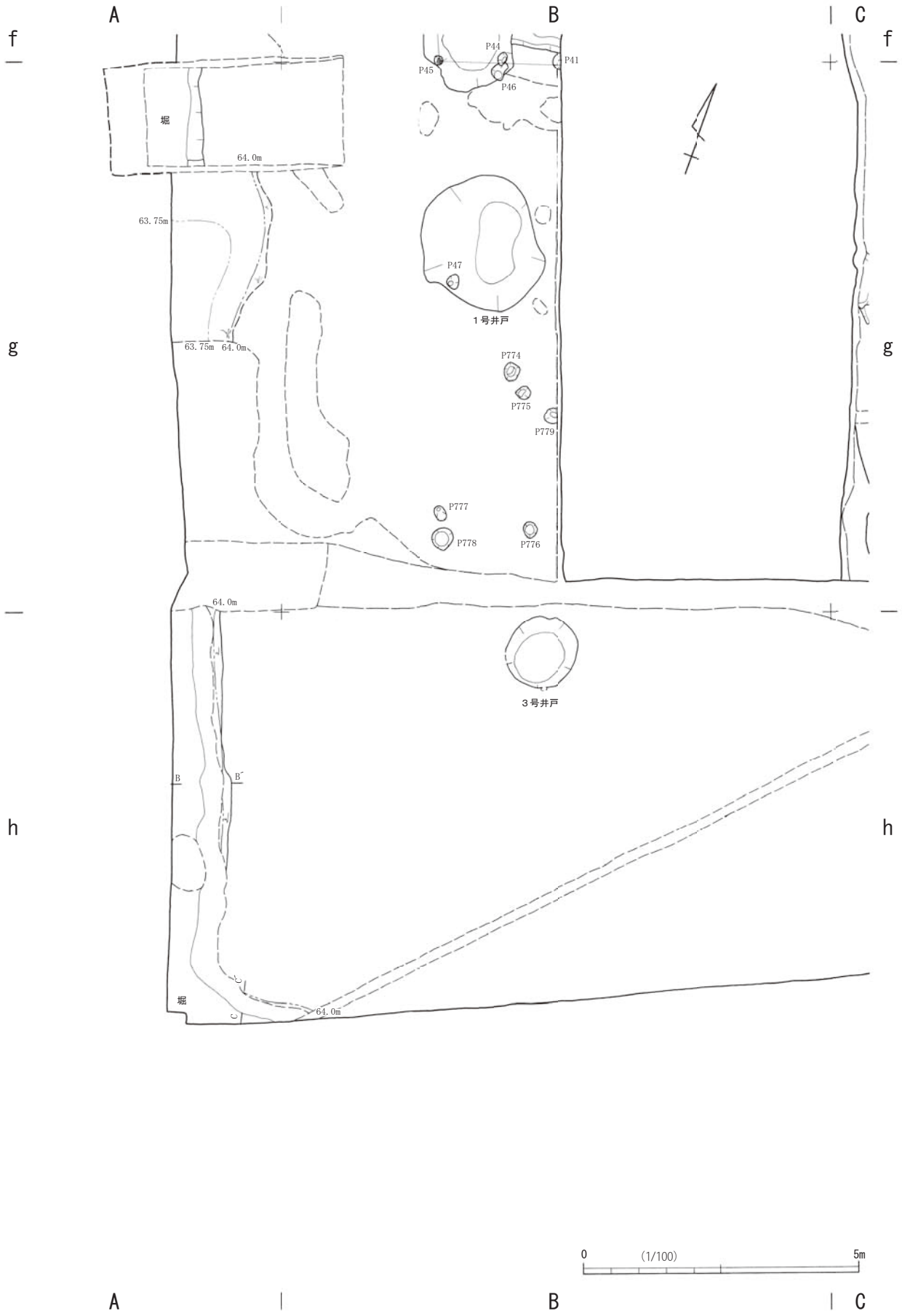
第７図　平面分割図（１）


A
B
C
c
d
e
堀
63.0m
63.25m
63.5m
63.75m
64.0m
1号土坑
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P19
P20
P21
P23
P24
P25
P55
1号柵列
2号土坑
3号土坑
4号土坑
5号土坑
8号土坑
13号土坑
0
(1/100)
5m

第８図　平面分割図（２）


A
B
C
d
e
f
g
63.75m
64.0m
P10
8号土坑
P19
P21
P12
P13
P20
P16
P22
2号柵列
P17
P18
堀
7号土坑
6号土坑
1号溝
129
2号溝
3号溝
11号土坑
P27
P26
P28
5号溝
P29
10号土坑
7号溝
P42
6号溝
9号土坑
P30
P31
P32
8号溝
P37
P33
P35
P38
P36
P43
P34
P39
P794
P40
P44
P41
P45
P46
1号掘立柱建物
12号土坑
0
(1/100)
5m

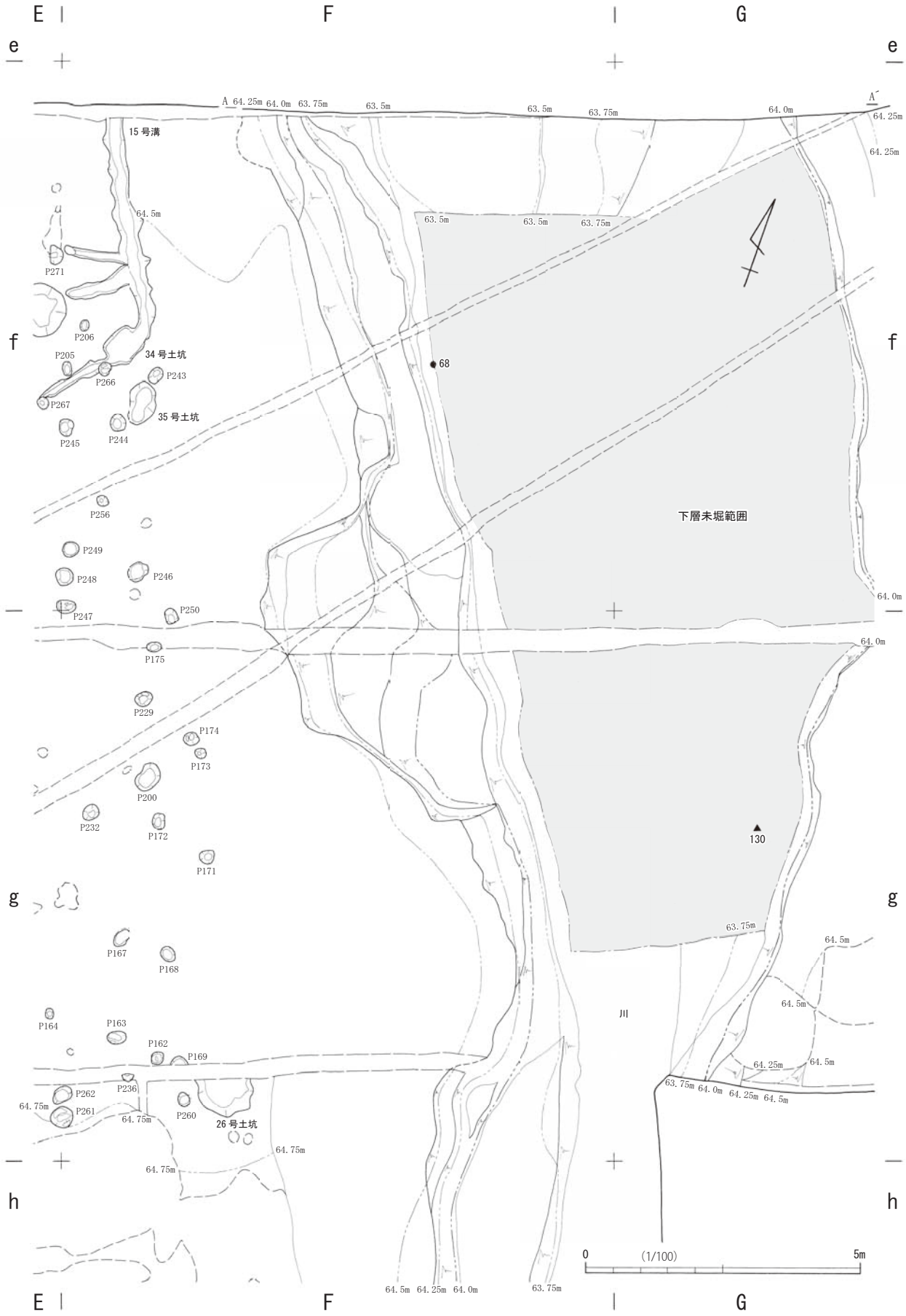
第９図　平面分割図（３）


A
B
C
f
g
h
堀
64.0m
63.75m
P44
P45
P46
P41
P47
1号井戸
P774
P775
P779
P777
P778
P776
3号井戸
B
B'
C
C'
0
(1/100)
5m

第10図　平面分割図（4）

第11図　平面分割図（5）-1（掘立柱建物・柵列）

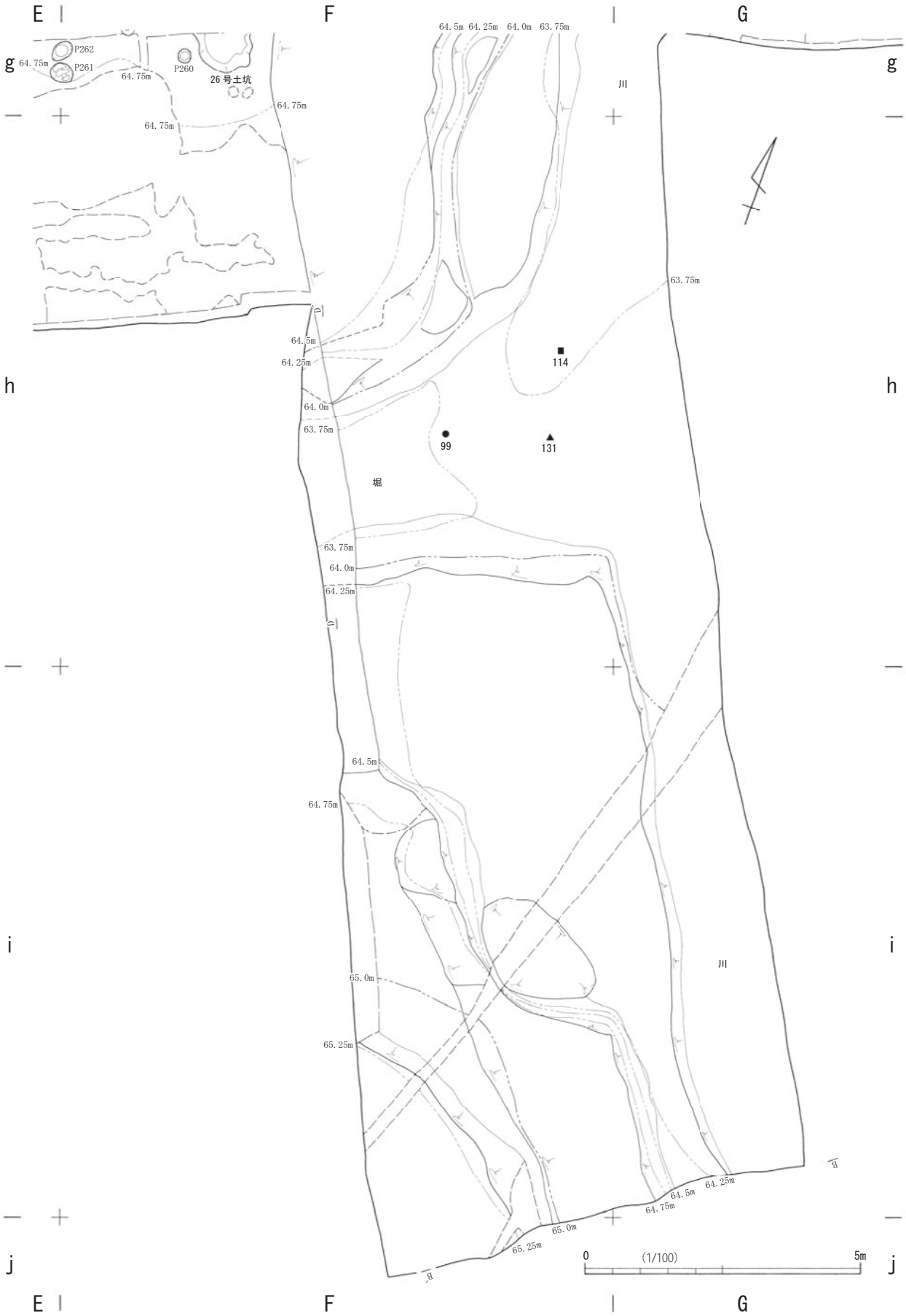
第12図　平面分割図（５)-2（その他の遺構）


E
F
G
e
f
g
h
A 64.25m 64.0m 63.75m
63.5m
63.5m
63.75m
64.0m
A′
64.25m
64.25m
15 号溝
64.5m
63.5m
63.5m
63.75m
P271
P206
P205
34 号土坑
P266
P243
68
P267
35 号土坑
P245
P244
P256
下層未堀範囲
P249
P248
P246
P247
P250
64.0m
64.0m
P175
P229
P174
P173
P200
P232
P172
130
P171
63.75m
64.5m
P167
P168
64.5m
P164
P163
川
P162
P169
64.25m
64.5m
P236
63.75m 64.0m 64.25m 64.5m
P262
64.75m
P261
64.75m
P260
26 号土坑
64.75m
64.75m
0
(1/100)
5m
64.5m 64.25m 64.0m
63.75m

第13図　平面分割図（6）

F
G
H
f
g
h
川
下層未堀範囲
130
63.5m
63.75m
64.0m
64.25m
64.5m
64.75m
0
(1/100)
5m

第14図　平面分割図（７）


E
F
G
g
h
i
j
P262
P261
P260
26号土坑
64.75m
64.5m
64.25m
64.0m
63.75m
65.0m
65.25m
川
堀
114
99
131
0
(1/100)
5m

第15図　平面分割図（８）

３　遺構各説

１号掘立柱建物（第 16 図）

Bf・Bg グリッドに位置する，２間以上×１間の梁間一間型建物（１類）である。東側の P41・43 が調査区壁にかかる状態で検出されているため,全容は不明である。２間×１間の小型な掘立柱建物の可能性もある。12 号土坑・８号溝と重複関係にあり，両者よりも古い。

P33・36・41・44・45 に柱根（135 ～ 137）が残存していたが，P41・44 のものは遺存状態が悪く，図化できていない。その他に遺物は出土しなかった。

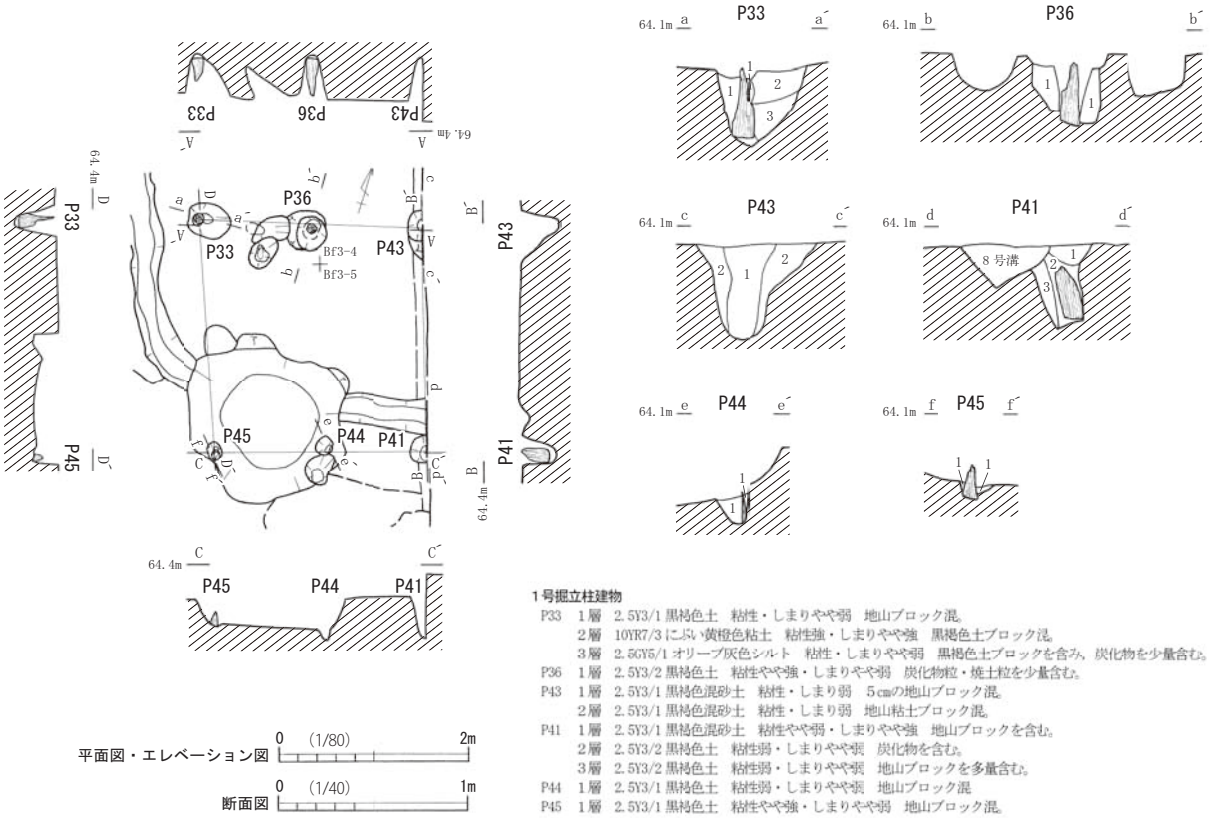
２号掘立柱建物（第 17・18 図）

Cf・Cg グリッドに位置する４間以上×２間の東西棟の梁間二間型建物（２c 類）である。北側の平に庇または下屋と，その北側に又下屋が付く形態の建物と考えられるが，西側が調査区外へ延びているため，建物の全容は明らかではない。８・11・16・20・22 号掘立柱建物，15・17・18・57 号土坑と重複関係にある。17・57 号土坑より新しく，22 号掘立柱建物，15・18 号土坑より古いが，８・11・16・20 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

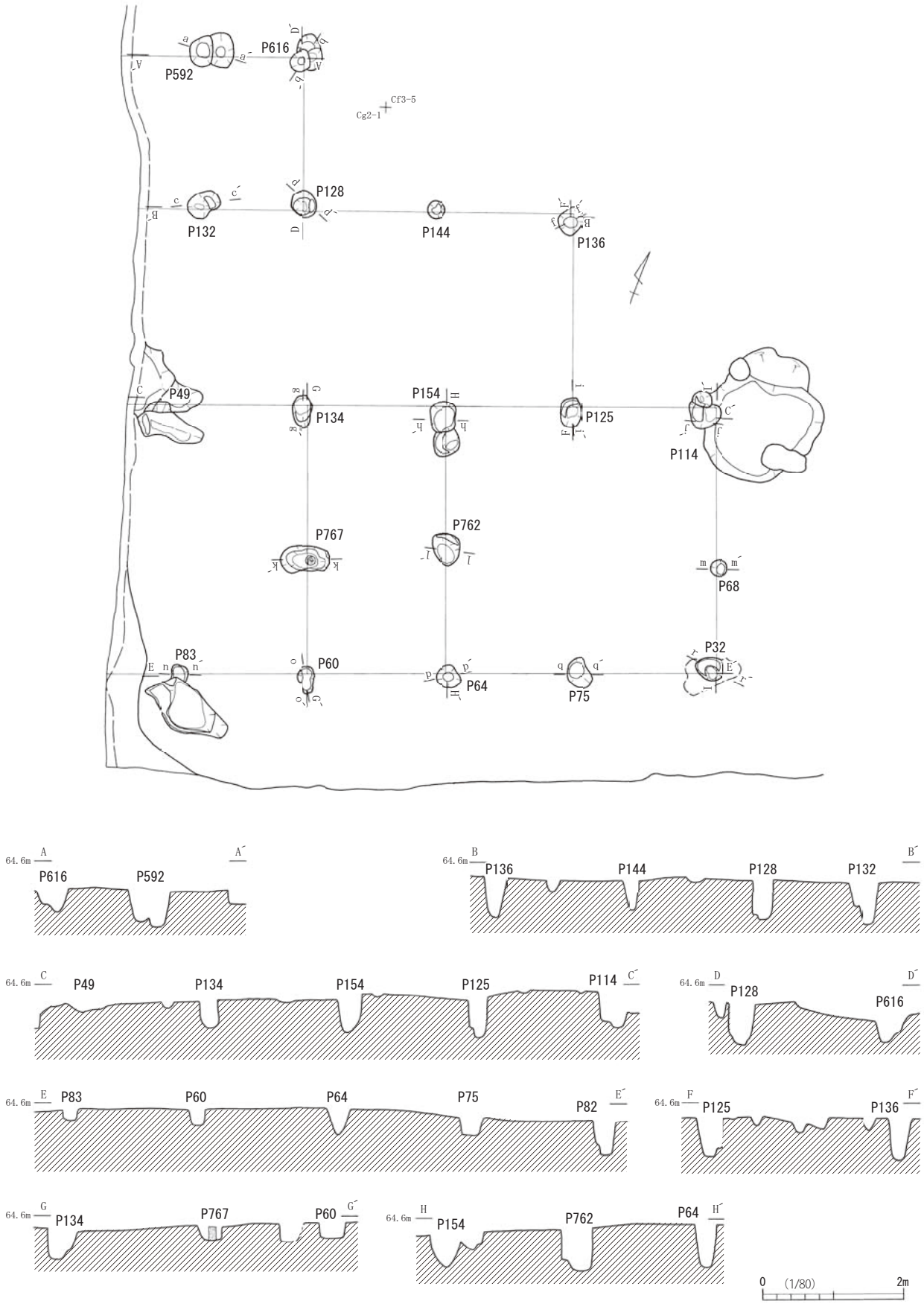
P767 に柱根（138）が残存していたが，他の柱穴からは柱根は検出されなかった。また，その他に遺物は出土していない。

３号掘立柱建物（第 19・20 図，図版３）

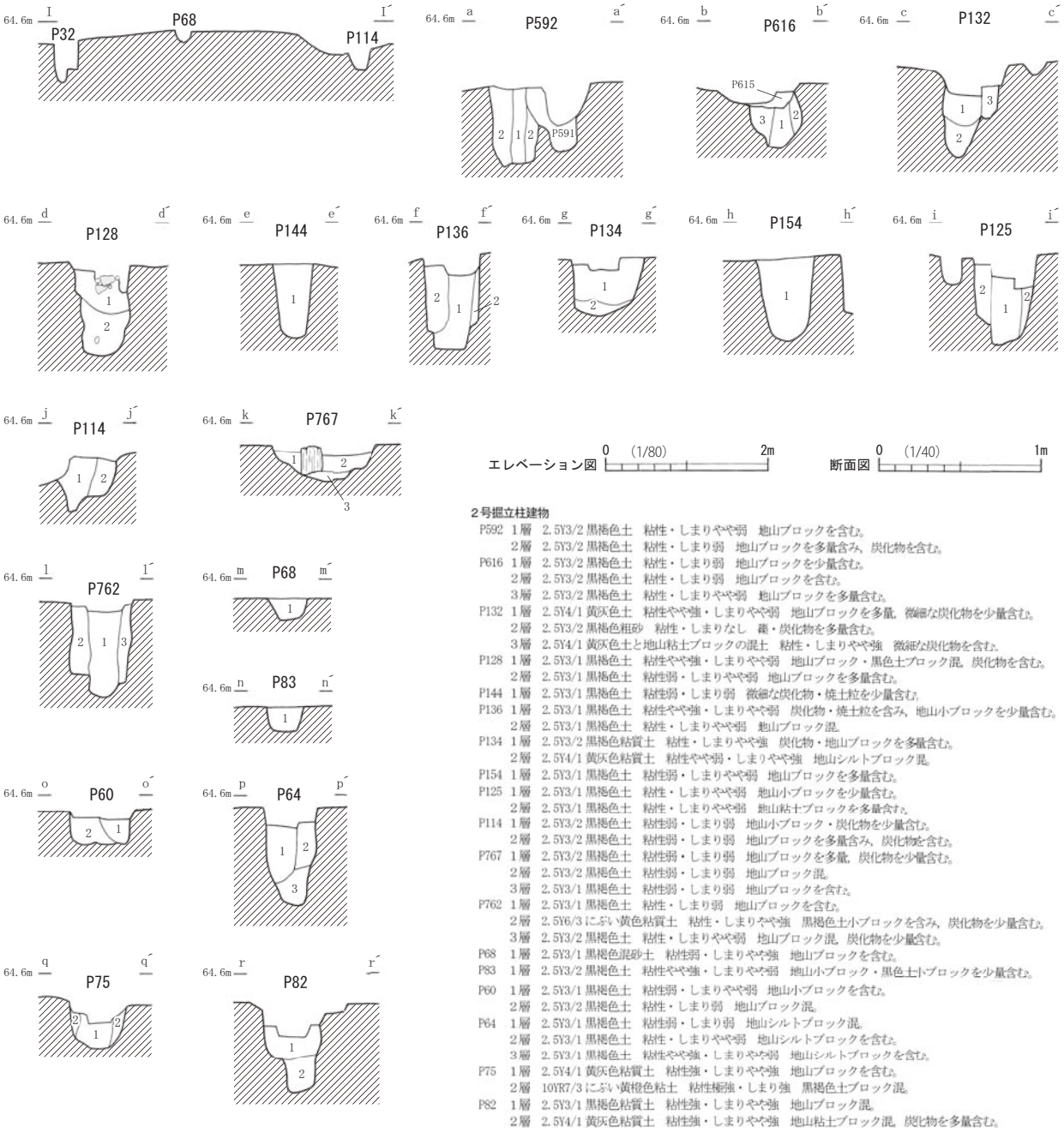
Cf・Cg・Df・Dg グリッドに位置する４間×３間の東西棟の梁間三間型建物（３b 類か）である。南の平側には庇を持ち，南東の妻側に下屋を持つ形態の建物である。今回の調査で検出された建物の中で最も大きな規模の建物で



第16図　１号掘立柱建物



第17図　２号掘立柱建物（１）



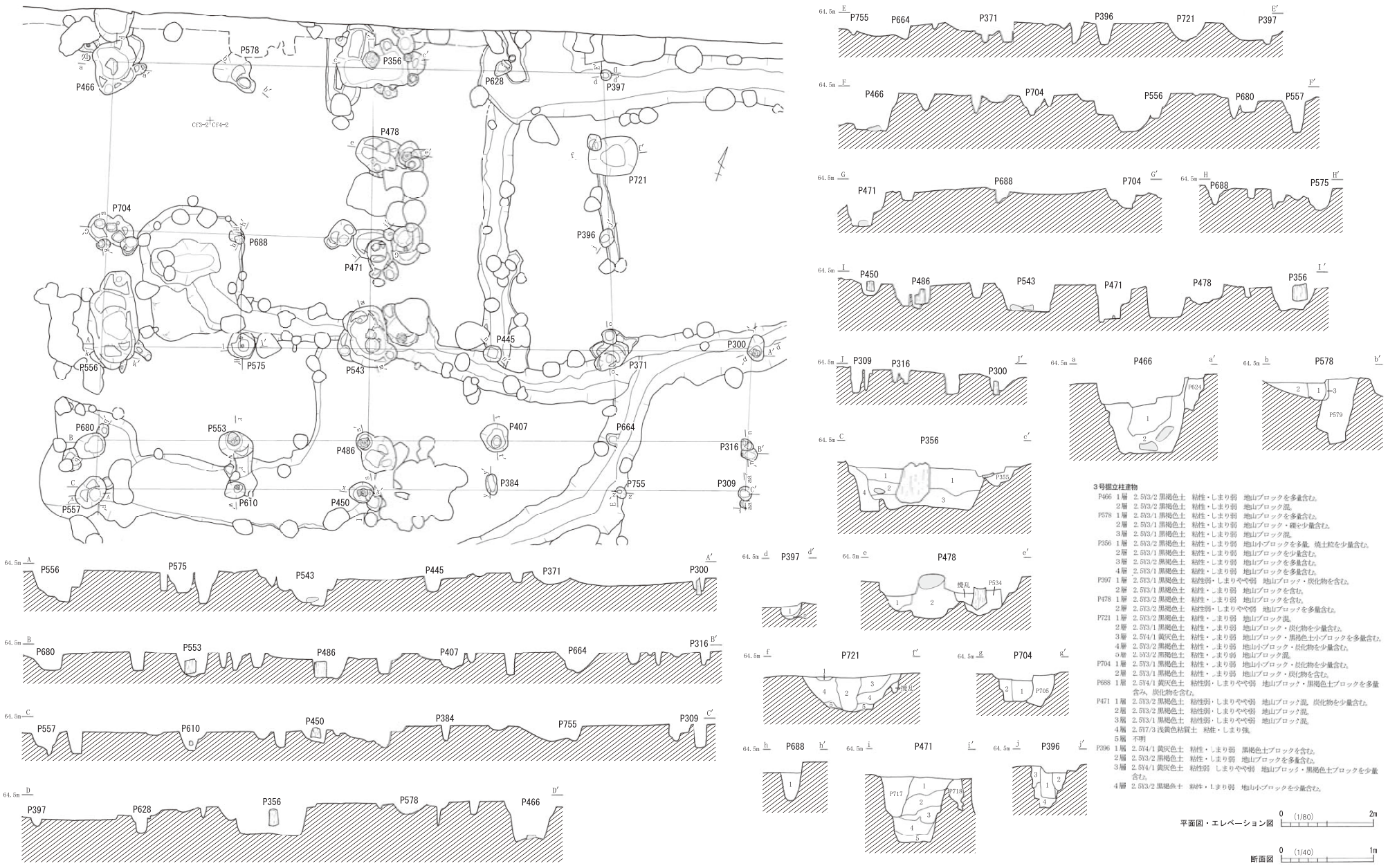
2号掘立柱建物

P592 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
P616 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
P132 1層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性やや強・しまりやや弱 地山ブロックを多量，微細な炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色粗砂 粘性・しまりなし 礫・炭化物を多量含む。
3層 2.5Y4/1 黄灰色土と地山粘土ブロックの混土 粘性・しまりやや強 微細な炭化物を含む。
P128 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや弱 地山ブロック・黒色土ブロック混，炭化物を含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
P144 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 微細な炭化物・焼土粒を少量含む。
P136 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや弱 炭化物・焼土粒を含み，地山小ブロックを少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
P134 1層 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 粘性・しまりやや強 炭化物・地山ブロックを多量含む。
2層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性やや弱・しまりやや強 地山シルトブロック混。
P154 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
P125 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山小ブロックを少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山粘土ブロックを多量含む。
P114 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 地山小ブロック・炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
P767 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 地山ブロックを多量，炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 地山ブロック混。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 地山ブロックを含む。
P762 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
2層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土小ブロックを含み，炭化物を少量含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混，炭化物を少量含む。
P68 1層 2.5Y3/1 黒褐色混砂土 粘性弱・しまりやや強 地山ブロックを含む。
P83 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや弱 地山小ブロック・黒色土小ブロックを少量含む。
P60 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山小ブロックを含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
P64 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 地山シルトブロック混。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山シルトブロックを含む。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや弱 地山シルトブロックを含む。
P75 1層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性強・しまりやや強 地山ブロックを含む。
2層 10YR7/3 にぶい黄橙色粘土 粘性極強・しまり強 黒褐色土ブロック混。
P82 1層 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 粘性強・しまりやや強 地山ブロック混。
2層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性強・しまりやや強 地山粘土ブロック混，炭化物を多量含む。

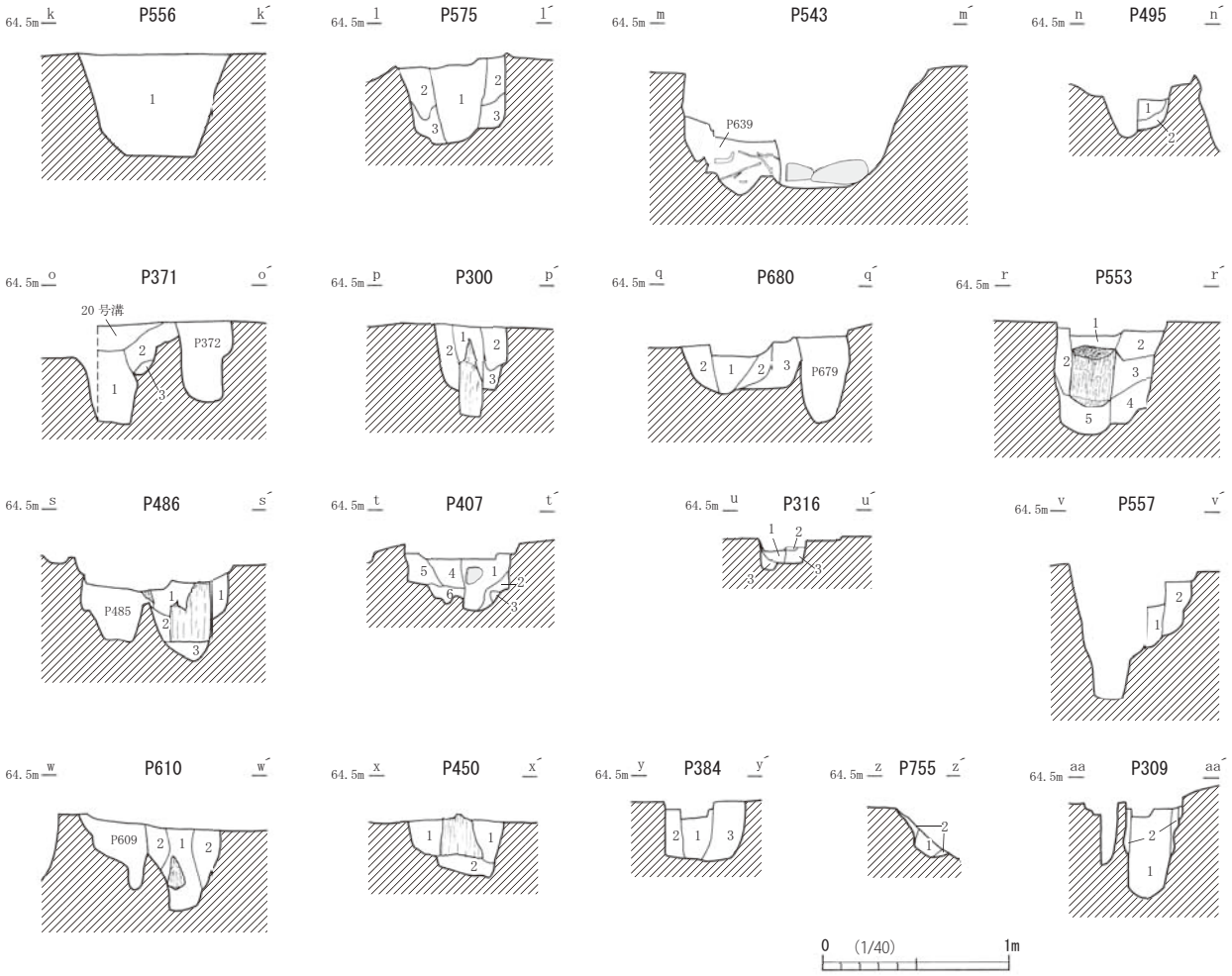
第18図 ２号掘立柱建物（２）

あり，残存していた柱根の太さや，検出された柱穴の大きさからも，大型の建物であることを窺い知ることができる。おそらく主屋にあたる建物であろう。９・10・13・16～18・21～36 号掘立柱建物，１号竪穴建物，47・50 号土坑，10・16・19・20・26・29・32 号溝と重複関係にある。９・16・17・22・28・34 号掘立柱建物，１号竪穴建物，10・20・32 号溝より新しく，27 号掘立柱建物，47・50 号土坑，16・19・26・29 号溝より古いが，10・13・18・21・23～26・29～33・35・36 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

P300・356・450・486・553・610 には柱根（139～141・144）が残存していたが，P486・610 のものは遺存状態が悪く，図示し得なかった。P309 から白磁皿片（１・２），P466 から肥前系磁器碗片（３），P470 からは肥前系磁器折縁皿片（４）や古寛永通寶（117～119）が３枚まとまって出土したほか，肥前系磁器片・陶器片・板材（142・143）などが出土している。また，当遺構の柱穴 P543 か，９号掘立柱建物の柱穴 P639 に伴うか不明ではあるが，



第19図　3号掘立柱建物（1）



P556 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
P575 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
P495 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物粒を含む。
2層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロックを含む。
P371 1層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を含む。
2層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック混，炭化物を多量含む。
3層 5Y7/3 浅黄色粘質土 粘性・しまり強。
P300 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
P680 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山小ブロック・炭化物を含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・炭化物を少量含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
P553 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を含む。
2層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
4層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
5層 不明
P486 1層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを少量含む。
3層 不明

P407 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み，礫を含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・炭化物を少量含む。
4層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
5層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
6層 5Y7/3 浅黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロックを含む。
P316 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
3層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロックを含む。
P557 1層 2.5Y2/1 黒色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを少量含む。
P610 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を多量含む。
P450 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山小ブロックを少量含む。
P384 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性やや弱・しまり弱 炭化物を多量，地山小ブロックを少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・炭化物を多量含む。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物を含む。
P755 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
2層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質シルト 粘性やや強・しまりやや弱 黒褐色土ブロックを含む。
P309 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。

第20図 ３号掘立柱建物（２）

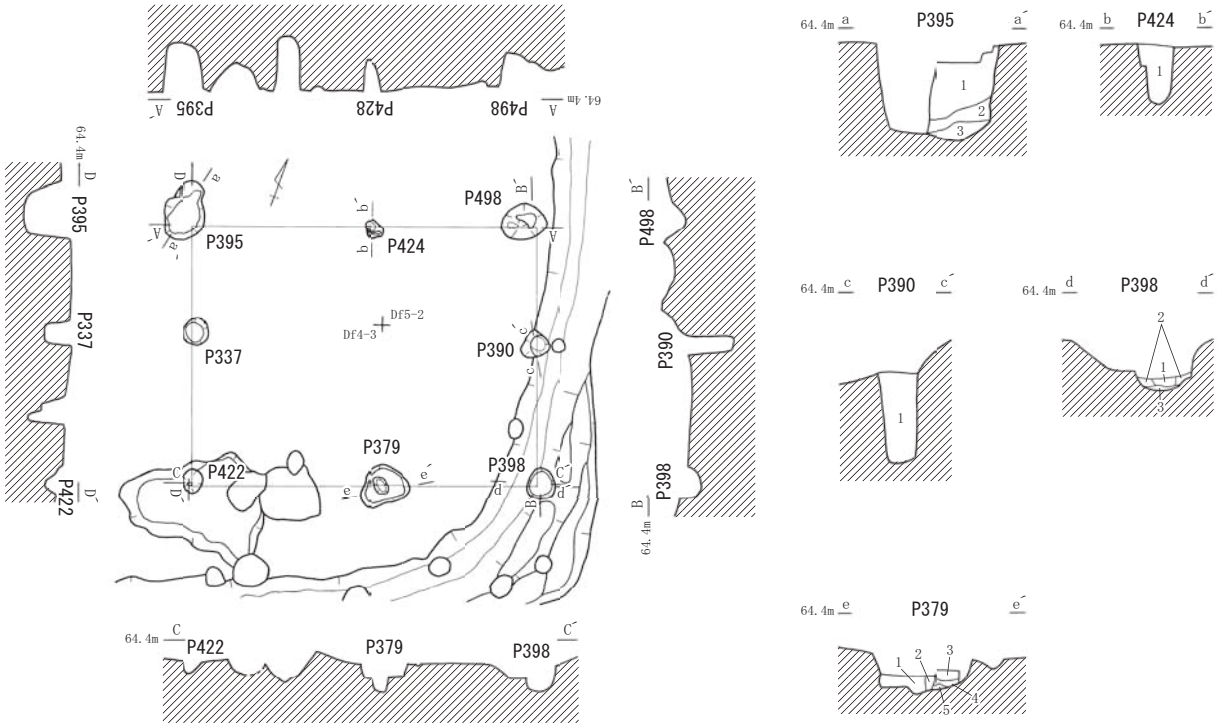
抉りが入れられた柱状の木製品２点（145・146）も出土している。

４号掘立柱建物（第 21 図）

Df グリッドに位置する２間×２間の東西棟の梁間二間型建物（２a 類）である。10・24・27・29・30・33・36 号掘立柱建物，１号竪穴建物，46 号土坑，20 号溝と重複関係にある。46 号土坑，20 号溝より古いが，10・24・27・29・30・33・36 号掘立柱建物，１号竪穴建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根は残存せず，中世土師器皿片が出土しているが，小片のため図示し得なかった。

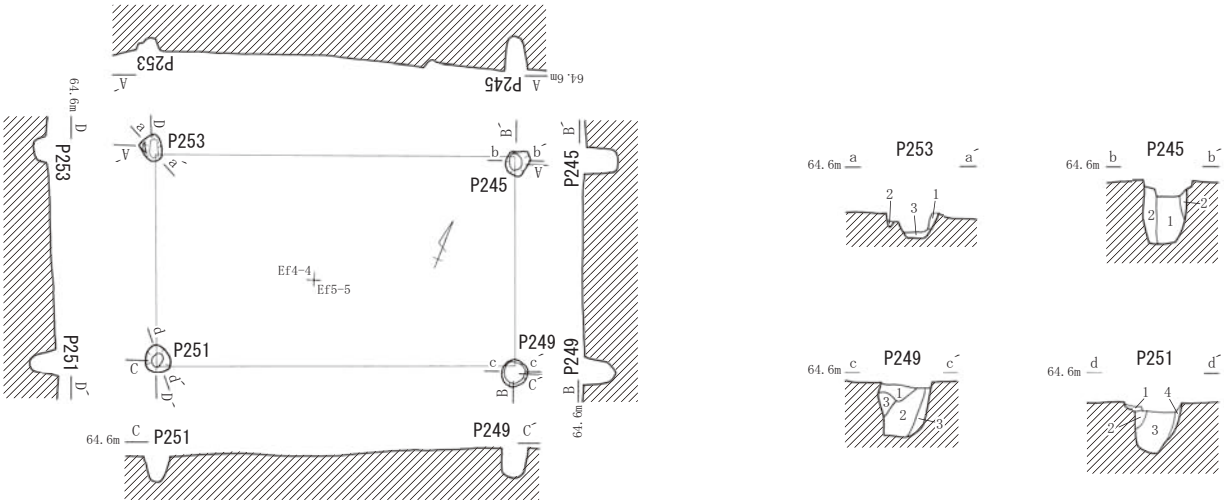
４号掘立柱建物



４号掘立柱建物

P395　１層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを含む。
　　２層　5Y5/2 灰オリーブ色シルト　粘性・しまり弱　黒褐色土ブロックを含む。
　　３層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを少量含む。
P424　１層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロック・炭化物を少量含む。
P390　１層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山小ブロック・炭化物を少量含む。
P398　１層　2.5Y5/1 黄灰色粘質土　粘性・しまりやや強　地山ブロック混。
　　２層　2.5Y4/1 黄灰色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロックを含む。
　　３層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを含む。
P379　１層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロック・炭化物粒を少量含む。
　　２層　2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土　粘性・しまりやや強　黄灰色土ブロックを含む。
　　３層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性弱・しまりやや弱　地山ブロック混。炭化物を少量含む。
　　４層　2.5Y4/1 黄灰色土　粘性・しまり弱　黒色土小ブロック・地山小ブロックを少量含む。
　　５層　5Y7/3 浅黄色粘質土　粘性・しまり強　黒褐色土ブロックを少量含む。

５号掘立柱建物



５号掘立柱建物

P253　１層　2.5Y3/1 黒褐色粘質土　粘性・しまり強　地山ブロックを含む。
　　２層　2.5Y3/2 黒褐色粘質土　粘性・しまり強　地山ブロック混。
　　３層　2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土　粘性・しまり極強　黒褐色粘質土ブロック混。
P245　１層　2.5Y4/1 黄灰色粘質土　粘性強・しまりやや強　地山ブロック混。炭化物を多量含む。
　　２層　2.5Y3/1 黒褐色粘質土　粘性強・しまりやや強　地山ブロック混。
P249　１層　2.5Y6/3 にぶい黄色粘土　粘性・しまり強　黒褐色土ブロック混。
　　２層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山小ブロックを微量含む。
　　３層　2.5Y7/6 明黄褐色粘土　粘性・しまり極強　黒褐色土ブロックを含む。
P251　１層　2.5Y4/1 黄灰色粘質土　粘性・しまり強　地山ブロック混。微細な炭化物を微量含む。
　　２層　2.5Y4/1 黄灰色粘質土　粘性・しまりやや強　地山ブロック混。
　　３層　2.5Y4/1 黄灰色土　粘性・しまりやや弱　微細な炭化物を少量含む。
　　４層　2.5Y7/6 明黄褐色粘土　粘性・しまり極強　黄灰色粘質土ブロック混。

平面図・エレベーション図　0　(1/80)　2m
断面図　0　(1/40)　1m

第21図　４・５号掘立柱建物

５号掘立柱建物（第 21 図）

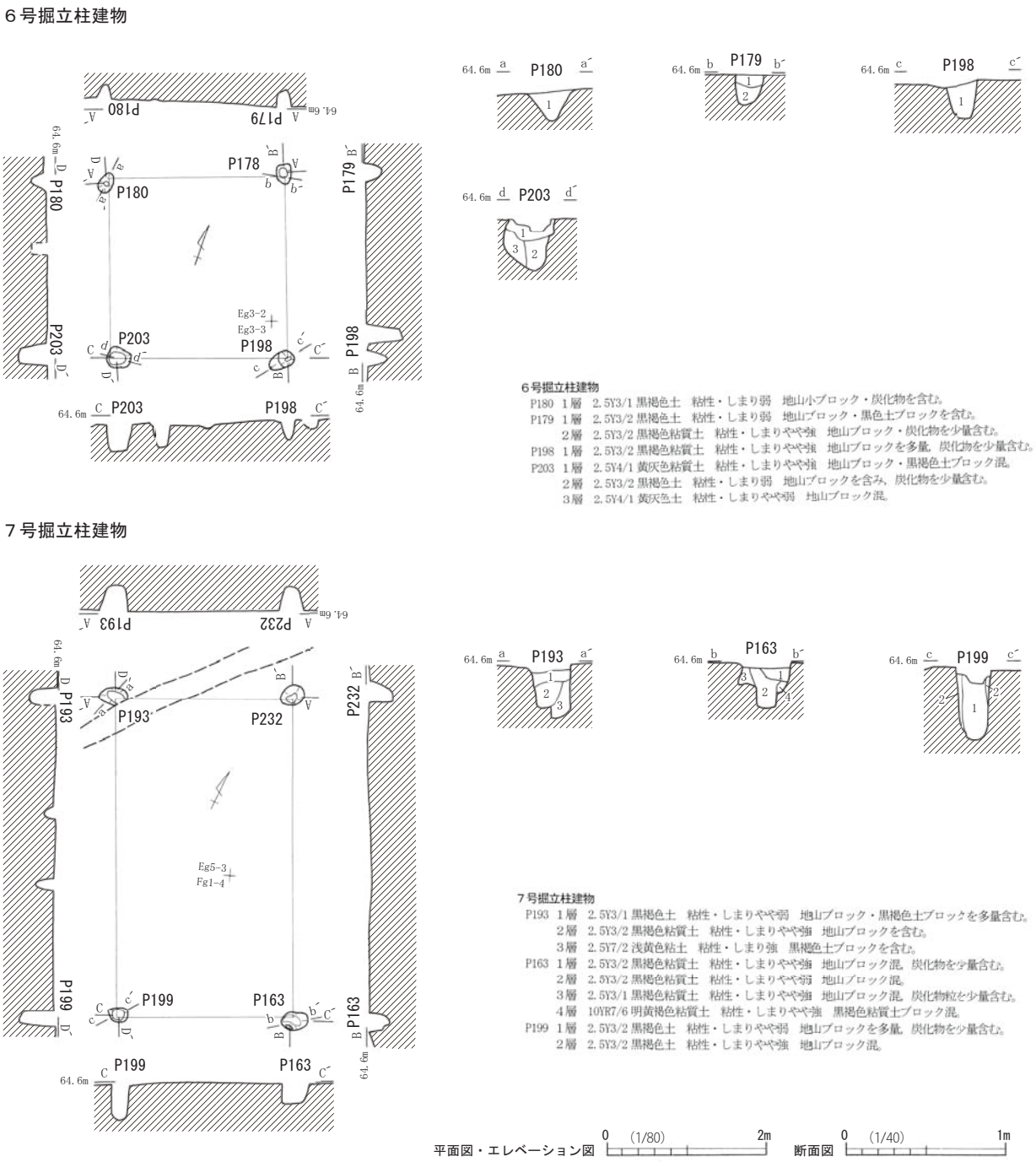
Ef グリッドに位置する，１間×１間の東西棟の梁間一間型建物（１類）である。重複関係にある遺構はない。柱根は残存せず，その他の遺物も出土していない。

６号掘立柱建物（第 22 図）

Eg グリッドに位置する１間×１間のほぼ正方形の梁間一間型建物（１類）である。重複関係にある遺構はない。柱根は残存せず，その他の遺物も出土していない。

７号掘立柱建物（第 22 図）

Eg・Fg グリッドに位置する１間×１間の南北棟の梁間一間型建物（１類）である。14・15・19 号掘立柱建物と



第22図　６・７号掘立柱建物

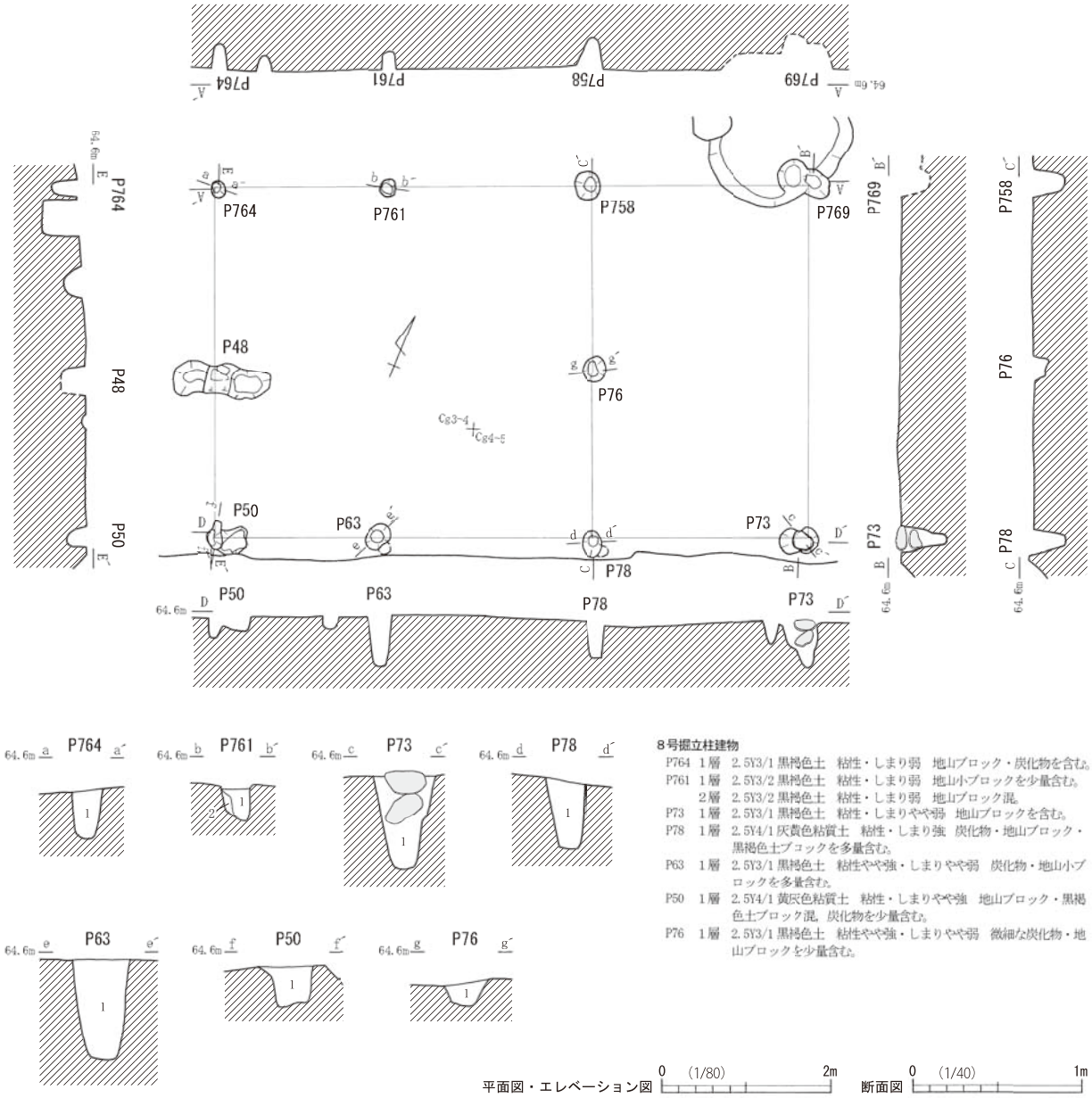
重複関係にあるが，直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず，その他の遺物も出土していない。

８号掘立柱建物（第 23 図）

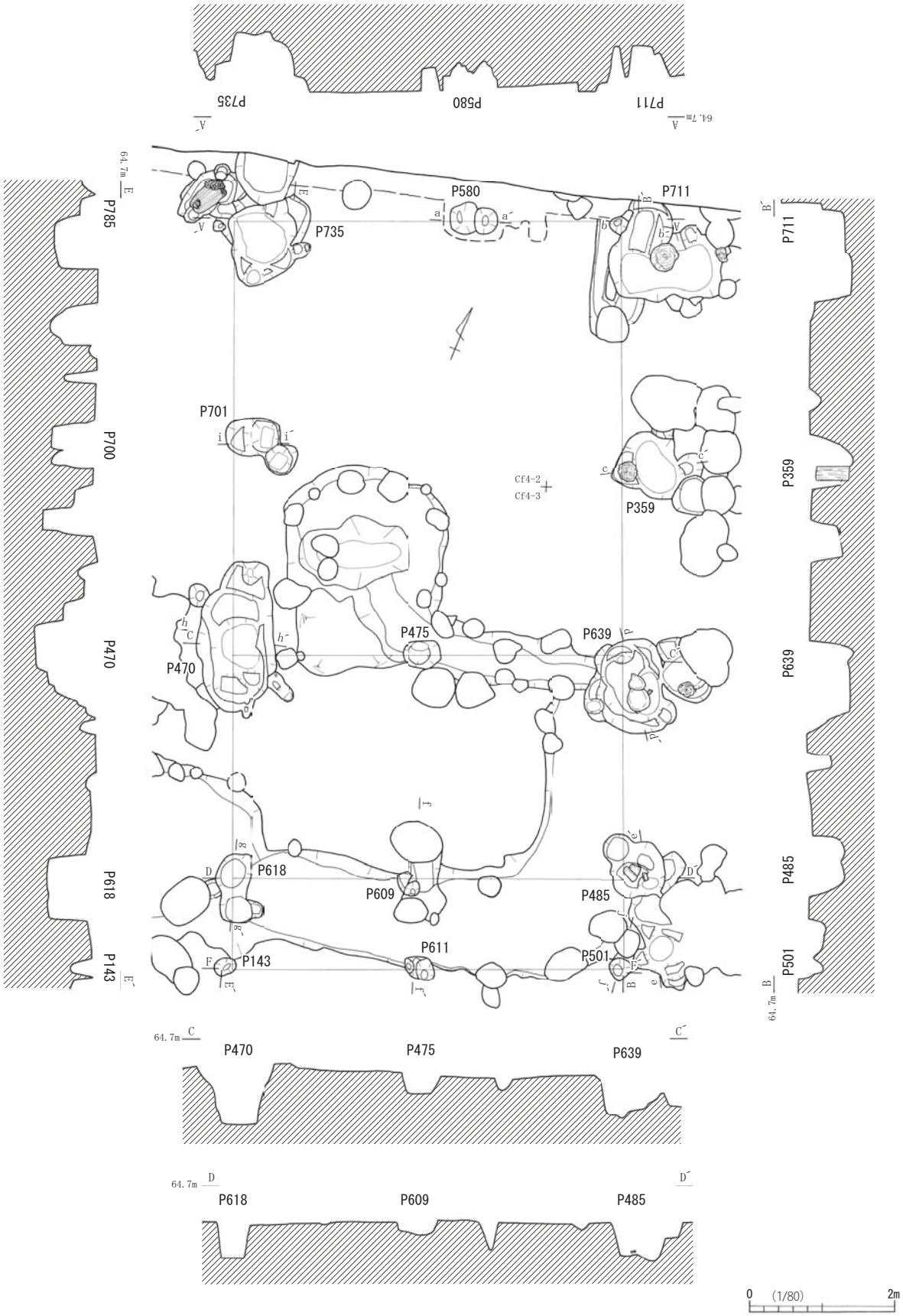
Cg・Dg グリッドに位置する３間×２間の東西棟の梁間二間型建物（２a 類）である。P76 は，間仕切りのための柱の穴だろうか。２・16・20 号掘立柱建物，16・18 号土坑と重複関係にある。16 号土坑より古いが，２・16・20 号掘立柱建物，18 号土坑との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず，他の遺物も出土していない。

９号掘立柱建物（第 24・25 図，図版３）

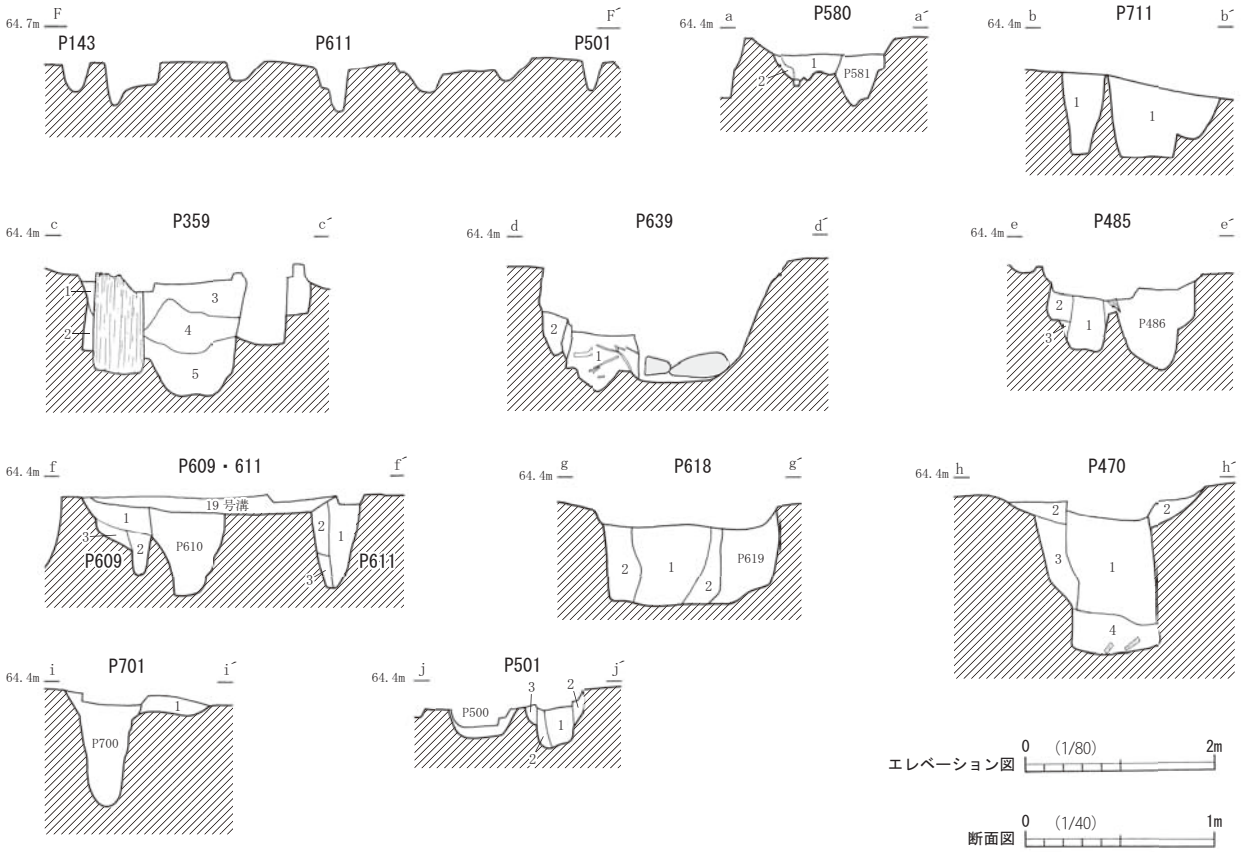
Cf・Cg グリッドに位置する３間×２間の南北棟の梁間二間型建物（２b 類）である。南側の妻に庇を持つ。P475 は，間仕切りの柱の穴と考えられる。３・12・16・17・21 ～ 26・28・31・32・34・35 号掘立柱建物，50 号土坑，20・26・29・32 号溝と重複関係にある。17・25・28 号掘立柱建物，32 号溝より新しく，３・12・16 号掘立柱建物，50 号土坑，20・26・29 号溝より古いが，21 ～ 24・26・31・32・34・35 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。



第23図　８号掘立柱建物



第24図　９号掘立柱建物（１）



9号掘立柱建物

P580 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含み，炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
P711 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P359 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック混。
4層 2.5Y7/3 浅黄色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色土ブロック混。
5層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P639 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。
P485 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・黒色土ブロックを少量含む。
2層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロック混。
3層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土小ブロックを少量含む。
P609 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 砂粒を含む。
3層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
P611 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を多量含む。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P618 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P470 1層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混，炭化物を多量含む。
2層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまり強 黒褐色土ブロック・黄灰色土ブロック混，炭化物を含む。
3層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を多量含む。
4層 不明
P701 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
P501 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを少量含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山小ブロック・炭化物を含む。

第25図 9号掘立柱建物（2）

柱根は，P359 のもの（147）のみ残存していた。その他の遺物は，P470 から白磁小杯片（5），P359 から瀬戸美濃焼平碗片（6），P735 から白磁鍔皿片（7），P359 から肥前系陶器皿片（9）と肥前系陶器の壺または甕片（8）のほか，越前焼甕片や肥前系磁器碗片などが出土している。また，先述したが，当遺構の柱穴 P639 か，3号掘立柱建物の P543 に伴うものか不明であるが，抉りが入れられた柱状の木製品2点（145･146）も出土している。なお，瀬戸美濃焼平碗片（6）・肥前系陶器の壺または甕片（8）・同皿片（9）は，いずれも各ピットの掘方から出土したものである。

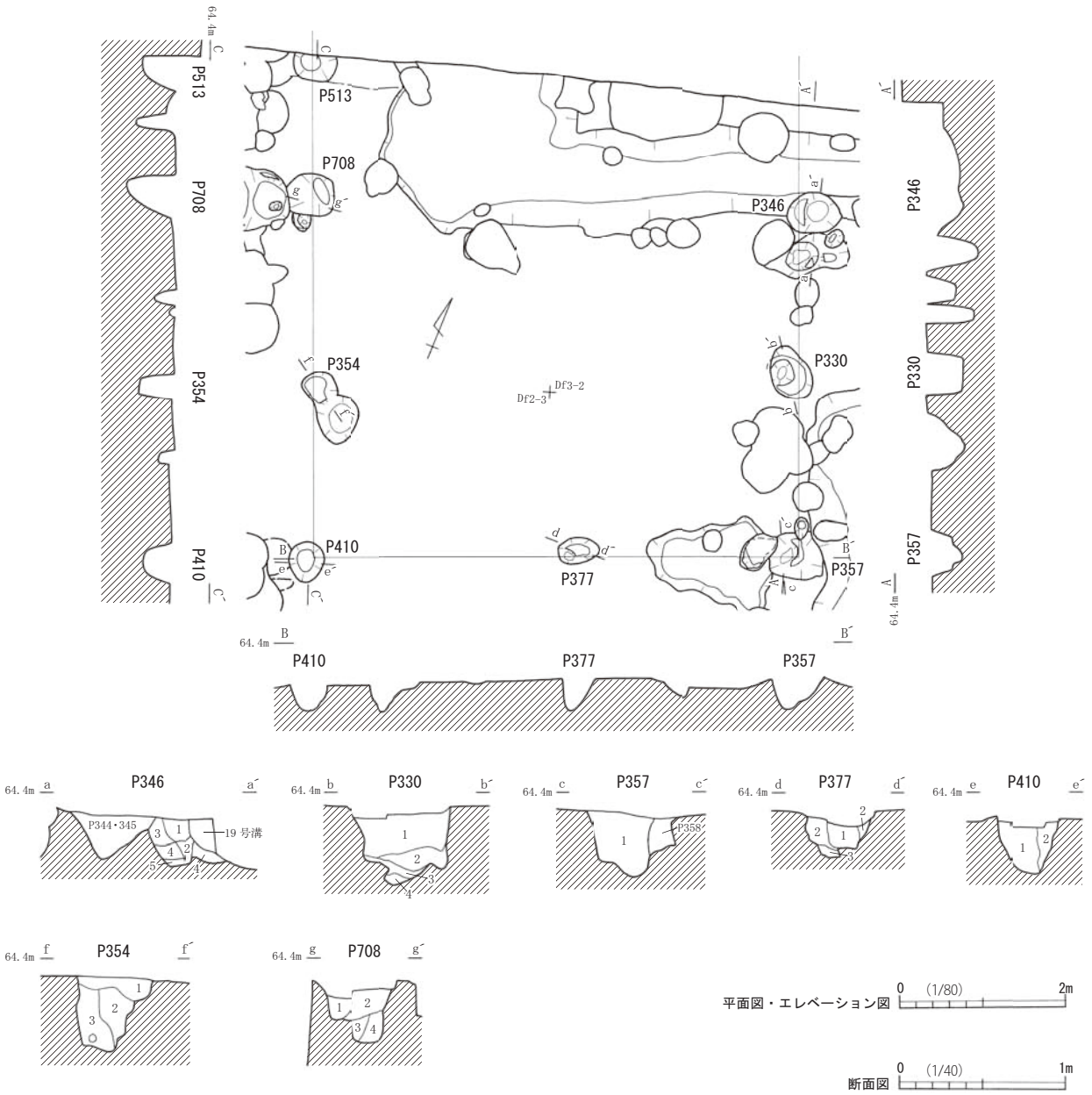
10号掘立柱建物（第26図）

Df グリッドに位置する，3間以上×2間の南北棟の梁間二間型建物（2a 類）である。調査区北側へ延びており，建物の全容は明らかではない。3・4・18・24・27・29～33・35・36 号掘立柱建物，1号竪穴建物，46 号土坑，19 号溝と重複関係にある。30 号掘立柱建物より新しく，29･36 号掘立柱建物，46 号土坑，19 号溝より古いが，3・4・18・24・27・31～33・35 号掘立柱建物，1号竪穴建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根は残存せず，その他にP708から中国製天目茶碗（10）と，P354から杭（または松明か）（148）が出土している。

11号掘立柱建物（第27図）

Cgグリッドに位置する１間×２間の，やや正方形に近い南北棟の梁間二間型建物（２a類）である。２・16・21

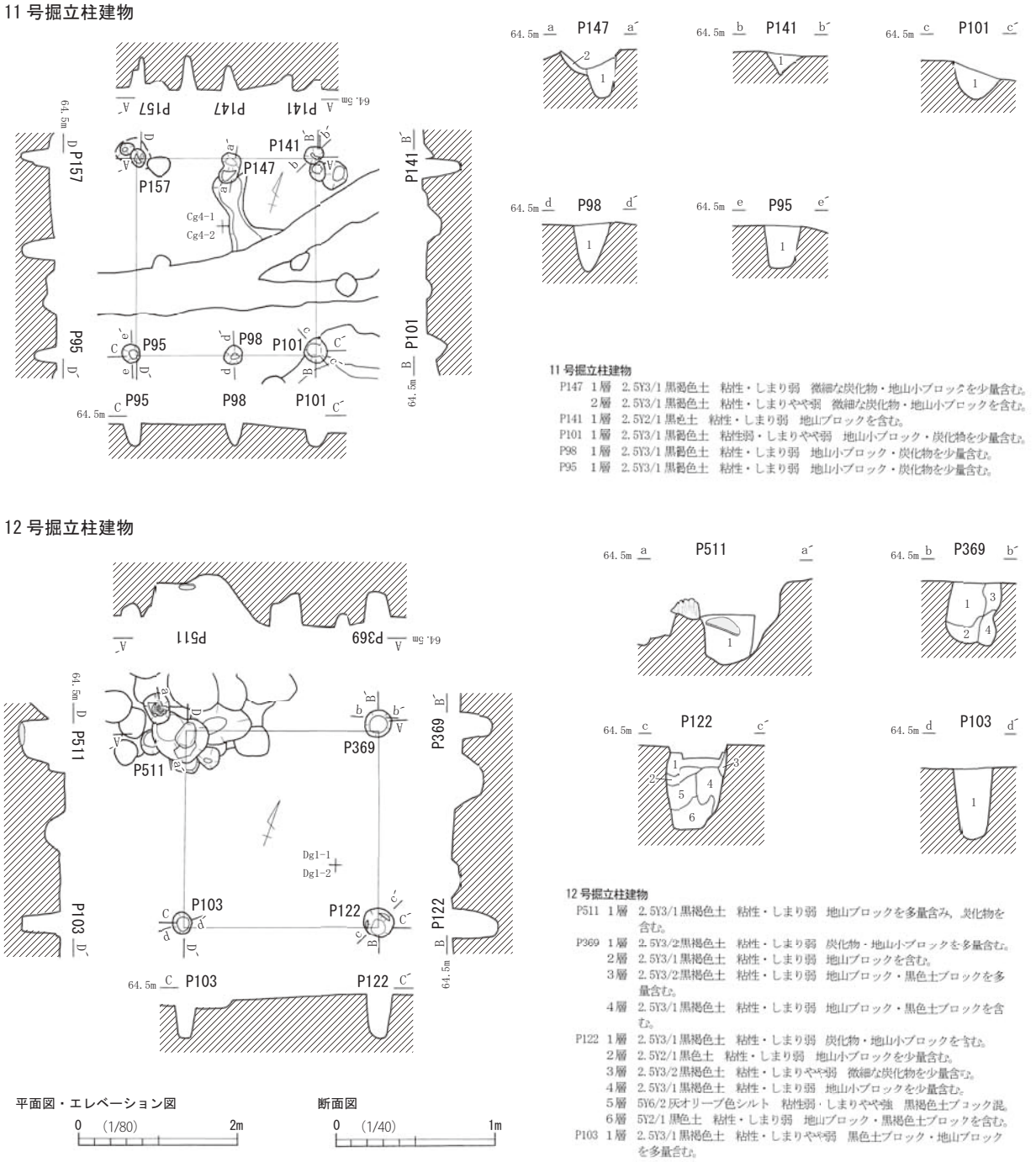


10号掘立柱建物

P346 1層 2.5Y3/2黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。炭化物を含む。
2層 2.5Y3/2黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
3層 2.5Y3/2黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を含む。
4層 2.5Y3/2黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
5層 2.5Y3/2黒褐色土 粘性やや弱・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
P330 1層 2.5Y3/1黒褐色粘質土 粘性・しまり強 地山ブロック混。
2層 5Y7/3浅黄色粘土 粘性・しまり極強 黄灰色土小ブロックを少量含む。
3層 2.5Y3/1黒褐色粘質土 粘性・しまりやや強 地山ブロックを少量含む。
4層 2.5Y3/1黒褐色粘質土 粘性・しまりやや強 地山ブロックを含む。
P357 1層 2.5Y4/1黄灰色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・黒色土ブロック混。
P377 1層 2.5Y4/1黄灰色土 粘性・しまりやや弱 地山小ブロック・炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/2黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・黒色土ブロック混。
3層 2.5Y2/1黒色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
P410 1層 2.5Y3/2黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
2層 2.5Y3/2黒褐色粘質土 粘性・しまりやや強 地山小ブロックを多量，炭化物・焼土粒を少量含む。
P354 1層 2.5Y3/2黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を多量含む。
2層 2.5Y3/1黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を含む。
3層 2.5Y3/1黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物を多量，地山ブロックを少量含む。
P708 1層 2.5Y3/2黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
2層 2.5Y3/2黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
3層 2.5Y3/1黒褐色土 粘性・しまり弱 砂粒を含む。
4層 2.5Y7/3浅黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロックを少量含む。

第26図 10号掘立柱建物

11 号掘立柱建物



第27図 11・12 号掘立柱建物

号掘立柱建物，３号柵列，18 号土坑，12 号溝と重複関係にある。18 号土坑，12 号溝より古いものの，２・16・21 号掘立柱建物，３号柵列との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存しておらず，その他の遺物も出土していない。

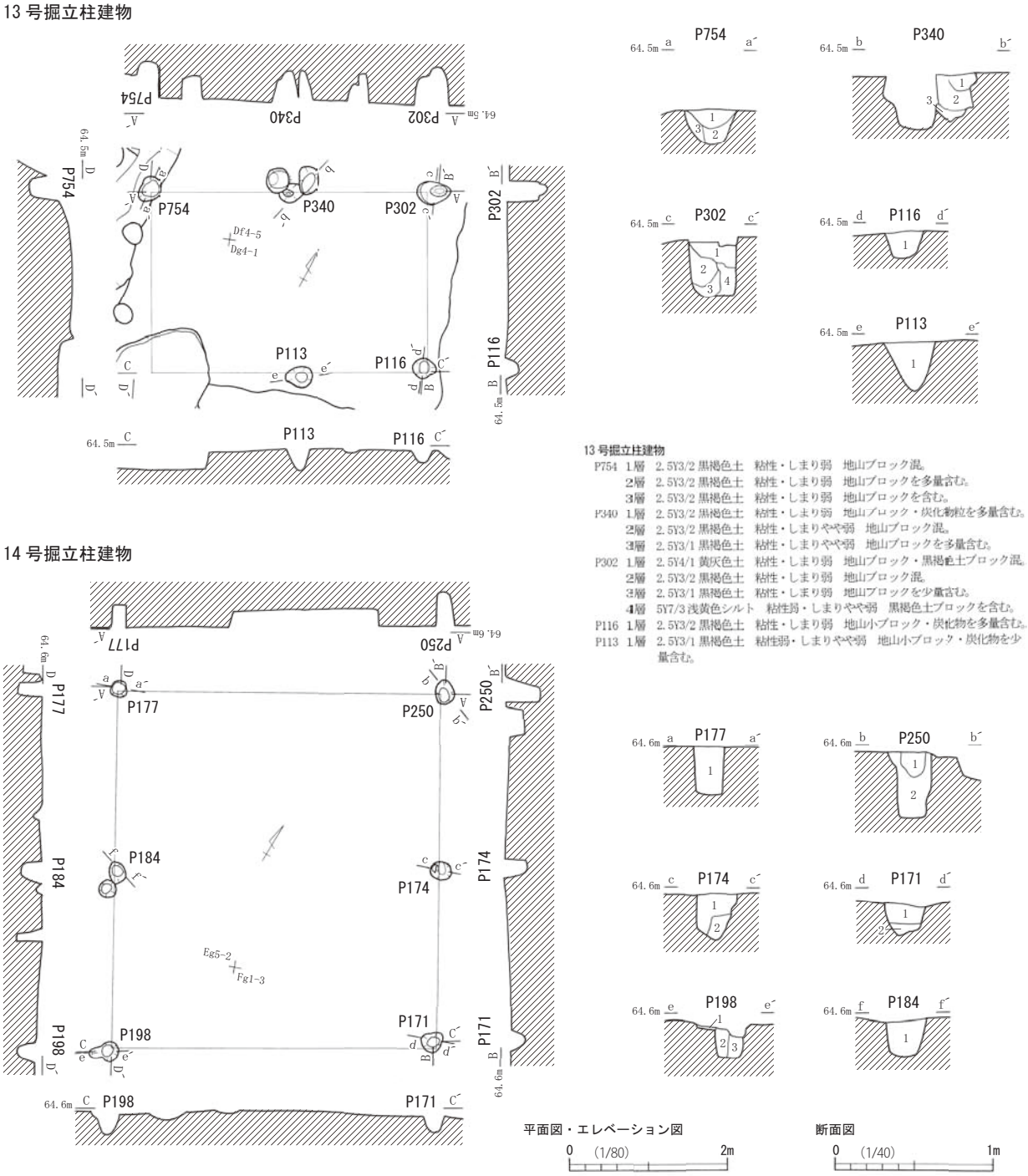
12 号掘立柱建物（第 27 図）

Cg・Dg グリッドに位置する１間×１間のほぼ正方形の梁間一間型建物（１a 類）である。９・16・21・25 号掘立柱建物，３号柵列，９号溝と重複関係にある。９・25 号掘立柱建物より新しく，９号溝より古いが，16・21 号掘立柱建物，３号柵列との直接的な先後関係は不明である。

柱根は残存せず，肥前系陶器の壺または甕の破片が出土しているが，図化していない。

13 号掘立柱建物（第 28 図）

Df・Dg グリッドに位置する，２間×１間の東西棟の梁間一間型建物（１類）である。南西隅の柱穴は 23 号土坑と重複しており，検出できていない。３・30 号掘立柱建物，23 号土坑，10 号溝と重複関係にある。10 号溝より新しいが，３・30 号掘立柱建物，23 号土坑との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず，他の遺物も出土



13 号掘立柱建物

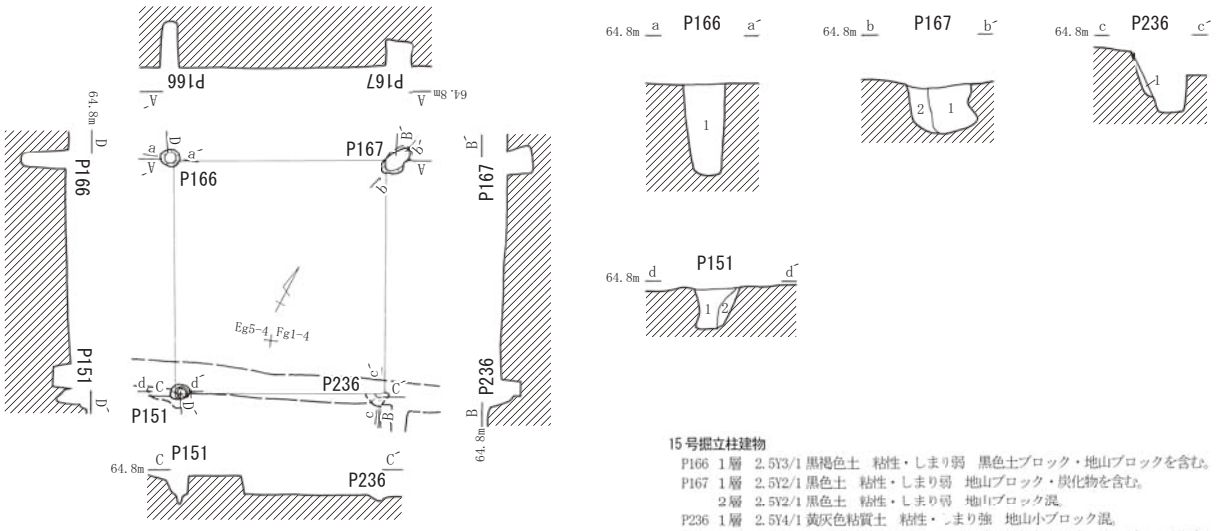
P754 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P340 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化粒を多量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
P302 1層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・黒褐色土ブロック混。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
4層 5Y7/3 浅黄色シルト 粘性弱・しまりやや弱 黒褐色土ブロックを含む。
P116 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・炭化物を多量含む。
P113 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山小ブロック・炭化物を少量含む。

14 号掘立柱建物

P177 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
P250 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混，炭化物を多量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
P174 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含み，炭化物・黄灰色土ブロックを含む。
2層 2.5Y2/1 黒色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
P171 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
P198 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含み，炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物を多量含む。
P184 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。

第28図 13・14 号掘立柱建物

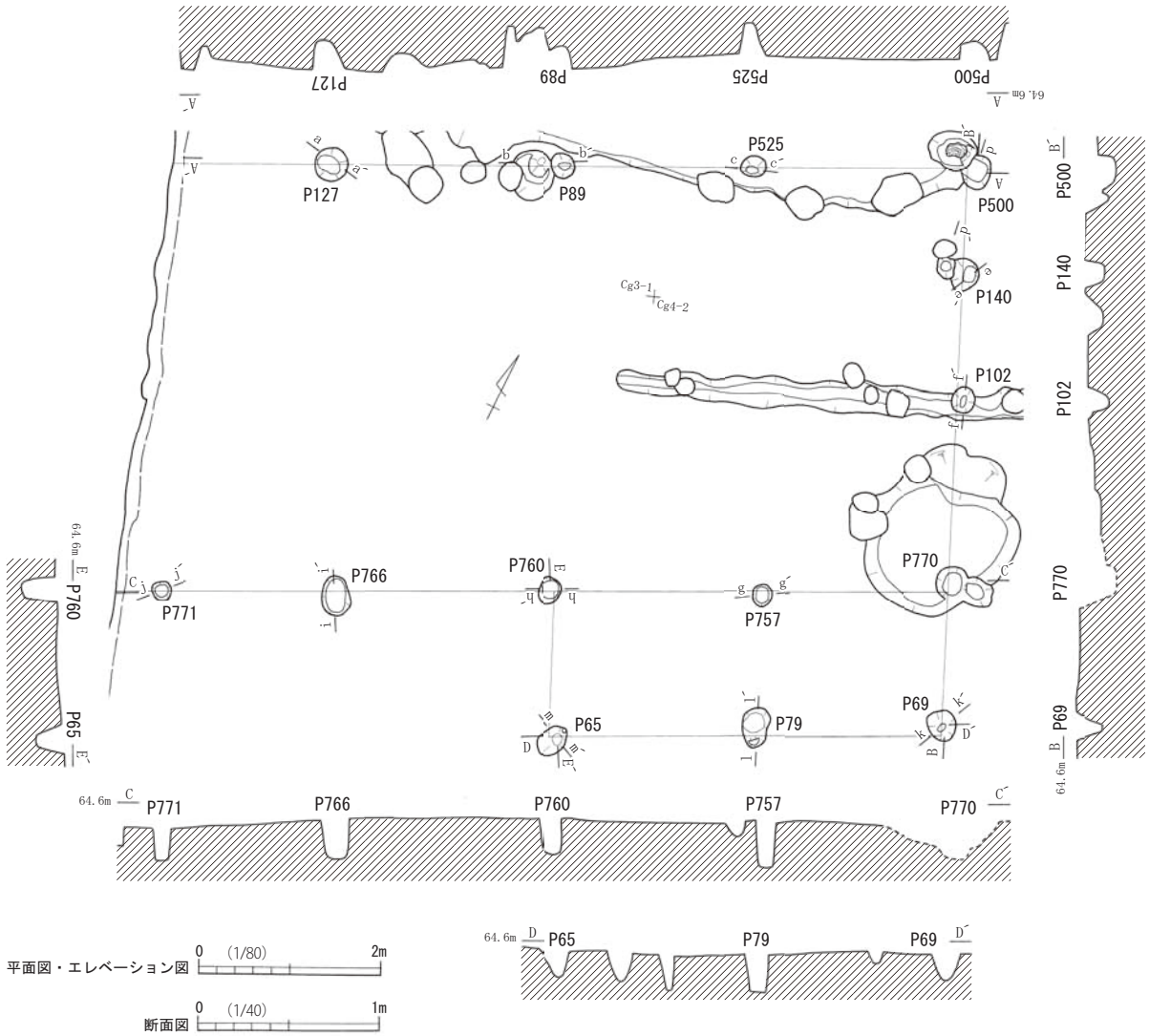
15 号掘立柱建物



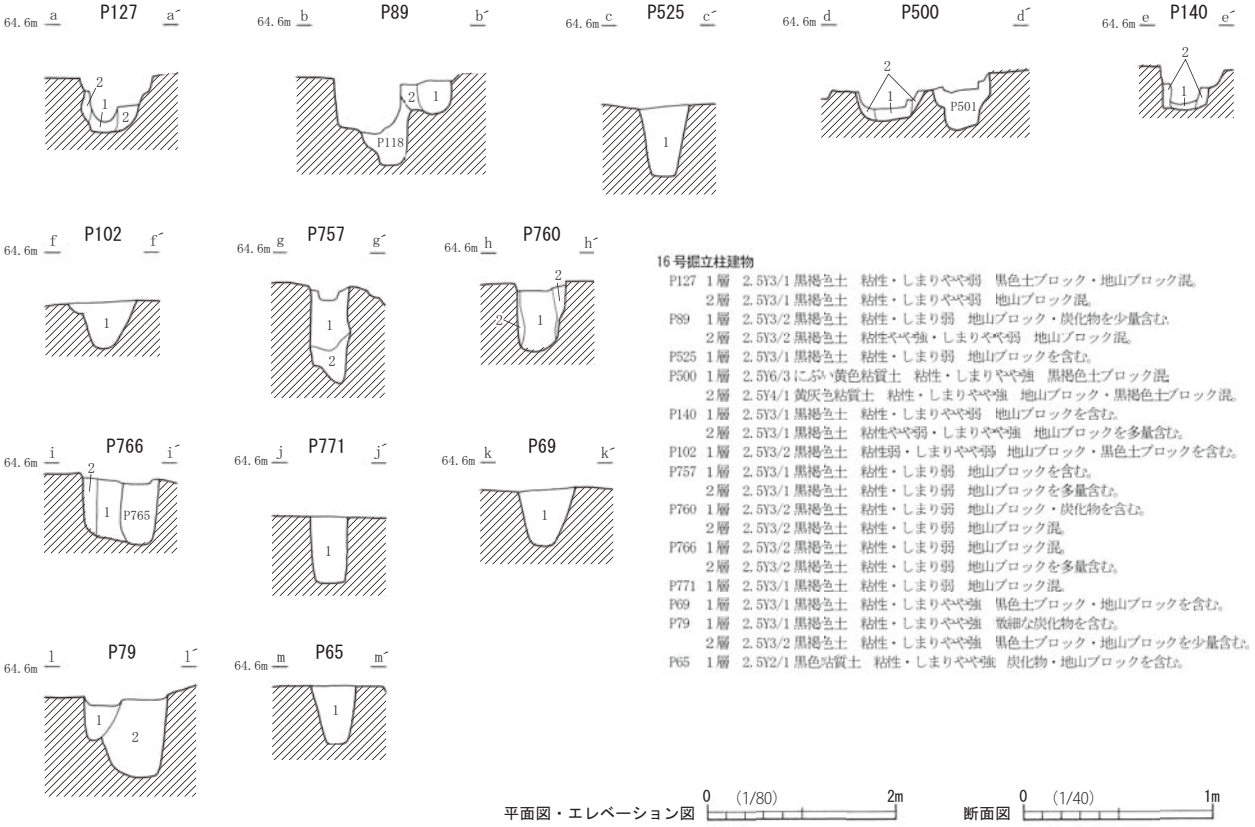
15 号掘立柱建物

P166　1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　黒色土ブロック・地山ブロックを含む。
P167　1 層　2.5Y2/1 黒色土　粘性・しまり弱　地山ブロック・炭化物を含む。
　　2 層　2.5Y2/1 黒色土　粘性・しまり弱　地山ブロック混。
P236　1 層　2.5Y4/1 黄灰色粘質土　粘性・しまり強　地山小ブロック混。
P151　1 層　2.5Y3/2 黒褐色粘質土　粘性・しまり強　微細な炭化物・地山ブロックを含む。
　　2 層　2.5Y3/2 黒褐色粘質土　粘性強・しまりやや強　地山ブロック混。

16 号掘立柱建物



第29図　15・16 号掘立柱建物（1）



第30図　16 号掘立柱建物（２）

していない。

14 号掘立柱建物（第 28 図）

Eg・Fg グリッドに位置する，２間×１間の東西棟の梁間一間型建物である。７・19 号掘立柱建物と重複関係にあるが，両者との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず，他の遺物も出土していない。

15 号掘立柱建物（第 29 図）

Eg・Fg グリッドに位置する，１間×１間のほぼ正方形の梁間一間型建物（１類）である。P236 は後世の田面の造成と，調査時の排水溝掘削により北半部を欠損している。７・19 号掘立柱建物と重複関係にあるが，両者との先後関係は不明である。柱根は残存せず，他の遺物も出土していない。

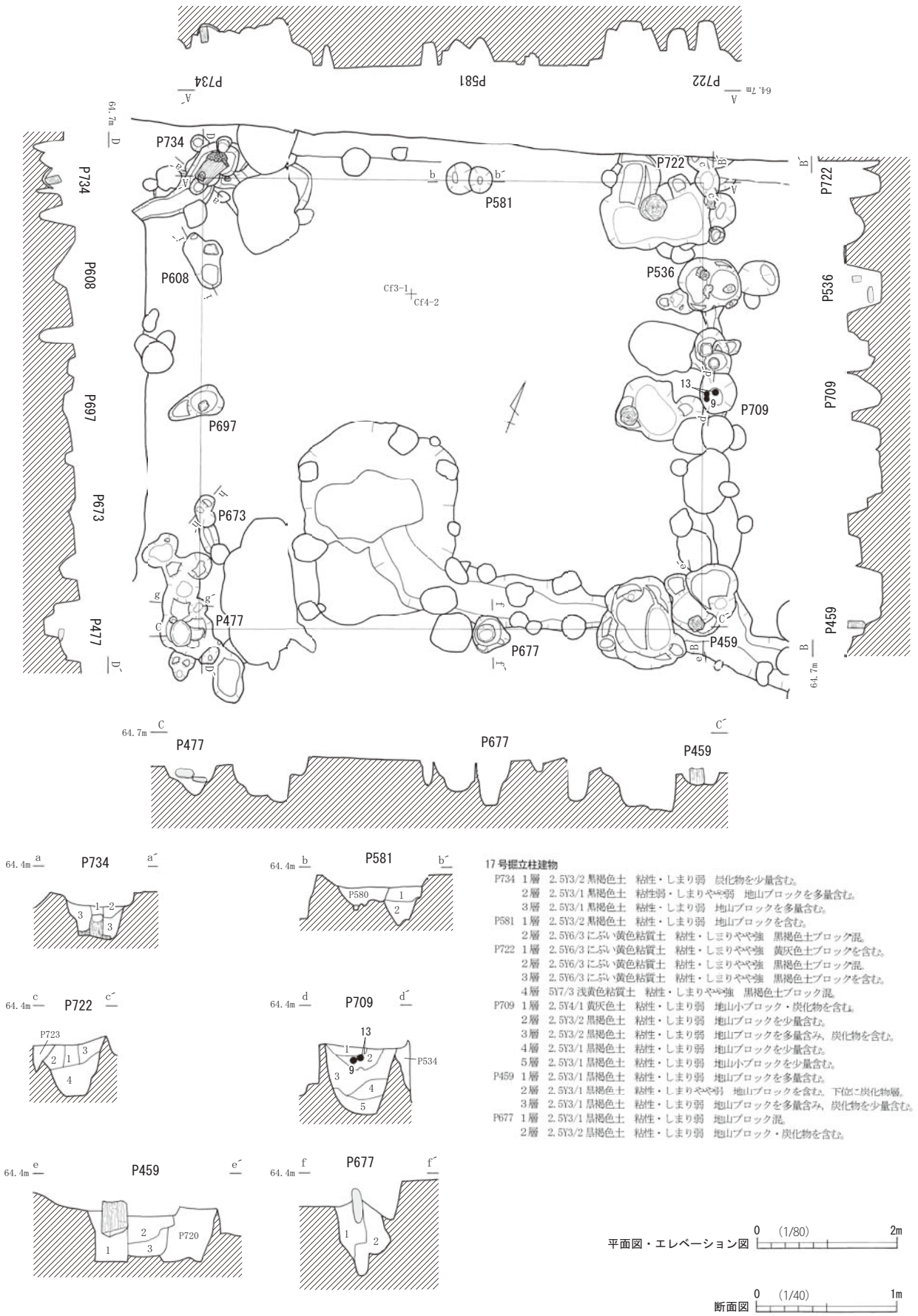
16 号掘立柱建物（第 29・30 図）

Cg グリッドに位置する，３間以上×３間の東西棟の梁間三間型建物（３b 類）で，南側の平に２間×１間の下屋を持つ建物としたが，東の梁間のうち，P500-P140･P140-P102 の柱間寸法が P102-P770 の半分ほどであることから，梁間二間型の建物である可能性も考えられる。また，建物の西側は調査区外へ延びていくことから，その全容は明らかではない。２・３・８・９・11・12・20・21・25 号掘立柱建物，３号柵列，18 号土坑，９・29 号溝と重複関係にある。９号掘立柱建物より新しく，３号掘立柱建物，９・29 号溝より古いが，２・８・11・12・20・21・25 号掘立柱建物，３号柵列，18 号土坑との直接的な先後関係は不明である。

柱根は残存せず，P65 から杭（149）が１点出土している。

17 号掘立柱建物（第 31 図，図版３）

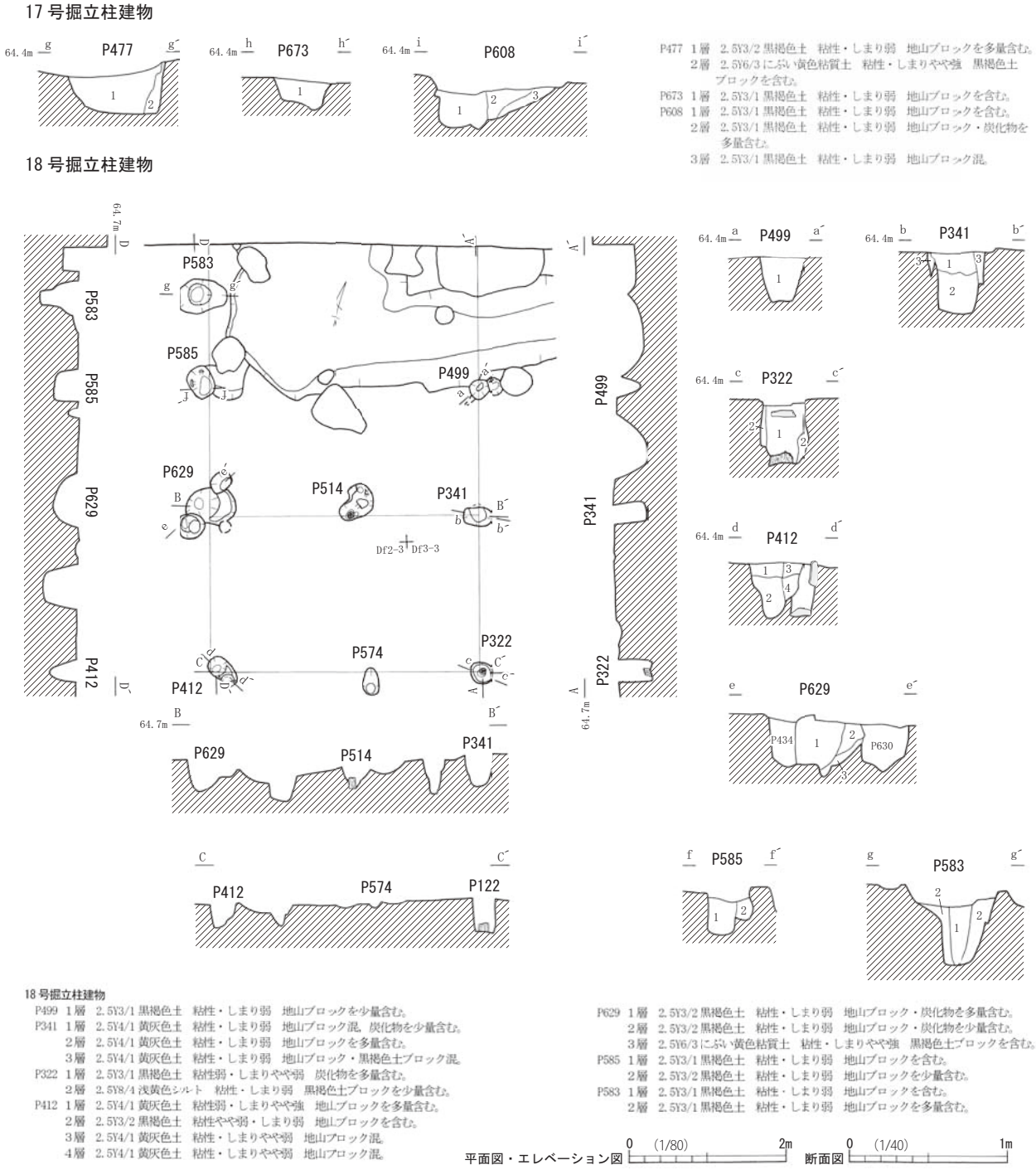
Ce・Cf・Df グリッドに位置する，４間×２間のやや正方形に近い梁間二間型建物（２a 類）である。P734 の柱の下には，植物の茎部と思われるものが，同一方向に束ねられたような状態で敷かれていた。３・９・22 ～ 26・



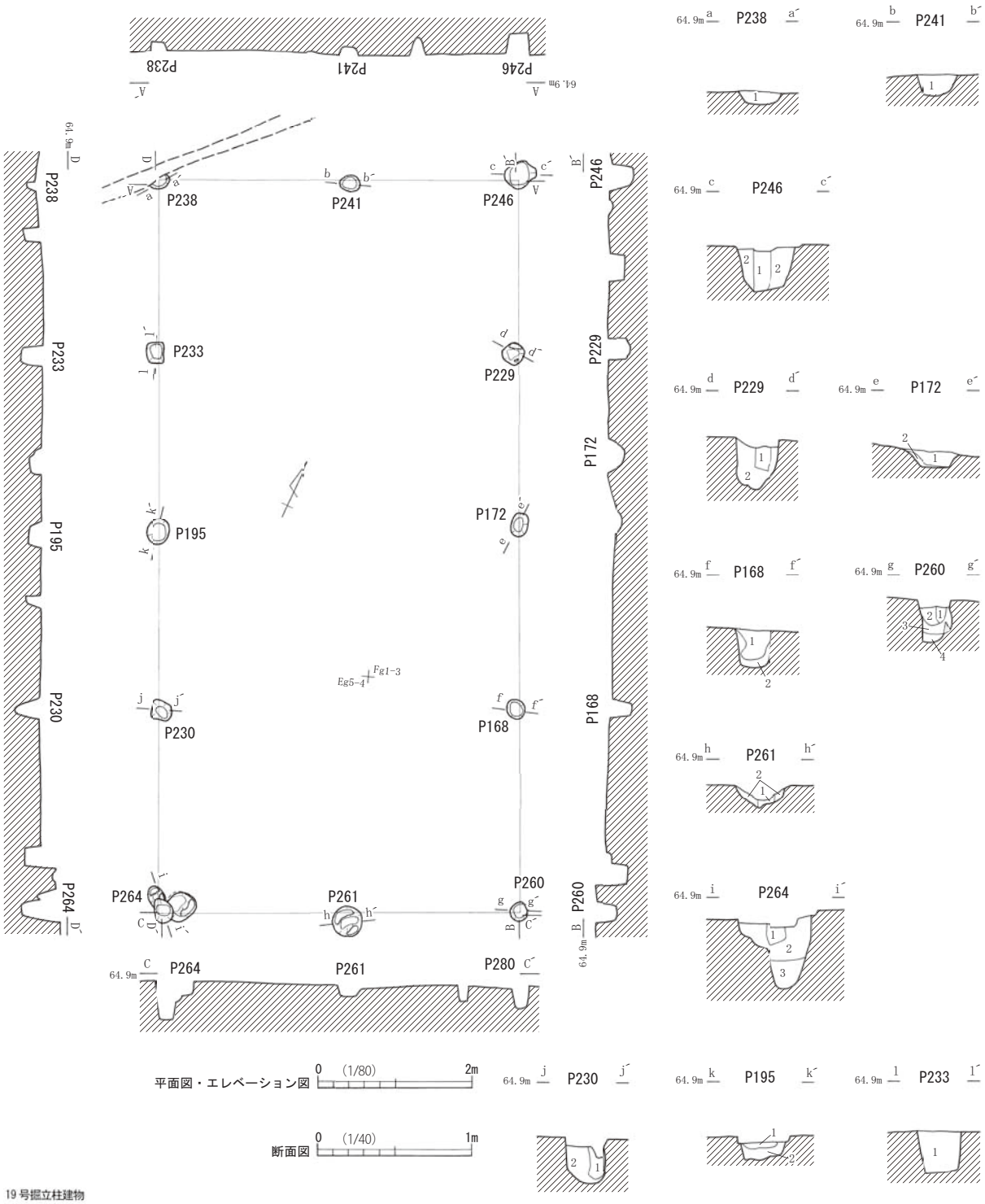
第31図 17号掘立柱建物（1）

28・29・31・32・34・35 号掘立柱建物，20・27・28 号溝と重複関係にある。22・24・34 号掘立柱建物，27・28 号溝より新しく，３・９・23・25・29 号掘立柱建物，20 号溝より古いが，26・28・31・32・35 号掘立柱建物とは直接的な先後関係は不明である。

柱根は，P734 と P536（150），P459（151）で残存するが，P734 のものは遺存状態が悪いために，図化することができなかった。その他に，P709 から瀬戸美濃焼丸皿片（13）・肥前系陶器皿片（９）・同擂鉢片（16），P459 から龍泉窯系の青磁盤片（11）と瀬戸美濃焼縁釉小皿片（12），P734 から瀬戸美濃焼の小天目茶碗片（14），P536 からは中世土師器の小皿片（15）が出土したほか，珠洲焼の壺または甕片なども出土した。



第32図　17 号掘立柱建物（２）・18 号掘立柱建物



19 号掘立柱建物

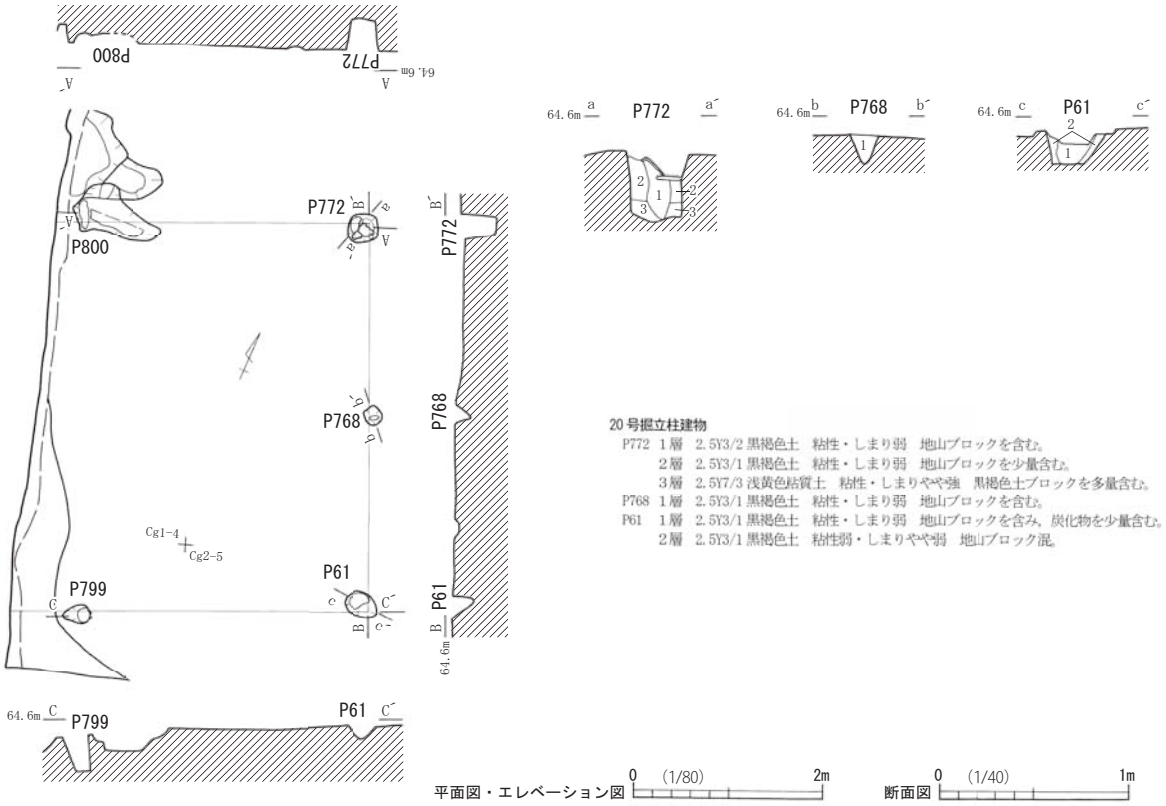
P238 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
P241 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山小ブロック・炭化物を少量含む。
P246 1 層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性やや強・しまりやや弱 地山ブロック混。炭化物を多量含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 粘性強・しまりやや強 地山ブロック混。
P229 1 層 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 粘性やや強・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性やや弱・しまり弱 地山ブロック混。
P172 1 層 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 粘性・しまりやや強 地山小ブロック混。灰色粘土ブロックを含む。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 粘性・しまりやや強 地山ブロックを含む。
P168 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を多量含む。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 粘性強・しまりやや強 地山ブロックを含む。
P260 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
3 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック混。
4 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 微細な地山ブロックを少量含む。
P261 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや強 地山ブロック混。炭化物を多量含む。
P264 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
3 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
P230 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
P195 1 層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性強・しまり極強 黒褐色土ブロック・地山ブロック混。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 粘性・しまりやや強 地山ブロックを含む。
P233 1 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや強 地山ブロック混。

第33図 19 号掘立柱建物

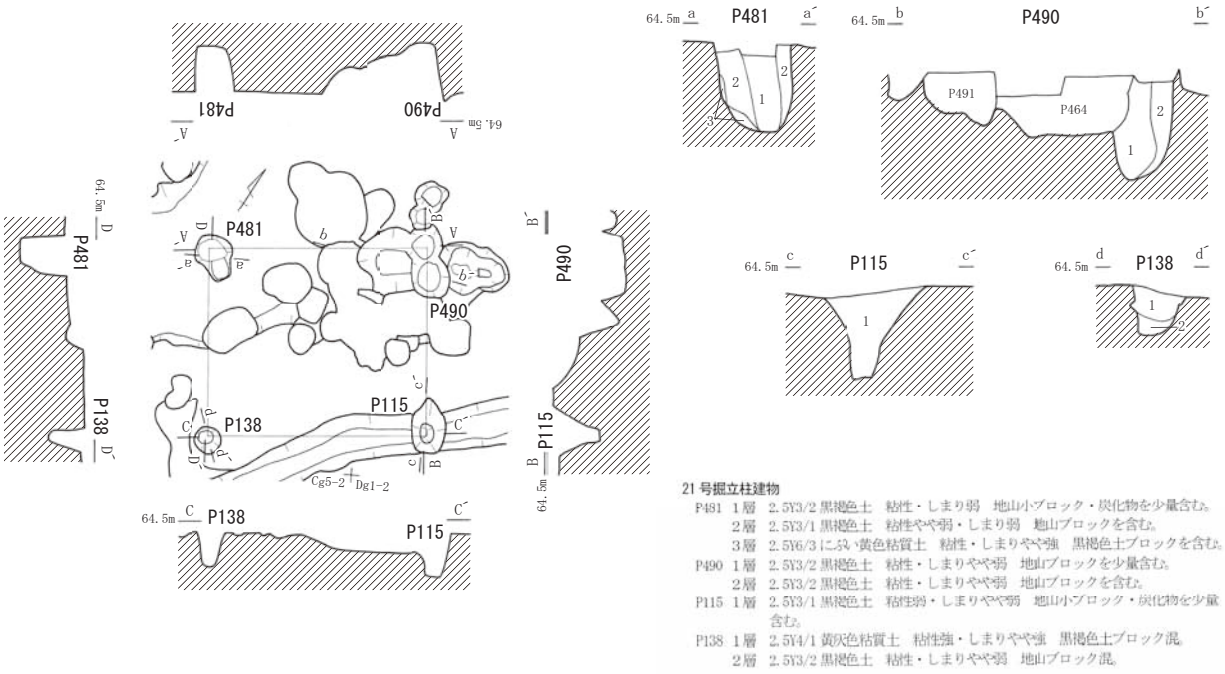
18 号掘立柱建物（第 32 図）

Cf・Df グリッドに位置する，３間以上×２間の南北棟の梁間二間型建物（２a 類）である。北側が調査区外へと延びており，建物の全容は明らかではない。P514 は，間仕切りのための柱の穴であろうか。３・10・24・27・29・

20 号掘立柱建物



21 号掘立柱建物

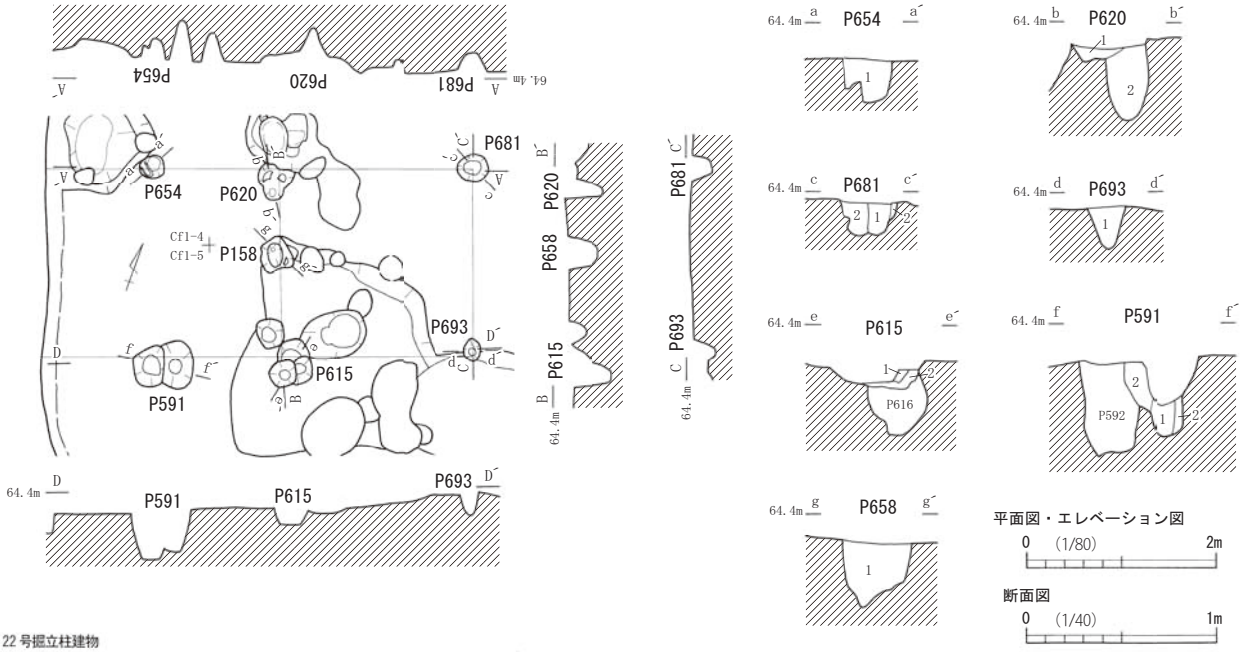


第34図　20・21 号掘立柱建物

30 ～ 33・36 号掘立柱建物，43 号土坑，18・19 号溝と重複関係にある。29 号掘立柱建物，18 号溝より新しく，43 号土坑，19 号溝より古いが，３・10・24・27・30 ～ 33・36 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根は P322・514（152・153）で残存しており，その他に肥前系陶器の壺または甕片が出土している。

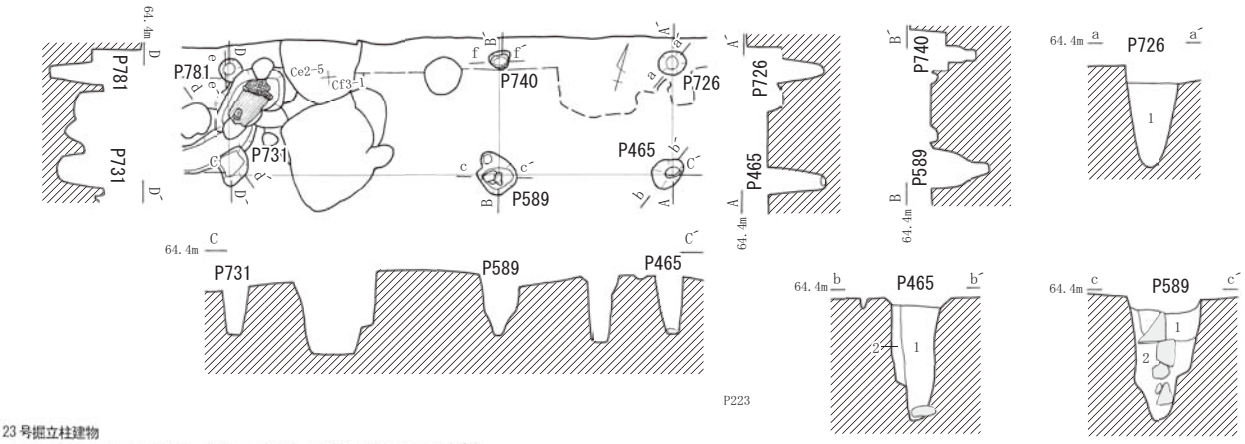
22 号掘立柱建物



22 号掘立柱建物

P654 1 層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック混，炭化物を含む。
P620 1 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物を含み，地山小ブロックを少量含む。
P681 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・炭化物を少量含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
P693 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・黄灰色土小ブロックを少量含む。
P615 1 層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混，炭化物を多量含む。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
P591 1 層 2.5Y4/1 黄灰色混砂土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を含む。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を多量含む。
P658 1 層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック混，炭化物を含む。

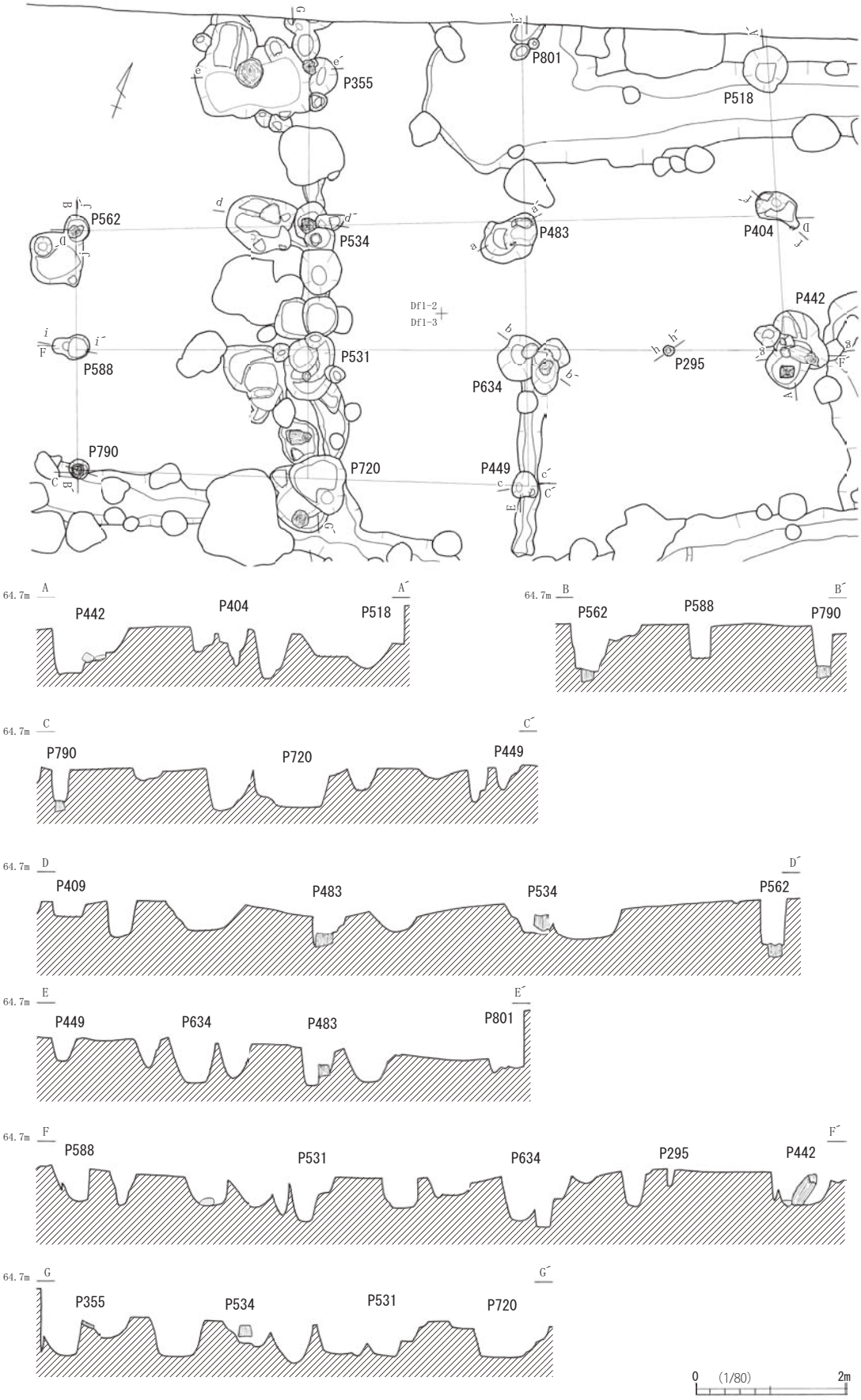
23 号掘立柱建物



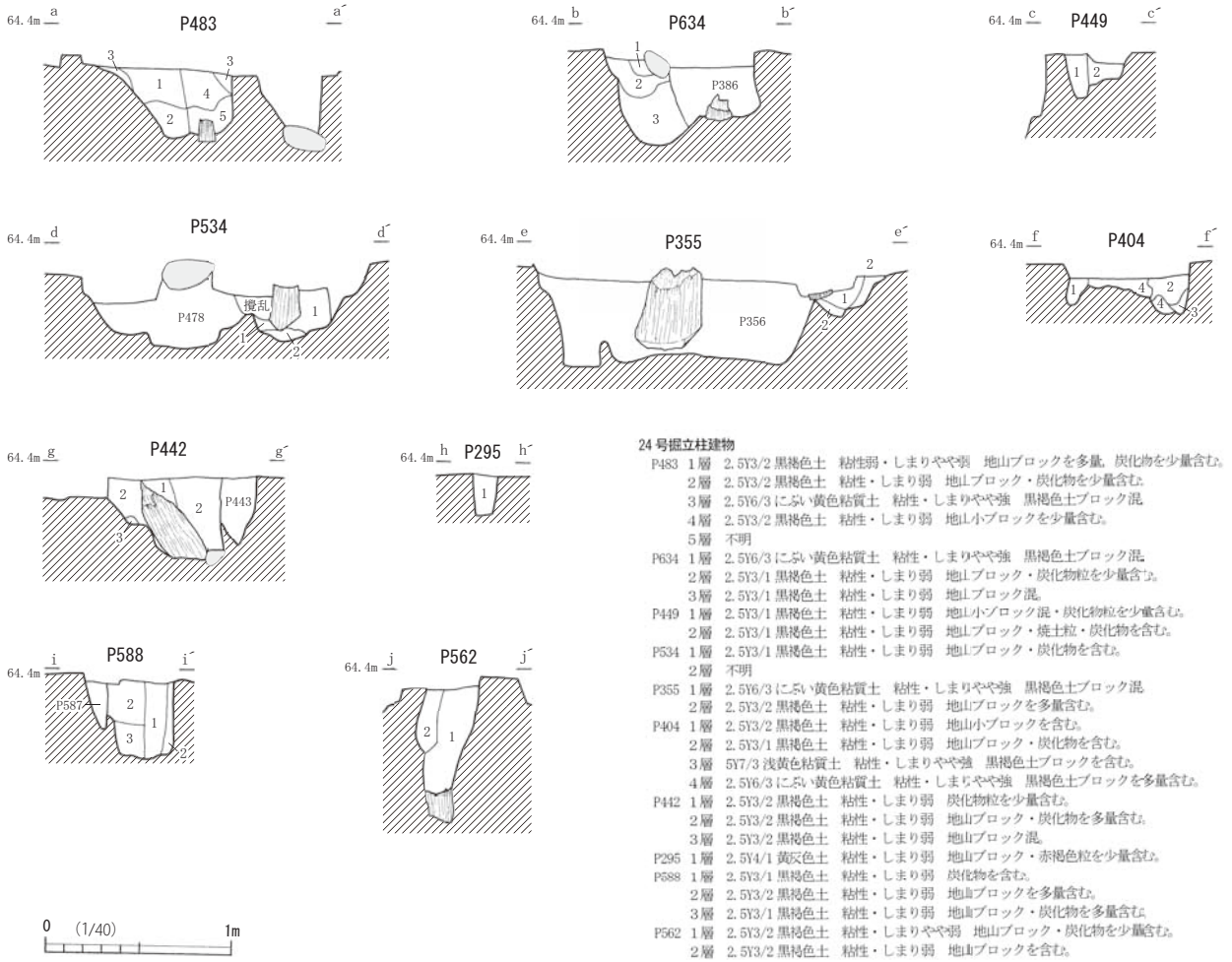
23 号掘立柱建物

P726 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 砂礫混，地山ブロックを含む。
P465 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P589 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・炭化物を多量含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
P731 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
3 層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性・しまりやや強 地山ブロック混，炭化物・黒褐色土ブロックを含む。
P781 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P740 1 層 2.5Y4/1 黄灰色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色土ブロックを含む。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
3 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

第35図 22・23 号掘立柱建物



第36図　24 号掘立柱建物（1）



24 号掘立柱建物

P483 1 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロックを多量，炭化物を少量含む。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
3 層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロック混。
4 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを少量含む。
5 層 不明
P634 1 層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロック混。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物粒を少量含む。
3 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
P449 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック混・炭化物粒を少量含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・焼土粒・炭化物を含む。
P534 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を含む。
2 層 不明
P355 1 層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロック混。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
P404 1 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を含む。
3 層 5Y7/3 浅黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロックを含む。
4 層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロックを多量含む。
P442 1 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物粒を少量含む。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を多量含む。
3 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
P295 1 層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・赤褐色粒を少量含む。
P588 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物を含む。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
3 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を多量含む。
P562 1 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
2 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

第37図 24 号掘立柱建物（２）

19 号掘立柱建物（第 33 図）

Ef・Eg・Ff・Fg グリッドに位置する，４間×２間の南北棟の梁間二間型建物（２a 類）である。北西隅にある柱穴 P238 は，その約半分が水道管によって失われている。７・14・15 号掘立柱建物と重複関係にあるが，それらとの直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず，その他の遺物も出土していない。

20 号掘立柱建物（第 34 図）

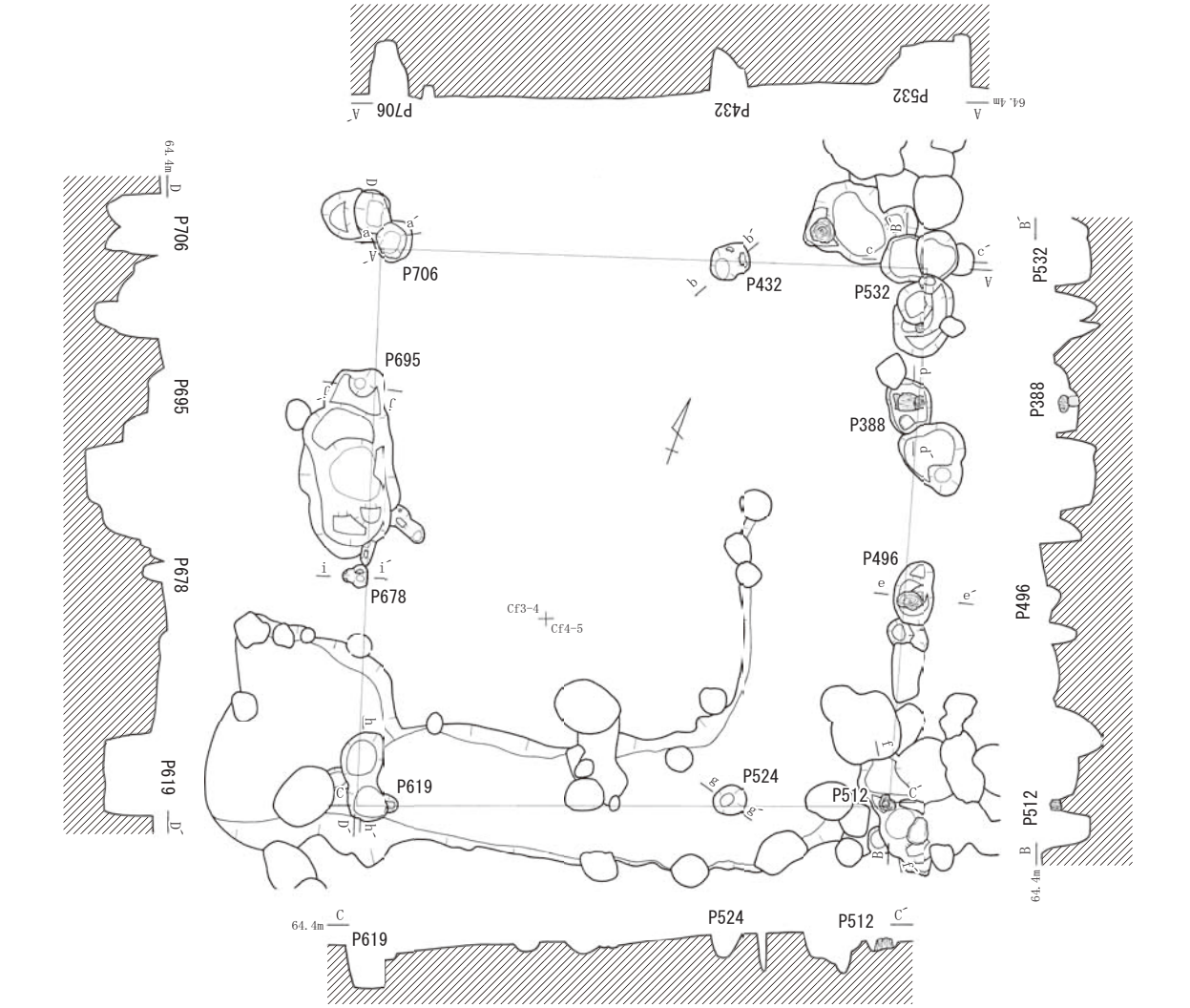
Cg グリッドに位置する，１間以上×２間の東西棟の梁間二間型（２a 類）と考えられる建物である。２・８・16 号掘立柱建物と重複関係にあるが，それらとの直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず，他の遺物も出土していない。

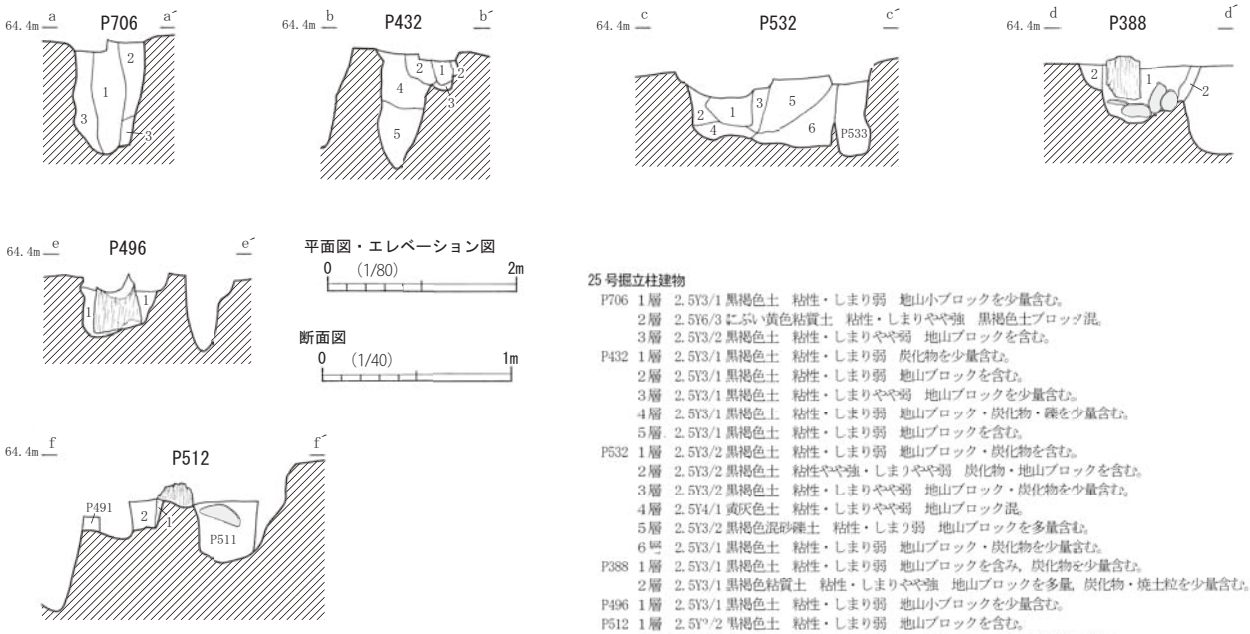
21 号掘立柱建物（第 34 図）

Cf・Cg・Df グリッドに位置する，１間×１間のやや正方形に近い梁間一間型建物（１類）である。３・９・11・12・16・25・35 号掘立柱建物，10・29 号溝と重複関係にある。35 号掘立柱建物，10 号溝より新しく，29 号溝より古いが，３・９・11・12・16・25 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず，他の遺物も出土していない。

22 号掘立柱建物（第 35 図）

Cf グリッドに位置する，２間以上×１間の東西棟の梁間一間型建物（１類）である。P658 は，間仕切りのため



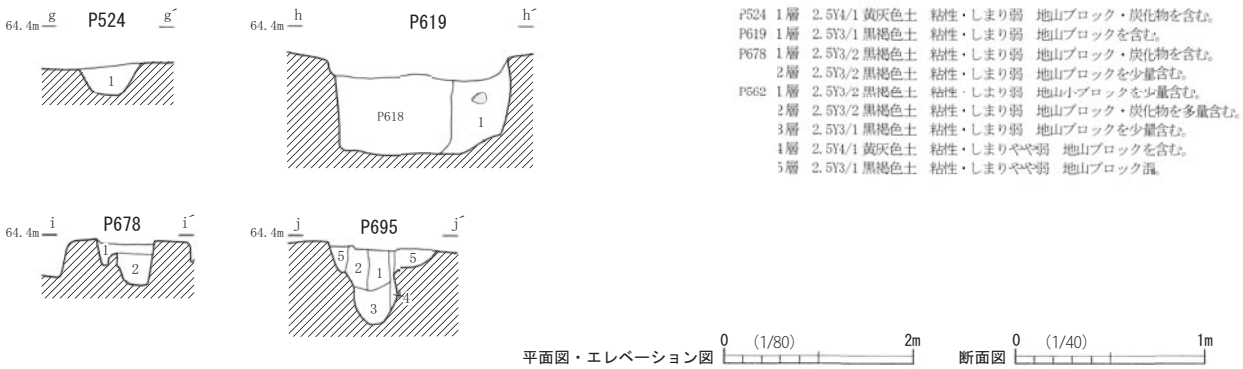


25 号掘立柱建物

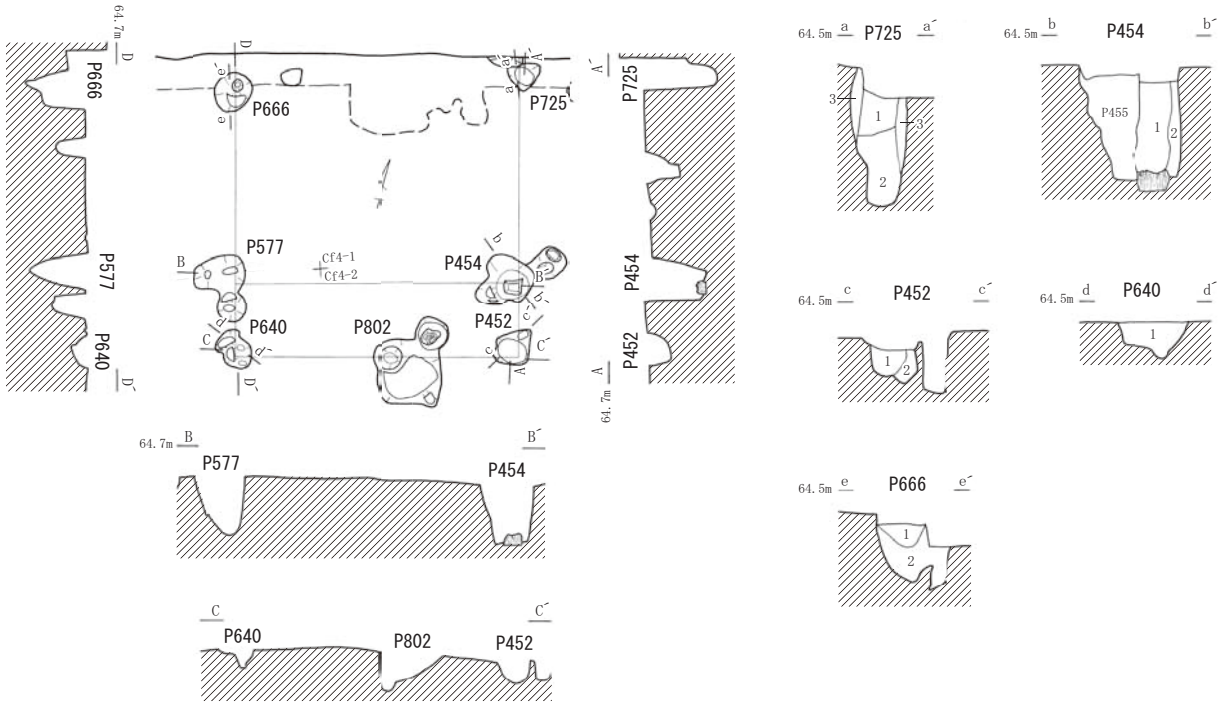
P706 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを少量含む。
2層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロック混。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
P432 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。
4層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物・礫を少量含む。
5層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P532 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや弱 炭化物・地山ブロックを含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
4層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
5層 2.5Y3/2 黒褐色混砂礫土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
6層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
P388 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含み、炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 粘性・しまりやや強 地山ブロックを多量、炭化物・焼土粒を少量含む。
P496 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを少量含む。
P512 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。炭化物を含む。

第38図 25 号掘立柱建物（1）

25 号掘立柱建物



26 号掘立柱建物



26 号掘立柱建物

P725 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
P454 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を多量含む。
P452 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
P640 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
P666 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。

第39図 25 号掘立柱建物（2）・26 号掘立柱建物

の柱の穴であろうか。建物の西側が調査区外へ延びるため，建物の全容は明らかではない。2・3・9・17・25・28 号掘立柱建物，29・30 号溝と重複関係にある。2 号掘立柱建物より新しく，3・17 号掘立柱建物，29・30 号溝より古いが，9・25・28 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず，他の遺物も出土していない。

23 号掘立柱建物（第 35 図）

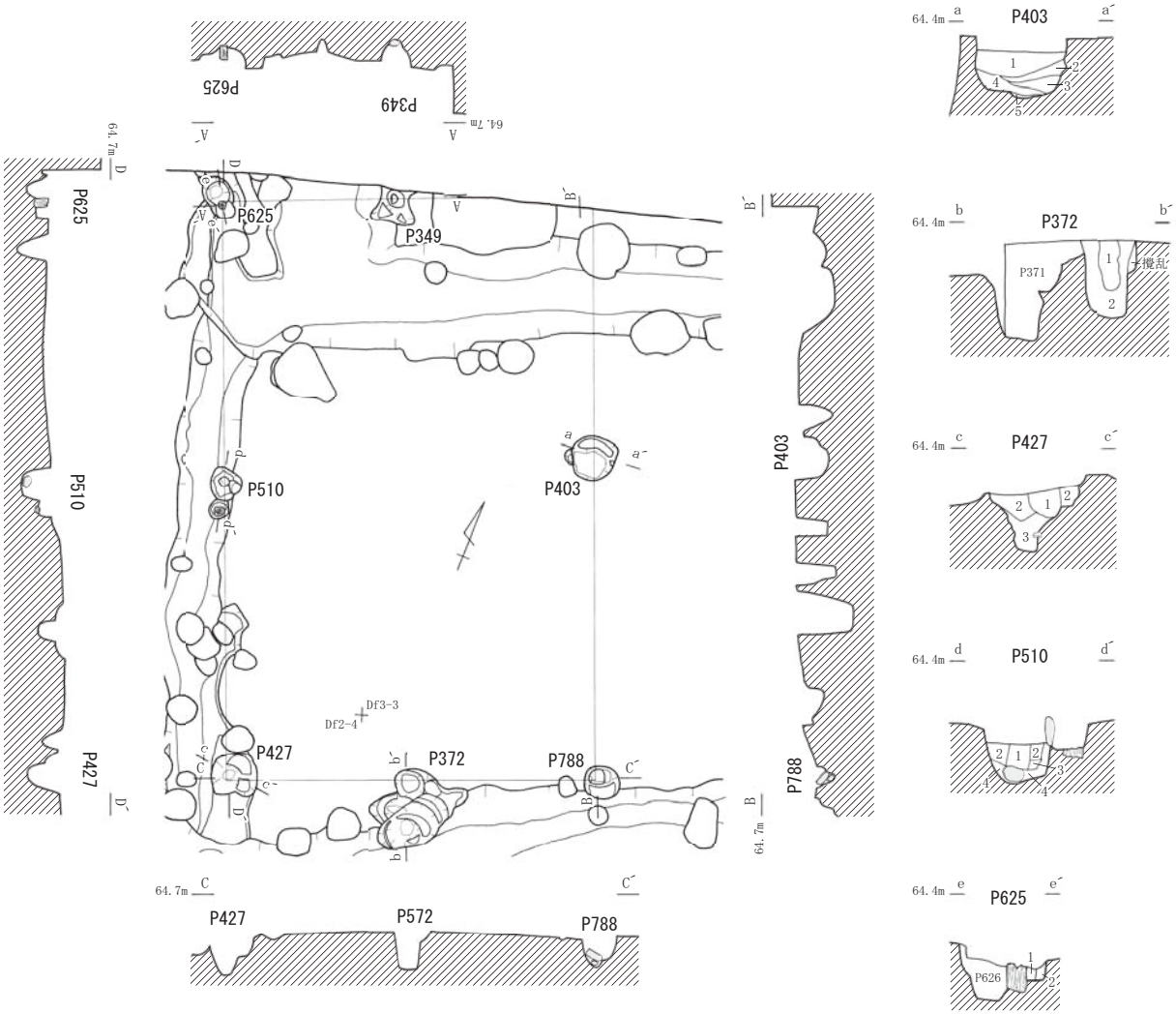
Ce･Cf グリッドに位置する。1 間以上×1 間の南北棟で，東側の平に庇を持つ梁間一間型建物（1 類）としたが，建物の北側が調査区外へ延びているため，梁間二間型（2a 類か）の東西棟の建物である可能性も否定できない。3・

９・17・26・31・34 号掘立柱建物，27 号溝と重複関係にあり，17 号掘立柱建物，27 号溝より新しいが，３・９・26・31・34 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根は残存せず，珠洲焼片口鉢片のみ出土したが，図化していない。

24 号掘立柱建物（第 36・37 図，図版３）

Cf・Df グリッドに位置する。２間以上×３間の南北棟の梁間三間型建物（３a 類）と考えたが，総柱型建物（宮本 1999）と捉えるべきかもしれない。北側は調査区外へと延びており，南東隅と調査区内北西隅の柱穴を欠いている。３・４・９・10・17・18・25 ～ 36 号掘立柱建物，１号竪穴建物，52 号土坑，19・20・23・28 号溝と重複関係にある。１号竪穴建物，28 号溝より新しく，17・25・29・30・33 号掘立柱建物，52 号土坑，19・20・23 号溝より古いものの，３・４・９・10・18・26 ～ 28・31・32・34 ～ 36 号掘立柱建物との直接的な先後関係については

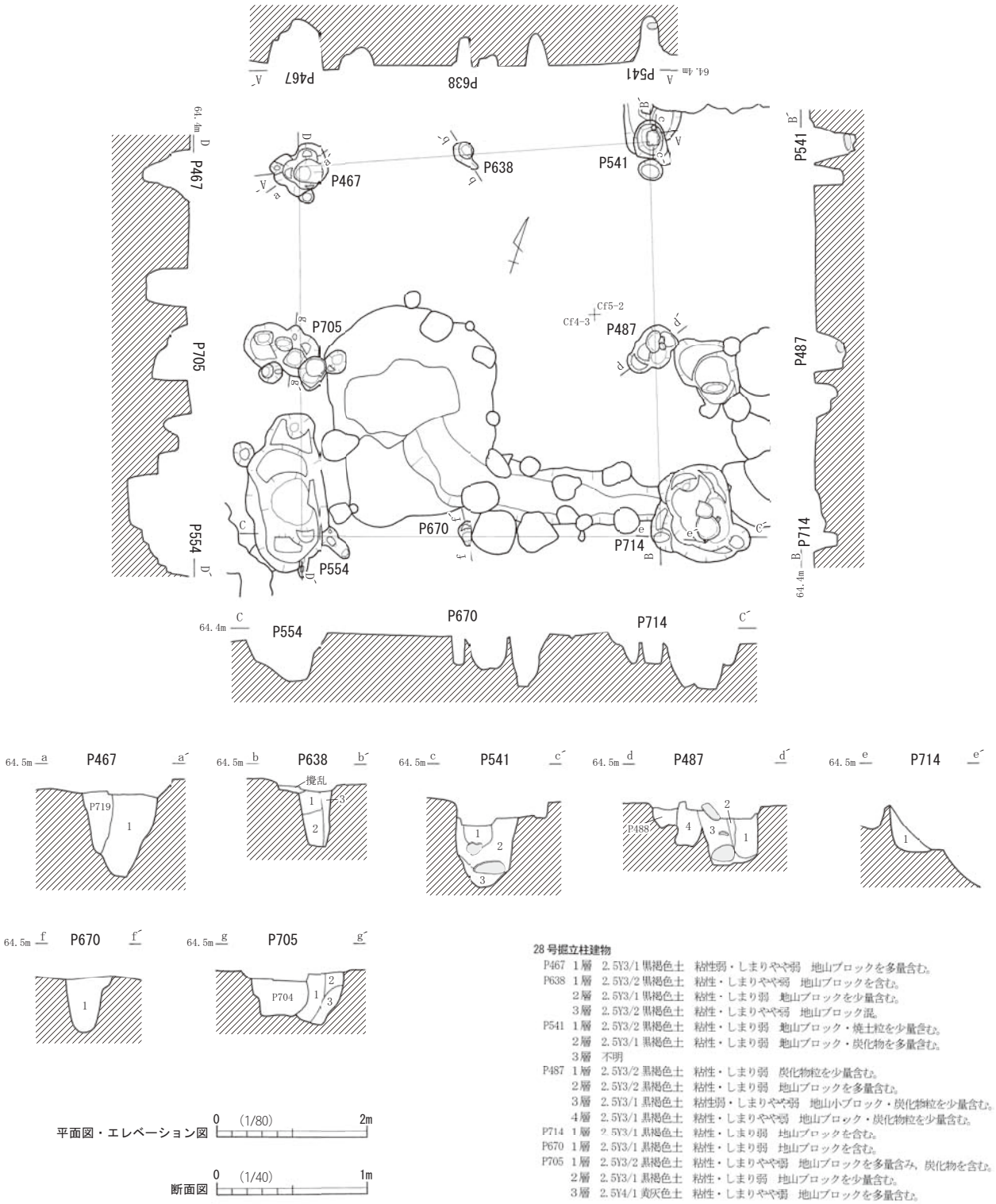


27 号掘立柱建物

P403　1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山小ブロックを多量，炭化物を少量含む。
　　2 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロック混。
　　3 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを含む。
　　4 層　2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土　粘性・しまりやや強　黒褐色土ブロックを少量含む。
　　5 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを少量含む。
P372　1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性弱・しまりやや弱　炭化物粒・地山小ブロックを少量含む。
　　2 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性弱・しまりやや強　地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
P427　1 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを多量含む。
　　2 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロック・炭化物・焼土粒を多量含む。
　　3 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロック・炭化物を含む。
P388　1 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを少量含む。
　　2 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを含む。
　　3 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを少量含む。
　　4 層　不明
P625　1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山小ブロックを少量含む。
　　2 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山小ブロックを少量含む。

平面図・エレベーション図　0 (1/80) 2m
断面図　0 (1/40) 1m

第40図　27 号掘立柱建物



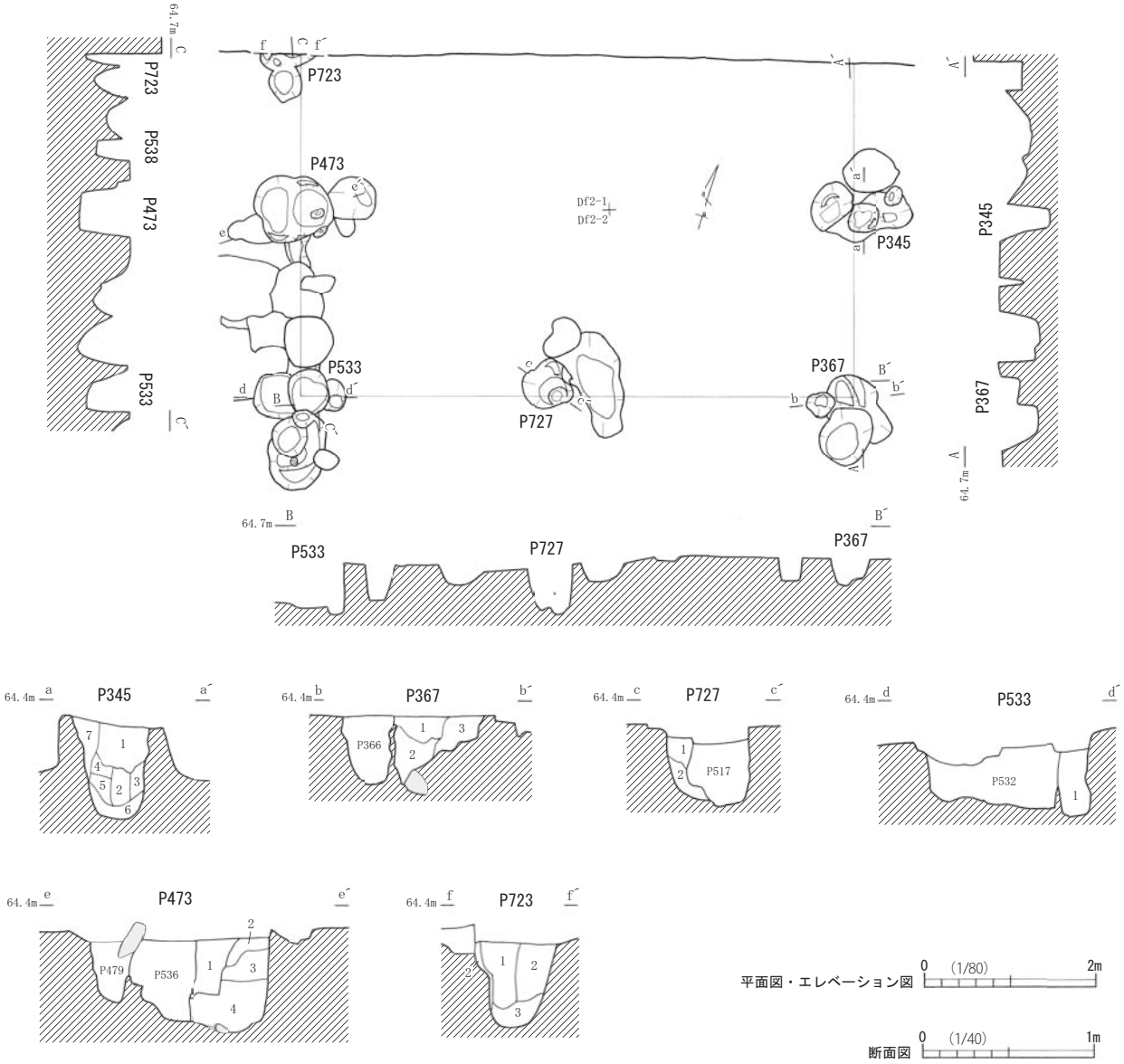
28 号掘立柱建物

P467	1 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性弱・しまりやや弱	地山ブロックを多量含む。
P638	1 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性・しまりやや弱	地山ブロックを含む。
	2 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロックを少量含む。
	3 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性・しまりやや弱	地山ブロック混。
P541	1 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロック・焼土粒を少量含む。
	2 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロック・炭化物を多量含む。
	3 層	不明		
P487	1 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性・しまり弱	炭化物粒を少量含む。
	2 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロックを多量含む。
	3 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性弱・しまりやや弱	地山小ブロック・炭化物粒を少量含む。
	4 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性・しまりやや弱	地山ブロック・炭化物粒を少量含む。
P714	1 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロックを含む。
P670	1 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロックを含む。
P705	1 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性・しまりやや弱	地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
	2 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロックを少量含む。
	3 層	2.5Y4/1 黄灰色土	粘性・しまりやや弱	地山ブロックを多量含む。

第41図　28 号掘立柱建物

不明である。

柱根は P483・534・442・562 のもの（154 ～ 157）が残存する。その他には瀬戸美濃焼平碗の小片がわずかに出土しているが，図化していない。



29 号掘立柱建物

P345 1層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。炭化物を多量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
4層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を含む。
5層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック混。
6層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。
7層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
P367 1層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性弱・しまりやや強 地山ブロック混。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・微細な炭化物粒を含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
P727 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック混。
P533 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
P473 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を多量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を多量含む。
3層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロック混。焼土粒を含む。
4層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 オリーブ褐色粗砂を含む。
P723 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを含む。
3層 2.5Y7/3 浅黄色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色土ブロックを少量含む。

第42図 29 号掘立柱建物

25 号掘立柱建物（第 38・39 図，図版４）

Cf・Cg・Df グリッドに位置する。３間×２間の南北棟の梁間二間型建物（２a 類）としたが，梁間の間隔が左右で長さが倍程違うことから，東側の平に庇を持つ梁間一間型建物（１類）の可能性も考えられる。３・９・12・16・17・21・22・24・28・29・31・32・35 号掘立柱建物，28・29 号溝と重複関係にある。17・24・29・31 号掘立柱建物，28 号溝より新しく，９・12 号掘立柱建物，29 号溝より古いが，３・16・21・22・28・32・35 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根はP388・496・512で（158～160）残存し，P532から肥前系陶器鉢片（17）が出土している。

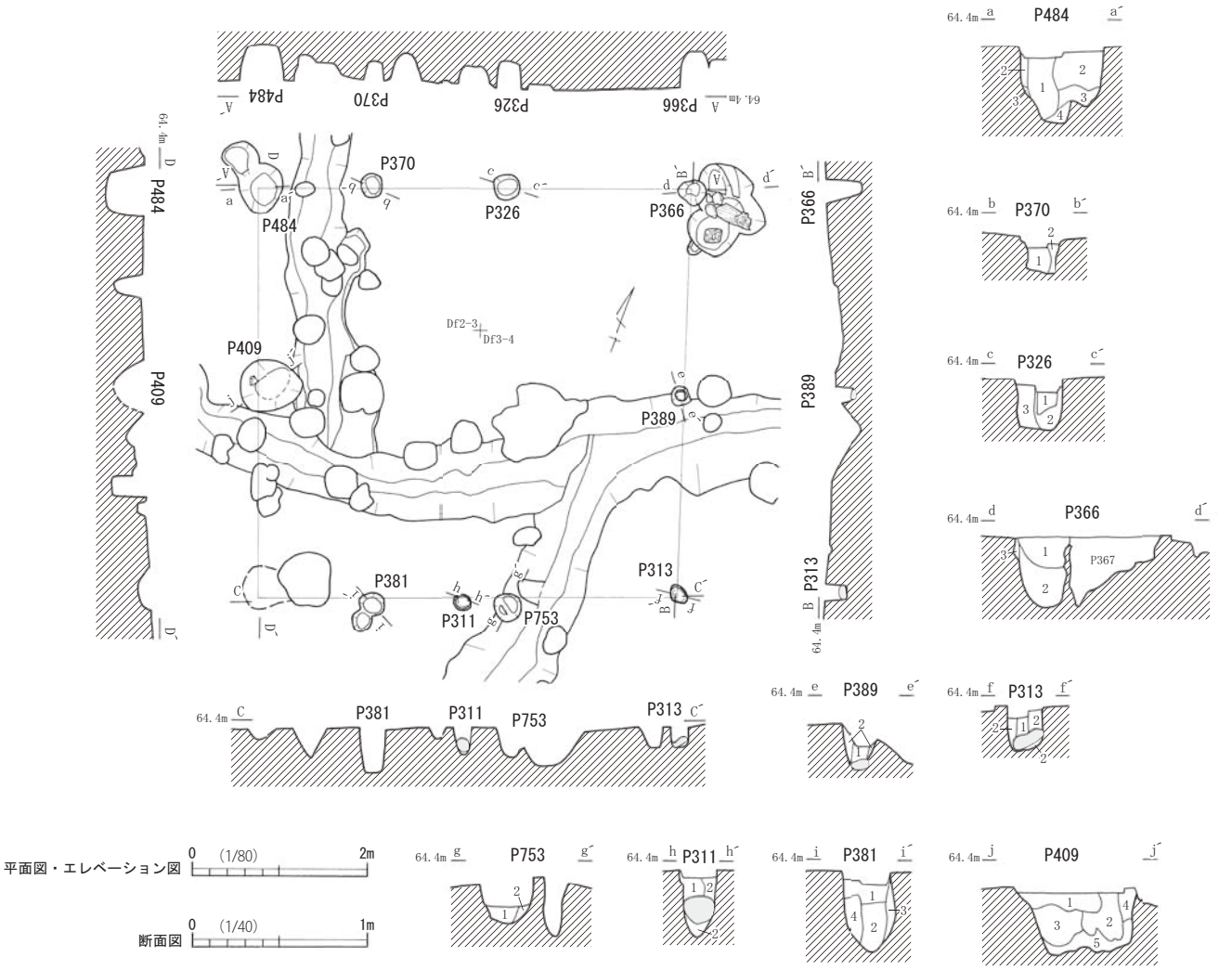
26号掘立柱建物（第39図，図版４）

Ce・Cfグリッドに位置する。１間以上×１間の南北棟の梁間一間型建物（１類）で，南側の妻に庇を持つ。３・９・17・23・24・28・31・34号掘立柱建物と重複関係にあるが，それらとの先後関係は不明である。

柱根はP454のもの（161）のみ残存し，他に遺物は出土していない。

27号掘立柱建物（第40図）

Dfグリッドに位置する，２間×２間の南北棟の梁間二間型建物（２a類）である。北東隅の柱穴は，調査区外に



30号掘立柱建物

P484 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山小ブロックを含む。
2層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロック混。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
4層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロックを少量含む。
P370 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
P326 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物・地山ブロックを多量含む。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を多量含む。
P366 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 微細な炭化物粒を多量含み，地山ブロックを含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
P389 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
2層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性・しまりやや強 地山ブロックを含む。
P313 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
P753 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含み，炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
P311 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
P381 1層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性・しまりやや強 地山ブロック・炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
4層 5Y5/2 灰オリーブ色シルト 粘性・しまり弱 黄灰色土ブロックを多量含む。
P409 1層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。炭化物・焼土粒を含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
4層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
5層 2.5Y8/4 浅黄色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色土ブロックを少量含む。

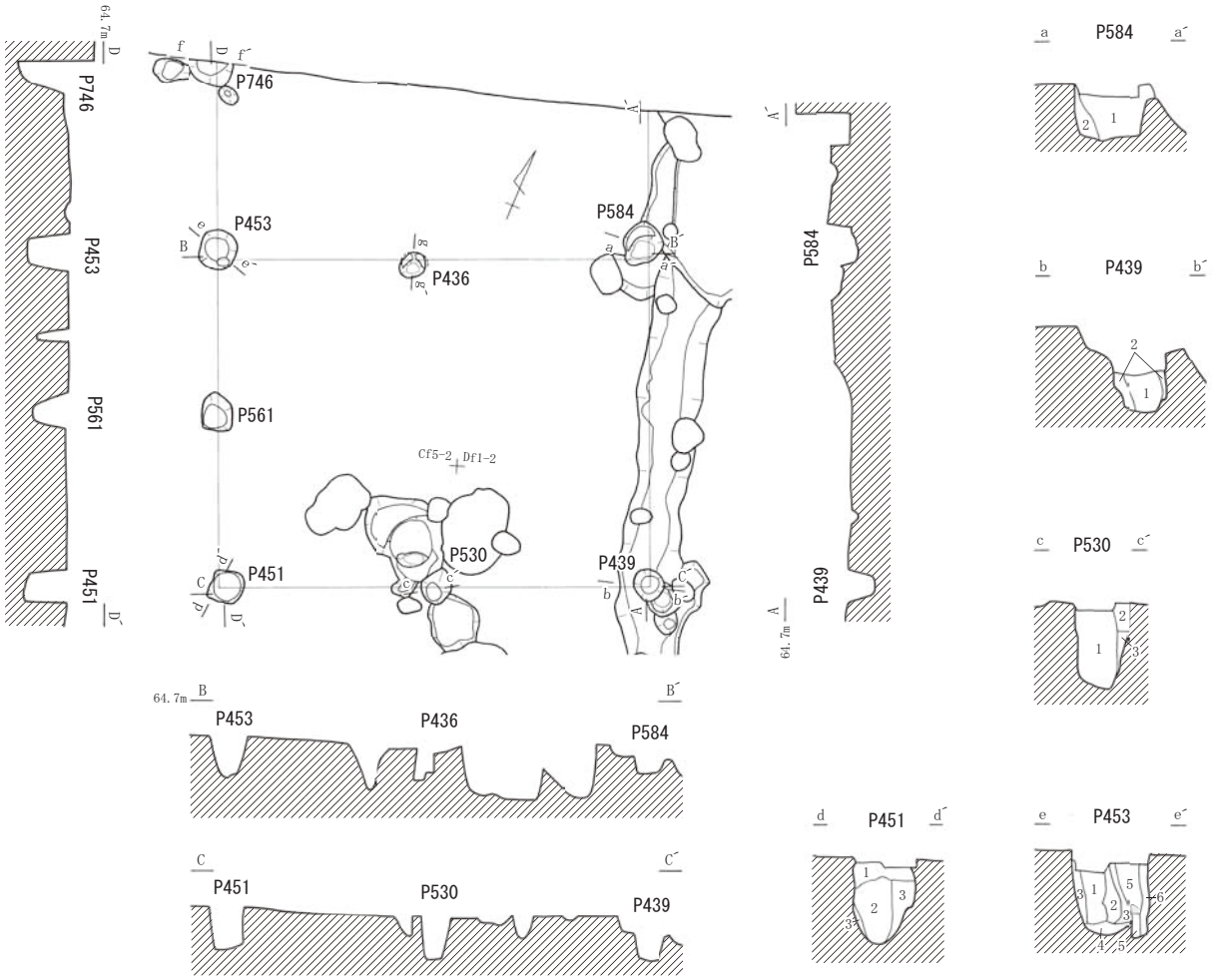
第43図 30号掘立柱建物

あると思われる。３・４・10・18・24・29・30・32・33・36 号掘立柱建物，１号竪穴建物，46・47 号土坑，19・20・22 号溝と重複関係にある。３号掘立柱建物，47 号土坑，20 号溝より新しく，46 号土坑，19・22 号溝より古いが，４・10・18・24・29・30・32・33・36 号掘立柱建物，１号竪穴建物との先後関係は不明である。

柱根は，P625（162）のみ残存する。また，P427 から焼成粘土塊（97）が出土している。

28 号掘立柱建物（第 41 図）

Cf グリッドに位置する，２間×２間の正方形に近い梁間二間型建物（２a 類）である。３・９・17・22・24 ～



31 号掘立柱建物

P584 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P439 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を含む。
P530 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物・地山ブロックを少量含む。
2 層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロック混。
3 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。
P451 1 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物を含み，地山ブロックを少量含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。
3 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
P453 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを少量含む。
3 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
4 層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性・しまりやや強 地山ブロック混，炭化物を少量含む。
5 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・炭化物を少量含む。
6 層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。

P746 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物・地山ブロックを少量含む。
2 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を含む。
3 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
4 層 2.5Y7/3 浅黄色粘質シルト 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロックを少量含む。
P436 1 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを多量含む。
2 層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロックを少量含む。
3 層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。

第44図 31 号掘立柱建物

26・31・32・34・35 号掘立柱建物，20・26 号溝と重複関係する。34 号掘立柱建物より新しく，３・９号掘立柱建物，20・26 号溝より古いが，17・22・24 ～ 26・31・32・35 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根は残存せず，遺物は P467 から瀬戸美濃焼の平碗片（18）が出土しているのみである。

29 号掘立柱建物（第 42 図）

Cf・Df グリッドに位置する，２間以上×２間の南北棟の梁間二間型建物（２a 類）である。北側が調査区外へ延びているため，建物の全容は明らかではない。３・４・10・17・18・24・25・27・30・31・33・36 号掘立柱建物，28 号溝と重複関係にある。10・17・24・30・36 号掘立柱建物，28 号溝より新しく，18・25 号掘立柱建物より古いが，３・４・27・31・33 号掘立柱建物との先後関係は不明である。

柱根は残存せず，P473 から肥前系陶器擂鉢片（16）が出土したほか，肥前系陶器皿の小片も出土した。

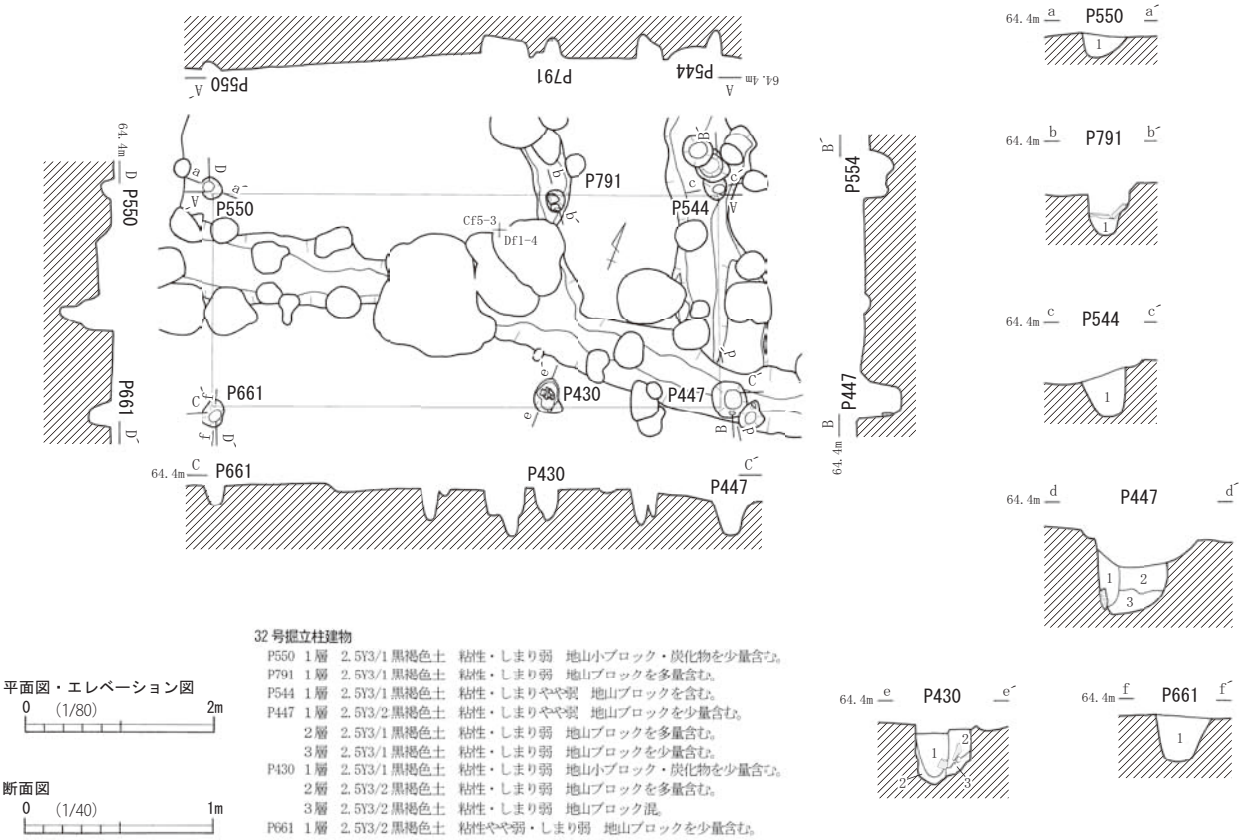
30 号掘立柱建物（第 43 図）

Df グリッドに位置する，３間×２間のほぼ正方形の梁間二間型建物（２a 類）である。南西隅の柱穴は，攪乱により検出されていない。３・４・10・13・18・24・27・29・31 ～ 33・35・36 号掘立柱建物，10・20・22 号溝と重複関係にある。24 号掘立柱建物，10 号溝より新しく，10・29 号掘立柱建物，20・22 号溝より古いが，３・４・13・18・27・31 ～ 33・35・36 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

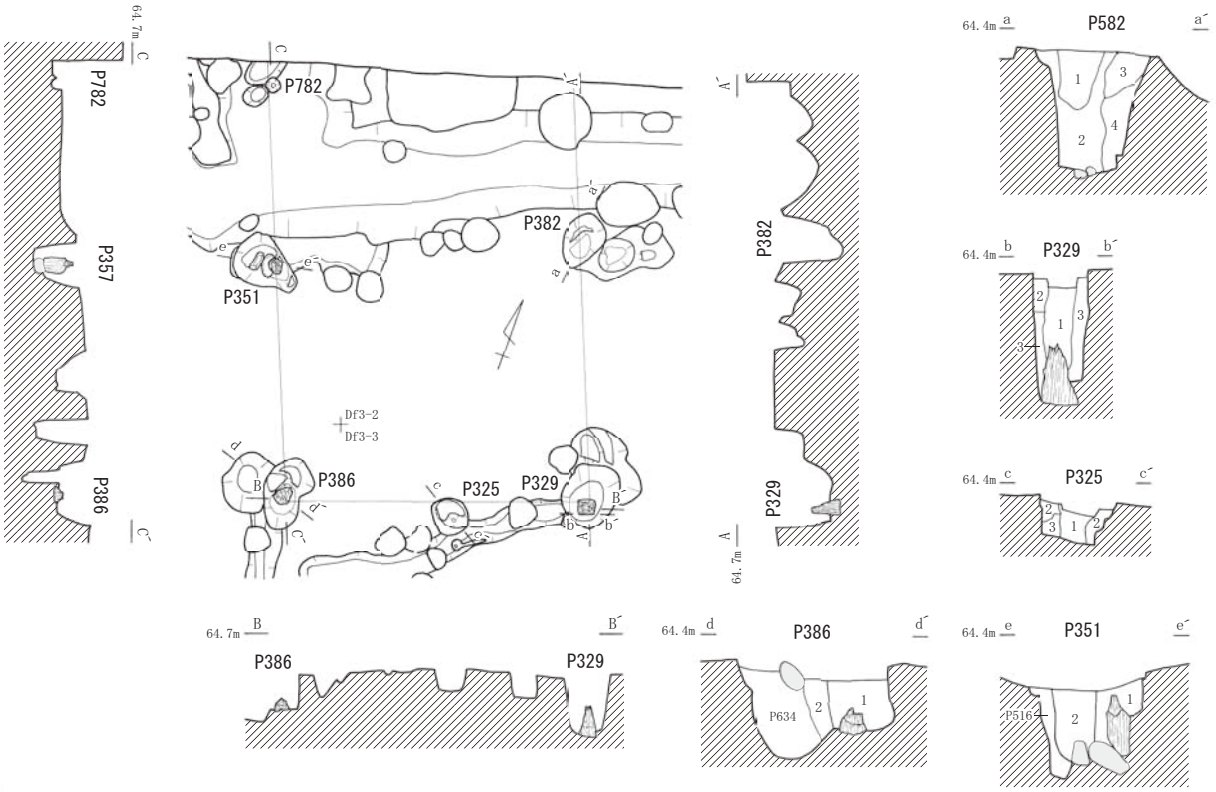
柱根は，P409（163）のみ残存しており，他の遺物は出土していない。

31 号掘立柱建物（第 44 図）

Cf・Df グリッドに位置する，３間以上×２間の南北棟の梁間二間型建物（２a 類）である。P436 は，間仕切りの柱の穴であろうか。北側が調査区外へ延びているため，建物の全容は明らかではない。３・９・10・17・18・23



第45図　32 号掘立柱建物



33 号掘立柱建物

P382 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。
3層 2.5Y8/4 浅黄色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色土ブロック混。
4層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
P329 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性やや弱・しまり弱 炭化物を含む。
P325 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
2層 2.5Y8/4 浅黄色シルト 粘性・しまり弱 黒褐色土ブロックを含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。

平面図・エレベーション図 0 (1/80) 2m

断面図 0 (1/40) 1m

P386 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物粒を含む。
P351 1層 2.5Y4/1 黄灰色混砂土 粘性・しまり弱 微細な炭化物を含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック，炭化物を少量含む。

第46図 33 号掘立柱建物

～ 26・28 ～ 30・32・34・35 号掘立柱建物，47 号土坑，22 号溝と重複関係にある。25 号掘立柱建物，47 号土坑，22 号溝より古いが，３・９・10・17・18・23・24・26・28 ～ 30・32・34・35 号掘立柱建物との先後関係は不明である。柱根は残存せず，他の遺物も出土していない。

32 号掘立柱建物（第 45 図）

Cf・Df グリッドに位置する，２間×１間の東西棟の梁間一間型建物（１類）である。桁側の柱間が，概ね１：２の間隔であることから，間仕切りがある，もしくは東側の妻に庇を持つ１間×１間の建物の可能性も考えられる。３・９・10・17・18・24・25・27・28・30・31・35 号掘立柱建物，20・22・23 号溝と重複関係にある。22・23 号溝より古いが，３・９・10・17・18・24・25・27・28・30・31・35 号掘立柱建物，20 号溝との直接的な先後関係は不明である。

柱根は，P447（164）のみ残存し，他の遺物は出土していない。

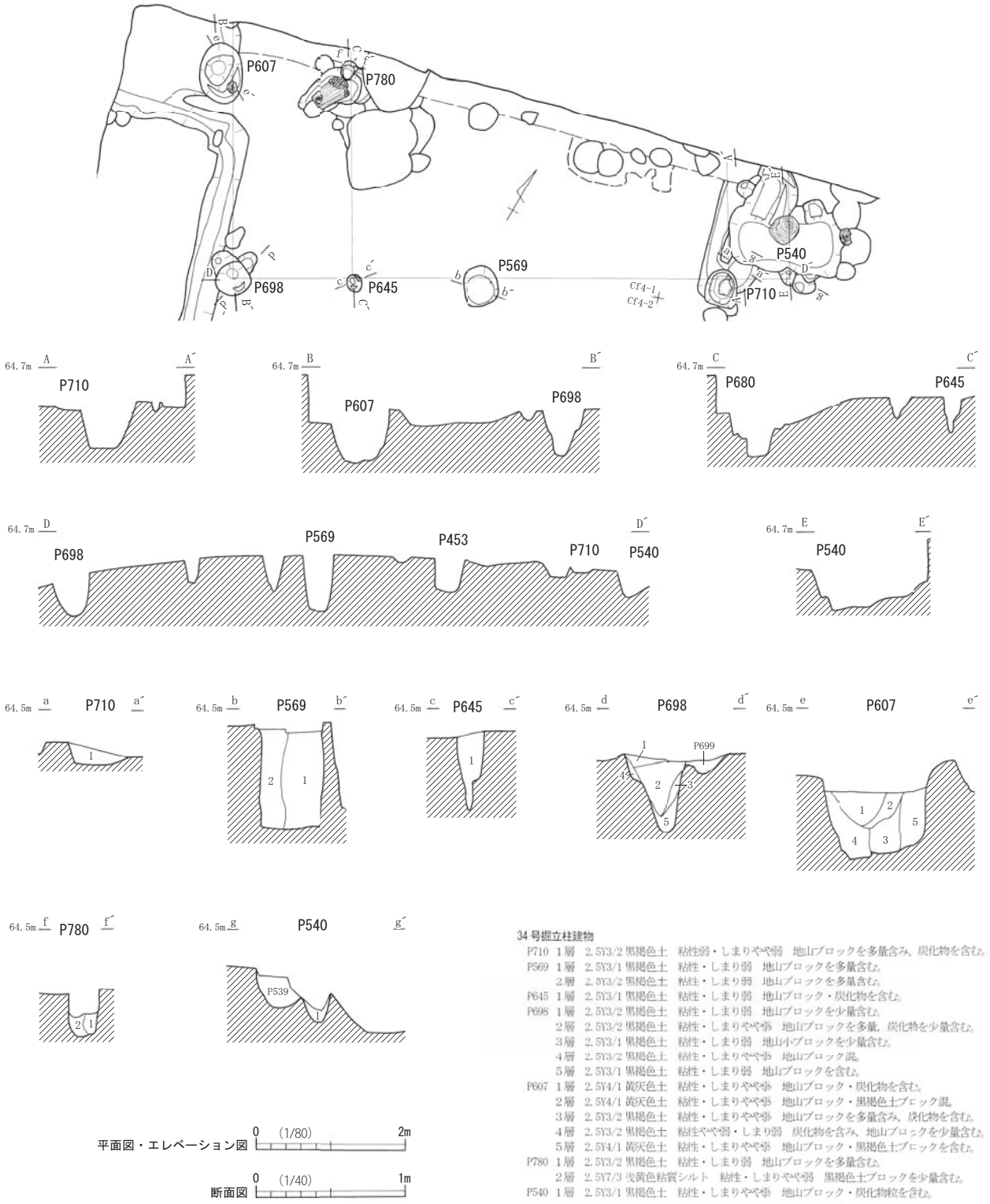
33 号掘立柱建物（第 46 図，図版３・４）

Df グリッドに位置する，２間以上×２間の梁間二間型建物（２a 類）で，３・４・10・18・24・27・29・30・36 号掘立柱建物，47･48 号土坑，18･23 号溝と重複する。24 号掘立柱建物，48 号土坑，18 号溝より新しく，23 号溝，47 号土坑より古いが，３・４・10・18・27・29・30・36 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根は，P329・386・351（165 ～ 167）が残存している。その他に，P351 から肥前系陶器皿片（19）や同陶器片がわずかに出土している。

34 号掘立柱建物（第 47 図）

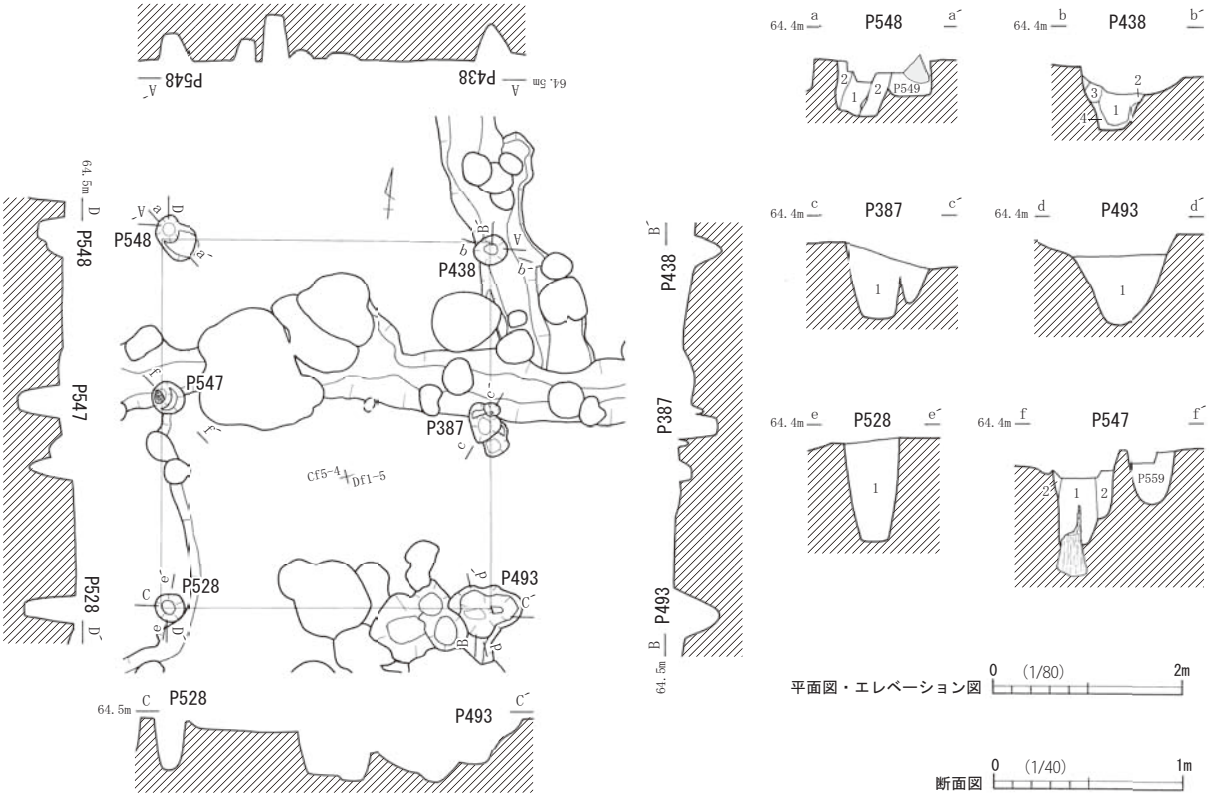
Ce･Cf･Df グリッドに位置する。１間以上×２間の，東側の平に庇または下屋を持つ南北棟の梁間二間型建物（２



34 号掘立柱建物

P710	1 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性弱・しまりやや弱	地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
P569	1 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロックを多量含む。
	2 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロックを多量含む。
P645	1 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロック・炭化物を含む。
P698	1 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロックを少量含む。
	2 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性・しまりやや弱	地山ブロックを多量，炭化物を少量含む。
	3 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山小ブロックを少量含む。
	4 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性・しまりやや弱	地山ブロック混。
	5 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロックを含む。
P607	1 層	2.5Y4/1 黄灰色土	粘性・しまりやや弱	地山ブロック・炭化物を含む。
	2 層	2.5Y4/1 黄灰色土	粘性・しまりやや弱	地山ブロック・黒褐色土ブロック混。
	3 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性・しまりやや弱	地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
	4 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性やや弱・しまり弱	炭化物を含み，地山ブロックを少量含む。
	5 層	2.5Y4/1 黄灰色土	粘性・しまりやや弱	地山ブロック・黒褐色土ブロックを含む。
P780	1 層	2.5Y3/2 黒褐色土	粘性・しまり弱	地山ブロックを多量含む。
	2 層	2.5Y7/3 浅黄色粘質シルト	粘性・しまりやや弱	黒褐色土ブロックを少量含む。
P540	1 層	2.5Y3/1 黒褐色土	粘性・しまりやや弱	地山ブロック・炭化物粒を含む。

第47図　34 号掘立柱建物



35 号掘立柱建物

P548 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
P438 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを含む。
3層 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土 粘性・しまりやや強 黒褐色土ブロックを含む。
4層 2.5Y2/1 黒色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを少量含む。

P387 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
P493 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
P528 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを多量含む。
P547 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロック・炭化物を多量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを多量含む。

第48図 35 号掘立柱建物

b 類）と考えたが，北側が調査区外へと延びており全容が不明なため，他の型の建物である可能性も否定できない。P645 は，間柱の可能性が考えられる。３・９・17・23・24・26・28・31 号掘立柱建物，49 号土坑，26・31 号溝と重複関係にある。３・17・28 号掘立柱建物，49 号土坑，26・31 号溝より古いが，９・23・24・26・31 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず，他の遺物も出土していない

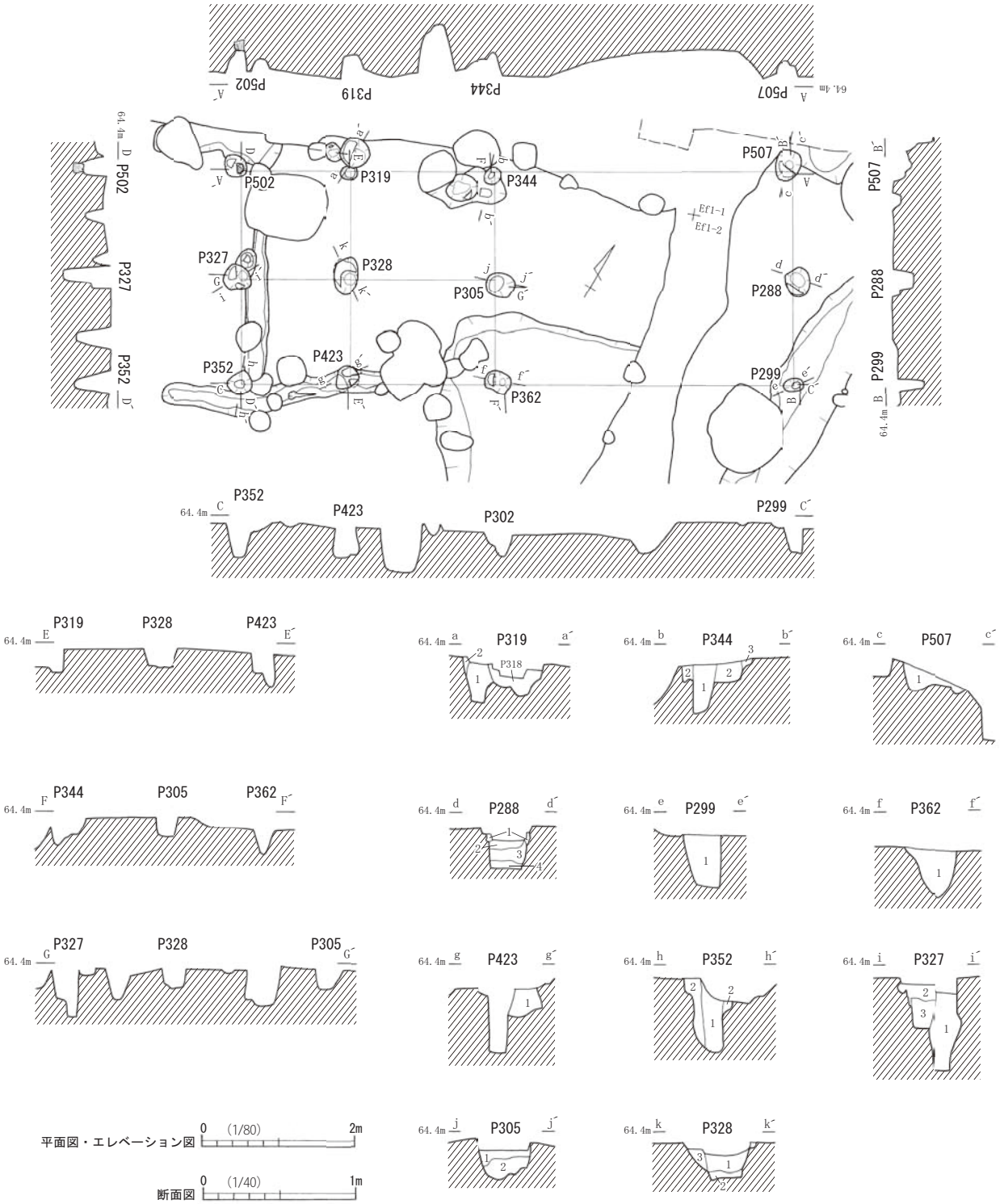
35 号掘立柱建物（第 48 図）

Cf・Df グリッドに位置する，２間×１間の南北棟の梁間一間型建物（１類）である。３・９・10・17・21・24・25・28・30 ～ 32 号掘立柱建物，20・22・29 号溝と重複関係にある。21 号掘立柱建物，20・22・29 号溝より古いが，３・９・10・17・24・25・28・30 ～ 32 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。

柱根は P547 で残存していたが，遺存状態が悪く，図示し得なかった。その他の遺物は，P438 から碁石（107）が１点出土しているのみである。

36 号掘立柱建物（第 49 図）

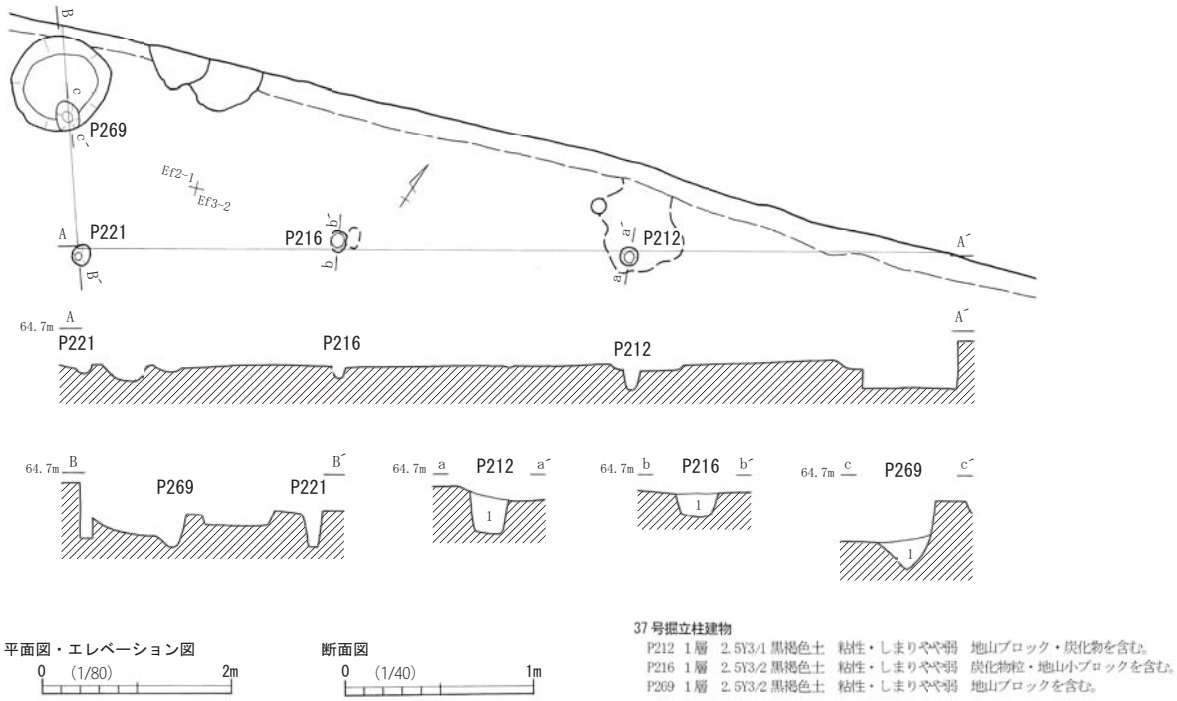
Df・Ef グリッドに位置する。４間×２間と考えられる東西棟の梁間二間型建物（２a 類）であるが，南北の桁側の柱穴２基が，19・20 号溝と重複しており検出できていない。P328 は，間仕切りの柱の穴であろうか。３・４・10・18・24・27・29・30・33 号掘立柱建物，１号竪穴建物，45・48 号土坑，16 ～ 18 号溝と重複関係にある。10



36 号掘立柱建物

P319 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや強 炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック混。
P344 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック混。炭化物を含む。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
P507 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
P288 1層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性強・しまり極強 地山ブロック混。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱
4層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性やや弱・しまり弱
P299 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山シルトブロックを少量含む。
P362 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山小ブロック・炭化物を少量含む。
P423 1層 2.5Y4/1 黄灰色土 粘性・しまり弱 地山ブロック混。
P352 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 黄灰色土ブロック・地山ブロックを少量含む。
2層 2.5Y8/4 浅黄色シルト 粘性・しまり弱 黄灰色土ブロックを多量含む。
P327 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 炭化物粒を少量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含む。
3層 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 粘性強・しまりやや強 地山ブロック・黒褐色土ブロック混。
P305 1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロック混。
P328 1層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまり弱 微細な炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性弱・しまりやや弱 地山小ブロックを少量含む。
3層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 微細な炭化物を少量含む。

第49図 36 号掘立柱建物



第50図 37 号掘立柱建物

号掘立柱建物，48 号土坑，18 号溝より新しく，29 号掘立柱建物，45 号土坑，16・17 号溝より古いが，３・４・18・24・27・30・33 号掘立柱建物，１号竪穴建物との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず，他の遺物も出土していない。

37 号掘立柱建物（第 50 図）

Ef グリッドに位置する。調査区北壁近くでＬ字状の柱穴の並びが検出されたため掘立柱建物としたが，詳細は不明であり，柵列の可能性もある。33 号土坑より古いほかは，重複関係にある遺構はない。柱根は残存せず，他の遺物も出土していない。

１号竪穴建物（第 51 図，図版４）

Df グリッドに位置する，3.23 m × 3.09 mの正方形に近い形状の竪穴建物である。検出面からの深さは 60 ㎝程で，底面からは東西方向に２列３基ずつの柱穴を検出した。３・４・10・24・27・36 号掘立柱建物，20 号溝と重複関係にある。３・24 号掘立柱建物より古いが，４・10・27・36 号掘立柱建物，20 号溝との直接的な先後関係は不明である。

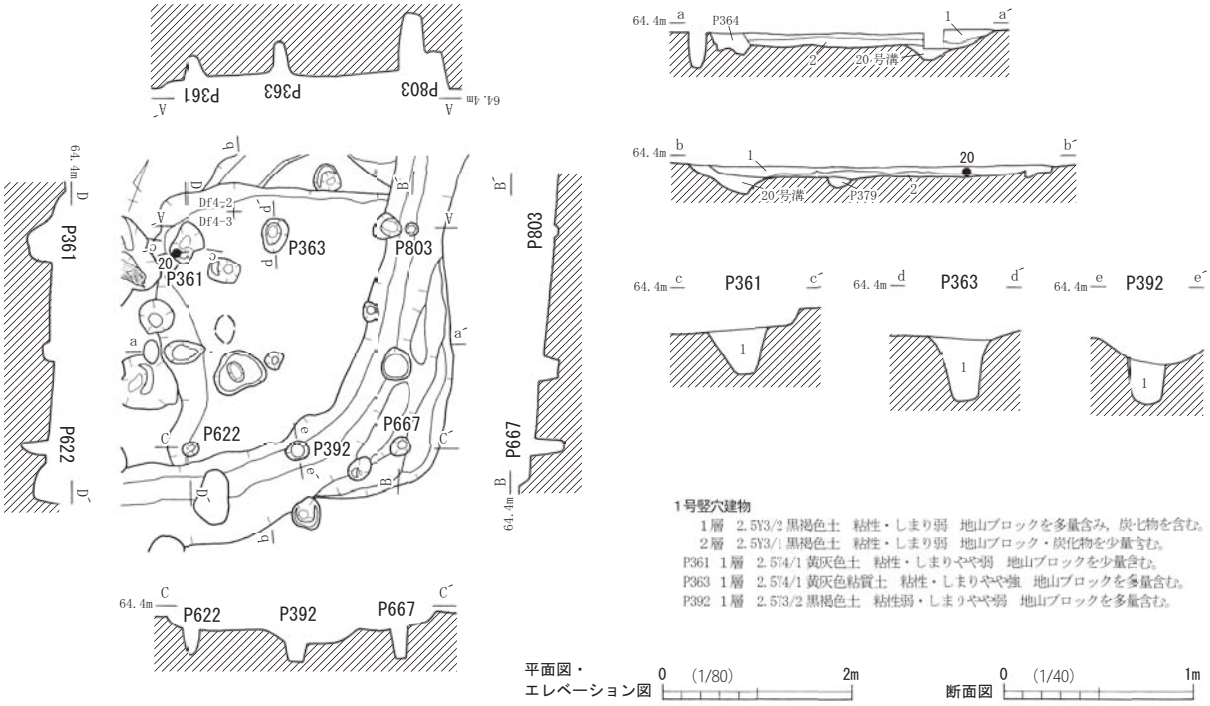
柱根は残存しないが，龍泉窯系の青磁碗片（20）のほか，中世土師器皿片・珠洲焼片口鉢片・越前焼壺または甕片が出土している。

１・２号柵列（第 52 図，図版２）

１号柵列は Bd グリッド，２号柵列は Bd・Be グリッドに位置する。１号柵列は３間分の長さ 5.41 m，２号柵列は２間分の長さ 4.30 m規模である。両者とも柵列としたが，調査区壁際で検出されたことから，調査区外へ延びる掘立柱建物の可能性もある。両者は重複関係にあり，１号柵列が古く，２号柵列が新しい。共に柱根は残存せず，他の遺物も出土していない。

３号柵列（第 52 図）

Cg・Dg グリッドに位置する。規模は，３間分で長さ 8.44 mである。11・12・16 号掘立柱建物，23 号土坑，９・



第51図　1号竪穴建物

10号溝と重複関係にある。10号溝より新しく，23号土坑，9号溝より古いが，11・12・16号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。柱根は残存せず，他の遺物も出土していない。

1号井戸（第53図，図版4）

Bgグリッドに位置する。整理作業の過程で大型土坑の可能性も検討したが，今回の調査で検出した大型土坑（40・50号土坑）と異なり，①湧水が顕著，②底面が擂鉢状に近くやや狭くなる，③人頭大以下の礫が投棄されていない，といった相違点から井戸と判断した。井戸の構築材が出土していないため，素掘りの井戸と考えられる。P47と重複し，本遺構が新しい。埋土中から，珠洲焼片口鉢片や砥石（102）が出土している。

2号井戸（第53図，図版5）

Dgグリッドに位置する。断面形状は，上半部が外に開き，下半部はやや狭まり，壁が垂直気味に立つ。湧水が顕著で，断面の記録作成前にその影響で土層観察のため掘り残した部分が崩落，一部記録を欠いている。1号井戸同様，構築材は検出されず，素掘りの井戸の可能性がある。越前焼擂鉢片（21・22）や砥石（103）が出土した。

3号井戸（第53図，図版4）

Bhグリッドに位置する。遺構面が後世の大規模な削平を受けている調査区南西部にあって，堀以外で唯一検出した遺構である。埋土中からは，小児頭骨大以下の大きさの礫が，多量に投棄された状態で検出された。埋土の堆積状態などからは，これらの礫が当遺構に直接関係するものか否か判断はできないが，石組の井戸であった可能性も否定できない。埋土中から，瀬戸美濃焼天目茶碗片（23）1点が出土している。

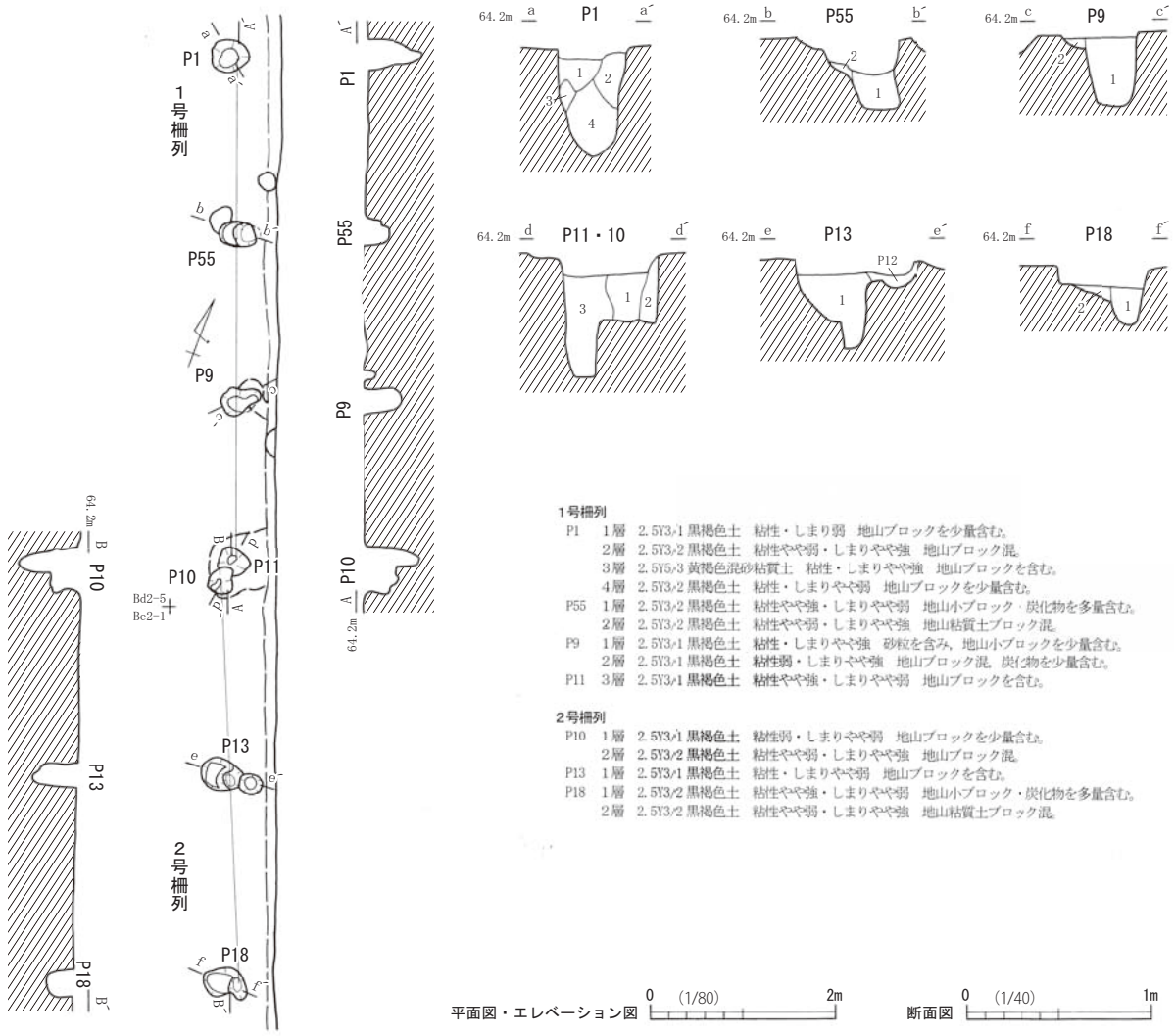
1号土坑（第54図）

Bc・Bdグリッドに位置する。不整形な平面形で，断面は弧状である。遺物は出土していない。

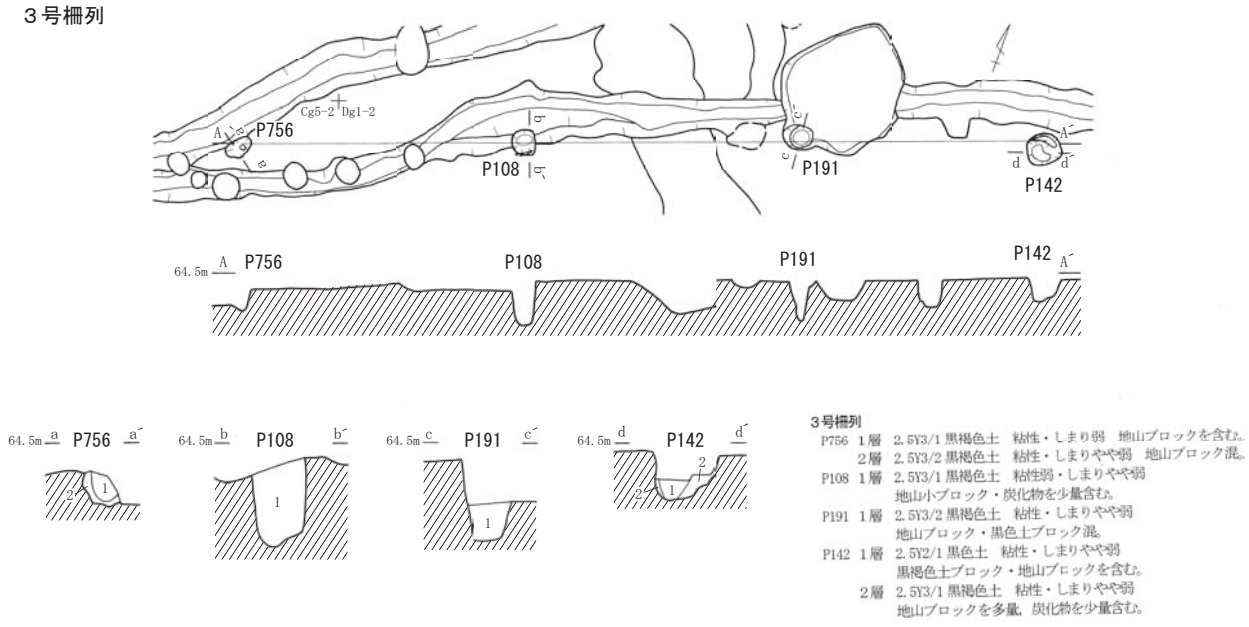
2号土坑（第54図）

Bdグリッドに位置する。平面形は方形で，断面は弧状である。遺物は出土していない。

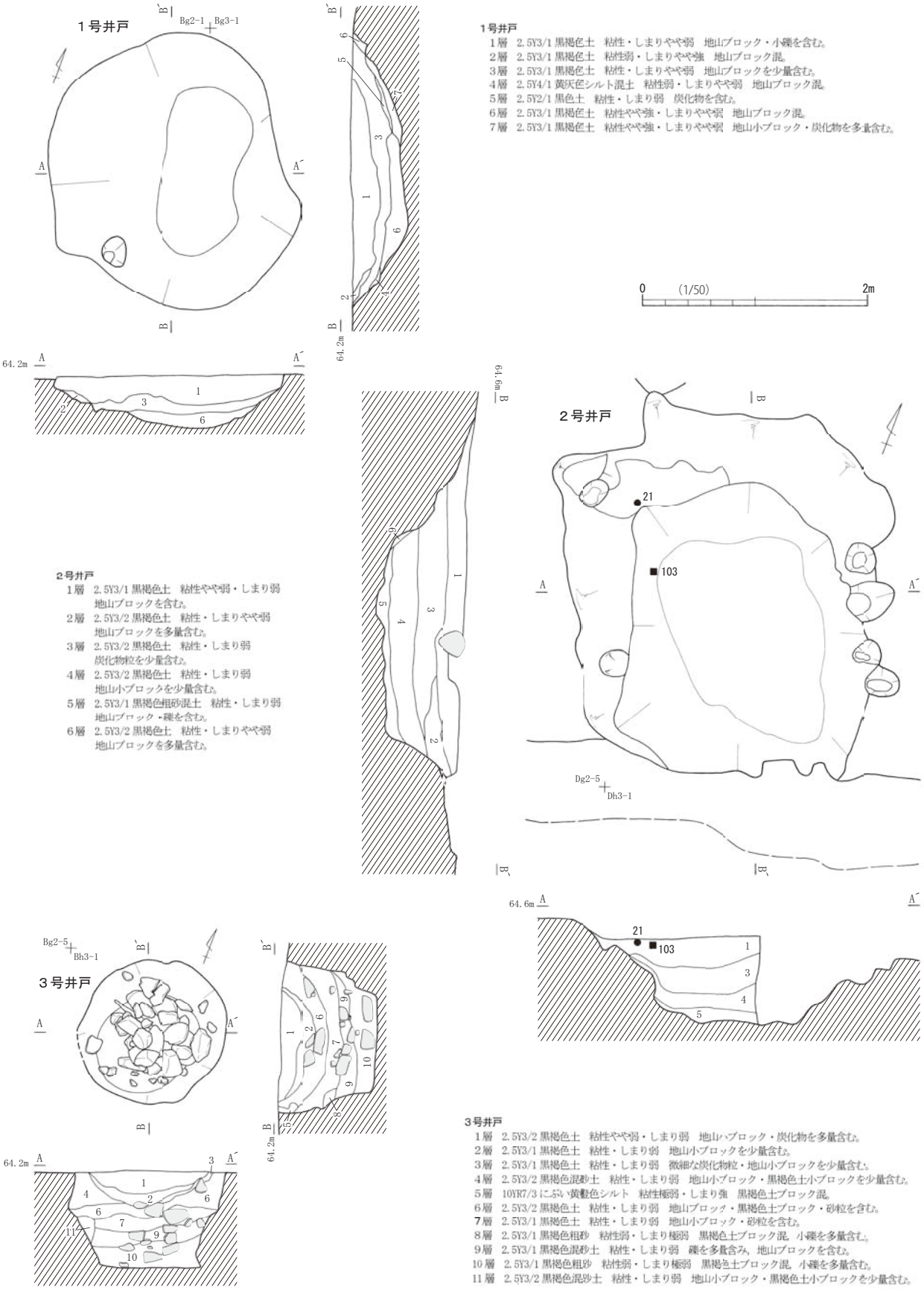
１・２号柵列



３号柵列



第52図　１～３号柵列


1号井戸
Bg2-1
Bg3-1
64.2m
1号井戸
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロック・小礫を含む。
2層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性弱・しまりやや強　地山ブロック混。
3層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロックを少量含む。
4層　2.5Y4/1 黄灰色シルト混土　粘性弱・しまりやや弱　地山ブロック混。
5層　2.5Y2/1 黒色土　粘性・しまり弱　炭化物を含む。
6層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや強・しまりやや弱　地山ブロック混。
7層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや強・しまりやや弱　地山小ブロック・炭化物を多量含む。
0　(1/50)　2m
64.6m
2号井戸
21
103
Dg2-5
Dh3-1
2号井戸
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや弱・しまり弱
地山ブロックを含む。
2層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱
地山ブロックを多量含む。
3層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱
炭化物粒を少量含む。
4層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱
地山小ブロックを少量含む。
5層　2.5Y3/1 黒褐色粗砂混土　粘性・しまり弱
地山ブロック・礫を含む。
6層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱
地山ブロックを多量含む。
Bg2-5
Bh3-1
3号井戸
3号井戸
1層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性やや弱・しまり弱　地山ハブロック・炭化物を多量含む。
2層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山小ブロックを少量含む。
3層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　微細な炭化物粒・地山小ブロックを少量含む。
4層　2.5Y3/2 黒褐色混砂土　粘性・しまり弱　地山小ブロック・黒褐色土小ブロックを少量含む。
5層　10YR7/3 にぶい黄橙色シルト　粘性極弱・しまり強　黒褐色土ブロック混。
6層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロッグ・黒褐色土ブロック・砂粒を含む。
7層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山小ブロック・砂粒を含む。
8層　2.5Y3/1 黒褐色粗砂　粘性弱・しまり極弱　黒褐色土ブロック混，小礫を多量含む。
9層　2.5Y3/1 黒褐色混砂土　粘性・しまり弱　礫を多量含み，地山ブロックを含む。
10層　2.5Y3/1 黒褐色粗砂　粘性弱・しまり極弱　黒褐色土ブロック混，小礫を多量含む。
11層　2.5Y3/2 黒褐色混砂土　粘性・しまり弱　地山小ブロック・黒褐色土小ブロックを少量含む。

第53図　1～3号井戸

３・４号土坑（第 54 図）

両者は重複関係にあり，ともに Bd グリッドに位置する。いずれも平面形は円形で，断面は台形状である。４号土坑が古く，３号土坑が新しい。４号土坑から，肥前系磁器小皿片（24）が出土している。

５号土坑（第 54 図）

Bd グリッドに位置する。東側が調査区外へと延びており，全容は不明である。遺物は出土していない。

６号土坑（第 54 図）

Be グリッドに位置する。平面形は不整形で，断面は浅い弧状である。遺物は出土していない。

７号土坑（第 54 図）

Be グリッドに位置する。東側が調査区外へと延びているため，全容は不明である。遺物は出土していない。

８・13 号土坑（第 54 図）

両者は重複関係にあり，８号土坑は Be グリッド，13 号土坑は Bd・Be グリッドに位置する。13 号土坑が古く，８号土坑が新しい。ともに，遺物は出土していない。

９・10 号土坑（第 54 図）

両者は重複関係にあり，ともに Bf グリッドに位置する。10 号土坑が古く，９号土坑が新しい。９号土坑から，下駄（126）と折敷の板片（127）が出土している。

11 号土坑（第 55 図）

Bf グリッドに位置する。平面形は楕円形で，断面は弧状である。遺物は出土していない。

12 号土坑（第 55 図）

Bf・Bg グリッドに位置する。平面形はやや不整形な円形で，断面は弧状である。１号掘立柱建物（P44・45），P46・794，８号溝と重複する。１号掘立柱建物，P46・794 より新しく，８号溝より古い。遺物は出土していない。

14 号土坑（第 55 図）

Cg グリッドに位置する。平面形は楕円形で，断面は台形状である。遺物は出土していない。

15 号土坑（第 55 図）

Cg グリッドに位置する。２号掘立柱建物 P83 と重複し，本遺構が新しい。遺物は出土していない。

16 号土坑（第 55 図）

Cg グリッドに位置する。平面形は長方形，断面は台形状と考えられるが，８号掘立柱建物の P48 と重複関係にあるため正確な形状は不明である。先後関係は，８号掘立柱建物が本遺構より新しい。遺物は出土していない。

17・57 号土坑（第 55 図）

両者は重複関係にあり，ともに Cg グリッドに位置する。２号掘立柱建物 P49 とも両者は重複関係にあり，57 号土坑→ 17 号土坑→２号掘立柱建物の順に掘削される。いずれの遺構からも，遺物は出土していない。

18 号土坑（第 55 図）

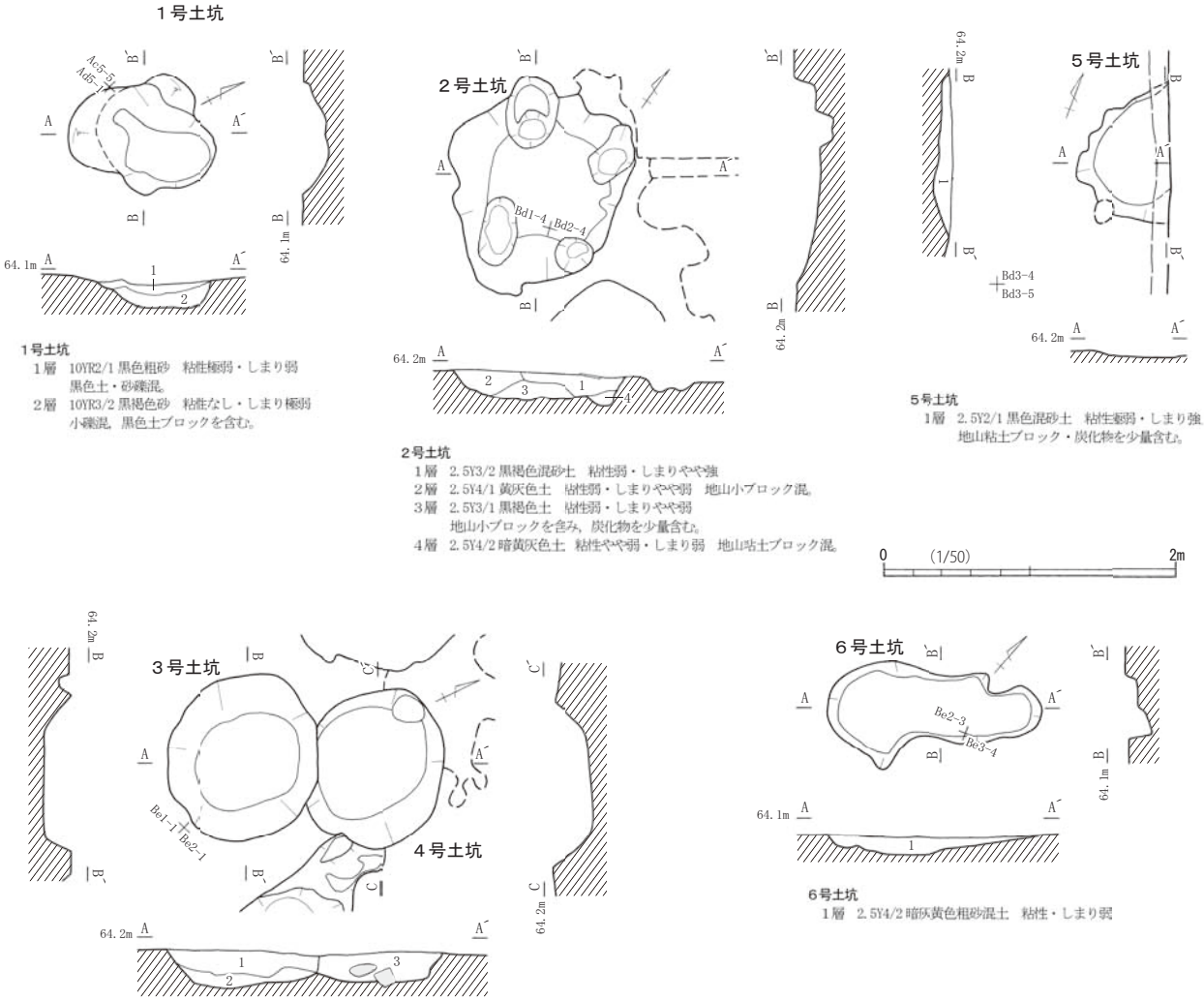
Cg・Dg グリッドに位置する。平面形はやや不整な円形，断面は台形状である。２号掘立柱建物 P114・８号掘立柱建物 P769・11 号掘立柱建物 P101・16 号掘立柱建物 P770，P146 と重複し，２号掘立柱建物・11 号掘立柱建物より新しく，P146 より古いが，８・16 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。遺物は出土していない。

19 号土坑（第 56 図）

Cg グリッドに位置する。P51 と重複関係にあり，本遺構が P51 より古い。遺物は出土していない。

20 号土坑（第 56 図，図版５）

Cg グリッドに位置する。平面形は円形で，断面は箱状である。はじめに西半部を半裁した時点で，気づかずに



1号土坑
1層　10YR2/1 黒色粗砂　粘性極弱・しまり弱
黒色土・砂礫混。
2層　10YR3/2 黒褐色砂　粘性なし・しまり極弱
小礫混，黒色土ブロックを含む。

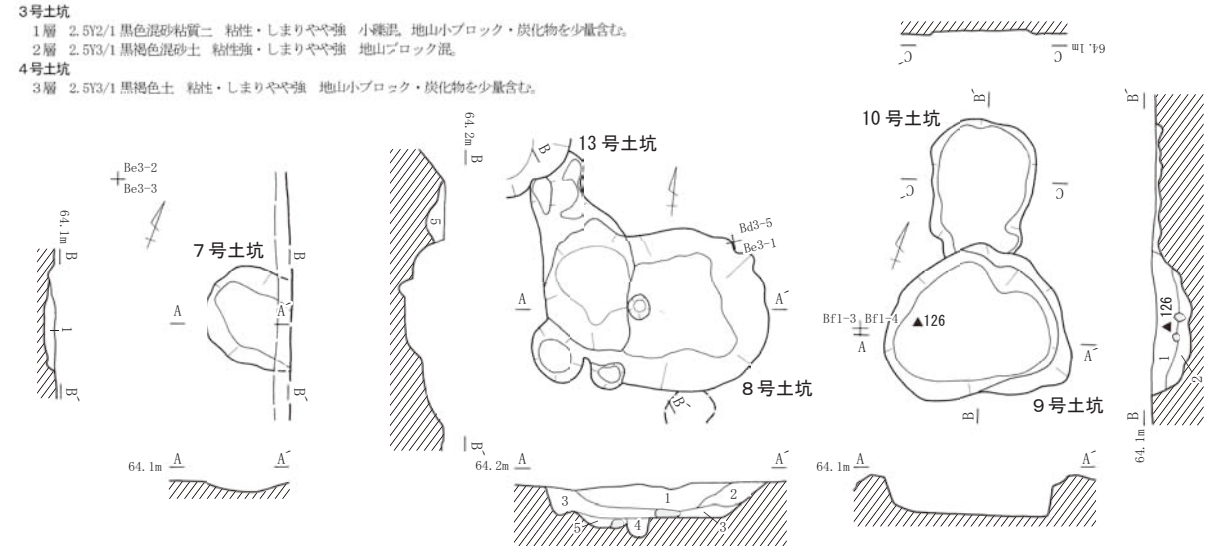
2号土坑
1層　2.5Y3/2 黒褐色混砂土　粘性弱・しまりやや強
2層　2.5Y4/1 黄灰色土　粘性弱・しまりやや弱　地山小ブロック混。
3層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性弱・しまりやや弱
地山小ブロックを含み，炭化物を少量含む。
4層　2.5Y4/2 暗黄灰色土　粘性やや弱・しまり弱　地山粘土ブロック混。

5号土坑
1層　2.5Y2/1 黒色混砂土　粘性極弱・しまり強
地山粘土ブロック・炭化物を少量含む。

3号土坑
1層　2.5Y2/1 黒色混砂粘質土　粘性・しまりやや強　小礫混，地山小ブロック・炭化物を少量含む。
2層　2.5Y3/1 黒褐色混砂土　粘性強・しまりやや強　地山ブロック混。

4号土坑
3層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや強　地山小ブロック・炭化物を少量含む。

6号土坑
1層　2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂混土　粘性・しまり弱



7号土坑
1層　2.5Y2/1 黒色土　粘性・しまり弱
地山ブロックを含む。

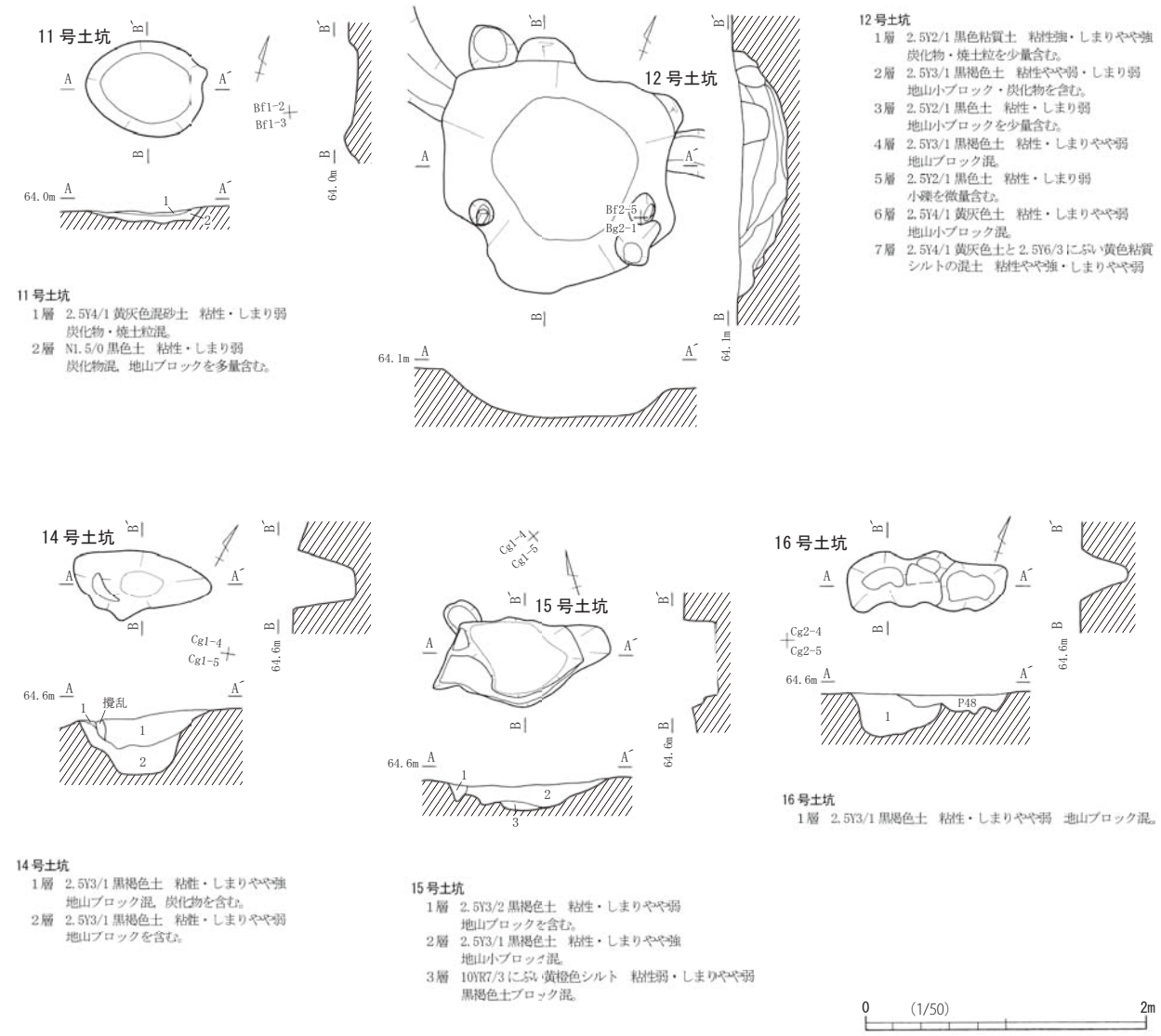
8号土坑
1層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性弱・しまりやや弱　地山ブロックを多量含む。
2層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性弱・しまりやや弱　赤褐色粒を微量含む。
3層　2.5Y2/1 黒色土　粘性弱・しまりやや弱　地山小ブロックを少量含む。
4層　2.5Y4/1 黄灰色粗砂　粘性なし・しまり弱　地山小ブロックを少量含む。

13号土坑
5層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱，砂礫混，地山ブロックを含む。

9号土坑
1層　2.5Y2/1 黒色粗砂混土　粘性・しまり弱
拳大以下の礫を含む。
2層　5Y3/1 灰色粘質シルト　粘性・しまりやや強
地山シルトブロック混。

10号土坑
3層　5Y3/1 黒褐色土　粘性やや弱・しまりやや強
地山ブロック混。

第54図　1～10・13号土坑



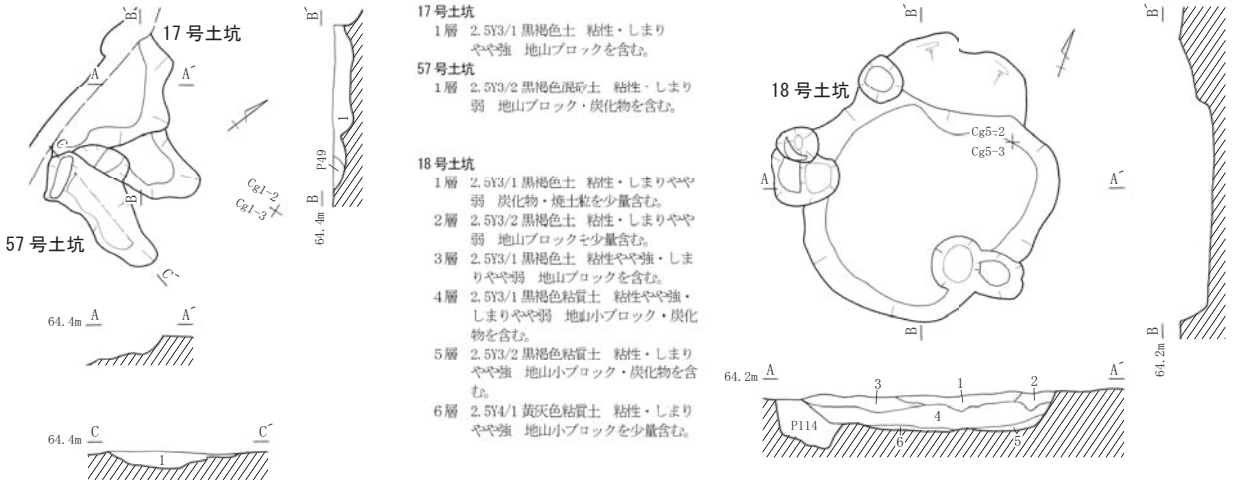
11 号土坑
1 層　2.5Y4/1 黄灰色混砂土　粘性・しまり弱
炭化物・焼土粒混。
2 層　N1.5/0 黒色土　粘性・しまり弱
炭化物混，地山ブロックを多量含む。

12 号土坑
1 層　2.5Y2/1 黒色粘質土　粘性強・しまりやや強
炭化物・焼土粒を少量含む。
2 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや弱・しまり弱
地山小ブロック・炭化物を含む。
3 層　2.5Y2/1 黒色土　粘性・しまり弱
地山小ブロックを少量含む。
4 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱
地山ブロック混。
5 層　2.5Y2/1 黒色土　粘性・しまり弱
小礫を微量含む。
6 層　2.5Y4/1 黄灰色土　粘性・しまりやや弱
地山小ブロック混。
7 層　2.5Y4/1 黄灰色土と 2.5Y6/3 にぶい黄色粘質
シルトの混土　粘性やや強・しまりやや弱

14 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや強
地山ブロック混，炭化物を含む。
2 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱
地山ブロックを含む。

15 号土坑
1 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱
地山ブロックを含む。
2 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや強
地山小ブロック混。
3 層　10YR7/3 にぶい黄橙色シルト　粘性弱・しまりやや弱
黒褐色土ブロック混。

16 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロック混。



17 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり
やや強　地山ブロックを含む。

57 号土坑
1 層　2.5Y3/2 黒褐色混砂土　粘性・しまり
弱　地山ブロック・炭化物を含む。

18 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや
弱　炭化物・焼土粒を少量含む。
2 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや
弱　地山ブロックを少量含む。
3 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや強・しま
りやや弱　地山ブロックを含む。
4 層　2.5Y3/1 黒褐色粘質土　粘性やや強・
しまりやや弱　地山小ブロック・炭化
物を含む。
5 層　2.5Y3/2 黒褐色粘質土　粘性・しまり
やや強　地山小ブロック・炭化物を含
む。
6 層　2.5Y4/1 黄灰色粘質土　粘性・しまり
やや強　地山小ブロックを少量含む。

第55図　11・12・14 ～ 18 号土坑

掘りあげてしまった可能性はあるが，東側の壁沿いで桶や樽に使用される箍が検出された。土坑の形状や箍の出土状況などから，桶が埋設されていた土坑と考えられ，榑板が抜き取られた状態で埋まったと考えられる。桶を埋設した遺構の性格を考えるため，箍より内側と外側の土壌を採取し，寄生虫卵等分析を行った。分析結果は第Ⅳ章に掲載した。11 号溝と重複関係にあり，本遺構が古い。遺物は出土していない。

21 号土坑（第 56 図）

Cg グリッドに位置する。P119 と重複関係にあり，P119 より古い。下駄（128）が 1 点出土している。

22 号土坑（第 56 図）

Dg・Dh グリッドに位置する。水路掘削と水道管の埋設で，南東側が削平を受けている。遺物は出土していない。

23 号土坑（第 56 図）

Dg グリッドに位置する。平面形は円形で，断面は箱状である。13 号掘立柱建物，３号柵列，９号溝と重複する。３号柵列より新しいが，13 号掘立柱建物，９号溝との先後関係は不明である。遺物は出土していない。

24 号土坑（第 56 図）

Dg グリッドに位置する。４・10 号溝と重複関係にあり，両者より古い。遺物は出土していない。

25 号土坑（第 56 図）

Dg グリッドに位置する。平面形は不整形で，断面は台形状である。遺物は出土していない。

26 号土坑（第 56 図）

Fg グリッドに位置する。田面の造成と，調査時の排水溝掘削で北半部を欠損する。遺物は出土していない。

27 号土坑（第 57 図）

Eh グリッドに位置する。55 号土坑，14 号溝と重複し，本遺構は両者より新しい。遺物は出土していない。

28・29 号土坑（第 57 図）

両者は重複関係にあり，ともに Eh グリッドに位置する。28 号土坑は 56 号土坑とも重複関係にあり，29・56 号土坑より新しい。遺物は出土していない。

30 号土坑（第 57 図）

Ef グリッドに位置する。平面形はやや不整な円形で，断面は弧状である。遺物は出土していない。

31 号土坑（第 57 図）

Ef グリッドに位置する。P268 と重複関係にあり，本遺構が新しい。遺物は出土していない。

32 号土坑（第 57 図）

Ef グリッドに位置する。越前焼の壺または甕片のほかに，砥石（104）が出土している。

33 号土坑（第 57 図）

Ef グリッドに位置する。37 号掘立柱建物 P269，45 号土坑と重複し，両者より新しい。遺物は出土していない。

34 号土坑（第 57 図）

Ff グリッドに位置する。15 号溝と重複し，本遺構が古い。遺物は出土していない。

35 号土坑（第 57 図）

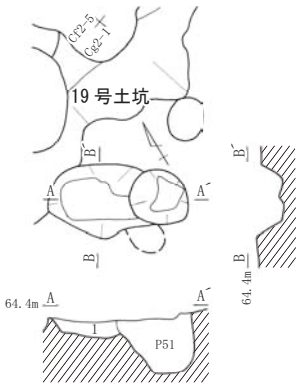
Ff グリッドに位置する。平面形はやや不整な楕円形で，断面は弧状である。遺物は出土していない。

36 号土坑（第 57 図）

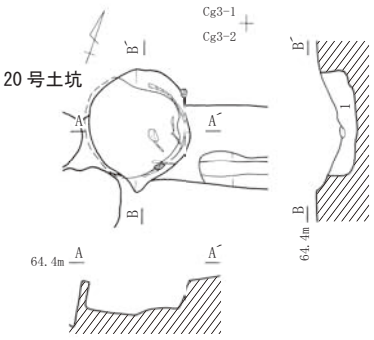
Ef グリッドに位置する。平面形は円形で，断面は半円状である。遺物は出土していない。

37・38・39 号土坑（第 58 図）

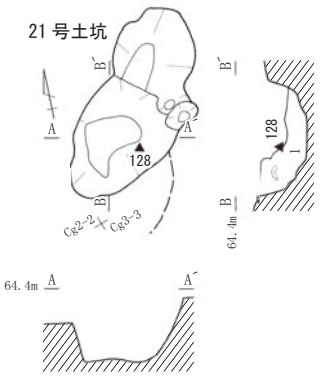
三者は重複関係にあり，いずれも Eg グリッドに位置する。三者とも調査時に掘削した排水溝で一部壊され，



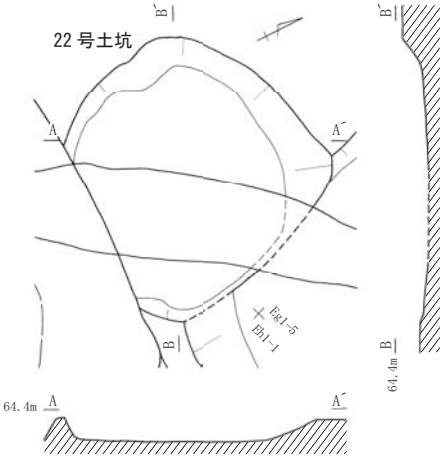
19 号土坑
1 層　2.5Y3/2 黒褐色粘質土　粘性・しまりやや強
地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。

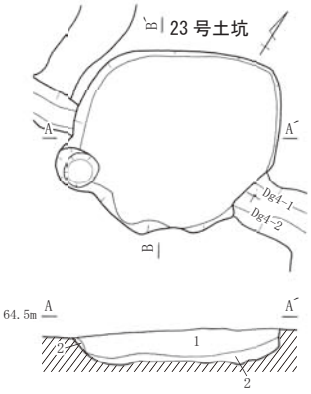


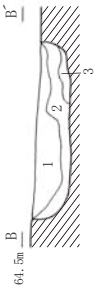
20 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱
小礫を多量，地山ブロック・炭化物を少量含む。



21 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱
地山ブロックを含む。

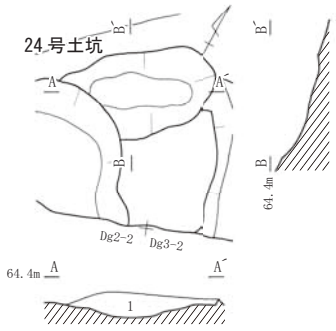


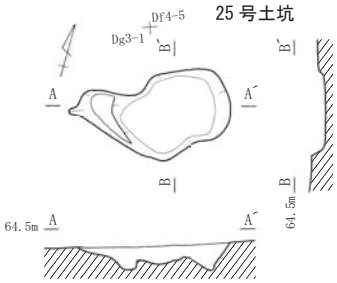


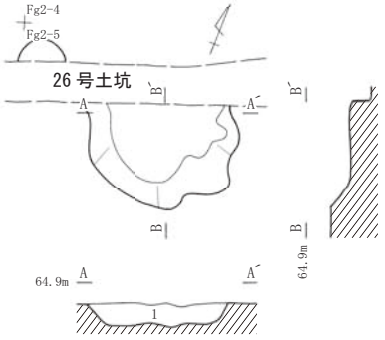


23 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり
やや弱　炭化物・蛙土粒・礫・
地山小ブロックを含む。
2 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり
弱　地山ブロックを含む。
3 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり
やや弱　地山ブロックを少量含む。

0　(1/50)　2m





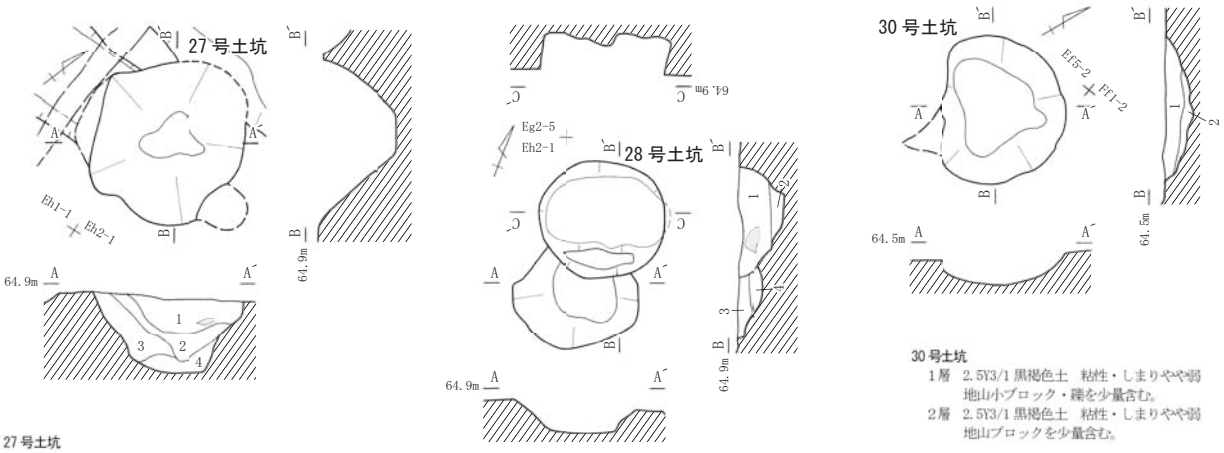


24 号土坑
1 層　2.5Y4/2 黄灰色土　粘性・しまり弱
地山ブロック・炭化物を含む。

25 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱
地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。

26 号土坑
1 層　2.5Y2/1 黒色土　粘性やや弱・しまり弱　小礫を多量含む。

第56図　19 ～ 26 号土坑

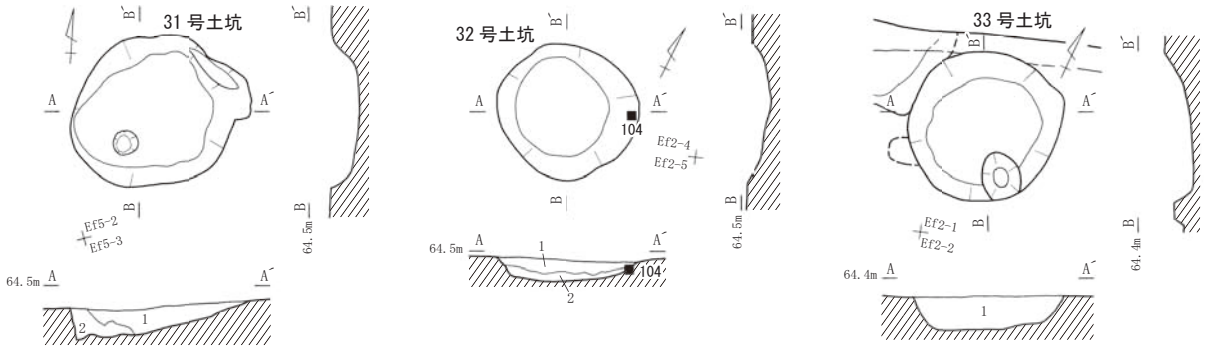


27 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロックを含む。
2 層　2.5Y4/1 黄灰色土　粘性・しまりやや弱
黒褐色土ブロック・地山ブロックを少量含む。
3 層　2.5Y4/1 黄灰色土　粘性・しまりやや弱
地山ブロック混，炭化物を含む。
4 層　2.5Y7/2 灰黄色土　粘性やや強・しまりやや弱
黄灰色土ブロック混，炭化物を少量含む。

28 号土坑
1 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　炭化物を含み，地山ブロックを少量含む。
2 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロックを含む。

29 号土坑
3 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロックを含む。
4 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや弱・しまり弱　地山ブロック・黒褐色土ブロック混。

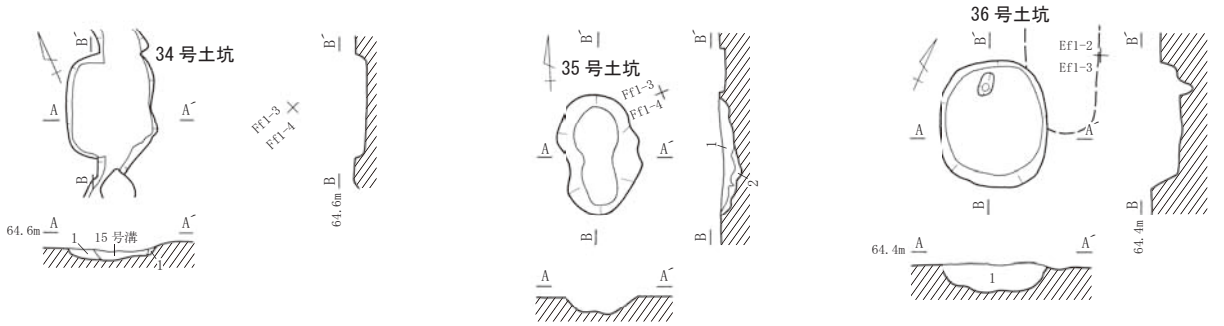
30 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱
地山小ブロック・礫を少量含む。
2 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱
地山ブロックを少量含む。



31 号土坑
1 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性やや強・しまりやや弱
地山ブロック・炭化物を多量含む。
2 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱
黒褐色土ブロック・地山ブロックを多量含む。

32 号土坑
1 層　2.5Y3/2黒褐色土　粘性・しまり弱
地山ブロック・炭化物を含む。
2 層　2.5Y3/1黒褐色土　粘性・しまり弱
地山小ブロック・炭化物粒を微量含む。

33 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱
地山ブロックを多量含む。



34 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱
炭化物粒・地山ブロックを含む。

35 号土坑
1 層　2.5Y3/2 黒褐色　粘性・しまり弱
地山ブロックを含む，炭化物を少量含む。
2 層　5Y7/3 浅黄色粘土　粘性極強・しまり強
黒褐色土ブロック・黄灰色土ブロック混。

36 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱
地山小ブロックを微量含む。

0　(1/50)　2m

第57図　27 ～ 36 号土坑

38・39 号土坑は水道管にも一部破壊されている。これらは 39 号土坑→ 37 号土坑→ 38 号土坑の順で掘削されている。また，37 号土坑は P231 と，38 号土坑は P280 と，39 号土坑は P278 とそれぞれ重複する。37 号土坑は P231 より古く，38 号土坑は P280 より新しく，39 号土坑は P278 より新しい。いずれの遺構からも遺物は出土していない。

40 号土坑（第 58 図，図版５）

Ef グリッドに位置する，長軸 3.38 m，短軸 2.90 mの大型土坑である。平面形は方形で，断面は弧状。P214・283 ～ 287 と重複関係にあり，P283 ～ 287 より新しいが，P214 より古い。人頭大以下の礫が複数投棄されている状態で見つかった。遺物は，瀬戸美濃焼花瓶片（25）・珠洲焼片口鉢片（26）・茶臼の下臼（105）が出土した。

41 号土坑（第 58 図）

Dg グリッドに位置する。平面形は楕円形で，断面は弧状である。P297，17 号溝と重複する。17 号溝より新しく，P297 より古い。肥前系磁器片が出土したが，小片のため図示し得なかった。

42 号土坑（第 59 図）

Ef グリッドに位置する。９・17 号溝と重複し，両者より古い。遺物は出土していない。

43 号土坑（第 59 図）

Df グリッドに位置する。18 号掘立柱建物 P514・29 号掘立柱建物 P727，P515 と重複する。18 号掘立柱建物より新しく，P515 より古いが，29 号掘立柱建物との直接的な先後関係は不明である。遺物は出土していない。

44 号土坑（第 59 図）

Df グリッドに位置する。北側が調査区外へ延び，全容は不明である。19 号溝と重複し，本遺構が古い。遺物は出土していない。

45 号土坑（第 59 図）

Ef グリッドに位置する。36 号掘立柱建物 P507，33 号土坑と重複し，36 号掘立柱建物より新しく，33 号土坑より古い。遺物は出土していない。

46 号土坑（第 59 図）

Df グリッドに位置する。4 号掘立柱建物 P412・10 号掘立柱建物 P357・27 号掘立柱建物 P788，P358・444 と重複する。４・10・27 号掘立柱建物・P444 より新しく，P358 より古い。遺物は出土していない。

47 号土坑（第 59 図）

Df グリッドに位置する。多くの遺構と重複関係にあることから，ほぼ原形を留めていない。３号掘立柱建物 P628，27 号掘立柱建物 P625・349，31 号掘立柱建物 P584，33 号掘立柱建物 P782，P505・520・626・627・783・784，19・22 号溝と重複する。19 号溝との直接的な先後関係は不明だが，27 号掘立柱建物より古く，他の遺構より新しい。遺物は，龍泉窯系青磁碗片（27）と肥前系陶器皿片（28）が出土している。

48 号土坑（第 59 図）

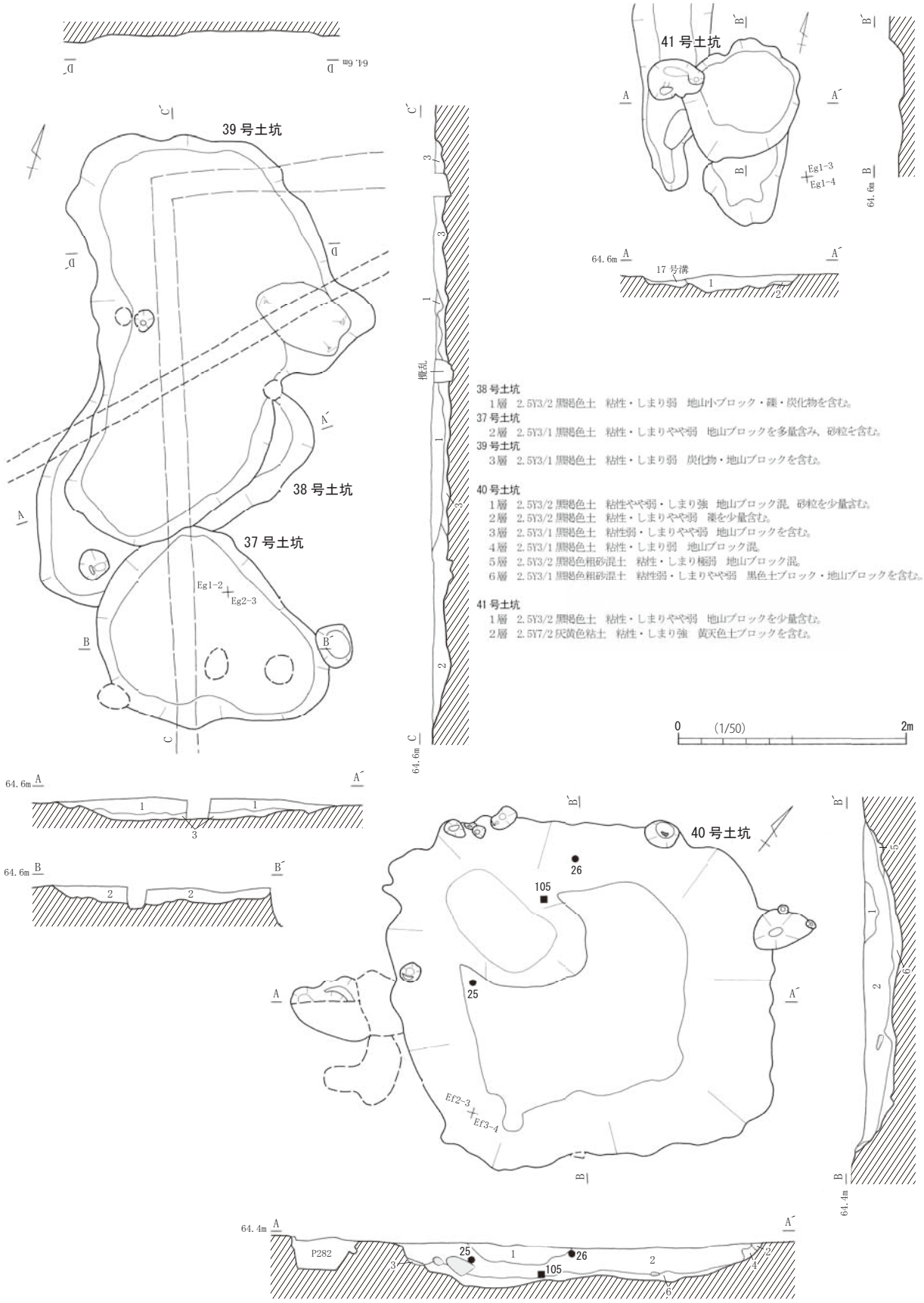
Df グリッドに位置する。33 号掘立柱建物 P351・36 号掘立柱建物 P502，P529，19 号溝と重複し，いずれも本遺構より新しい。肥前系陶器碗（29）のほか，越前焼の壺または甕片が出土している。

49 号土坑（第 60 図）

Cf グリッドに位置する。34 号掘立柱建物 P607，P606・744・745，31・32 号溝と重複する。31・32 号溝との先後関係は不明だが，他の遺構は本遺構より古い。瀬戸美濃焼瓶子片（30）・肥前系陶器擂鉢片（31）が出土した。

50 号土坑（第 60 図，図版５）

Cf グリッドに位置する。３号掘立柱建物 P688・９号掘立柱建物 P475，P492・674・683 ～ 687・689 ～ 691・694・747・785 ～ 787，20 号溝と重複する。20 号溝との先後関係は不明だが，P492 より古く，他の遺構より新しい。

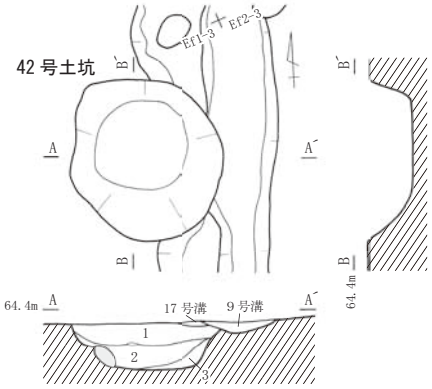


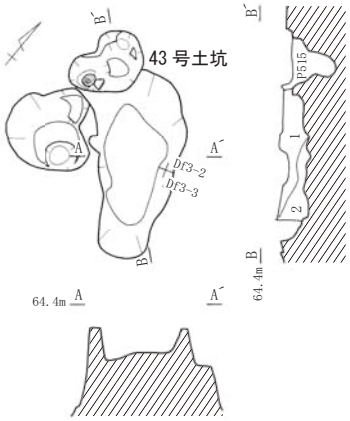
38 号土坑
1 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山小ブロック・礫・炭化物を含む。
37 号土坑
2 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロックを多量含み，砂粒を含む。
39 号土坑
3 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　炭化物・地山ブロックを含む。

40 号土坑
1 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性やや弱・しまり強　地山ブロック混，砂粒を少量含む。
2 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　礫を少量含む。
3 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性弱・しまりやや弱　地山ブロックを含む。
4 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロック混。
5 層　2.5Y3/2 黒褐色粗砂混土　粘性・しまり極弱　地山ブロック混。
6 層　2.5Y3/1 黒褐色粗砂混土　粘性弱・しまりやや弱　黒色土ブロック・地山ブロックを含む。

41 号土坑
1 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロックを少量含む。
2 層　2.5Y7/2 灰黄色粘土　粘性・しまり強　黄灰色土ブロックを含む。

第58図　37 ～ 41 号土坑

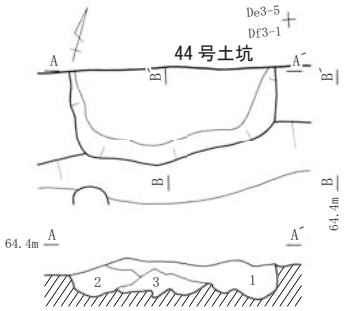


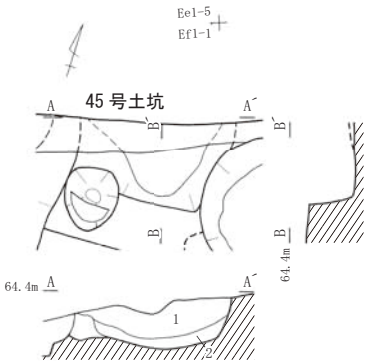


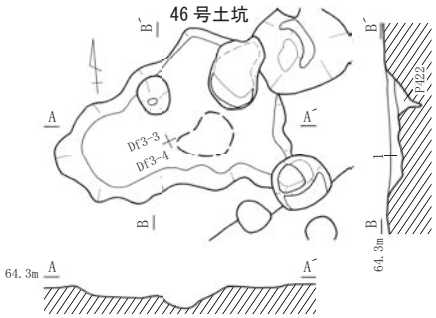
43号土坑
1層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱
地山ブロック混，炭化物・焼土粒を含む。
2層　2.5Y4/1 黄灰色土　粘性・しまりやや弱
地山ブロック混，炭化物を少量含む。

42 号土坑
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロック・炭化物を含む。
2層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを少量含む。
3層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを多量含む。

0　(1/50)　2m



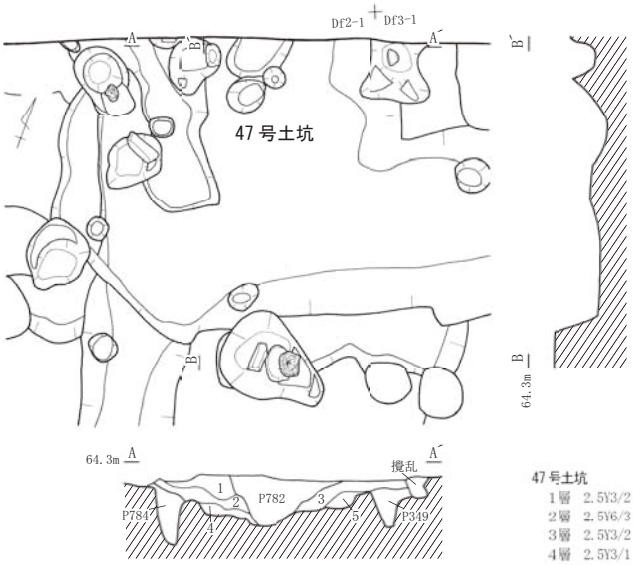


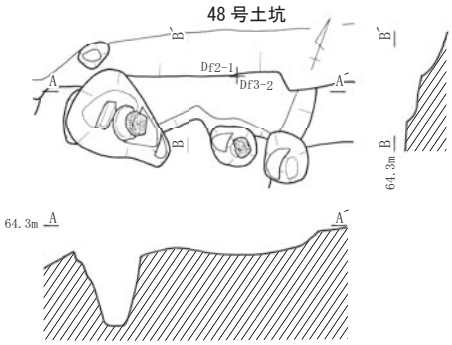


44 号土坑
1層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱
地山ブロック混，炭化物を多量含む。
2層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱
地山ブロック混，炭化物を少量含む。
3層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱
炭化物を含み，地山ブロックを少量含む。

45 号土坑
1層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱
地山小ブロック・炭化物を含む。
2層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱
地山ブロックを少量含む。

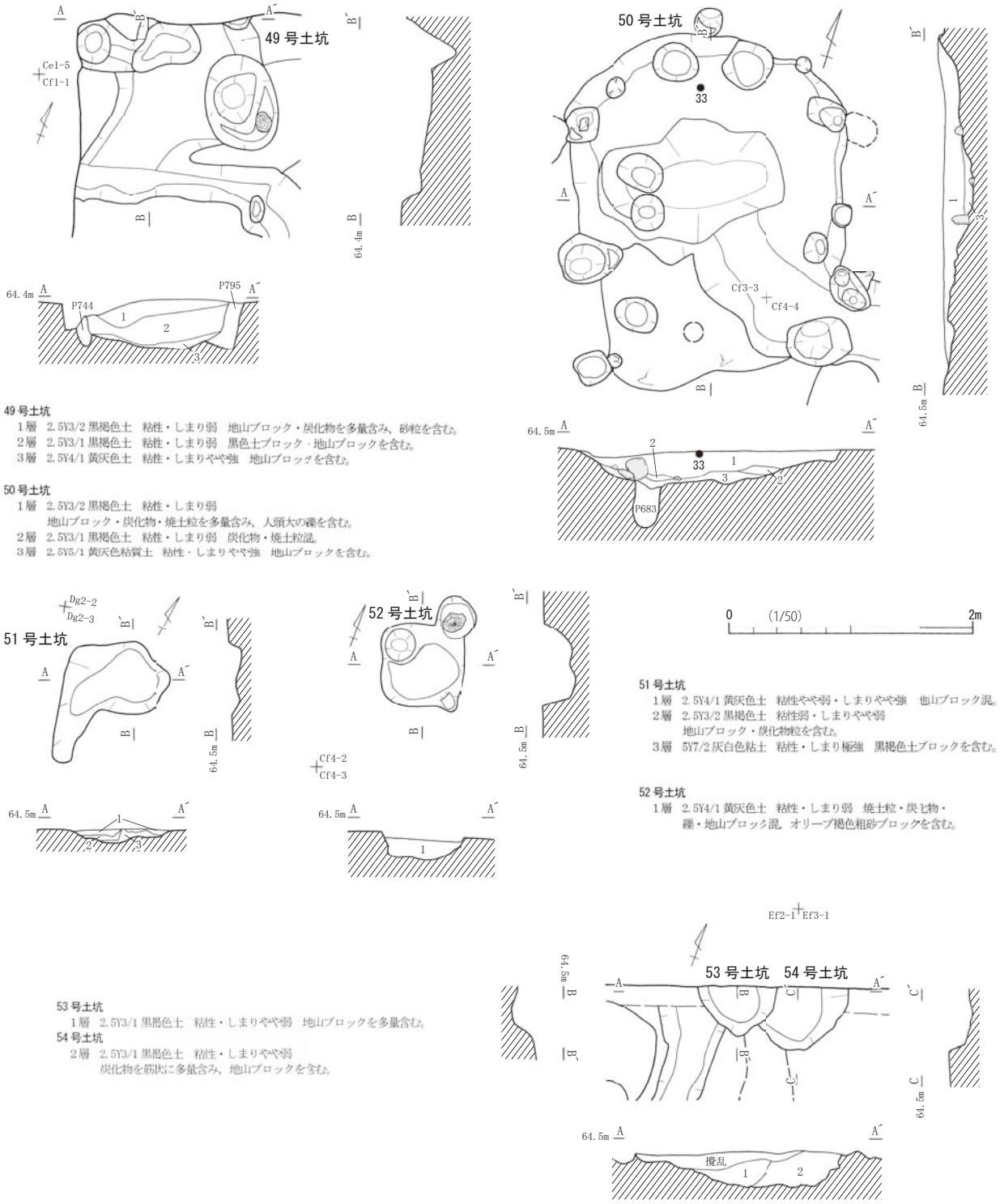
46 号土坑
1層　2.5Y4/1 黄灰色土　粘性弱・しまりやや弱
地山ブロック・炭化物を含む。





47 号土坑
1層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを多量含む。
2層　2.5Y6/3 にぶい黄色シルト　粘性・しまり弱　黒褐色土ブロックを少量含む。
3層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロック混，炭化物を少量含む。
4層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　炭化物を多量，地山ブロックを少量含む。
5層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロック・炭化物を含む。

第59図　42 ～ 48 号土坑



第60図 49 ～ 54 号土坑

人頭大の礫が複数投棄された状態で検出されたほか，越前焼擂鉢片（32・33）珠洲焼壺片などが出土した。

51 号土坑（第 60 図）

Dg グリッドに位置する。平面形は不整形で，断面は弧状である。遺物は出土していない。

52 号土坑（第 60 図）

Cf グリッドに位置する。24 号掘立柱建物 P562 と重複し，本遺構が新しい。遺物は出土していない。

53・54 号土坑（第 60 図）

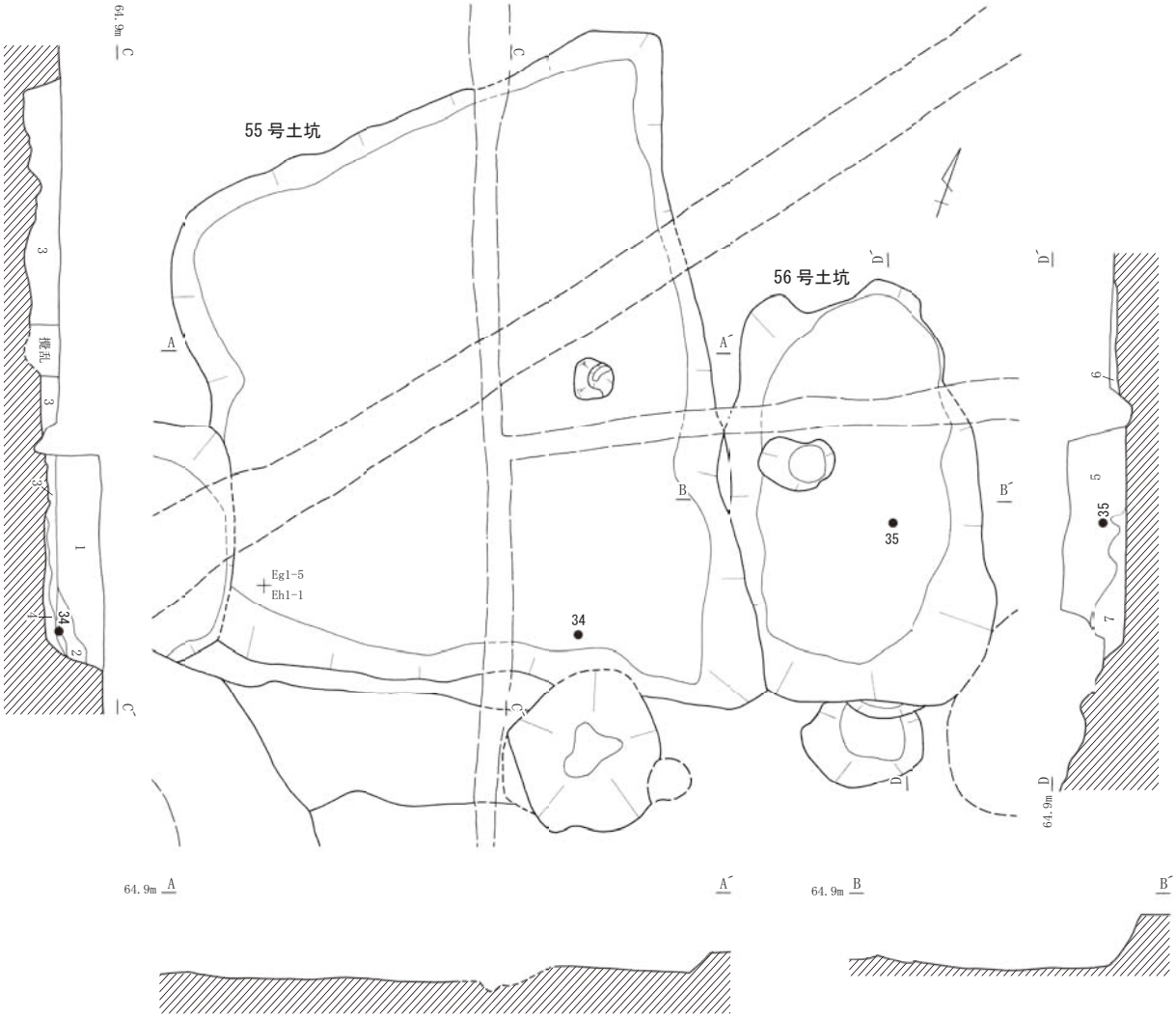
両者は重複関係にあり，ともに Ef グリッドに位置する。54 号土坑が古く，53 号土坑が新しい。いずれの遺構からも，遺物は出土していない。

55・56 号土坑（第 61 図）

両者は重複関係にあり，55 号土坑は Dg・Dh・Eg・Eh グリッドに，56 号土坑は Eg・Eh グリッドに位置する。両者の先後関係は，55 号土坑が古く，56 号土坑が新しい。また，55 号土坑は 27 号土坑と，56 号土坑は 28・29 号土坑，P257 とそれぞれ重複するが，55 号土坑は 27 号土坑より古く，56 号土坑は 28・29 号土坑，P257 より古い。55 号土坑からは珠洲焼片口鉢片（34）が，56 号土坑からは瀬戸美濃焼縁釉小皿片（35）が出土している。

ピット（第 62 図）

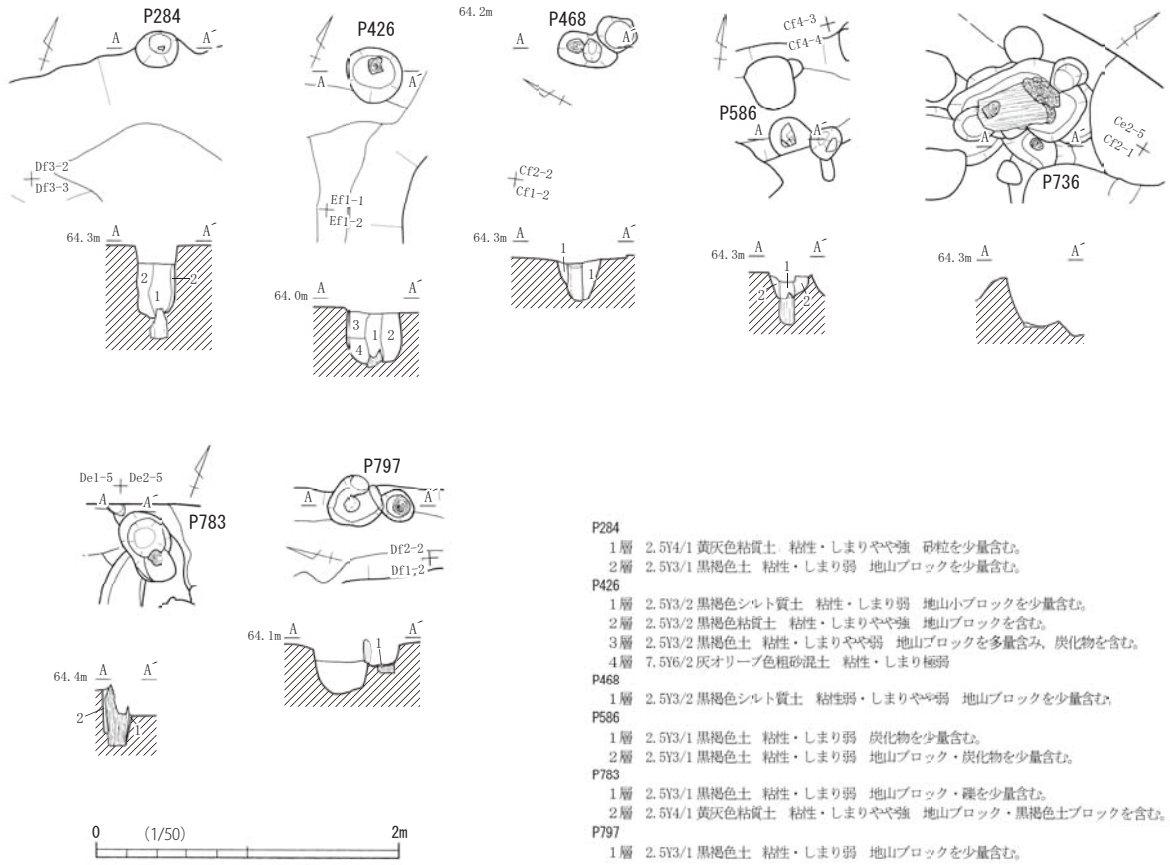
柱根が残存していたもののうち，P529 を除く P284・426・468・586・736・783・797 のみ個別に記載した。この



55 号土坑
1 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや弱・しまり弱　地山小ブロック・炭化物を少量含む。
2 層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性弱・しまりやや弱　地山ブロック混。
3 層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロック・黒色土ブロックを含む。
4 層　2.5Y4/1 黄灰色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを含む。
56 号土坑
5 層　2.5Y4/1 黄灰色粘質土　粘性・しまりやや強　炭化物を多量含み，地山ブロックを含む。
6 層　2.5Y4/1 黄灰色粘質土　粘性・しまりやや強　地山ブロックを含み，炭化物・黒色土ブロックを少量含む。
7 層　2.5Y5/1 黄灰色粘質土　粘性強・しまりやや強　炭化物を含み，地山ブロックを少量含む。

0　(1/50)　2m

第61図　55・56 号土坑



P284
1層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性・しまりやや強 砂粒を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。
P426
1層 2.5Y3/2 黒褐色シルト質土 粘性・しまり弱 地山小ブロックを少量含む。
2層 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 粘性・しまりやや強 地山ブロックを含む。
3層 2.5Y3/2 黒褐色土 粘性・しまりやや弱 地山ブロックを多量含み，炭化物を含む。
4層 7.5Y6/2 灰オリーブ色粗砂混土 粘性・しまり極弱
P468
1層 2.5Y3/2 黒褐色シルト質土 粘性弱・しまりやや弱 地山ブロックを少量含む。
P586
1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 炭化物を少量含む。
2層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・炭化物を少量含む。
P783
1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロック・礫を少量含む。
2層 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 粘性・しまりやや強 地山ブロック・黒褐色土ブロックを含む。
P797
1層 2.5Y3/1 黒褐色土 粘性・しまり弱 地山ブロックを少量含む。

第62図 柱根を検出したピット

うちP284・586・783のもの（168・179・180）以外の柱根は遺存状態が悪く，図示し得なかった。

１号溝（第９・63図）

Be・Bfグリッドに位置する。２号溝と調査区西側で合流する。近世土師器小皿と考えられる破片（42），漆器椀片（129）が出土している。

２号溝（第９・63図）

Bfグリッドに位置する。東側は調査区外へ延び，西側は攪乱により不明。肥前系陶器皿片（43）が出土した。

３号溝（第９・63図）

Bfグリッドに位置する。東側は調査区外へ延び，西側は攪乱により壊されている。遺物は出土していない。

４号溝（第12・63図，図版６）

Dgグリッドに位置する。瓦質土器鉢片（44）・石鉢片（109）が出土している。

５・６・７・８・号溝（第９・63図）

四者は，Af・Bfグリッドに位置する。５号溝と６号溝との間に重複関係は無いが，それ以外は重複関係にある。５号溝は７・８号溝より新しく，６号溝は７・８号溝より新しい。また，７号溝は８号溝より新しい。５号溝から肥前系陶器擂鉢片（45），７号溝から硯片（110）が出土している。

９号溝（第12・63図）

Cg・Df・Dg・Efグリッドに位置する。Cgグリッド20号土坑付近から東へ延び，Dgグリッドで北側へ屈曲し，そのまま調査区外へと延びていく。肥前系磁器丸碗片（46）・龍泉窯系青磁碗片（47）・肥前系陶器の火入れまたは

小壺片（48）・珠洲焼壺または甕片（49）のほか，越前焼壺または甕片や砥石（111）が出土している。

10 号溝（第 12・63 図，図版６）

Cg・Df・Dg グリッドに位置する。９号溝と同じく Cg グリッド 20 号土坑付近から北東方向へ延び，Dg グリッド内で北側へ屈曲，Df グリッドにおいて 20 号溝と重複する。そして，そのまま 20 号溝と並行し，調査区外へ延びていく。両者の先後関係は，本遺構が 20 号溝より古い。埋土は３層に分けられ，下層は炭化物が大量に敷き詰められた状態であった。出土した炭化物のうち２点を，放射性炭素年代測定にかけている。その成果は，第Ⅳ章に掲載した。肥前系陶器小碗片（50）・越前焼擂鉢片（51）のほか，越前焼壺または甕片が出土した。

12 号溝（第 12・63 図）

Cg グリッドに位置する。P147 と 10 号溝に挟まれた短い溝である。遺物は出土していない。

13 号溝（第 12・63 図）

Cg グリッドに位置する。９号溝と 10 号溝をつなぐように南北に掘られた短い溝であるが，両者と併存したか否かは不明である。珠洲焼片口鉢片（52）が出土した。

14 号溝（第 12・63 図，図版６）

Eh グリッドに位置する。東側は 27 号土坑に切られ，西側は削平されている。比較的残りの良い中世土師器皿２点（53・54）が出土した。

15 号溝（第 12・63 図）

Ef・Ff グリッドに位置し，両グリッド境付近から，やや屈曲して調査区北側へ延びる。遺物は出土していない。

16 号溝（第 12・63 図）

Df グリッドに位置する狭小な溝である。遺物は出土していない。

17 号溝（第 12・63 図）

Df・Dg・Ef グリッドに位置する。Dg グリッドから北へと延び，途中から９号溝と重複して調査区外へと延びていく。砥石１点（112）のほかに，小片のため図示し得なかった肥前系磁器碗片が出土している。

18 号溝（第 12・63 図）

Df グリッドに位置する，長さ３m程の狭小な溝である。遺物は出土していない。

19 号溝（第 12・63 図）

Df・Ef グリッドに位置する。Df グリッドの 47 号土坑から東へと延び，Df・Ef グリッドの境付近で屈曲し，北側調査区外へ延びていく。珠洲焼片口鉢片（52）・肥前系陶器小杯片（55）・同碗片（56）・同擂鉢片（57）・粉引臼片（113）のほか，龍泉窯系青磁碗や越前焼甕などの小片が出土している。

20 号溝（第 12・63・64 図，図版６）

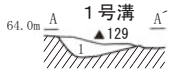
Cf・Df・Ef グリッドに位置する。Cf グリッドの 50 号土坑から東へ延び，Df・Ef グリッドの境付近で北側へと屈曲し，そのまま調査区外へ延びていく。福建窯系白磁皿片（58）のほか，龍泉窯系青磁碗や越前焼壺または甕，肥前系陶器の壺または甕の小片が出土している。

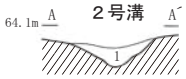
21 号溝（第 64 図）

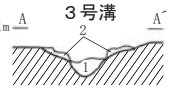
Ef グリッドに位置する。９号溝と，10 号溝または 20 号溝とを繋ぐように掘削された溝である。遺物は出土していない。

22 号溝（第 64 図）

Df グリッドに位置する。19 号溝と 20 号溝を繋ぐように，南北方向に掘削された溝である。肥前系陶器ひだ皿（菊皿）片（59）が出土している。



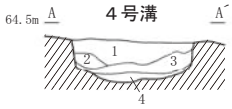


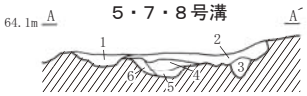


1号溝
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱
炭化物・焼土粒・砂粒を含む。

2号溝
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや強・しまりやや弱
地山小ブロック・炭化物・砂粒を含む。

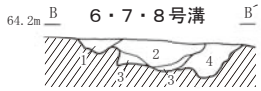
3号溝
1層　5Y4/1 灰色粘質土混シルト　粘性やや強・しまりやや弱　地山シルトブロック混。
2層　5Y5/2 灰オリーブ色砂質シルト　粘性弱・しまりやや弱　地山シルトブロック混。

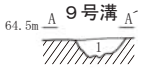


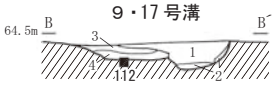


4号溝
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや弱・しまり弱　地山シルトブロックを含む。
2層　2.5Y7/2 浅黄色粘質土　粘性・しまり強　黒褐色土ブロックを含む。
3層　2.5Y3/1 黒褐色粘質土　粘性・しまりやや強　地山ブロック混。
4層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山小ブロックを少量含む。

5号溝
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山小ブロックを含む。
7号溝
2層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを含む。
3層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロック混。
8号溝
4層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山小ブロックを少量含む。
5層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　砂粒を少量含む。
6層　2.5Y4/1 黄灰色シルト　粘性弱・しまりやや弱　地山ブロック混。



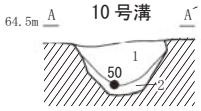


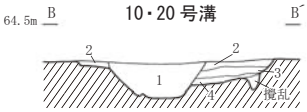


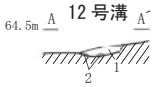
6号溝
1層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性弱・しまりやや弱　地山ブロックを多量含む。
7号溝
2層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロックを含む。
3層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性弱・しまりやや弱　地山ブロック混。
8号溝
4層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを含む。

9号溝
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや強・しまりやや弱　炭化物・地山小ブロックを少量含む。

9号溝
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　微細な炭化物を少量含む。
2層　2.5Y7/2 灰黄色粘土　粘性・しまり強　黄灰色粘質土ブロック混。
17号溝
3層　2.5Y3/1 黒褐色土混粗砂　粘性・しまり極弱
4層　2.5Y4/3 オリーブ褐色粗砂　粘性・しまりなし



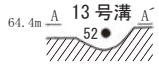


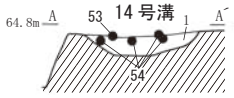


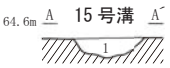
10号溝
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性弱・しまりやや強
地山ブロック混。炭化物を多量含む。
2層　2.5Y2/1 黒色土　粘性・しまり弱
炭化物・焼土粒混。

20号溝
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性弱・しまり弱
炭化物を多量含み，地山小ブロックを少量含む。
10号溝
2層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱
炭化物を含み，地山小ブロックを少量含む。
3層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱
炭化物・焼土粒・地山ブロックを多量含む。
4層　2.5Y3/2 黒褐色混砂土　粘性・しまり弱
地山ブロックを多量含み，炭化物を少量含む。

12号溝
1層　5Y6/2 灰オリーブ色シルト　粘性弱・しまり強　黒褐色土ブロック混，微細な炭化物を少量含む。
2層　2.5Y4/1 黄灰色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロック・炭化物を少量含む。

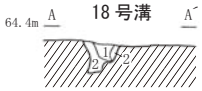


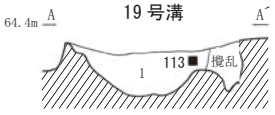




14号溝
1層　2.5Y6/3 にぶい黄色粘質土　粘性・しまり強
黒褐色土ブロック・炭化物を含む。

15号溝
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱
礫・炭化物を含む。





18号溝
1層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱
地山ブロック・炭化物を少量含む。
2層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱
地山ブロック混。

19号溝
1層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまり弱
炭化物・地山小ブロックを含む。

第63図　1～10・12～20号溝

23 号溝（第 12・64 図）

Df グリッドに位置する。22 号溝と並行する狭小な溝である。遺物は出土していない。

24・25 号溝（第 12・64 図）

いずれも Df グリッドに位置する。24 号溝は，18 号溝と同一の溝の可能性もあるが，別の溝とした。24 号溝から珠洲焼の壺の小片が出土したが，図化していない。

26 号溝（第 12・64 図）

Cf グリッドに位置する。グリッドの北東隅で検出された。複数の柱穴と重複しており正確な形状は不明だが，U字状に曲り，北側調査区外へ延びている。遺物は出土していない。

27 号溝（第 12・64 図）

Cf グリッドに位置する，狭小な溝である。遺物は出土していない。

28 号溝（第 12・64 図）

Df グリッドに位置する。多数の柱穴と重複している。肥前系磁器丸碗片（60）・肥前系陶器皿片（61）のほか，肥前系陶器碗や肥前系磁器，焼成粘土塊の小片が出土している。

29 号溝（第 12・64 図）

Cf・Cg グリッドに位置する。幅広の浅い溝で，グリッド境付近でＬ字に屈曲する。遺物は出土していない。

30 号溝（第 12・64 図）

Cf グリッドに位置する。西側調査区の壁沿いで検出し，西側は調査区外へ続く。肥前系磁器碗片（62）・同陶器皿片（63）が出土している。

31 号溝（第 12・64 図）

Cf グリッドに位置する。30 号溝と並行する幅狭な溝で，途中で屈曲し，西側調査区外へ延びている。肥前系陶器皿と考えられる破片（64）・肥前系擂鉢（65）のほかに，瀬戸美濃焼の碗・皿の小片が出土した。

32 号溝（第 12・64 図）

Cf・Cg グリッドに位置する狭小な溝である。遺物は出土していない。

１号杭列（第 12・64 図，図版６）

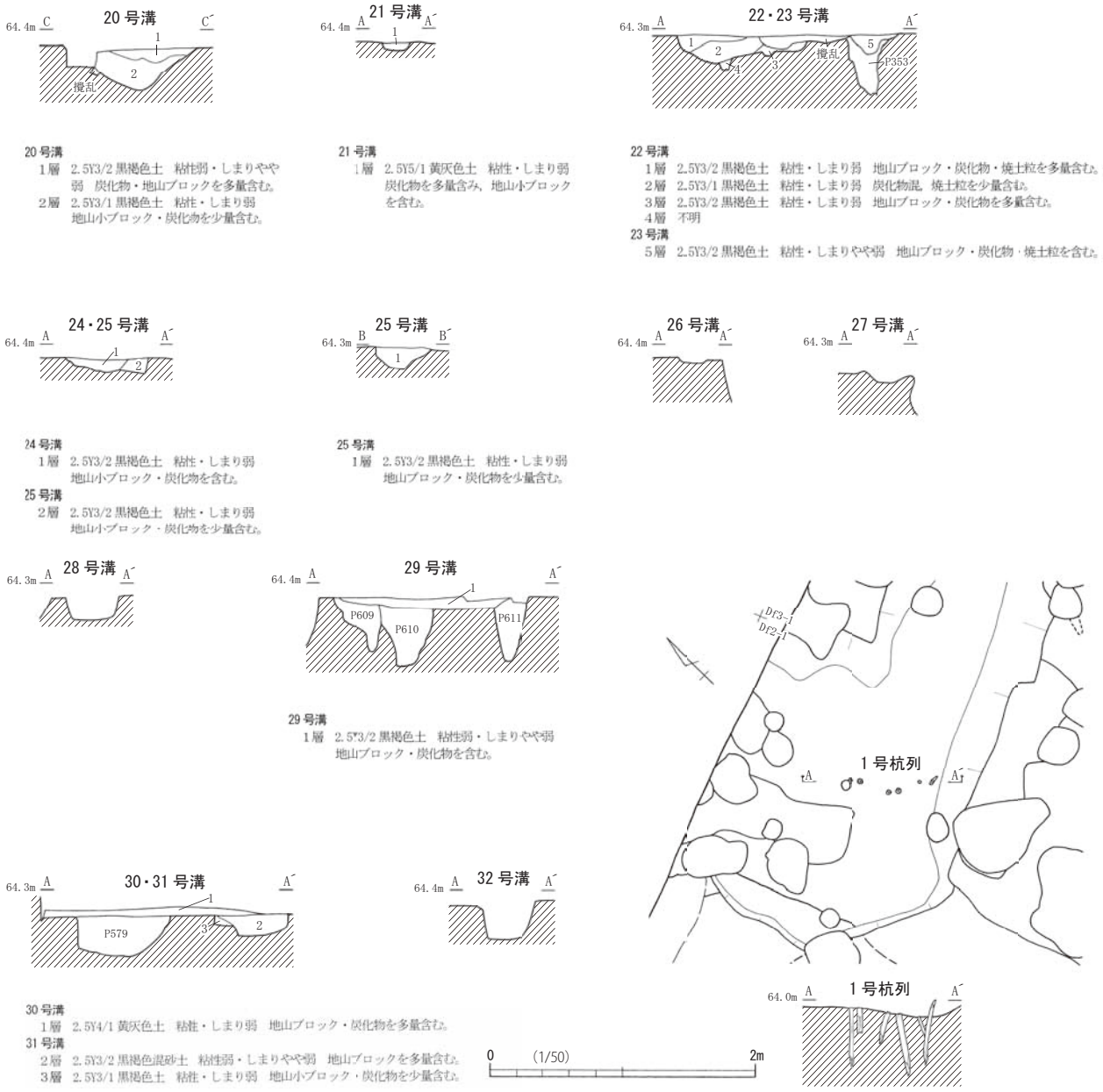
Df グリッド内，19 号溝の底面で検出された。長短の杭６本が不規則に打ち込まれていた。どのような意図で打ち込まれた杭か，不明である。

堀（第７～ 10・15・65 図，図版６・７）

北辺は Ac・Bb・Bc・Cb・Cc グリッド，西辺は Ac・Ad・Ae・Af・Ag・Ah グリッド，南辺は Ah・Fh グリッドで検出した。南辺の Fh グリッドを除き，いずれも外側の上端が調査区外となっている。そのため，堀の幅や深さ，形状は南辺の東側でのみ確認できた。その規模は，上面幅 3.21 m，下面幅 2.89 m，深さ 0.69 mの，断面が逆台形の箱堀である。調査区壁で土層の堆積状態を観察したが，郭内側は攪乱が著しく，土塁の痕跡は認められなかった。埋土は上層（１層）・中層（２・３層）・下層（４・５層）に大別される。一方，北辺や西辺，南西部は後世の攪乱が著しいうえ，堀の落ち際をわずかに調査できた程度であったため，その様相を明らかにすることはできなかった。遺物は，堀南東部の中層と下層からのみ出土し，龍泉窯系青磁碗片（66・67）・瀬戸美濃焼内禿皿片（68）・龍泉窯系青磁碗を打ち欠いた加工円盤（99・100）・砥石（114）・不明木製品（133）のほか，越前焼壺または甕片や，瀬戸美濃焼の陶器片が出土している。

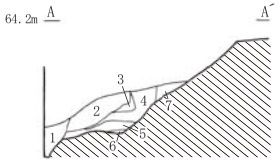
川跡（第 13 ～ 15・66 図，図版７）

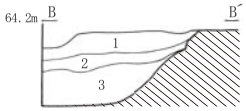
Ff・Fg・Fh・Fi・Fj・Gf・Gg・Gh・Gi グリッドで検出した。調査前の本遺跡は，四囲に堀を巡らせた中世の方

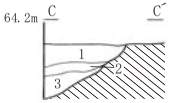


第64図 20 ～ 32 号溝・１号杭列

形居館と考えられてきたことから，東辺の堀が検出されることを想定し調査に入った。しかし，調査を進めるうちに，東辺の堀に当たる箇所は，①遺構検出面からの落ち込みがなだらか，②埋土が砂礫を多量に含む水成堆積層である，③地下及び山際からの湧水が顕著であることがわかった。これらのことから，館の東辺で検出された落ち込みは，人工的に掘られた堀ではなく，川跡（自然流路）と判断した。つまり，板山館は自然に流れていた河川を取り込む形で造成された館であることが判明したといえる。なお，今回のほ場整備では，工事による掘削は川跡の底面まで及ばないことから，その底面検出はトレンチのみで行い，下層部分は現状保存とした。埋土は４層に大別される。すなわち，近代以降の埋土である上層（１～７層），近世以前の埋土である中層（８～ 13 層），中世以降の埋土である下層（14 ～ 16 層），中世より前の堆積層（17 ～ 22 層）に分かれる。遺物は，中・近世のものでは中層から漆器椀（131・132）や蓋（130）が，中世より前の堆積層から縄文土器片（187 ～ 197）が出土している。







堀（西辺）

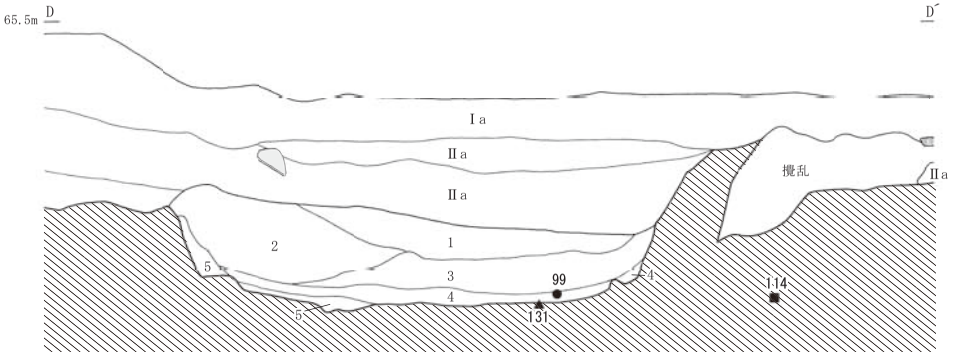
1層　2.5Y4/1 黄灰色粘質土混粗砂　粘性やや弱・しまり弱　地山シルトブロックを含む。
2層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性弱・しまりやや弱　炭化物を少量含む。
3層　2.5Y3/2 黒褐色粘質土　粘性・しまり強　地山シルトブロック混。
4層　2.5Y6/2 灰黄色シルト　粘性弱・しまり強
5層　2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト　粘性・しまりやや強　地山シルトブロック混。
6層　2.5Y6/2 灰黄色粘質シルト　粘性・しまりやや弱
7層　不明

堀（南西部西辺）

1層　2.5Y3/1 黒褐色混砂土　粘性・しまり弱　小礫を含む。
2層　2.5Y3/1 黒褐色混砂土と 5Y5/2 灰オリーブ色粗砂の互層　粘性・しまり弱　礫を含む。
3層　2.5Y3/2 黒褐色混砂土と 5Y5/2 灰オリーブ色粗砂と 5Y5/2 灰オリーブ色砂の互層
粘性・しまり弱　礫を含む。

堀（南西部南辺）

1層　2.5Y3/2 黒褐色混砂土　粘性・しまり弱　炭化物粒を少量含む。
2層　2.5Y3/2 黒褐色混砂土と 5Y5/2 灰オリーブ色砂の互層　粘性・しまり弱
3層　2.5Y3/2 黒褐色細砂混シルト　粘性・しまり弱　小礫を少量含む。

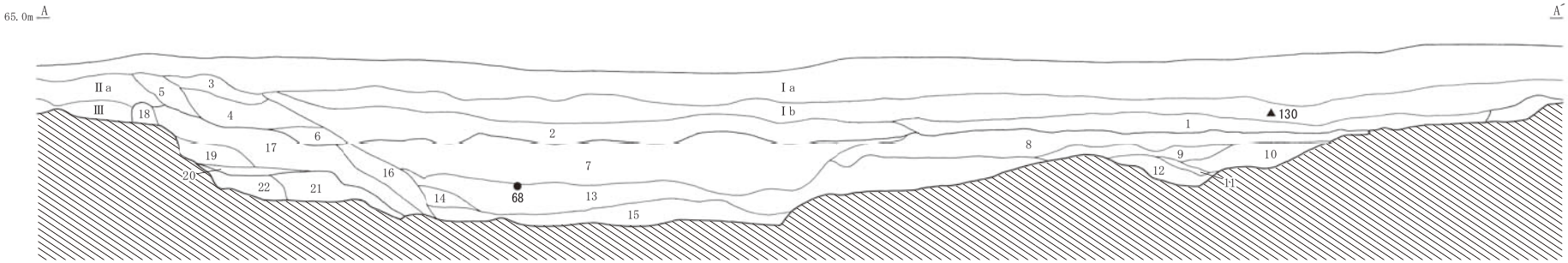


堀（南辺）

1層　10YR3/1 黒褐色粗砂混土　粘性・しまり弱　灰オリーブ粗砂層が薄く縞状に入る。
2層　10YR2/1 黒色土　粘性・しまり弱　砂粒を含む。
3層　10YR3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　灰オリーブ粗砂層が薄く縞状に入る。
4層　10YR3/1 黒褐色粗砂混土　粘性・しまり弱　灰オリーブ粗砂層が薄く縞状に入る。
5層　5Y2/1 黒色粗砂混土　粘性・しまり弱　小礫混。

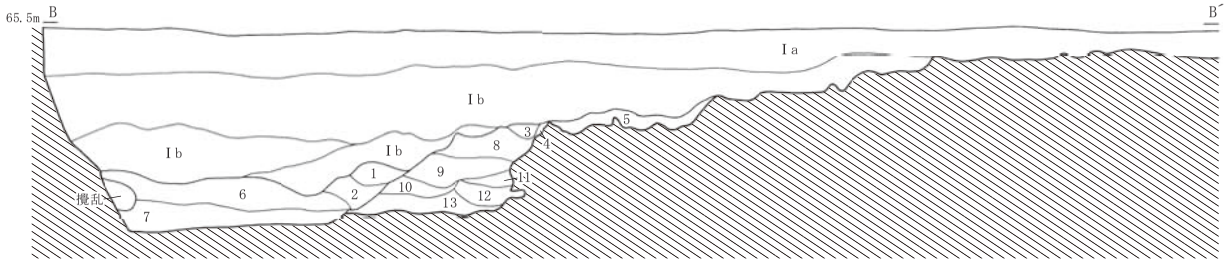
0　(1/50)　2m

第65図　堀



川跡（調査区北壁）

1層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　小礫・炭化物を少量含む。
2層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性やや強・しまりやや弱　小礫を多量含み，炭化物を少量含む。
3層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性やや弱・しまり弱　拳大の礫・粗砂ブロックを含む。
4層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　拳大以下の礫を含み，炭化物を少量含む。
5層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性やや強・しまりやや弱　炭化物を少量含む。
6層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　礫を含み，微細な炭化物粒を微量含む。
7層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性・しまりやや弱　小礫・微細な炭化物粒を少量含む。
8層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山粘土ブロック混，拳大以下の礫を多量含み，砂粒・微細な炭化物粒を含む。
9層　2.5Y4/1 黄灰色細砂　粘性・しまり極弱　微細な炭化物粒を含む。
10層　5Y4/1 灰色粗砂混細砂　粘性・しまり極弱
11層　10Y7/2 灰白色砂　粘性・しまり弱　黄灰色土ブロックを含み，微細な炭化物粒を少量含む。
12層　2.5Y3/1 黒褐色粗砂　粘性・しまりなし　礫を少量含む。
13層　2.5Y3/1 黒褐色混砂土　粘性弱・しまりやや弱　未分解腐植を多量含む。
14層　2.5Y3/1 黒褐色土と 2.5Y3/1 黒褐色砂礫層の互層　粘性・しまり弱
15層　2.5Y3/2 黒褐色混土砂　粘性・しまり極弱　礫混。
16層　2.5Y3/1 黒褐色砂礫混土　粘性・しまり弱
17層　2.5Y3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　砂粒を含む。
18層　2.5Y3/2 黒褐色土　粘性弱・しまりやや弱　地山ブロックを少量含む。
19層　2.5Y2/1 黒色粗砂混土　粘性やや強・しまりやや弱　小礫を微量含む。
20層　2.5Y2/1 黒色粗砂混土　粘性・しまり弱　小礫を少量含む。
21層　2.5Y3/2 黒褐色粘質土　粘性・しまりやや強　地山ブロックを含む。縄文土器片を含む。
22層　7.5Y6/2 灰オリーブ色粘土　粘性・しまり極強　黒褐色土ブロック混，縄文土器片を含む。



川跡（調査区南壁）

1層　10YR1.7/1 黒色土　粘性やや弱・しまり弱
2層　10YR5/1 褐灰色粘質土　粘性・しまりやや強　地山ブロックを多量含む。
3層　10YR4/1 褐灰色粘質土　粘性・しまりやや強　地山ブロックを含む。
4層　10YR4/1 褐灰色粘質土　粘性・しまりやや強　地山ブロック混。
5層　10YR4/1 褐灰色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロック混。
6層　10YR2/1 黒色土　粘性・しまり弱
7層　5Y4/2 灰オリーブ色粗砂　粘性・しまりなし　礫混。
8層　2.5Y7/3 浅黄色粘土　粘性・しまり極強　黒褐色土ブロックを少量含む。縄文土器片を含む。
9層　10YR3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを多量含む。縄文土器片を含む。
10層　10YR4/1 褐灰色土　粘性・しまりやや弱　地山ブロックを少量含む。縄文土器片を含む。
11層　2.5Y7/3 浅黄色粘質土　粘性・しまり強　褐灰色土ブロックを少量含む。縄文土器片を含む。
12層　10YR3/1 黒褐色土　粘性・しまり弱　地山ブロックを多量含む。
13層　10YR4/1 褐灰色土　粘性やや弱・しまりやや強　地山ブロック混。

0　(1/50)　2m

第66図　川跡

4　遺物の概要と記載方法

遺物の概要　遺物は，中・近世と先史時代のものが出土している。総量は，内寸 54 ㎝× 34 ㎝× 10 ㎝の平箱に換算して 26 箱分（現地調査終了時点，以下同）あり，内訳は中・近世の土器・陶磁器が３箱分，中・近世の木製品が 22 箱分，その他が１箱分である。本報告では，中・近世の遺物と先史時代の遺物とに分けて記載する。

中・近世の遺物では，土器・陶磁器，土製品，石製品，銭貨・金属製品，木製品が出土している。土器・陶磁器は，中世土師器，瓦質土器，中国陶磁器の青磁・白磁・青白磁・青花・陶器，国産陶磁器の瀬戸美濃焼・珠洲焼・越前焼・越中瀬戸焼・信楽焼・肥前系磁器・肥前系陶器がある。土製品には，焼成粘土塊，陶磁器を二次加工して製作した加工円盤がある。石製品は茶臼・粉引臼・石鉢・硯・砥石・碁石があり，銭貨・金属製品は新古の寛永通寶，煙管がある。木製品は，漆器椀・蓋，折敷・下駄・不明木製品，杭・柱・建築部材などがある。

これらの遺物の年代は，13 世紀代から 18 世紀前半に帰属する。中世のものは 15 世紀代が最も多く，近世のものは 16 世紀末から 17 世紀代のものが多い。16 世紀中葉から後葉にかかる時期の遺物は出土していないが，概ね 400 年ほどの期間，継続的な土地利用が行われていたといえよう。

先史時代の遺物では，縄文土器と石器が出土している。縄文土器は中期後葉から後期中葉のもの，石器は旧石器時代の石刃と縄文時代の削器・磨製石斧・石核が出土している。

遺物の記載方法　原則的には，遺物の種類ごとに，遺構出土のものとそれ以外のものとに分けて，そして遺構出土のものは遺構の種類ごとに記載している。ただし木製品については，製品と建築物等の部材の順で，遺構出土とそれ以外に分けて記載している。なお，個々の遺物の詳細な情報は，一覧表を参照されたい。

また，中世の土器・陶磁器の器種分類や年代観は，これまでの先行研究の成果に則り記述している。中世土師器は（水澤 2005）・（伊藤 2006）を，瓦質土器は（高桑 2003）を参照した。中国陶磁器の青磁は（上田 1982），白磁は（森田 1982）と，15 ～ 16 世紀代の青磁・白磁は（水澤 2004）・（水澤 2009），青花は（小野 1982）を参照した。瀬戸美濃焼は古瀬戸段階のものは（藤澤 2008），大窯期のものは（藤澤 2002），珠洲焼は（吉岡 1994），越前焼は（田中・木村 2005），肥前系磁器・陶器は（大橋 1989）と（九州近世陶磁学会事務局編 2000）所収の各氏の論考を参照した。なお，ここに掲げた以外のものについては，それぞれの記述の中で個別に取り上げる。

5　中・近世の遺物

（１）土器・陶磁器

掘立柱建物（第 67・68 図，図版８）

３号掘立柱建物では，白磁皿（１・２）・肥前系磁器碗（３）・同折縁皿（４）が出土している。１・２は，森田分類Ｄ群の白磁内湾皿である。いずれも 15 世紀代のものである。３は大橋編年Ⅲ期，４は大橋編年Ⅱ－２期である。４の内面には蓮弁文が描かれる。

９号掘立柱建物では，白磁小杯（５）・同鍔皿（７）・瀬戸美濃焼平碗（６）・肥前系陶器皿（９）・同壺または甕（８）が出土している。５は，口縁部が強く外反する。森田分類Ｅ群で，16 世紀代のものである。６は，古瀬戸後期の灰釉平碗である。藤澤編年古瀬戸後Ⅱ期のものであろう。７は森田分類Ｅ群で，16 世紀末頃のものである。８は，肥前系陶器の壺または甕の体部下端から底部である。底部内面には中央部から放射状に延びる叩きの跡が残り，外周部はヘラまたは板状の工具で叩きの跡がナデ消されている。体部下端は外面に平行叩き，内面に同心円文状のあて具痕が残る。大橋編年Ⅱ期のものである。９は，大橋編年Ⅱ－１期の灰釉皿である。内底面に，砂目積み

の目跡が残る。17 号掘立柱建物出土の破片と接合している。

10 号掘立柱建物からは，中国製の天目茶碗（10）が出土している。内底面に，細かな傷が多く入る。

17 号掘立柱建物からは，中世土師器小皿（15）・青磁盤（11）・瀬戸美濃焼縁釉小皿（12）・同丸皿（13）・同小天目茶碗（14）・肥前系陶器皿（９）・同擂鉢（16）が出土している。９は先述したものである。11 は龍泉窯系の折縁の青磁盤である。焼成が悪かったのか青磁釉が溶けきれずに白濁している。口縁部片で，破断面全面と内外面の一部に漆が付着している。漆継ぎの跡であろう。内面に波涛文を施す。14 世紀後半以降のものである。12・14 は藤澤編年古瀬戸後Ⅲ期に位置付けられる。13 は内底面に印花菊花文を施すもので，藤澤編年大窯第３段階後半に位置付けられる。15 は中世土師器皿と考えられ，15 世紀後半と推定される。16 は，内面全面に擂目が施された擂鉢で，大橋編年Ⅱ期～Ⅲ期に位置付けられる。29 号掘立柱建物出土の破片と接合している。

25 号掘立柱建物では，肥前系陶器鉢（17）が出土している。大橋編年Ⅰ期のもので，被熱して煤が付着する。

28 号掘立柱建物からは，瀬戸美濃焼灰釉平碗（18）が出土している。藤澤編年古瀬戸Ⅱ期～Ⅲ期のものである。

29 号掘立柱建物からは，先述した肥前系陶器擂鉢（16）が出土している。

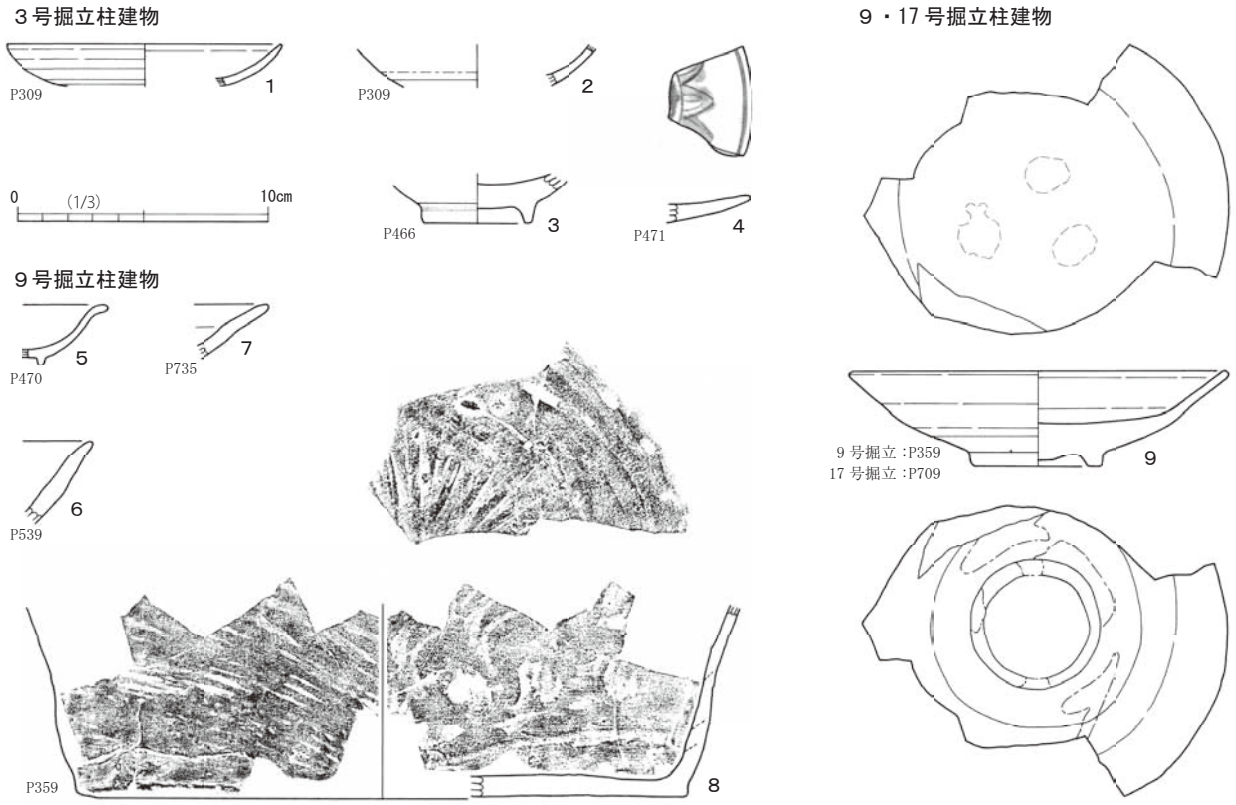
33 号掘立柱建物では，肥前系陶器皿（19）が出土している。大橋編年Ⅰ期のものである。

竪穴建物（第 68 図，図版８）

１号竪穴建物では，龍泉窯系青磁碗（20）が出土している。無文で，口縁部が強く外反する。上田分類Ｄ－Ⅱ類で，14 世紀末～ 15 世紀のものである。

井戸（第 68 図，図版８）

２号井戸からは越前焼擂鉢（21・22），３号井戸からは瀬戸美濃焼天目茶碗（23）が出土している。21・22 は，いずれも田中・木村編年Ⅳ－１期からⅤ－１期のものである。23 は，灰褐色の鉄釉を施した天目茶碗で，口唇部



第67図　掘立柱建物出土 土器・陶磁器

周辺の釉は銀化している。藤澤編年古瀬戸後Ⅳ期新段階に位置付けられる。

土坑（第 68・69 図，図版８・９）

４号土坑からは，肥前系磁器皿（24）が出土している。大橋編年Ⅳ－１期のものである。

40 号土坑では，瀬戸美濃焼花瓶（25）と珠洲焼片口鉢（26）が出土している。26 は，内面の擦れが顕著である。25 は藤澤編年古瀬戸後Ⅳ期新段階に，26 は吉岡編年Ⅳ期にそれぞれ位置付けられる。

47 号土坑では，龍泉窯系の細蓮弁文青磁碗（27）・肥前系陶器皿（28）が出土している。27 の蓮弁文は，弁先と蓮弁部分とを分けて描く。上田分類Ｂ－Ⅳ類に位置付けられる。28 は，大橋編年Ⅱ期～Ⅲ期のものである。

48 号土坑からは，灰釉の肥前系陶器碗（29）が出土している。畳み付けの幅が一定しない竹節形高台で，大橋編年Ⅰ期に位置付けられる。

49 号土坑では，瀬戸美濃焼瓶子（30）・肥前系陶器擂鉢（31）が出土している。30 は藤澤編年の古瀬戸後期に，31 は大橋編年のⅣ－１期に位置付けられる。

50 号土坑からは越前焼擂鉢（32・33）が出土している。いずれも内面は擦れており，33 は特に顕著であり，被熱もしている。32 は田中・木村編年でⅣ－１期～Ⅴ－１期，33 はⅤ－２期～Ⅴ－３期に位置付けられる。

55 号土坑では，珠洲焼片口鉢（34）が出土している。擂目はほぼ磨滅している。吉岡編年のⅤ期～Ⅵ期である。

56 号土坑では，瀬戸美濃焼縁釉小皿（35）が出土している。藤澤編年古瀬戸後Ⅲ期に位置付けられる。

ピット（第 70 図，図版９）

P12 からは肥前系陶器擂鉢（36），P52 からは珠洲焼Ｔ種の壺または甕（37），P307 からは瀬戸美濃焼天目茶碗（38），P358 からは肥前系陶器擂鉢（39），P456 からは龍泉窯系青磁碗（40），P679 からは越前焼擂鉢（41）が出土している。36 は擂目が磨滅し，被熱している。大橋編年Ⅱ期のものである。37 は，吉岡編年Ⅳ期に位置付けられよう。38 は，体部小片であり時期不明。39 は，使用の痕跡はあまり見られない。大橋編年Ⅱ期～Ⅲ期である。40 は外面に文様が巡るが，判然とはしていない。崩れた雷文であろうか。上田分類Ｃ－Ⅱ類と考えられる。41 は，口縁部内面に沈線が巡る。内面全体に擦れが顕著である。田中・木村編年Ⅴ期に位置付けられる。

溝（第 70・71 図，図版９・10）

１号溝では，土師器小皿（42）が出土している。手づくね成形で，器壁は全体に薄い。近世のものだろうか。

２号溝からは，砂目積みの肥前系陶器皿（43）が出土している。大橋編年Ⅱ－１期である。

４号溝では，瓦質土器擂鉢（44）が出土している。在地産のもので，全体に脆く，内面の剥落が著しい。高桑分類のⅠ類に該当し，15 世紀前半以降のものである。

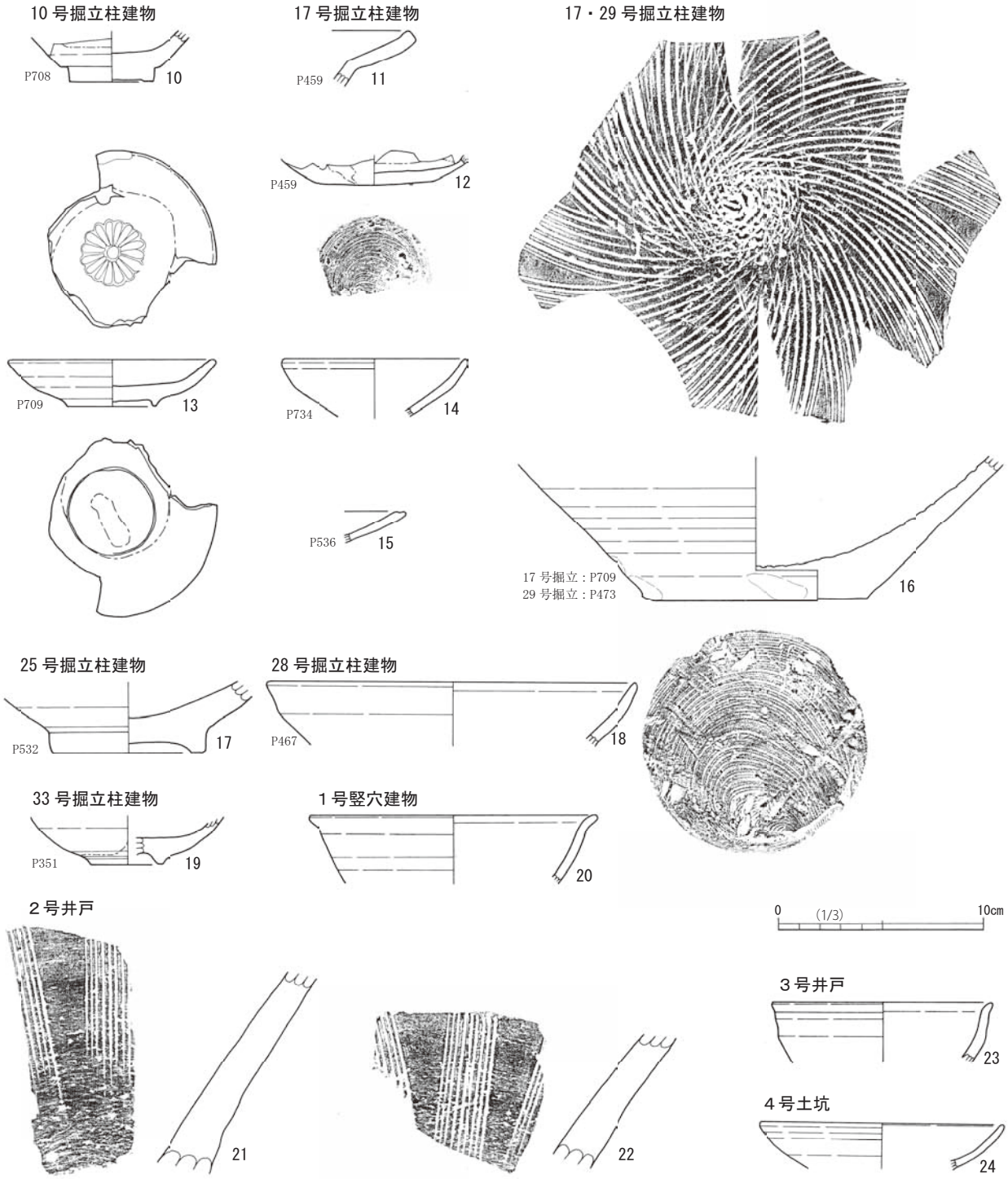
５号溝からは，肥前系陶器擂鉢が出土した。大橋編年Ⅱ期～Ⅲ期のものであろう。

９号溝では，肥前系磁器丸碗（46）・龍泉窯系青磁碗（47）・肥前系陶器の火入れまたは小壺（48）・珠洲焼のＴ種壺（49）が出土している。46 は，体部外面に雁行文を描く。大橋編年４期前半に位置付けられる。47 は，見込み部分を釉剥ぎしている。内面の擦れが顕著である。上田分類Ｂ－Ⅱ－２類に該当し，14 世紀後半～ 15 世紀のものである。48 は，小片のため詳細は不明である。大橋編年Ⅰ期～Ⅱ期であろう。49 は珠洲焼壺Ｔ種肩部の小片であり，時期は不明である。

10 号溝からは，肥前系陶器小碗（50）・越前焼擂鉢（51）が出土した。50 は大橋編年Ⅰ期のものである。51 は，口縁部内面に沈線が巡るもので，田中・木村編年のⅣ－３期～Ⅴ－１期に位置付けられる。

13 号溝では，珠洲焼片口鉢（52）が出土した。擂目の磨滅が顕著で，19 号溝出土の破片と接合した。吉岡編年Ⅳ期のものである。

14 号溝からは中世土師器皿が２点（53・54）出土した。いずれも手づくね成形のもので，16 世紀前半に位置付



第68図　掘立柱建物・竪穴建物・井戸・土坑出土 土器・陶磁器

けられる。

19 号溝では，先述の珠洲焼片口鉢（52）と肥前系陶器小杯（55）・同碗（56）・同擂鉢（57）が出土した。57 は，擂目がやや磨滅し，擦れが顕著である。55 は大橋編年Ⅰ期，56 はⅠ－２期～Ⅱ－１期，57 はⅡ期である。

20 号溝からは，白磁皿（58）が出土している。森田分類Ｄ群にあたり，15 世紀前半に位置付けられる。

22 号溝では，肥前系陶器ひだ皿（菊皿）（59）が出土した。体部外面に一部漆が付着する。大橋編年Ⅰ期である。

28 号溝からは，肥前系磁器丸碗（60）・肥前系陶器鉄絵皿（61）が出土している。60 は，外面に蔦状の文様を描

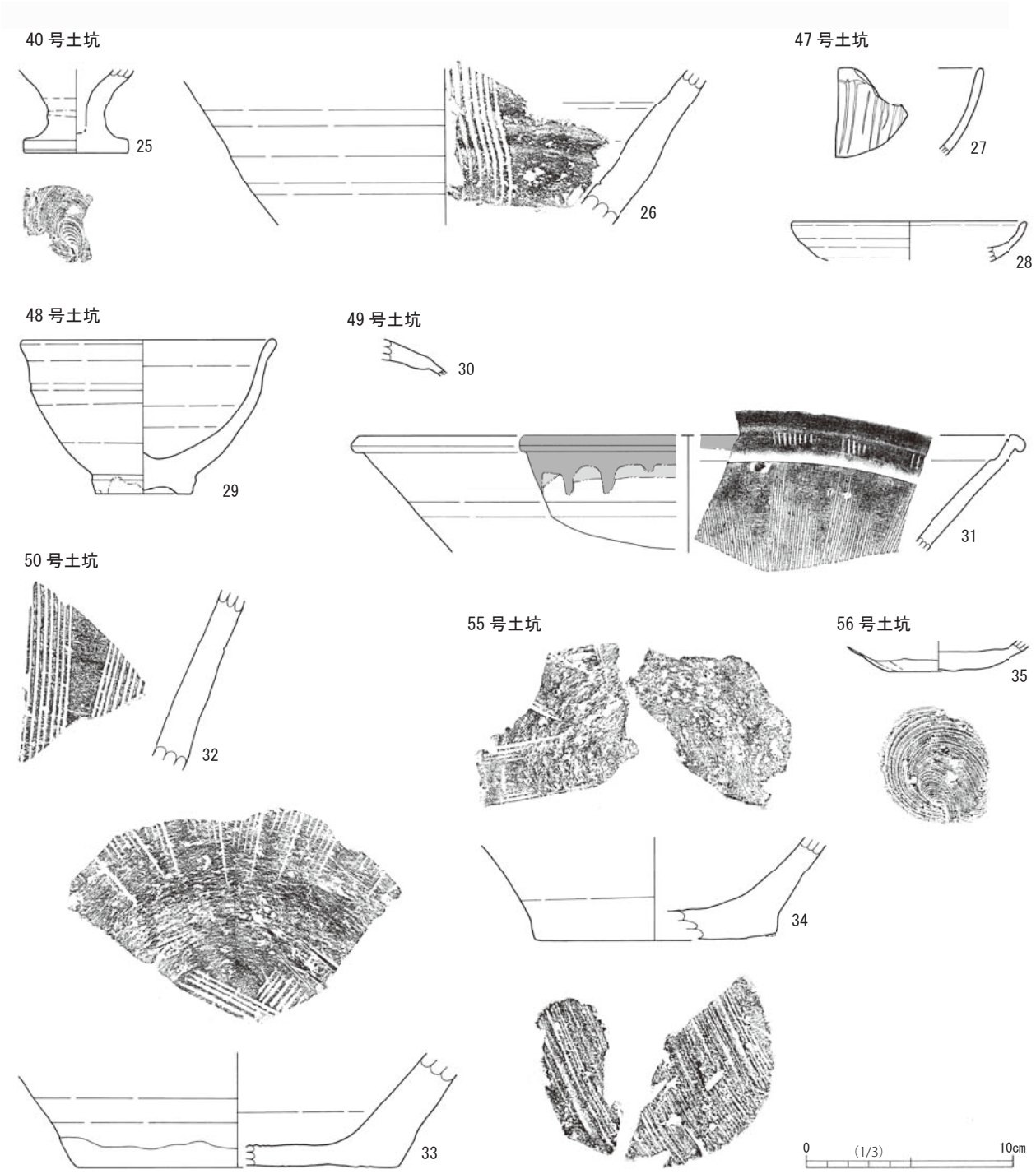
き，窓で区切る。大橋編年Ⅲ期である。61 は，内面に不明な鉄絵文が描かれる。大橋編年Ⅰ期のものである。

30 号溝では，肥前系磁器碗（62）・肥前系陶器皿（63）が出土している。63 は，外面に灰釉，内面に銅緑釉を掛け分けている皿である。62 は大橋編年Ⅱ－２期～Ⅲ期，63 はⅣ－１期に位置付けられる。

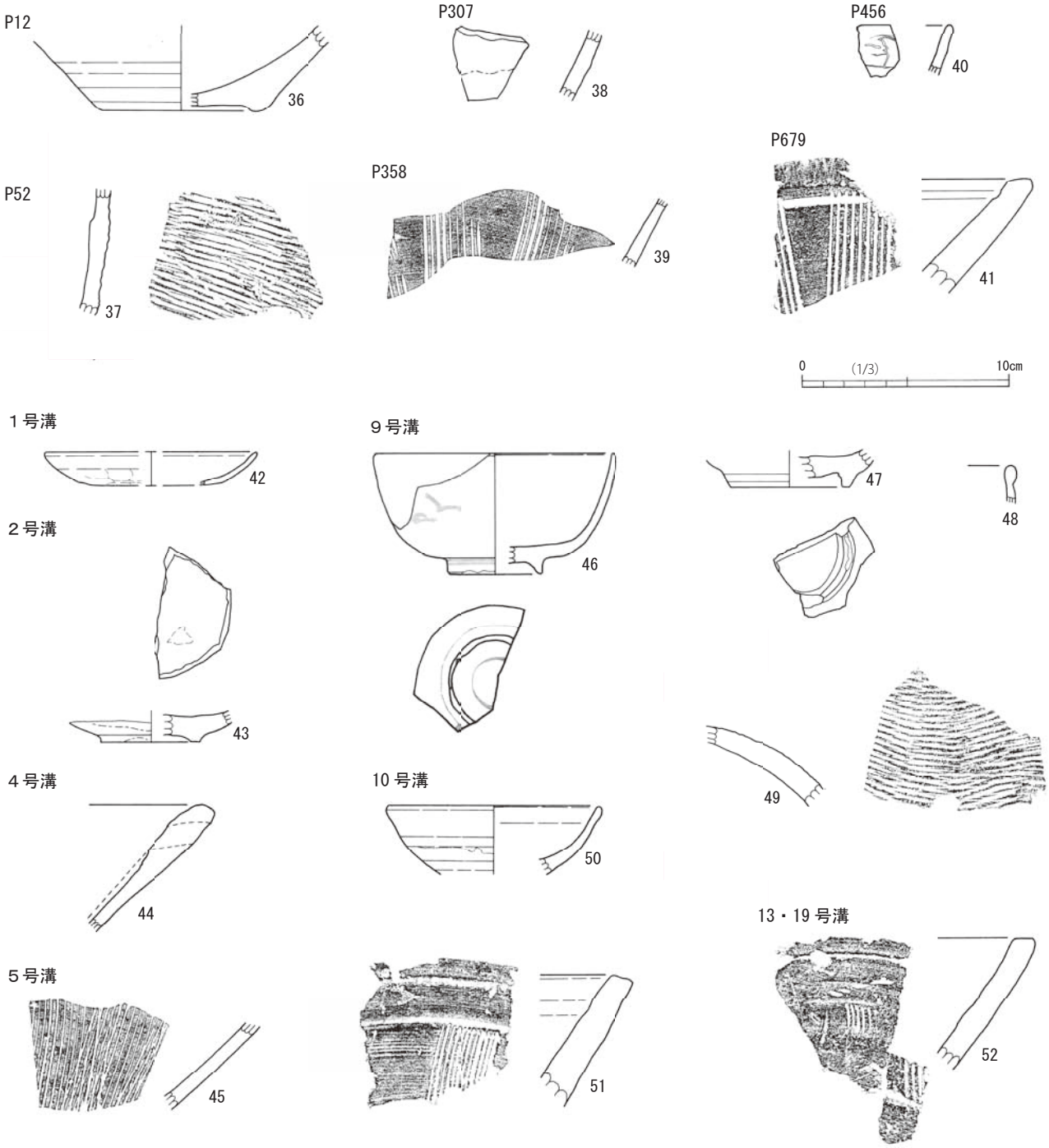
31 号溝からは，肥前系陶器皿と思われる底部片（64）と同擂鉢（65）が出土した。65 は，内面の擦れが著しい。64 は大橋編年Ⅰ期，65 はⅡ期～Ⅲ期に位置付けられる。

堀（第 71 図，図版 10）

龍泉窯系劃花蓮弁文青磁碗（66）・同青磁碗（67）・瀬戸美濃焼内禿皿（68）が出土している。66 は，内面に焼



第69図　土坑出土 土器・陶磁器

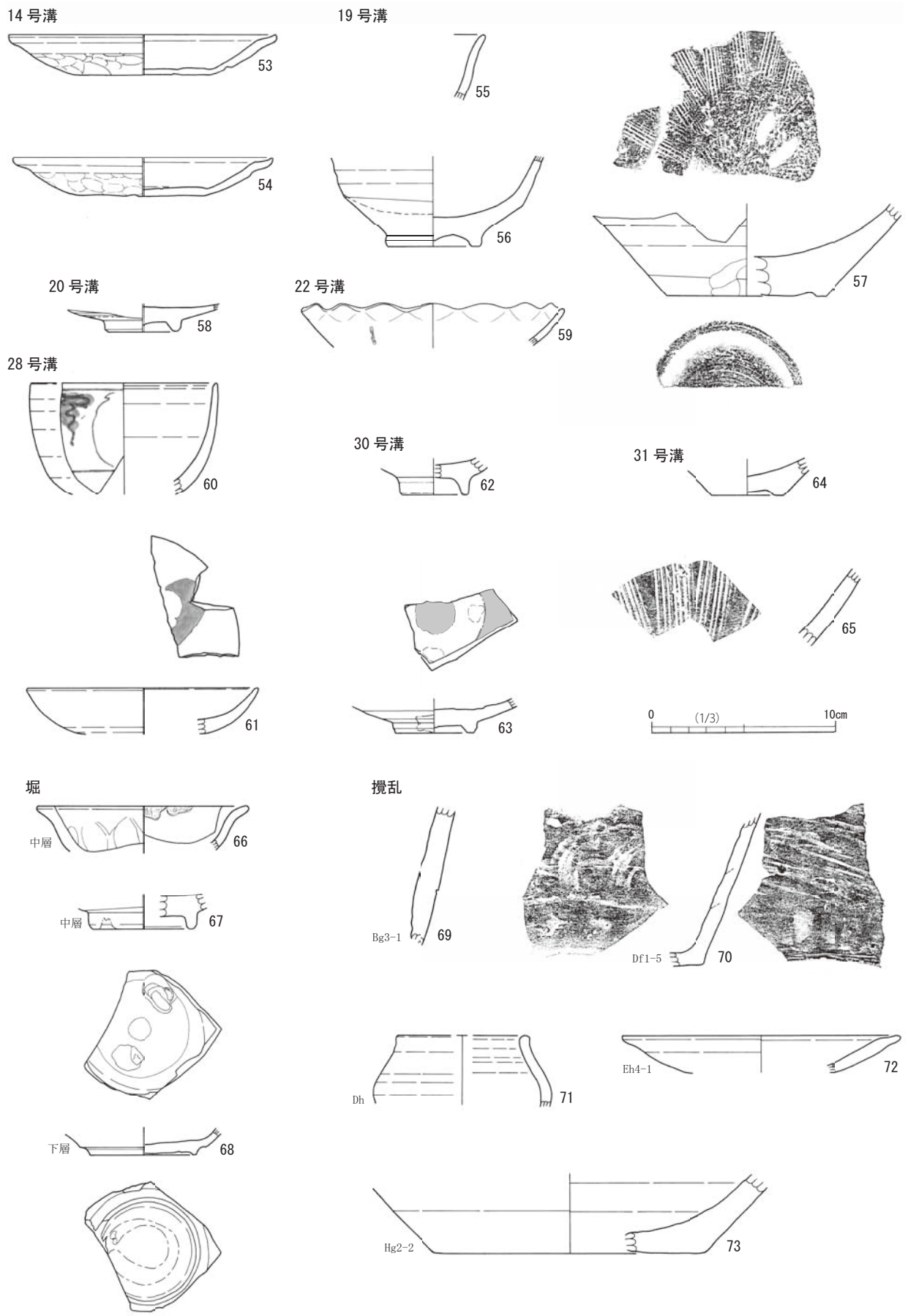


第70図　ピット・溝出土 土器・陶磁器

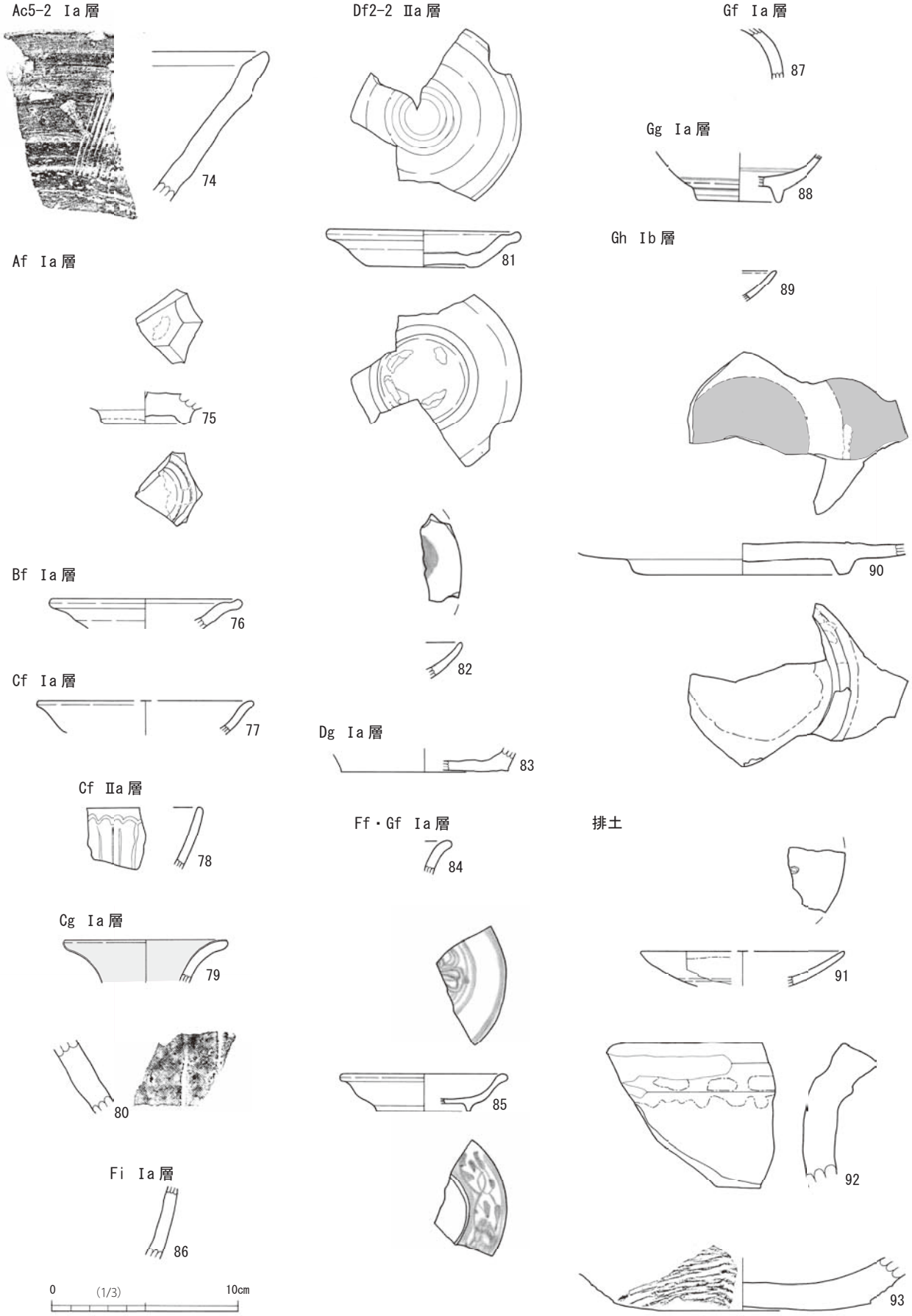
成の際の砂塊が付着している。上田分類Ｂ－Ⅱ類のもので，15 世紀前半に位置付けられる。67 は，内底面に細かな傷が多くみられる。上田分類Ｄ－Ⅰ類に該当し，14 世紀後半のものである。68 は，藤澤分類の Bc 類にあたる。内底面にトチン痕，高台内に輪ドチ痕が残る。藤澤編年大窯第４段階前半のものである。

攪乱（第 71 図，図版 10）

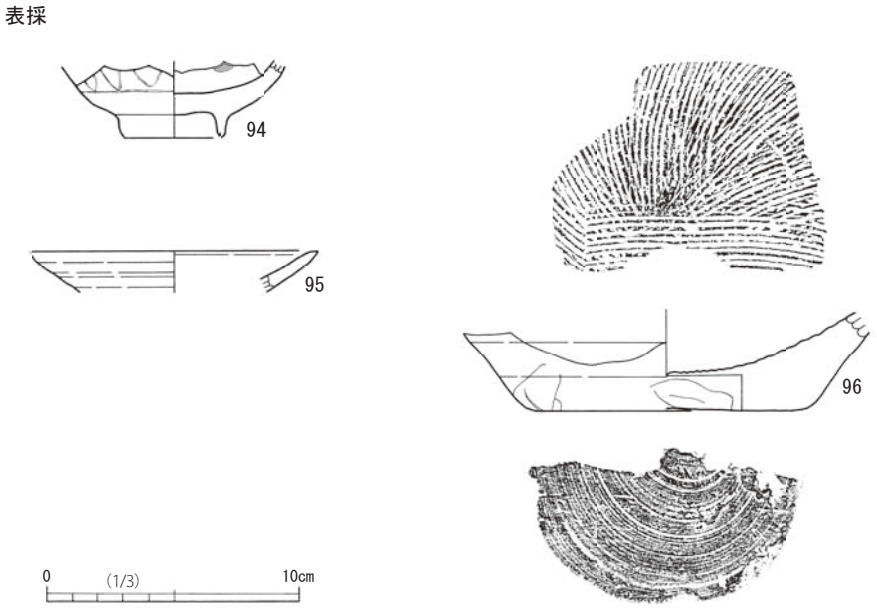
信楽焼壺または甕（69）・肥前系陶器壺または甕（70）・越中瀬戸焼または瀬戸美濃焼広口小壺（71）・中世土師器皿（72）・珠洲焼片口鉢または壺（73）が出土している。70 は大橋編年Ⅱ期，72 は軟質で摩耗しているが 16 世紀前半の手づくね成形，73 は吉岡編年Ⅱ期～Ⅲ期のもので内面の擦れが著しい。その他は年代不詳である。



第71図　溝・堀・攪乱出土 土器・陶磁器



第72図　遺構外出土　土器・陶磁器（1）



第73図　遺構外出土 土器・陶磁器（２）

遺構外出土（第 72・73 図，図版 10・11）

74 は，珠洲焼の片口鉢である。内面の擦れが著しい。吉岡編年Ⅵ期である。75 は，森田分類Ｂ群と考えられる青白磁の碗である。内底面と高台部に砂が付着している。15 世紀のものであろうか。76 は，藤澤編年大窯第４段階の瀬戸美濃焼折縁皿である。77 は，口縁部が外販する白磁皿である。森田分類のＥ－２類で，16 世紀前半のものであろう。78 は，龍泉窯系の細蓮弁文青磁碗である。弁先と蓮弁とを描き分けている。上田分類Ｂ－Ⅳ類で，15 世紀後半のものであろう。79 は，いわゆる伊万里青磁の花瓶であろうか。時期は不明である。80 は，越前焼の壺または甕の破片である。外面に縦方向に２条のヘラ記号を施す。田中・木村編年Ⅳ－２期以降のものである。81 は，藤澤編年大窯第４段階後半の折縁皿である。底部内外面に輪ドチ痕が明瞭に残る。82 は，肥前系陶器の鉄絵皿である。大橋編年Ⅰ期のものである。83 は，中国陶器の長胴瓶または壺の底部片である。84 は，龍泉窯系青磁碗である。上田分類Ｂ－１類またはＤ類で，15 世紀前半のものであろう。85 は，漳州窯系青花皿である。外面に牡丹唐草文，内底部に十字花文を描く。小野分類のＢ１（Ⅳ）で，15 世紀後半～ 16 世紀前半に位置付けられる。86 は，白磁壺の胴部片，87 は瓦燈の肩部であろうか。88 は，肥前系磁器碗である。焼成時の温度が上がらなかったためか，釉が溶けきれずに白濁しており，透明感がない。大橋編年Ⅳ期前半である。89 は，青白磁の内湾皿である。15 世紀代のものであろう。90 は，肥前系陶器の大橋編年Ⅳ期前半の大ぶりな皿である。内外面で釉を掛け分け，見込は蛇の目に釉剥ぎする。91 は，18 世紀末～ 19 世紀頃の信楽焼の皿である。18 世紀後半以降の遺物は，これ以外はほとんど見当たらないことから，18 世紀後半以降はこの土地の利用が大きく変わった可能性が高い。92 は越前焼甕の口縁部片である。田中・木村編年Ⅴ－１期に位置付けられる。93 は，珠洲焼の甕の底部片である。吉岡編年Ⅳ期以降のものであろう。94 は，大橋編年Ⅱ期末～Ⅲ期の肥前系磁器網目文丸碗である。内面の一部に漆が付着する。95 は，肥前系陶器皿である。大橋編年Ⅰ－２期～Ⅱ－１期に位置付けられる。96 は，大橋編年Ⅱ期～Ⅲ期の肥前系陶器擂鉢である。擂目が比較的よく残り，使い込まれてはいない。

（２）土製品（第 74 図，図版 11）

97・98 は，焼成粘土塊である。97 は 27 号掘立柱建物 P427 から，98 は P431 から出土した。遺構から出土したものであるが，両者が帰属する年代は不明である。

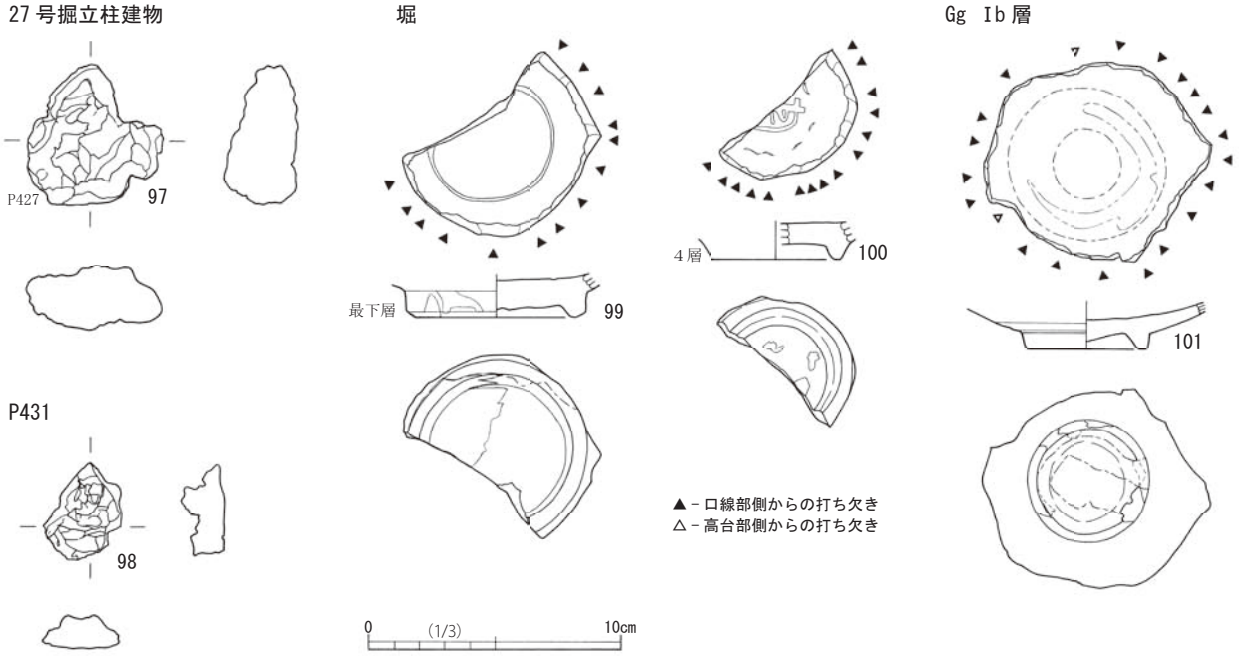
99 から 101 は，加工円盤である。99・100 は龍泉窯系青磁碗，101 は肥前陶器皿を使用し，底部周辺を上下方向より細かく打ち欠いて成形している。加工円盤の用途は相羽氏などが検討しているが（相羽 2011），高台部の磨耗が顕著な 99 以外は明確な使用痕跡が認められず，用途の特定は難しい。

（３）石製品（第 75・76 図，図版 11・12）

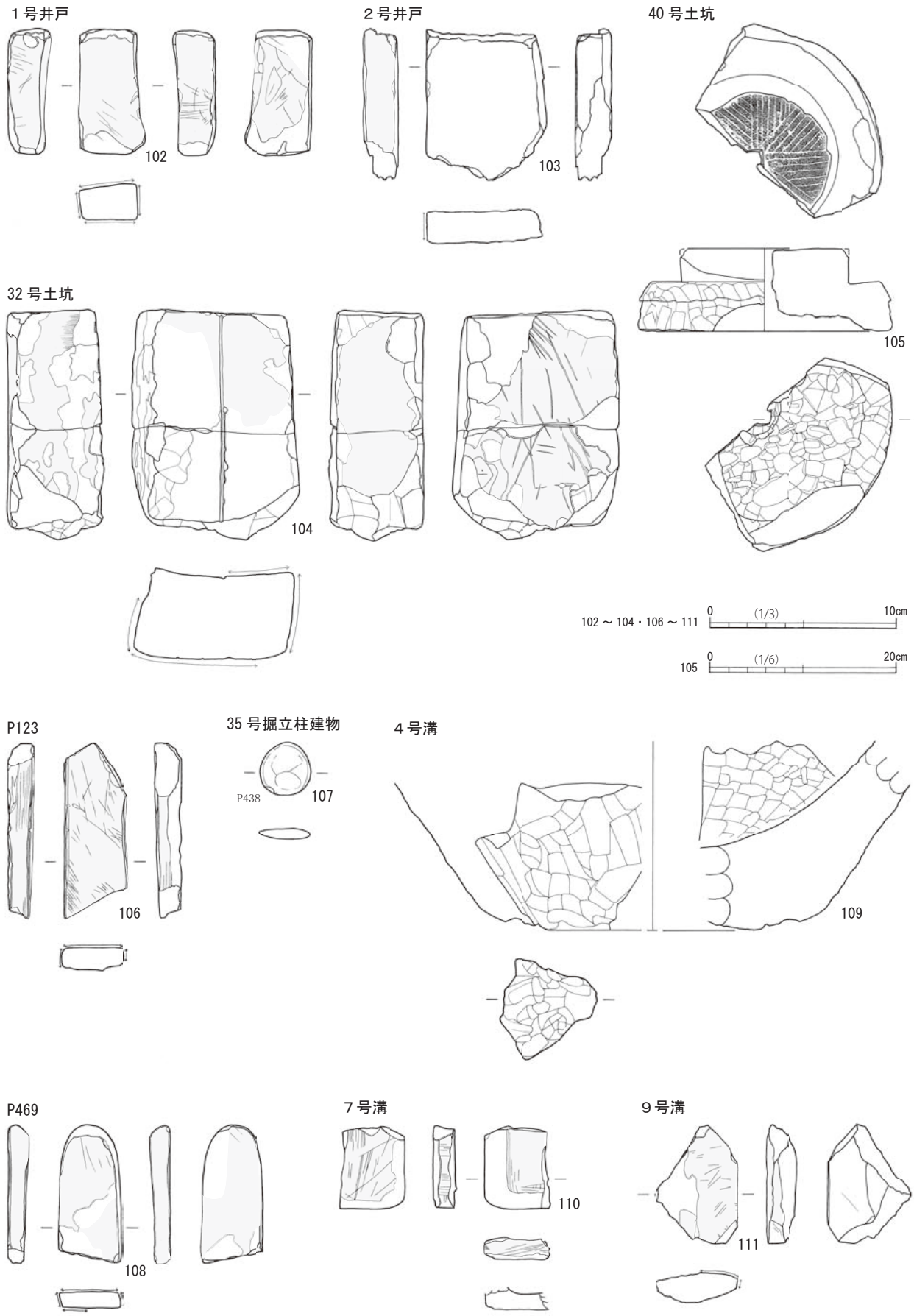
102・103 は，砥石である。102 は凝灰岩製の仕上砥で，103 は流紋岩製の中砥である。103 は風化により，磨面の剥落が顕著である。104 は大型の流紋岩製の砥石（中砥）である。筋が付けられているが，割るためにつけたものであろうか。被熱し，ススが付着している。105 は閃緑岩製の茶臼の下臼である。側面と受皿部は丁寧に磨かれており，磨面には８条８分割の磨目が刻まれる。受皿部を破砕後に，廃棄されたと考えられる。106 は頁岩製の砥石である。側面にノコギリ痕のような筋が残る。鳴滝産と見られる。107 は碁石である。頁岩製の黒石で，全面が磨かれている。108 は，結晶片岩製の砥石である。中砥に使用されたものであろう。109 は，花崗閃緑岩製の石鉢である。内面は細かく片刃で小割りされ，平滑に仕上げられている。外面は剥落しやすくなっており，被熱による影響が想定される。110 は，頁岩製の硯である。陸部の角のみ残存している。縁側面に，平タガネによる調整と見られる痕跡が残る。側面と背面に顕著な磨痕があることから，砥石へ転用されたであろう。111 は輝緑岩製，112 は流紋岩製の砥石である。いずれも中砥に使用されたものであろう。112 の端面には，細かく調整された痕が残る。113 は，粉引臼片である。下臼としたが，上臼の可能性もある。閃緑岩製で，磨面は良く擦れている。114 は，流紋岩製の砥石である。中砥で,伊予産と見られる。115 は,黄色みがかった頁岩製の砥石である。鳴滝産と見られる。116 は，流紋岩製の砥石である。中砥に使用されたであろう。風化により，磨面の剥落が著しい。

（４）銭貨・金属製品（第 77 図，図版 11）

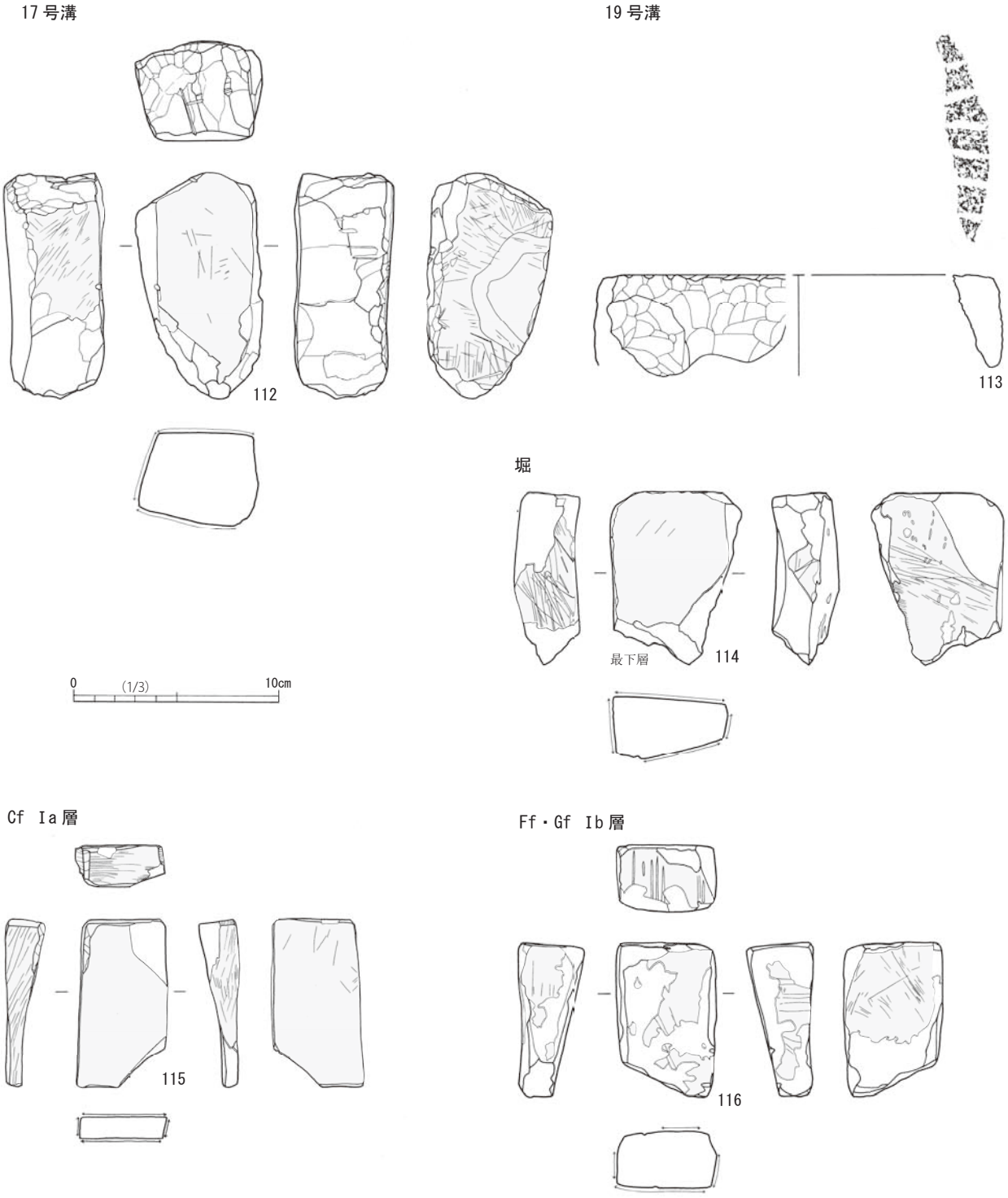
本来ならば，個別に記載すべきところであるが，両者とも出土量がわずかなため，まとめて記載する。



第74図　土製品


1号井戸
102
2号井戸
103
40号土坑
105
32号土坑
104
102～104・106～111
0
(1/3)
10cm
105
0
(1/6)
20cm
P123
106
35号掘立柱建物
P438
107
4号溝
109
P469
108
7号溝
110
9号溝
111

第75図　石製品（1）



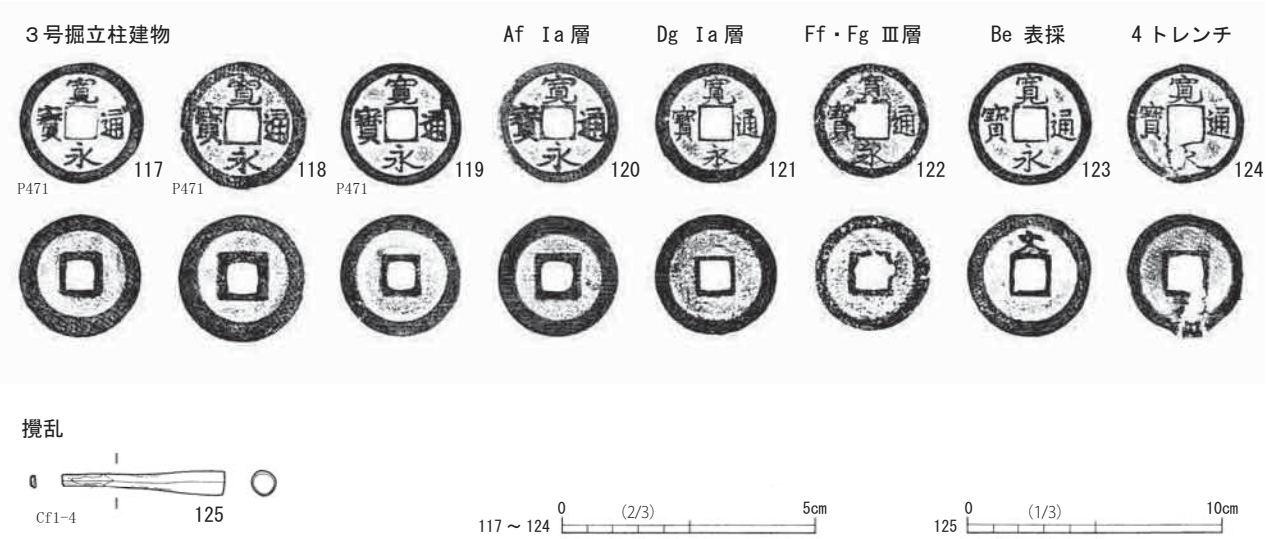
第76図　石製品（２）

出土した銭貨は，いずれも寛永通寶である。117 ～ 120 は古寛永通寶，121 ～ 124 は新寛永通寶で，123 は文銭である。117 ～ 119 は 3 号掘立柱建物 P471 からまとまって出土したもので，ほかは遺構外出土である。

125 は煙管の吸口である。真鍮の薄い板を筒状に丸め接合したもので，口元部分に噛んだ後の凹みが残る。

（５）木製品（第 78 ～ 83 図，図版 13・14）

126 は下駄である。柾目のスギ材の連歯下駄だが，あまり遺存状態は良くない。127 は折敷の底板である。斜め



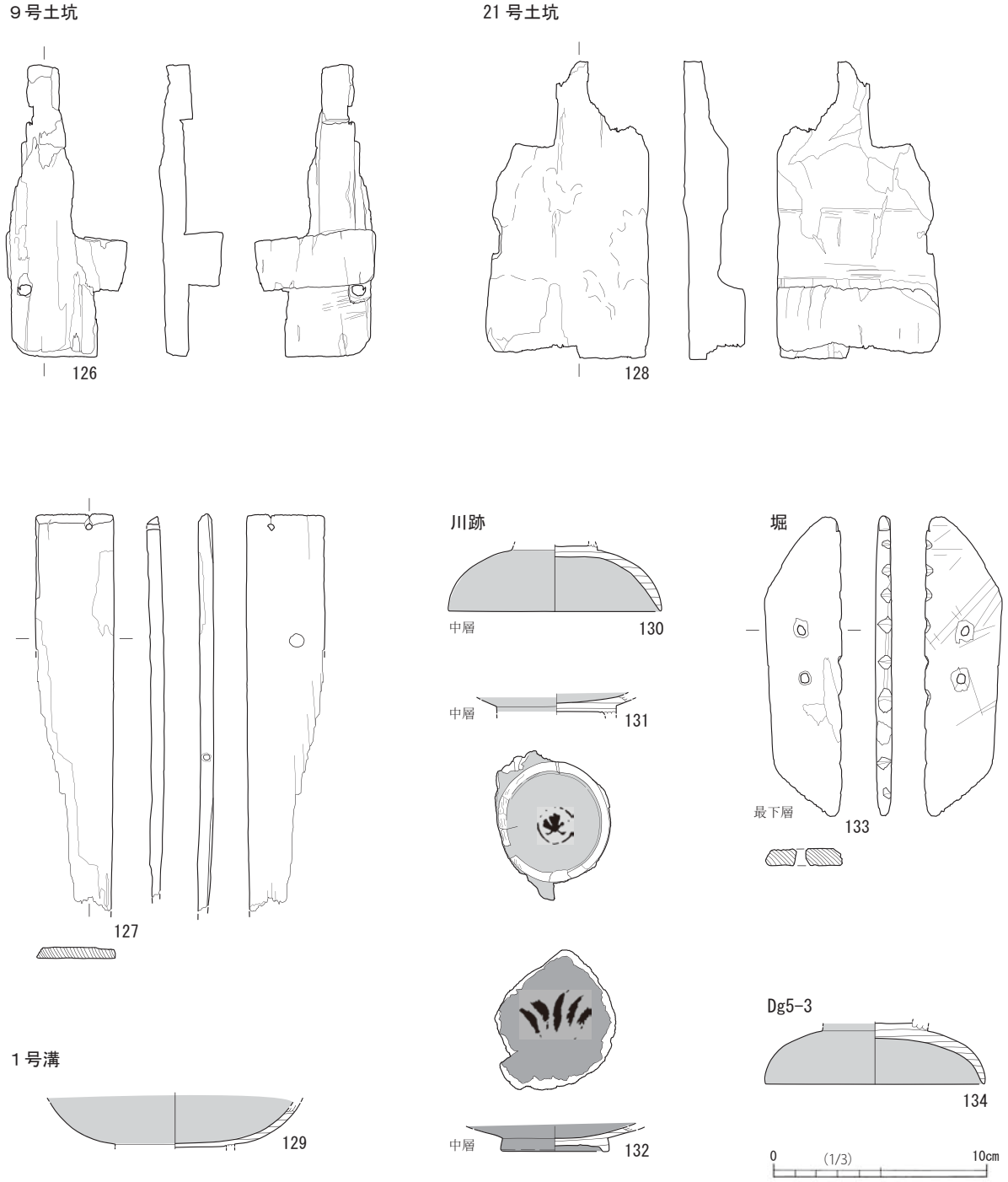
第77図　銭貨・金属製品

に切り落とした木口面と，側面に木釘の穴が残る。針葉樹の柾目材であろう。128 は連歯下駄である。上面は，使用によると思われる磨滅が認められる。モクレン属の柾目材を使用している。129・131・132 は漆器椀，130・134 は漆器蓋である。いずれも横木取りの材を使い，作られている。全体の傾向として，蓋は碗に比べると木胎が厚めである。129 は皆朱椀である。全体的に漆が剥落しているが，一部に残存する。130 は，皆朱の蓋である。遺存状態は悪いが，内外面に朱漆が残っている。131 は皆朱碗である。漆の遺存状態は比較的良い。高台内に黒漆で花文を描く。132 は黒漆椀である。漆の遺存状態は比較的良好である。内底面に，五枚笹文と思われる文様を朱漆で描く。134 は，皆朱の蓋である。内外面に朱漆が残存する。133 は，不明木製品である。曲物の底板の転用品であろうか。長側面に刻みをいれ，中央部に縦方向に二カ所孔を穿つ。そこに紐状のものを通して使用したのであろうか，孔の周囲がやや擦れている。

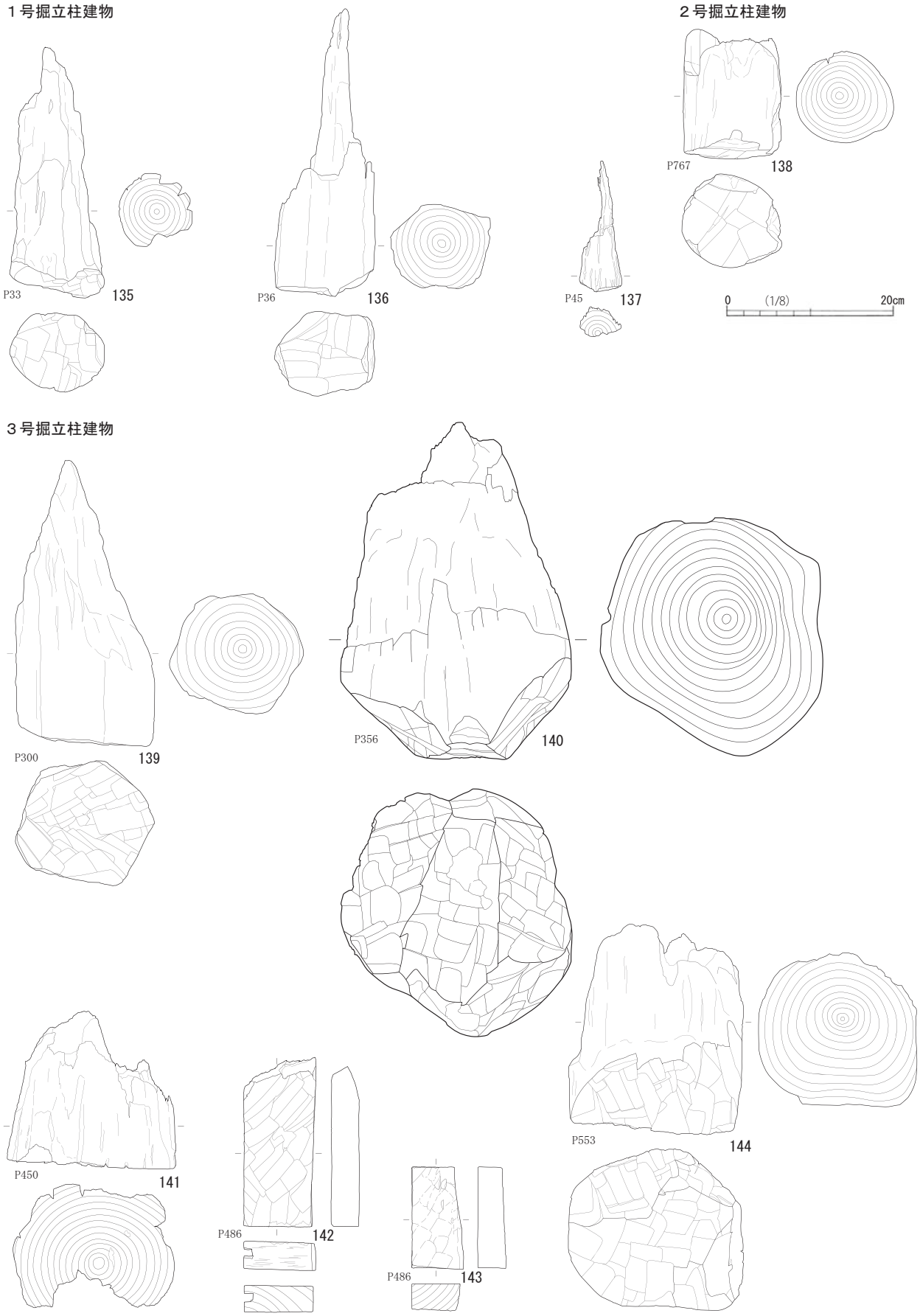
135 からは，柱・杭・材などの部材である。未報告分も含め，出土した木製品の大半はこれらの部材である。出土した木製品や掲載したものの全ての樹種を調べてはいないが，柱材にはクリ・コナラ属コナラ節・モクレン属・カキノキ属が使用され，中でもクリ材が圧倒的に多い。

135 ～ 137 は，１号掘立柱建物の柱である。135・136 はコナラ属コナラ節の丸木取り材を使用している。136 は表面を多角形状に割り裂いている。底面は四方向からチョウナで粗く削り出し，鈍い先端を作出している。137 の樹種は不明で，前の二者に比べ細い材を使用している。底面は二方向から削り出し，鈍いＶ字状に仕上げている。138 は，２号掘立柱建物の柱である。カキノキ属の丸木取り材を使用し，底面はチョウナで水平に削っている。139 ～ 144 は，３号掘立柱建物出土である。139 は柱で，コナラ属コナラ節の丸木取り材を使用している。表面は多角形に打ち割り，底面はチョウナで粗く削り，平坦に仕上げている。140・141 は，クリの丸木取り材を使用した柱である。140 は底面をチョウナで粗く削り，逆台形状に作り出している。141 は底面を水平に作出しているが，加工痕は不明瞭である。142・143 は，P486 から出土した薄い角材である。142 の木場面には，ノコギリとノミで溝が削られているが，用途は不明である。144 は，クリの丸木取り材の柱である。底面から下端部を，チョウナで二方向からＶ字状に削り出している。145・146 は，切り合い関係にある３号掘立柱建物 P543 と９号掘立柱建物 P639 から出土した柱状の材である。145 は偏半割材を，146 は芯去ミカン割材を使用し，いずれもノミ状の工具で抉りが入れられている。147 は，９号掘立柱建物の柱である。クリの丸木取り材を使用し，底面はチョウナで，逆台形状に粗く削り出されている。下端部には，ノミでＵ字状のエツリ穴が穿たれている。148 は 10 号掘立柱建物，

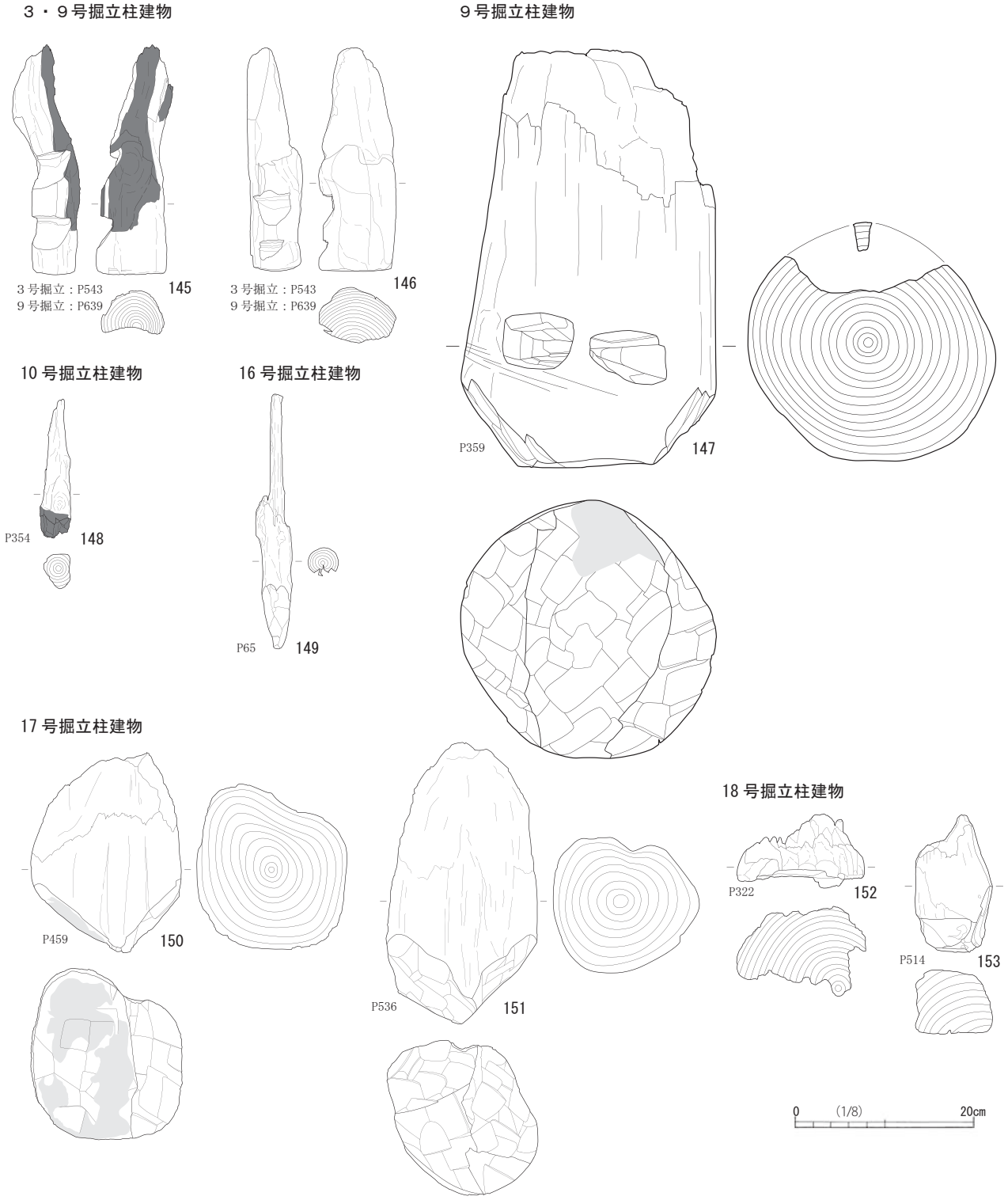
149 は 16 号掘立柱建物から出土した杭である。いずれも先端を粗く削り出している。148 は先端部が焦げていることから，松明であった可能性もある。150・151 は，17 号掘立柱建物の柱である。いずれもクリの丸木取り材を使用している。150 は底面に砂が付着し，加工痕が一部不明瞭であるが，両者とも底面をチョウナでＶ字状に粗く削り出している。152・153 は，18 号掘立柱建物の柱である。152 は芯持ミカン割材，153 は芯去ミカン割材を使用している。154 ～ 157 は 24 号掘立柱建物の柱である。いずれもクリ材であるが，154 はミカン割材，155 は半割材，156･157 は丸木取り材を使用している。底面はいずれもチョウナで粗く削っているが，154 は斜めに，155 は平坦に，156・157 は二方向から斜めに削り出している。158 ～ 160 は，25 号掘立柱建物の柱である。いずれもクリ材で，



第78図　木製品（１）


1号掘立柱建物
2号掘立柱建物
3号掘立柱建物
P33
135
P36
136
P45
137
P767
138
0
(1/8)
20cm
P300
139
P356
140
P450
141
P486
142
P486
143
P553
144

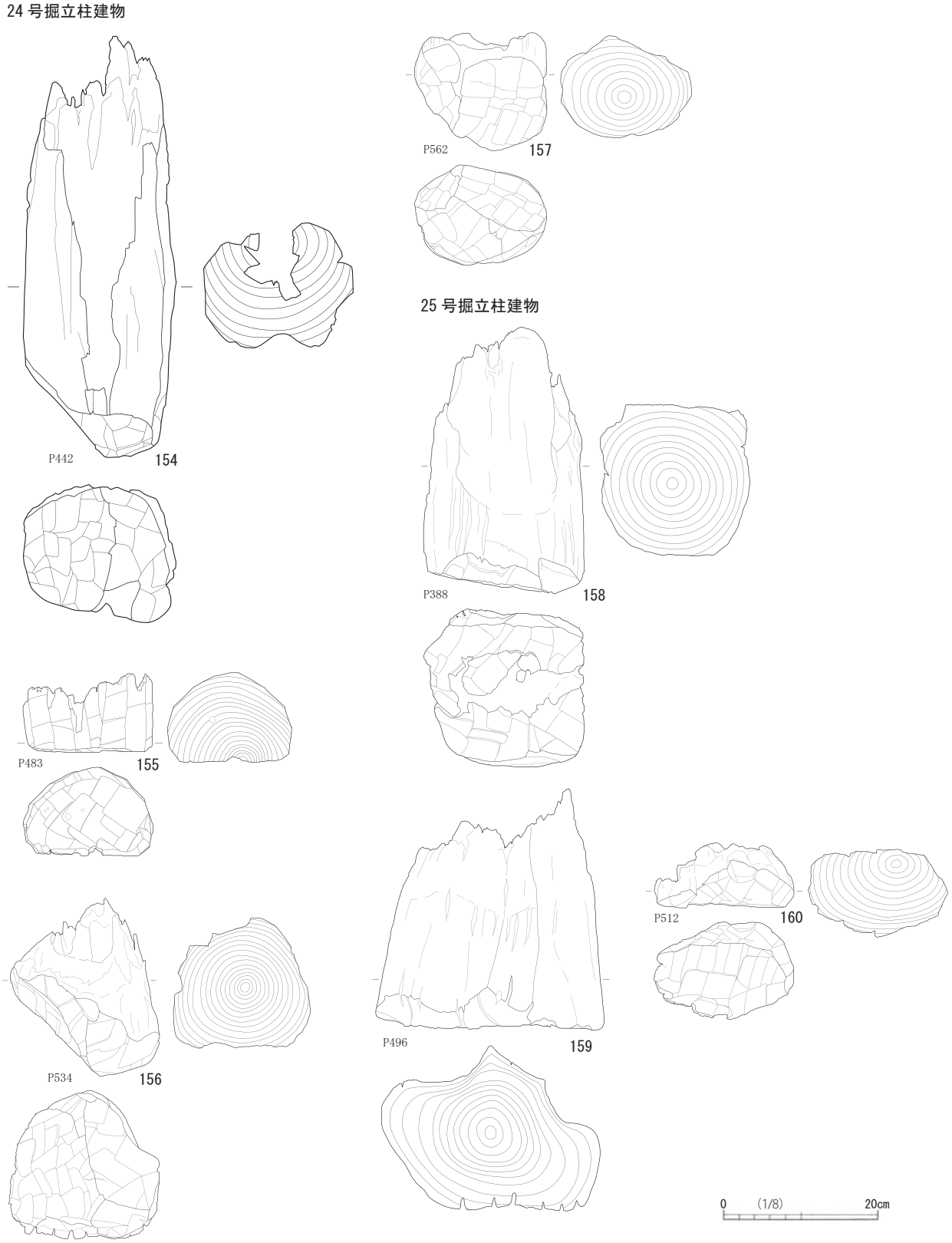
第79図　木製品（2）



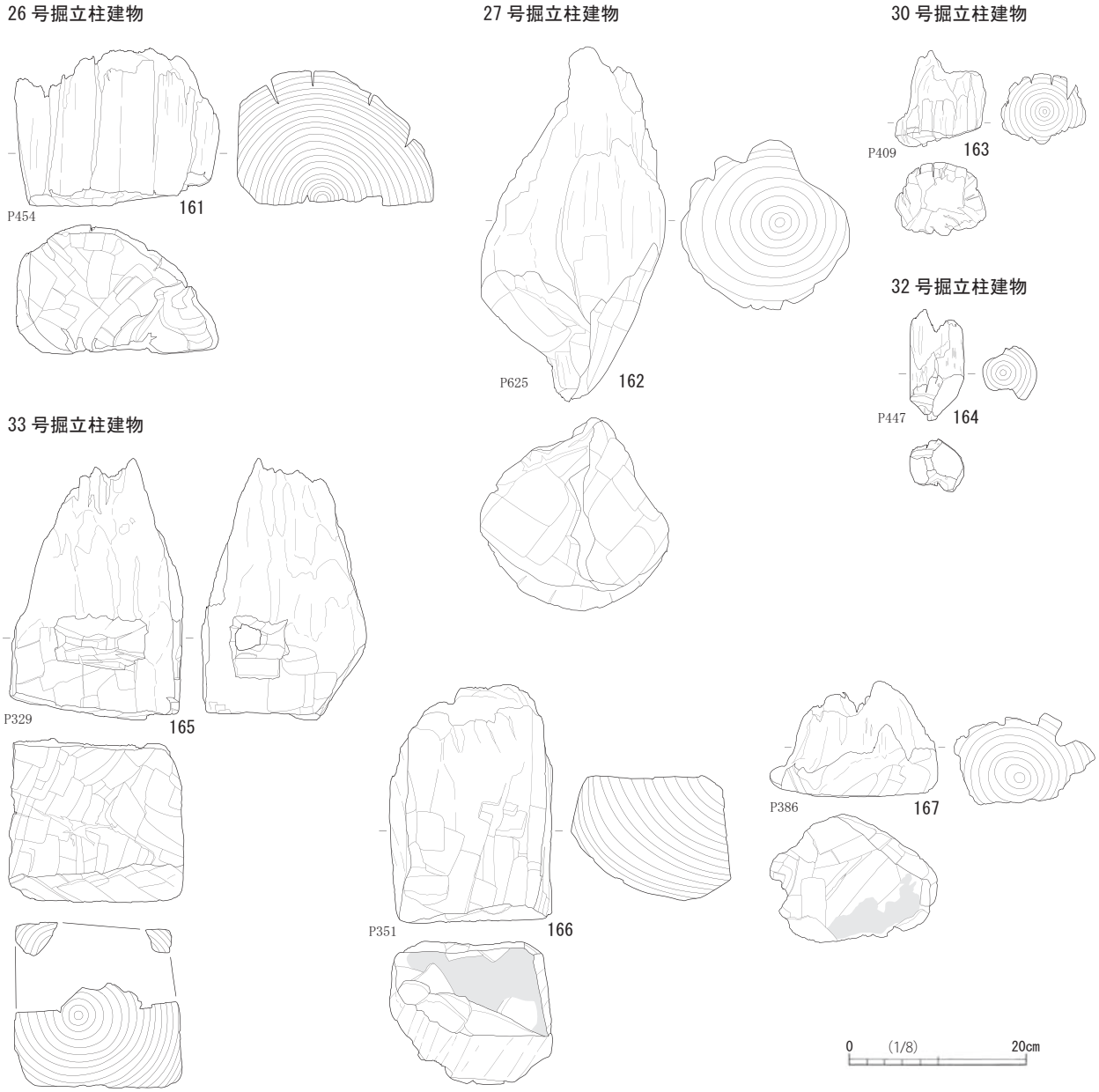
第80図　木製品（３）

158･159 は丸木取り，160 は偏ミカン割材を使用している。底面は，159 が平坦に作り出されるが加工痕は不明瞭で，158・160 はチョウナで粗く削り整えているだけである。161 は，26 号掘立柱建物の柱である。偏ミカン割のクリ材を使用し，底面はチョウナで粗く削り，平坦に仕上げている。162 は，27 号掘立柱建物の柱である。丸木取りのクリ材を使用し，底面はチョウナでＶ字状に粗く削り出している。163 は，30 号掘立柱建物の柱である。偏半割材を使用している。底面は平坦に削られているが，加工痕はやや不明瞭である。164 は，32 号掘立柱建物の柱である。

細身の柱で，偏ミカン割材を使用している。下端部から底面を，四方向から粗く削り出している。165 ～ 167 は，33 号掘立柱建物の柱である。165 はコナラ属コナラ節の丸木取り材，166 はクリの芯去りミカン割材，167 はクリの偏半割材を使用し，165 は表面をチョウナで削り角材に，166 は三辺をチョウナで削り角材状に仕上げている。

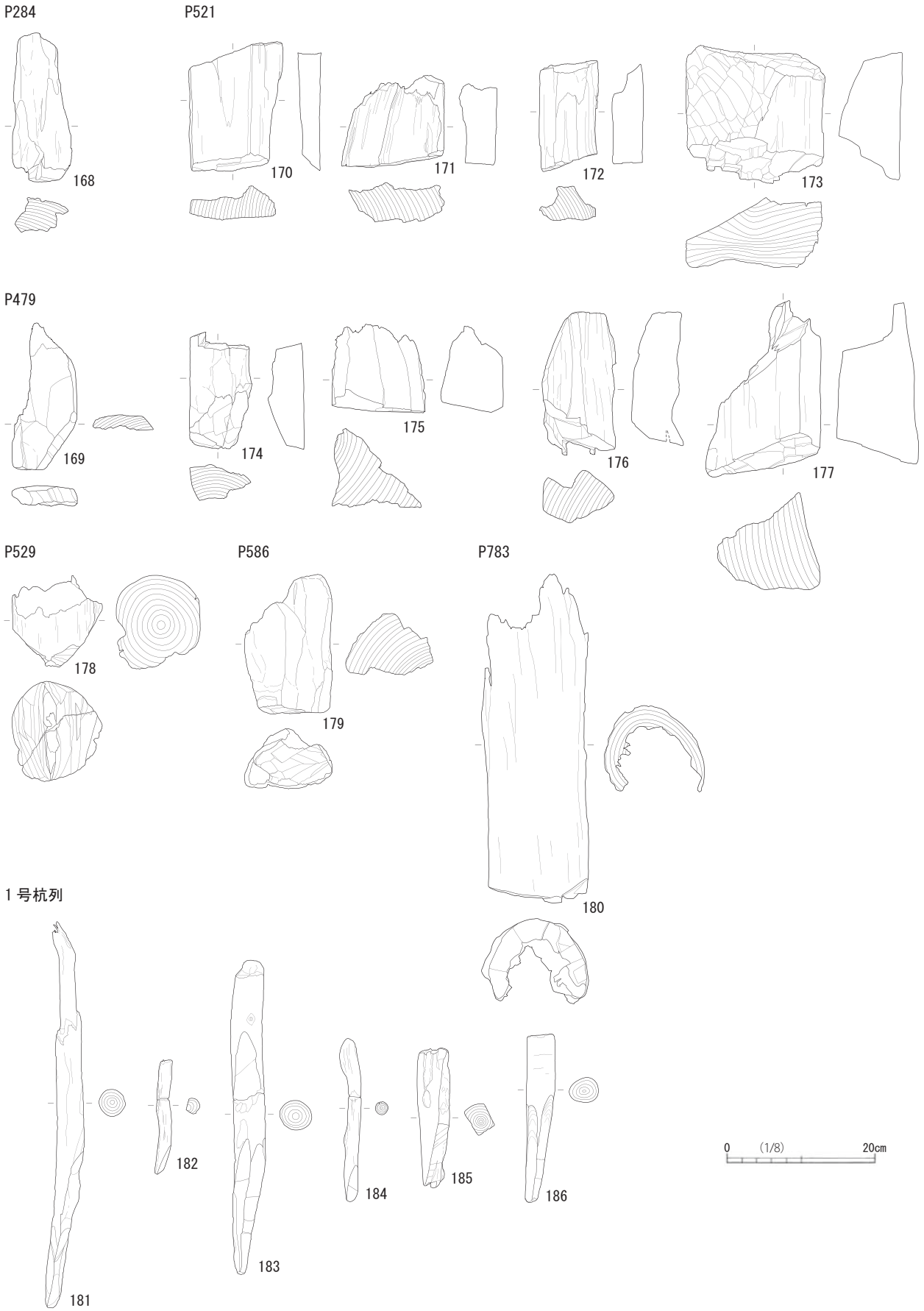


第81図　木製品（4）



第82図　木製品（５）

なお，165 の下端部には，ノミでＴ字状にエツリ穴を穿っている。底面は，いずれもチョウナで平坦気味に削っているが，166・167 は底面の一部に砂が付着し，加工痕が不明瞭である。168 は，P284 から出土した柱である。芯去ミカン割材を使用している。169 は，P479 出土の板状の材である。木口面や木端面にチョウナで粗く削った跡が見られる。170 ～ 177 は，P521 出土の材で，まとめて投棄された状態で検出された。いずれの材にもチョウナで加工した痕跡が認められるが，何らかの理由で切り落とされ，廃棄されたものであろう。178 は，P529 から出土した柱である。丸木取りの材を使用している。底面は，チョウナでＶ字状に粗く削り出している。179 は，P586 から出土した柱である。芯去ミカン割材を使用し，底面はチョウナで平坦に粗く削っている。180 は，P783 から出土した柱である。腐植により内部の欠損が著しいが，丸木取りのクリ材を使用したと見られる。底面は，チョウナで平坦に粗く削っているようである。181 ～ 186 は，1 号杭列から出土した杭である。先端部の加工は，径の太い杭のうち，185 を除いた 181・183・186 は，多方向から削り出し尖らせているが，径の細い 182・184 は，斜めに削り落としているだけである。


P284
168
P521
170
171
172
173
P479
169
174
175
176
177
P529
178
P586
179
P783
180
1号杭列
181
182
183
184
185
186
0 (1/8) 20cm

第83図　木製品（6）

６　先史時代の遺物

（１）縄文土器（第 84 図，図版 11）

縄文土器と石器は，川跡と堀の壁面の黒色土から出土した。二次堆積と考えられ，遺物の摩滅が顕著である。

縄文時代中期後葉の新発田市周辺は，東北地方南部に広く分布する大木９式土器圏に含まれる。187 の土器は直径 22.0cm の深鉢で，ほぼ直立気味の口縁部で端部が緩く外反し，体部中位を欠くものの底部に向けてほぼ直線的にすぼまる大木９ｂ式の器形である。大木９ｂ式の文様は，口縁部を無紋帯とし，太い沈線を用いた縦長の楕円区画を横方向に連続させ，その区画内に縄文を充填させるが，本例は区画文の上端が隅丸長方形のように幅広で，下端が閉じない逆U字状の区画の中に太い縄文原体の単節RLを上から下へと回転施紋する。区画文と区画文の間には，上端の盲孔から垂下沈線が描かれる。この幅広の区画文と交互に配された垂下沈線文は，大木９式と同時期の北関東加曾利Ｅ３式に見られる特徴である。ただし，加曾利Ｅ３式の垂下沈線は，上端がクエスチョンマークのように丸まる蕨手文となる。器形図の左側拓本で，本来の大木９ｂ式に見られるような幅狭い長楕円の区画文がある。これは器面を一周する文様の最後の閉じ部分に当たり，残った無紋地に文様を押し込んだ結果であろう。よって本例は，器形や胎土が在地の大木９ｂ式であり，そこに加曾利Ｅ３式の文様の情報が変容しつつ移入された折衷土器と言える。同様の文様は，阿賀町北野遺跡上層で出土している（高橋・高橋ほか 2005）。

188 ～ 190 は，後期前葉の南三十稲場式新段階の深鉢形土器で，188 は緩くくびれる頸部，189・190 は体部下半の同一個体である。188 には，細い平行沈線が極浅く引かれ，帯状に残った部分へ縄文が施されているはずだが，器面が荒れていて判別できない。189・190 は，無節の縄文原体Ｌを斜め方向に置いて回転施紋するため，縄文の条は縦方向に走る。器面全体に施されたこの縄文の上に，細い多条沈線が割と粗く引かれる。南三十稲場式新段階で一般的な集合沈線間の充填縄文ではなく，また器壁が薄く文様も細かいため，南三十稲場式新段階でも最も新しい一群に含まれよう。191・192 は同一個体で，細い集合沈線がランダムに引かれ，193・194 は外面に指のナデ跡が残る。いずれも南三十稲場式深鉢形土器の体部下半と考えられる。

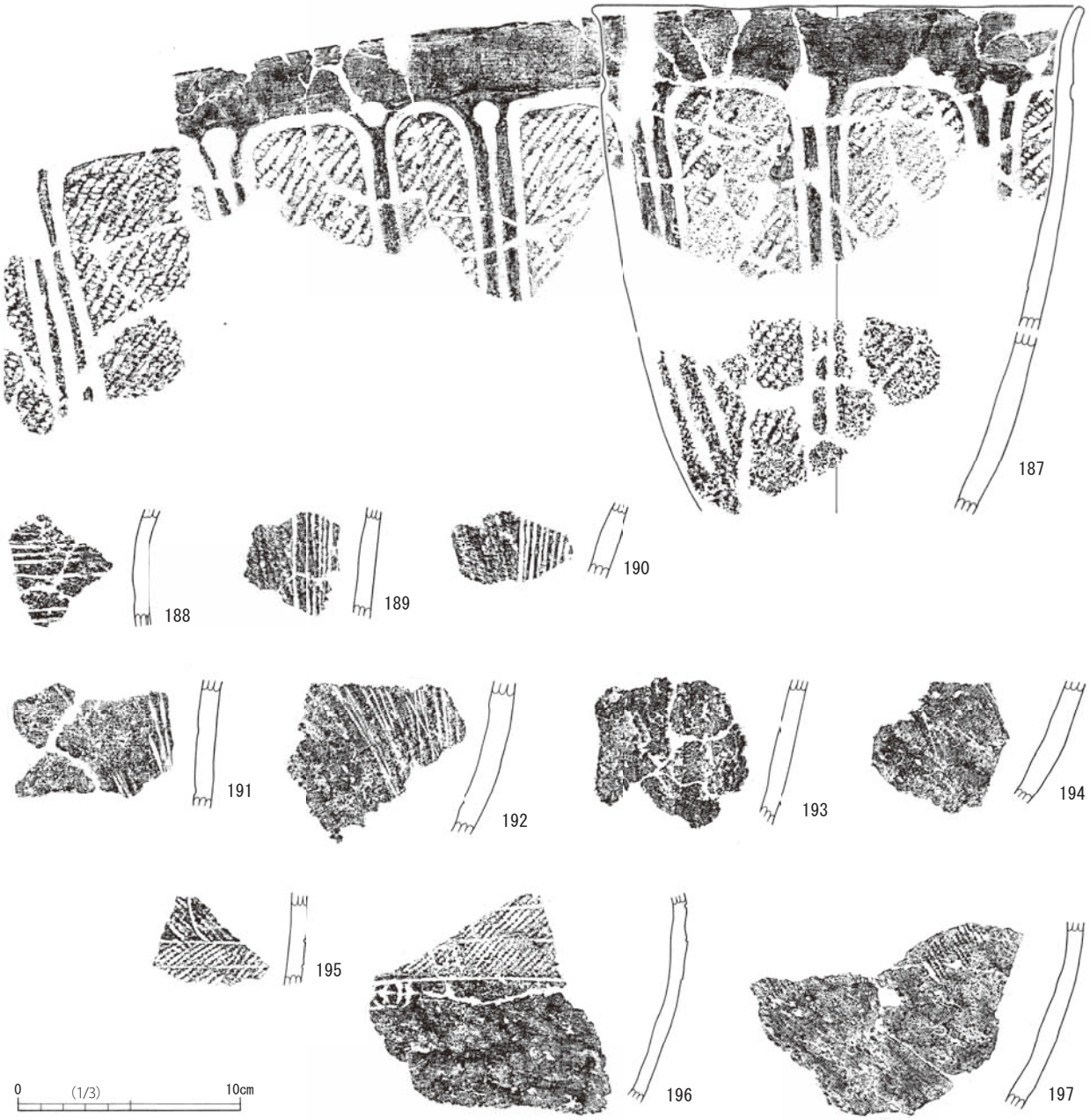
195 ～ 197 は，後期中葉の加曾利Ｂ２式土器で，細い沈線と細かな縄文で多段の磨消縄文帯を形成する。195・196 は同一個体で，195 はノの字状沈線が付加され，196 の無紋部左上には，単沈線による単位文が描かれる。197 も含め，縄文は単節のＬＲで，195 上半と 197 が上下方向，195 下半と 196 の縄文帯は横方向に回転施紋される。

（２）石　器（第 85 図，図版 12）

198 は，光沢のある緻密な珪質頁岩製の石刃である。頭部は，折損によって欠落している。背面には，主要剥離面と逆位の剥離がみられ，両設打面石核からの剥離といえる。側縁全体に微細剥離痕が連続するが，剥離の形状や角度は一定しない。稜線の摩滅と器面全体に不自然な光沢があり，ローリングなど二次的な作用を受けたと考えられる。排土からの出土だが，形態から旧石器時代の帰属としたい。

199 は，縄文時代の両刃の削器，あるいは横形石匙の一部であろう。光沢のある珪質頁岩で，正面側からの加力で折れている。正面側は，平坦で深い二次加工が整然と並び，背面側の二次加工は急角度剥離である。右側縁には，使用によるものと考えられる微細な剥離が連続して並ぶが，使用痕の光沢はみられない。

200 は，輝緑岩製の磨製石斧である。中央部で折れ，頭部を欠落する。風化により研磨痕は観察できないが，表面が平坦なことと，側面が面取りされていることから完成品と考えてよい。幅 3.5 cm，厚さ 2.0 cmの短冊形である。なお，本遺跡から西へ 140m 程離れたところに位置する中野遺跡は中～晩期の遺跡で，磨製石斧が多量に出土している。その法量は幅 4.5 ～ 6.0 cm，厚さ 2.5 ～ 3.0 cmのものが主体を占めており，200 と比べた場合，一回り程，大きさに違いがある。



第84図　縄文土器

201・202は黒曜石の石核で，表皮を多く残す。本館跡の東側丘陵一帯は，縄文時代の石器に利用される板山産黒曜石として著名な原石産出地で，長径5㎝以内の転石状小礫が砂礫層や風化凝灰岩に含まれている（関1999）。色調は漆黒・灰黒色・縞状・半透明と多様だが，目立った斑晶や不純物をほとんど含まず良質である。原石の流通範囲は，新潟県北半と福島県会津地方から北関東北部一帯で，主に縄文時代中～晩期の石鏃製作に用いられている。201は半透明の灰黒色で，小さな斑晶を極わずかに含むが良質な石質である。両極技法によって長軸の上下から同時に加撃され，次いで，この剥離された面を打面として左側面が剥離される。右上・左下や左右側縁にも，潰れ状の小剥離がみられる。202は，長径が2.6㎝と小さく，石器製作には不向きであろう。上方からの加圧による剥離が正面と右側面にみられるが，打点ははっきりしない。一見黒色だが，縁辺を光にかざすと半透明と分かり，極めて小さな斑晶をわずかに含む。肉眼観察では，いずれも板山産黒曜石と酷似する。

第85図　石　器

表２　遺構一覧表

掘立柱建物

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行(m)	面積(㎡)	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
1号掘立柱建物	梁間一間型	2間以上×1間	(2.36)×2.46	(5.81)	N-72°-E		16	16	
	重複遺構・新旧関係	<12土・8溝							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸(cm)	断面形	深さ(cm)	底面標高(m)	柱間寸法(cm)		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P33	Bf2-4	有(135)	楕円形	46×34	半円状	43	63.60	P33-P36	120	16	16	
P36	Bf2-4	有(136)	円形	44×42	台形状	36	63.69	P36-P43	(117)			
P43	Bf3-4	無	楕円形カ	(53)×(16)	漏斗状	49	63.60	P41-P44	(105)			
P41	Bf3-5,Bg3-1	有	円形カ	(31)×(17)	漏斗状	45	63.63	P44-P45	119			
P44	Bf2-5・3-5	有	円形	21×18	台形状	(21)	63.62	P45-P33	246			
P45	Bf2-5	有(137)	楕円形	19×14	弧状	(10)	63.76					

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
2号掘立柱建物	梁間二間型	4間以上×2間	(8.59)×3.65	(53.30)	N-70.5°-E		17	17・18	
	重複遺構・新旧関係	<22掘立・15・18土,>17・57土,≠8・11・16・20掘立							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P592	Cf1-5	無	方形カ	41×(33)	箱状	50	63.67	P592-P616	142	17	18	
P616	Cf2-5	無	円形	33×30	袋状	(35)	63.77	P616-P128	207			
P132	Cg1-1	無	楕円形	46×34	階段状	55	63.70	P132-P128	149			
P128	Cg2-1	無	円形	39×34	U字状	56	63.74	P128-P144	189			
P144	Cg3-1	無	円形	26×24	U字状	46	63.88	P144-P136	192			
P136	Cg4-1	無	方形	34×33	階段状	58	63.79	P136-P125	269			
P49	Cg1-5	無	不明	(40)×(12)	弧状カ	11	64.41	P49-P134	202		18	
P134	Cg2-3	無	楕円形	48×27	台形状	35	63.97	P134-P154	204			
P154	Cg3-3	無	方形	41×36	U字状	51	63.87	P154-P125	180			
P125	Cg4-3	無	楕円形	40×29	階段状	55	63.85	P125-P114	197			
P114	Cg5-3	無	円形カ	43×(33)	階段状	33	63.95	P114-P68	221			
P767	Cg2-4	有(138)	楕円形	71×35	階段状	24	64.24	P767-P134	220			
P762	Cg3-4	無	円形	45×40	階段状	60	63.86	P762-P154	193			
P68	Cg5-4	無	円形	26×22	台形状	19	64.34	P68-P82	148			
P83	Cg1-5	無	楕円形カ	(23)×23	台形状	20	64.35	P83-P60	182			
P60	Cg2-5	無	楕円形	39×26	箱状	21	64.28	P60-P64	202			
P64	Cg3-4・3-5	無	円形	35×30	U字状	60	63.90	P64-P75	183			
P75	Cg4-4・4-5	無	楕円形	44×32	半円状	27	64.13	P75-P82	192			
P82	Cg5-4・5-5	無	楕円形	41×33	階段状	55	63.87	P767-P60	170			
								P762-P64	175			

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
3号掘立柱建物	梁間三間型	4間×3間	10.66×8.17	107.49	N-71.5°-E	白磁皿(1・2),肥前磁器碗(3),肥前陶器片,古寛永通寶(117～119)	19	19	
	重複遺構・新旧関係	<27掘立・47・50土・16・19・26・29溝,>9・16・17・22・28・34掘立・1竪・10・20・32溝,≠10・13・18・21・23～26・29～33・35・36掘立							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P466	Cf2-1・3-1	無	長方形カ	105×(76)	台形状	82	63.51	P466-P578	144	19	19	
P578	Cf4-1	無	不整形	94×(78)	弧状	23	63.62	P578-P356	140			
P356	Cf5-1,Df1-1	有(140)	長方形カ	(151)×(93)	台形状	53	63.64	P356-P628	141			3
P628	Df2-1	無	楕円形	(45)×34	U字状	54	63.67	P628-P397	113			
P397	Df3-1	無	円形	(23)×(23)	半円状	18	63.81	P397-P721	89			
P478	Cf5-2	無	楕円形カ	(97)×75	階段状	44	63.77	P478-P471	92			
P721	Df3-2	無	長方形	107×84	半円状	39	63.83	P721-P396	90			
P704	Cf2-3	無	円形カ	(58)×61	台形状	32	63.75	P704-P688	141		19	
P688	Cf4-3	無	長方形カ	(33)×(23)	U字状	42	63.95	P688-P471	146			
P471	Cf5-3	無	楕円形カ	(39)×(61)	階段状	71	63.47	P471-P543	106			
P396	Df3-3	無	楕円形	43×33	階段状	45	63.80	P396-P371	132			
P556	Cf2-4・3-4	無	不明	(33)×(48)	台形状	55	63.80	P556-P575	143			
P575	Cf4-4	無	円形カ	(64)×56	台形状	48	63.83	P575-P543	141			
P543	Cf5-4	無	楕円形カ	(91)×111	台形状	70	63.60	P543-P495	132			3
P495	Df1-4	無	円形	38×38	半円状	25	63.87	P495-P371	127			
P371	Df3-4	無	不整形	(85)×69	階段状	55	63.77	P371-P300	159		20	
P300	Df4-4	有(139)	楕円形	56×36	台形状	37	63.88	P300-P316	98			3
P680	Cf2-5	無	楕円形	70×49	台形状	31	63.92	P680-P553	150			
P553	Cf4-5	有(144)	楕円形	74×59	台形状	60	63.78	P553-P486	140			3
P486	Cf5-5	有	円形カ	42×(37)	階段状	51	63.73	P486-P407	144			
P407	Df1-5・2-5	無	円形	61×58	階段状	38	63.96	P407-P664	129			
P664	Df3-5	無	楕円形カ	(28)×(28)	不明	42	63.94	P664-P316	141			
P316	Df4-5	無	円形	30×26	箱状	18	64.04	P316-P309	55			
P557	Cf2-5,Cg2-1	無	楕円形	72×54	階段状	73	63.53	P557-P610	153			
P610	Cf4-5,Cg4-1	有	円形	(42)×(36)	漏斗状	53	63.76	P610-P450	136			
P450	Cf5-5,Cg5-1	有(141)	楕円形	53×44	階段状	30	64.02	P450-P384	140		20	
P384	Df1-5・2-5,Dg1-1・2-1	無	楕円形	46×24	箱状	31	64.01	P384-P755	139			
P755	Dg3-1	無	円形	(26)×(24)	台形状	26	63.99	P755-P309	136			
P309	Df4-5	無	円形	28×28	U字状	55	64.36	P466-P704	175			
								P356-P478	112	—	—	—
								P704-P556	130			
								P688-P575	115			
								P556-P680	108			
								P543-P486	106			
								P371-P664	90			
								P680-P557	54			

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
4号掘立柱建物	梁間二間型	2間×2間	3.46×2.83	9.79	N-71.5°-E	中世土師器皿片	21	21	
	重複遺構・新旧関係	<46土・20溝,≠10・24・27・29・30・33・36掘立・1竪							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面
P395	Df3-2・4-2	無	不整形	67×48	台形状	50	63.81	P395-P424	200	21	21
P424	Df4-2	無	方形	21×19	階段状	32	64.01	P424-P498	147		
P498	Df5-2	無	円形	46×40	V字状	25	63.92	P498-P390	131		
P390	Df5-3	無	円形	28×28	箱状	48	63.50	P390-P398	137	21	21
P398	Df5-3	無	円形	33×30	弧状	32	63.84	P398-P379	168		
P379	Df4-3・5-3	無	楕円形	53×41	台形状	21	63.85	P379-P422	201		
P422	Df3-3・4-3	無	円形	26×22	半円状	(13)	64.04	P422-P337	160		
P337	Df3-3・4-3	無	円形	27×27	台形状	27	64.04	P337-P395	125		

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
5号掘立柱建物	梁間一間型	1間×1間	3.84×2.25	8.64	N-68°-E		21	21	
	重複遺構・新旧関係								

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面
P253	Ef4-4	無	楕円形	28×24	階段状	13	64.21	P253-P245	384	21	21
P245	Ff1-4	無	楕円形	28×27	箱状	33	64.19	P245-P249	225		
P249	Ff1-5	無	円形	28×26	台形状	29	64.21	P249-P251	378		
P251	Ef4-5	無	円形	29×28	漏斗状	27	64.16	P251-P253	224		

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
6号掘立柱建物	梁間一間型	1間×1間	2.33×2.24	5.22	N-20.5°-W		22	22	
	重複遺構・新旧関係								

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面
P180	Eg2-2	無	楕円形	28×18	V字状	18	64.30	P180-P179	224	22	22
P179	Eg4-2	無	楕円形	24×19	U字状	19	64.38	P179-P188	233		
P198	Eg4-3	無	楕円形	34×21	U字状	23	64.30	P188-P203	216		
P203	Eg2-3・3-3	無	方形	30×26	半円状	36	64.15	P203-P180	220		

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
7号掘立柱建物	梁間一間型	1間×1間	4.06×2.22	9.01	N-25°-W		22	22	
	重複遺構・新旧関係	≠14・15・19掘立							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面
P193	Eg5-2	無	楕円形	37×(26)	階段状	34	64.24	P193-P232	222	22	22
P232	Fg1-2	無	円形	33×28	U字状	29	64.27	P232-P163	406		
P163	Fg1-4	無	楕円形	34×25	階段状	29	64.39	P163-P199	219	22	22
P199	Eg5-4	無	方形	25×20	U字状	45	64.12	P199-P193	398		

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
8号掘立柱建物	梁間二間型	3間×2間	7.06×4.29	30.29	N-67.5°-E		23	23	
	重複遺構・新旧関係	>16土,≠2・16・20掘立・18土							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面
P764	Cg2-3	無	楕円形	20×16	U字状	29	64.12	P764-P761	201	23	23
P761	Cg3-3	無	円形	20×18	台形状	22	64.21	P761-P758	241		
P758	Cg4-3	無	円形	35×30	U字状	35	64.04	P758-P769	265		
P769	Cg5-3	無	楕円形カ	(30)×30	不明	—	—	P769-P73	429		
P73	Cg5-5,Dg1-5	無	不整形	46×29	U字状	56	63.93	P73-P78	248	23	23
P78	Cg4-5	無	円形	32×24	台形状	40	64.05	P78-P63	257		
P63	Cg3-5	無	楕円形	34×(26)	台形状	60	63.94	P63-P50	198		
P50	Cg2-5	無	不整形	34×(19)	台形状	24	64.29	P50-P48	188		
P48	Cg2-4	無	長方形	76×40	箱状カ	(29)	64.42	P48-P764	229		
P76	Cg4-4	無	円形	31×28	台形状	14	64.28	P758-P76	219		23
								P76-P78	205	—	—

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
9号掘立柱建物	梁間二間型	3間×2間	10.25×5.24	53.71	N-21°-W	白磁小杯(5),瀬戸美濃平碗(6),白磁鍔皿(7),肥前陶器壺甕(8),肥前陶器皿(9),越前甕片,肥前磁器碗片	24	24・25	
	重複遺構・新旧関係	<3・12・16掘立・50土・20・26・29溝,>17・25・28掘立・32溝,≠21～24・26・31・32・34・35掘立							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面
P735	Cf2-1・3-1	無	不明	(128)×(65)	不明	(41)	(63.80)	P735-P580	274		
P580	Cf4-1	無	円形カ	47×(45)	弧状	33	63.95	P580-P711	220		
P711	CF5-1	無	不整形カ	(68)×87	階段状	44	63.70	P711-P359	346		
P359	Cf5-2	有(147)	不整形カ	(100)×(99)	階段状カ	65	63.81	P359-P639	261		3
P639	Cf5-4	無	方形カ	(89)×(54)	台形状	68	63.59	P639-P485	298		
P485	Cf5-5	無	円形カ	(55)×(51)	階段状	46	63.79	P485-P609	308	25	
P609	Cf4-5	無	楕円形カ	39×(26)	階段状	42	63.90	P609-P618	254		
P618	Cf2-5・3-5	無	楕円形カ	62×(48)	箱状	51	63.68	P618-P470	322	24	
P470	Cf2-3・2-4・3-3・3-4	無	楕円形カ	(171)×109	階段状	89	63.50	P470-P701	296		
P701	Cf2-2	無	楕円形カ	(35)×51	U字状	10	64.15	P701-P735	299		
P475	Cf4-4	無	楕円形	(53)×(38)	台形状	(30)	63.91	P639-P475	282		
P501	Cg5-1	無	円形	(30)×30	階段状	31	64.00	P475-P470	253	25	
P611	Cg4-1	無	楕円形	(47)×(33)	U字状	50	63.80	P485-P501	135		
P143	Cg2-1	無	楕円形	31×24	U字状	31	64.01	P501-P611	268		
								P611-P143	276	—	—
								P143-P618	130		

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
10号掘立柱建物	梁間二間型	3間以上×2間	(6.09)×5.81	(35.38)	N-22°-W	天目茶碗(10)	26	26	
	重複遺構・新旧関係	<29・36掘立・46土・19溝,>30掘立,≠3・4・18・24・27・31～33・35・1竪							

柱　穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面
P346	Df4-1	無	楕円形	65×(49)	不明	29	63.86	P346-P330	200	26	26
P330	Df4-2	無	楕円形	67×47	階段状	48	63.75	P330-P357	221		
P357	Df4-3	無	方形	(65)×55	階段状	40	63.89	P357-P377	214		
P377	Df3-3	無	楕円形	50×30	階段状	26	63.87	P377-P410	318		
P410	Df1-4	無	楕円形	50×41	台形状	35	63.88	P410-P354	208		
P354	Df1-2・1-3	無	楕円形	46×36	台形状	47	63.80	P354-P708	241		
P708	Df1-1	無	方形カ	(56)×51	階段状	37	63.67	P708-P513	157		
P513	Df1-1	無	円形カ	(52)×(21)	台形状カ	(27)	63.86				

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
11号掘立柱建物	梁間二間型	1間×2間	2.44×2.17	5.29	N-72°-E		27	27	
	重複遺構・新旧関係	<18土・12溝,≠2・16・21掘立・3柵							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面
P157	Cg4-1	無	楕円形	25×18	U字状	43	63.94	P157-P147	113	27	27
P147	Cg5-1	無	楕円形	40×25	漏斗状	30	63.97	P147-P141	107		
P141	Cg5-1	無	楕円形	28×23	V字状	13	64.25	P141-P101	244		
P101	Cg5-2	無	円形	(29)×(27)	半円状	25	64.09	P101-P98	103		
P98	Cg5-2	無	円形	25×23	U字状	31	64.11	P98-P95	128		
P95	Cg4-2	無	円形	24×22	台形状	28	64.13	P95-P157	249		

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
12号掘立柱建物	梁間一間型	1間×1間	2.56×2.44	6.25	N-20°-W	肥前陶器壺甕片	27	27	
	重複遺構・新旧関係	<9溝,>9・25掘立,≠16・21掘立・3柵							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面
P511	Cg5-1	無	楕円形カ	(71)×(60)	台形状カ	52	63.81	P511-P369	244	27	27
P369	Dg2-1	無	円形	33×32	箱状	39	63.91	P369-P122	256		
P122	Cg2-2	無	円形	38×38	台形状	52	63.85	P122-P103	246		
P103	Dg1-2	無	円形	27×24	U字状	46	63.85	P103-P511	238		

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
13号掘立柱建物	梁間一間型	2間×1間	3.65×2.25	8.21	N-62°-E		28	28	
	重複遺構・新旧関係	>10溝,≠3・30掘立・23土							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面
P754	Df3-5	無	楕円形カ	(34)×(25)	半円状	24	63.82	P754-P340	175	28	28
P340	Df4-5	無	楕円形カ	(32)×24	階段状	31	63.91	P340-P302	191		
P302	Df5-5	無	楕円形	42×30	箱状	38	63.94	P302-P116	225		
P116	Dg5-1	無	円形	30×28	台形状	17	64.28	P116-P113	155		
P113	Dg4-1	無	円形	34×29	V字状	31	64.15				

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
14号掘立柱建物	梁間一間型	2間×1間	4.38×4.13	18.09	N-29°-W		28	28	
	重複遺構・新旧関係	≠7・19掘立							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面
P177	Eg4-1	無	方形	19×18	箱状	31	64.29	P177-P250	413	28	28
P250	Fg1-1・2-1	無	楕円形	30×24	箱状	42	64.10	P250-P174	219		
P174	Fg2-2	無	円形	26×23	台形状	30	64.27	P174-P171	220		
P171	Fg2-3	無	楕円形	28×26	台形状	20	64.29	P171-P198	413		
P198	Eg5-3	無	不整形	37×26	箱状	23	64.29	P198-P184	228		
P184	Eg5-2	無	楕円形	26×22	台形状	23	64.32	P184-P177	232		

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
15号掘立柱建物	梁間一間型	1間×1間	2.40×2.47	5.93	N-22°-W		29	29	
	重複遺構・新旧関係	≠7・19掘立							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面
P166	Eg5-4	無	円形	20×20	台形状	48	64.06	P166-P167	240	29	29
P167	Fg1-3・1-4	無	不整形	38×21	台形状	26	64.27	P167-P236	247		
P236	Fg1-5	無	方形カ	(26)×(13)	階段状	(26)	64.47	P236-P151	209		
P151	Eg5-5	無	楕円形	(23)×(14)	台形状	27	64.44	P151-P166	252		

遺構名	分類	規模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
16号掘立柱建物	梁間三間型	3間以上×3間	(8.91)×4.59	(47.73)	N-65°-E		29	29	
	重複遺構・新旧関係	<3掘立・9・29溝,>9掘立,≠2・8・11・12・20・21・25掘立・3柵・18土							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P127	Cg2-1	無	円形	38×38	台形状	29	64.01	P127-P89	262	29		
P89	Cg3-1	無	円形	28×26	階段状	22	64.07	P89-P525	206		30	
P525	Cg4-1	無	楕円形	27×22	台形状	38	63.80	P525-P500	248			
P500	Cg5-1	無	楕円形カ	38×(32)	台形状	27	64.01	P500-P140	118			
P140	Cg5-1	無	円形カ	38×(34)	箱状	24	64.15	P140-P102	142			
P102	Cg5-2	無	円形	28×26	V字状	25	64.08	P102-P770	203			
P770	Cg5-3	無	円形カ	(36)×38	不明	—	—	P770-P757	215			
P757	Cg4-3	無	楕円形	25×20	U字状	51	63.89	P757-P760	236		30	
P760	Cg3-3	無	円形	30×25	U字状	36	64.03	P760-P766	240			
P766	Cg2-3	無	楕円形	44×30	箱状	35	63.99	P766-P771	195			
P771	Cg1-3	無	円形	22×20	箱状	36	63.97	P770-P69	162			
P69	Cg5-4	無	円形	35×31	台形状	31	64.16	P69-P79	210			
P79	Cg4-4	無	楕円形	45×30	階段状	44	64.01	P79-P65	218			
P65	Cg3-4	無	楕円形	41×25	台形状	31	64.20	P65-P760	167			

遺構名	分類	規模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
17号掘立柱建物	梁間二間型	4間×2間	7.23×6.36	45.98	N-71°-E	肥前陶器皿(9),青磁盤(11),瀬戸美濃縁釉小皿(12)・丸皿(13)小天目茶碗(14),中世土師器小皿カ(15),肥前陶器擂鉢(16),珠洲壺甕片,青磁碗片	31	31	
	重複遺構・新旧関係	<3・9・23・25・29掘立・20溝,>22・24・34掘立・27・28溝,≠26・28・31・32・35掘立							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P734	Ce2-5,Cf2-1	有	楕円形	92×56	台形状	33	63.51	P734-P581	399	31		3
P581	Cf4-1	無	円形	38×(33)	V字状カ	36	63.96	P581-P722	324		31	
P722	Df1-1	無	楕円形カ	(59)×(41)	台形状カ	43	63.70	P722-P536	134			
P536	Df1-1・1-2	有(151)	楕円形カ	74×(46)	台形状	54	63.73	P536-P709	178			
P709	Df1-2	無	円形カ	(59)×54	台形状	51	63.61	P709-P459	326		31	
P459	Cf5-4,Df1-4	有(150)	不整形カ	(101)×(46)	台形状	49	63.73	P459-P677	301			
P677	Cf4-4	無	方形	55×55	階段状	(63)	63.62	P677-P477	437			
P477	Cf2-4	無	不整形	(120)×74	台形状	33	63.73	P477-P673	181		32	
P673	Cf2-3	無	楕円形	47×27	台形状	21	64.03	P673-P697	148			
P697	Cf2-2	無	楕円形	80×44	弧状	17	63.88	P697-P608	189			
P608	Cf2-1	無	不整形	85×50	台形状	33	63.88	P608-P734	141		32	

遺構名	分類	規模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
18号掘立柱建物	梁間二間型	3間以上×2間	(5.42)×3.39	(18.37)	N-20.5°-W	肥前陶器壺甕片	32	32	
	重複遺構・新旧関係	<43土・19溝,>29掘立・18溝,≠3・10・24・27・30～33・36掘立							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P499	Df3-2	無	楕円形カ	(28)×24	台形状	29	63.98	P499-P341	163	32		
P341	Df3-2	無	長方形	36×24	階段状	41	63.92	P341-P322	202		32	
P322	Df3-3	有(152)	円形	30×27	箱状	42	63.83	P322-P574	145			
P574	Cf2-4	無	楕円形	34×23	台形状	15	64.06	P574-P412	198			
P412	Df1-3	無	楕円形	43×25	漏斗状	36	63.86	P412-P629	212		32	
P629	Df2-1	無	楕円形	63×45	台形状カ	39	63.83	P629-P585	150			
P585	Df1-1	無	楕円形	41×35	階段状	28	63.91	P585-P583	126			
P583	Cf3-1	無	楕円形	61×45	漏斗状	51	63.74	P341-P514	161			
P514	Df2-2	有(153)	不整形	50×40	V字状	28	63.88	P514-P629	194			

遺構名	分類	規模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
19号掘立柱建物	梁間二間型	4間×2間	9.61×4.68	44.97	N-24.5°-W		33	33	
	重複遺構・新旧関係	≠7・14・15掘立							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P238	Ef4-5	無	楕円形カ	(29)×(15)	弧状	9	64.36	P238-P241	249	33	33	
P241	Ef5-5	無	円形	26×20	台形状	14	64.42	P241-P246	220			
P246	Ff1-5	無	円形	39×37	台形状	31	64.23	P246-P229	235			
P229	Fg1-1	無	方形	28×27	U字状	34	64.27	P229-P172	222			
P172	Fg1-2	無	楕円形	30×22	台形状	12	64.40	P172-P168	242			
P168	Fg1-4・2-4	無	円形	26×23	箱状	27	64.26	P168-P260	265			
P260	Fg2-5	無	円形	26×22	台形状	28	64.45	P260-P261	232			
P261	Eg5-5,Fg1-5	無	円形	40×39	弧状	15	64.61	P261-P264	231			
P264	Eg4-5	無	楕円形	34×28	階段状	50	64.30	P264-P230	258			
P230	Eg4-4	無	方形	27×24	U字状	31	64.22	P230-P195	234			
P195	Eg4-3	無	円形	34×30	台形状	16	64.38	P195-P233	236			
P233	Eg4-1・4-2	無	方形	28×25	台形状	28	64.30	P233-P238	224			

遺構名	分類	規模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
20号掘立柱建物	梁間二間型カ	1間以上×2間	3.00×(3.95)	(11.85)	N-69.5°-E		34	34	
	重複遺構・新旧関係	≠2・8・16掘立							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P800	Cg1-3	無	長方形カ	(36)×(16)	半円状カ	10	64.22	P800-P772	300	34	34	
P772	Cg2-3	無	円形	37×33	台形状	36	64.05	P772-P768	202			
P768	Cg2-4	無	方形	18×18	V字状	16	64.34	P768-P61	193			
P61	Cg2-5・3-5	無	楕円形	36×26	台形状	18	64.33	P61-P799	291			
P799	Cg1-5	無	楕円形	28×20	台形状	39	64.06					

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
21号掘立柱建物	梁間一間型	1間×1間	2.27×1.97	4.47	N-57°-E		34	34	
	重複遺構・新旧関係	<29溝,>35掘立・10溝,≠3・9・11・12・16・25掘立							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P481	Cf5-5	無	楕円形	50×40	U字状	47	63.72	P481-P490	227	34	34	
P490	Df1-5	無	楕円形カ	(76)×(40)	U字状カ	55	63.70	P490-P115	197			
P115	Cg1-1	無	楕円形	58×36	漏斗状	49	63.92	P115-P138	235			
P138	Cg5-1	無	円形	30×29	台形状	26	64.02	P138-P481	197			

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
22号掘立柱建物	梁間一間型	2間以上×1間	(4.52)×1.96	(8.86)	N-73.5°-E		35	35	
	重複遺構・新旧関係	<3・17掘立・29・30溝,>2掘立,≠9・25・28掘立							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P654	Cf1-4	無	円形	25×23	階段状	24	63.96	P654-P620	131	35	35	
P620	Cf2-4	無	不整形	40×(39)	階段状	42	63.86	P620-P681	213			
P681	Cf3-4	無	楕円形	33×27	台形状	19	64.13	P681-P693	196			
P693	Cf3-5	無	楕円形	23×18	V字状	22	64.10	P693-P615	186			
P615	Cf2-5	無	楕円形カ	47×(36)	弧状	15	63.99	P615-P591	130			
P591	Cf1-5	無	楕円形カ	50×(32)	階段状	42	63.73	P620-P658	111			
P658	Cf2-5	無	方形	(32)×33	台形状	35	63.90	P658-P615	130			

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
23号掘立柱建物	梁間一間型	1間以上×1間	(1.43)×4.67	(6.68)	N-13.5°-W	珠洲片口鉢片	35	35	
	重複遺構・新旧関係	>17掘立・27溝,≠3・9・26・31・34掘立							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P726	Cf4-1	無	円形	29×26	V字状	55	63.74	P726-P465	117	35	35	
P465	Cf4-1	無	楕円形	(33)×28	階段状	65	63.72	P465-P589	185			
P589	Cf3-1	無	長方形	47×34	U字状	66	63.96	P589-P731	284			
P731	Cf2-1	無	方形カ	31×31	U字状	49	63.69	P731-P781	99			
P781	Ce2-5	無	円形カ	(21)×24	U字状	51	63.61	P589-P740	124			
P740	Ce3-5,Cf3-1	無	方形	22×19	階段状	34	63.86					

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
24号掘立柱建物	梁間三間型カ	2間以上×3間カ	(4.18)×9.52	(41.59)	N-19°-W	瀬戸美濃陶器片	36	36	
	重複遺構・新旧関係	<17・25・29・30・33掘立・52土・19・20・23溝,>1竪・28溝,≠3・4・9・10・18・26～28・31・32・34～36掘立							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P801	Df2-1	無	楕円形	(26)×(22)	階段状カ	(20)	63.88	P801-P483	229	36	36	
P483	Df2-2	有(155)	不整形	86×67	台形状	43	63.60	P483-P634	173			
P634	Df2-3	無	円形カ	62×(48)	漏斗状カ	50	63.63	P634-P449	183			
P449	Df2-4	無	円形	37×36	階段状	24	63.80	P449-P720	257			
P720	Df1-3・1-4	無	不整形	(84)×(70)	台形状カ	48	63.65	P720-P531	193			3
P531	Df1-3	無	楕円形	(72)×66	階段状カ	(41)	63.75	P531-P534	176			
P534	Df1-2	有(156)	楕円形カ	(66)×(42)	半円状	40	63.70	P534-P355	211			
P355	Df1-1	有	円形カ	(50)×(52)	階段状カ	22	63.70	P534-P483	288			
P518	Df4-1	無	円形カ	(61)×(58)	半円状カ	(35)	63.75	P518-P404	173			
P404	Df4-2	無	不整形	66×43	階段状	28	63.78	P404-P442	192			
P442	Df4-3	有(154)	不整形カ	(72)×(41)	階段状	45	63.86	P442-P295	157			3
P295	Df3-3	無	方形	14×13	台形状	47	64.30	P295-P634	186			
P790	Cf4-3・4-4	無	円形	27×27	U字状	72	63.78	P790-P588	166			
P588	Cf4-3	無	不整形	50×34	箱状カ	46	63.89	P588-P562	155			
P562	Cf4-2	有(157)	円形カ	(36)×32	U字状	79	63.71	P562-P534	311			
								P483-P404	340	—	—	—
								P634-P531	304			
								P531-P588	302			
								P720-P790	336			

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
25号掘立柱建物	梁間二間型	3間×2間	6.06×5.78	35.03	N-17°-W	肥前陶器鉢(17)	38	38	
	重複遺構・新旧関係	<9・12掘立・29溝,>17・24・29・31掘立・28溝,≠3・16・21・22・28・32・35掘立							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P706	Cf3-3	無	円形	35×(32)	U字状	61	63.71	P706-P432	370	38	38	
P432	Cf4-2・4-3・5-2・5-3	無	楕円形	36×30	階段状	63	63.67	P432-P532	209			
P532	Cf5-2・5-3,Df1-2・1-3	無	方形カ	(40)×(32)	箱状カ	38	63.76	P532-P388	161			
P388	Cf5-3,Df1-3	有(158)	楕円形カ	(43)×36	階段状カ	31	63.97	P388-P496	220			4
P496	Cf5-4,Df1-4	有(159)	楕円形	52×34	台形状	34	63.75	P496-P512	228			
P512	Cg5-1	有(160)	不明	(19)×(18)	階段状カ	16	64.11	P512-P524	179			
P524	Cf4-4・4-5,Cg4-1・5-1	無	円形	(28)×(25)	台形状	18	64.04	P524-P619	396		39	
P619	Cf2-5・3-5,Cg2-1・3-1	無	円形カ	(30)×(32)	台形状カ	50	63.68	P619-P678	252			
P678	Cf2-4	無	不整形	21×19	階段状	24	64.10	P678-P695	216			
P695	Cf2-3・3-3	無	長方形カ	52×(32)	階段状	42	63.82	P695-P706	161			

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
26号掘立柱建物	梁間一間型	1間以上×1間	(3.12)×2.87	8.95	N-12.5°-W		39	39	
	重複遺構・新旧関係	≠3・9・17・23・24・28・31・34掘立							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）			
P725	Cf5-1	無	楕円形カ	(32)×(30)	階段状	72	63.57	P725-P454	222	39	
P454	Cf4-2・5-2	有(161)	楕円形	66×36	台形状	59	63.68	P454-P452	70		4
P452	Cf4-2・5-2	無	方形	48×38	半円状	26	64.06	P452-P802	128		
P802	Cf4-2	無	円形カ	(35)×(28)	V字状	43	63.95	P802-P640	158		
P640	Cf3-2	無	不整形	41×30	台形状	19	64.19	P640-P577	83	39	
P577	Cf3-1・3-2	無	方形カ	(38)×(23)	U字状	63	63.76	P577-P666	198		
P666	Ce3-5,Cf3-1	無	円形	(42)×(38)	階段状	42	63.74			39	

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
27号掘立柱建物	梁間二間型	2間×2間	6.26×4.03	25.23	N-24°-W	焼成粘土塊(97)	40	40	
	重複遺構・新旧関係	<46土・19・22溝,>3掘立・47土・20溝,≠4・10・18・24・29・30・32・33・36掘立・1竪							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）			
P403	Df4-2	無	円形	50×47	半円状	33	63.97	P403-P788	343	40	
P788	Df4-4	無	円形カ	38×(36)	階段状	34	63.98	P788-P372	205		
P372	Df3-4	無	不整形カ	(82)×(36)	U字状	43	63.87	P372-P427	199	40	
P427	Df2-4	無	円形カ	(56)×(56)	漏斗状	42	63.80	P427-P510	323		
P510	Df2-2	無	円形カ	(37)×(34)	台形状	(29)	63.74	P510-P625	305		
P625	Df2-1	有(162)	楕円形カ	(22)×(24)	箱状カ	(11)	63.88	P625-P349	188		
P349	Df2-1・3-1	無	不整形	(36)×48	半円状	31	63.99				

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
28号掘立柱建物	梁間二間型	2間×2間	5.33×4.75	25.32	N-18.5°-W	瀬戸美濃平碗(18)	41	41	
	重複遺構・新旧関係	<3・9掘立・20・26溝,>34掘立,≠17・22・24～26・31・32・35掘立							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）			
P467	Cf3-1・3-2	無	不整形	73×(45)	V字状	64	63.70	P467-P638	220	41	
P638	Cf4-1	無	不整形	44×29	台形状	42	63.94	P638-P541	251		
P541	Cf5-1	無	楕円形	(50)×(43)	U字状	58	63.67	P541-P487	272		
P487	Cf5-3	無	楕円形	(59)×50	階段状	42	63.84	P487-P714	261		
P714	Cf5-1	無	円形カ	(26)×(18)	台形状カ	30	63.91	P714-P670	260		
P670	Cf4-4	無	楕円形	31×19	U字状	37	63.90	P670-P554	215		
P554	Cf2-4・3-4	無	不明	(13)×(24)	階段状カ	68	63.67	P554-P705	231		
P705	Cf2-3・3-3	無	楕円形カ	68×(29)	台形状カ	36	63.87	P705-P467	249		41

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
29号掘立柱建物	梁間二間型	2間以上×2間	(4.24)×6.32	(26.80)	N-19°-W	肥前陶器擂鉢(16),肥前陶器皿片	42	42	
	重複遺構・新旧関係	<18・25掘立,>10・17・24・30・36掘立・28溝,≠3・4・27・31・33掘立							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）			
P345	Df4-2	無	円形	41×37	台形状	60	63.48	P345-P367	217	42	
P367	Df4-3	無	方形カ	(60)×(32)	台形状	39	63.97	P367-P727	361		
P727	Df2-2・2-3	無	楕円形カ	(60)×(24)	台形状	41	63.65	P727-P533	276		
P533	Cf4-5	無	楕円形カ	(69)×(46)	U字状カ	48	63.71	P533-P473	240		
P473	Df1-1・1-2	無	楕円形カ	73×(44)	U字状カ	60	63.60	P473-P723	188		
P723	Df1-1	無	楕円形カ	(64)×(15)	階段状	51	63.70				

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
30号掘立柱建物	梁間二間型	3間×2間	4.90×4.64	22.74	N-69.5°-E		43	43	
	重複遺構・新旧関係	<10・29掘立・20・22溝,>24掘立・10溝,≠3・4・13・18・27・31～33・35・36掘立							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）			
P484	Df1-3	無	円形カ	58×(50)	階段状	43	63.79	P484-P370	125	43	
P370	Df2-3	無	円形	27×25	箱状	21	64.00	P370-P326	154		
P326	Df3-3	無	円形	31×31	箱状	30	64.00	P326-P366	212		
P366	Df4-3	無	円形	31×29	U字状	40	63.89	P366-P389	237		
P389	Df4-4	無	方形カ	21×21	台形状カ	24	63.98	P389-P313	228		
P313	Df4-5	無	楕円形	21×16	台形状	26	64.08	P313-P753	192		
P753	Df3-5	無	円形カ	(31)×(31)	半円状	22	63.87	P753-P311	55		
P311	Df2-5	無	円形	20×18	U字状	38	63.97	P311-P381	104		
P381	Df2-5	無	円形カ	30×(23)	U字状	46	63.80	P409-P484	223		
P409	Df1-4	有(163)	楕円形	(72)×61	台形状	39	63.87				

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿　図 平面	挿　図 断面	写真図版
31号掘立柱建物	梁間二間型	3間以上×2間	(5.61)×4.48	(25.13)	N-24.5°-W		44	44	
	重複遺構・新旧関係	<25掘立・47土・22溝,≠3・9・10・17・18・23・24・26・28～30・32・34・35掘立							

柱　穴	グリッド	柱　根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）			
P584	Df1-1	無	円形	(48)×(40)	台形状	29	63.93	P584-P439	357	44	
P439	Df2-3	無	円形	(34)×(31)	階段状	(31)	63.95	P439-P530	230		
P530	Cf5-3	無	楕円形	(40)×(32)	台形状	46	63.75	P530-P451	219		
P451	Cf4-3	無	方形	34×34	U字状	46	63.85	P451-P561	182		
P561	Cf4-2	無	長方形	40×31	台形状	44	63.89	P561-P453	179		
P453	Cf4-1	無	円形	44×42	台形状	45	63.88	P453-P746	(202)		
P746	Ce4-5,Cf4-1	無	楕円形カ	(52)×(27)	台形状	64	63.79	P453-P436	208		
P436	Cf5-1	無	円形	30×25	階段状	59	63.73	P436-P584	245		

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
32号掘立柱建物	梁間一間型	2間×1間	5.41×2.22	12.01	N-70°-E		45	45	
	重複遺構・新旧関係	<22・23溝,≠3・9・10・17・18・24・25・27・28・30・31・35掘立・20溝							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P550	Cf4-3	無	円形	24×22	半円状	18	64.21	P550-P791	364	45	45	
P791	Df1-3	無	円形	23×20	U字状	24	63.99	P791-P544	176			
P544	Df2-3	無	円形カ	(18)×(23)	台形状	27	63.90	P544-P447	221			
P447	Df2-4	有(164)	円形カ	(38)×(36)	台形状	33	63.74	P447-P430	195			
P430	Df1-4	無	円形	34×32	台形状	32	63.90	P430-P661	354			
P661	Cf4-4・4-5	無	楕円形	29×21	台形状	24	64.07	P661-P550	244			

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
33号掘立柱建物	梁間二間型	2間以上×2間	(4.62)×3.20	(14.78)	N-22°-W	肥前陶器皿(19),肥前陶器片	46	46	
	重複遺構・新旧関係	<47土・23溝,>24掘立・48土・18溝,≠3・4・10・18・27・29・30・36掘立							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P382	Df4-1・4-2	無	楕円形	60×43	台形状	64	63.57	P382-P329	275	46	46	
P329	Df4-3	有(165)	楕円形	69×55	箱状カ	68	63.71	P329-P325	141			3
P325	Df3-3	無	円形カ	(40)×37	台形状	24	64.03	P325-P386	182			
P386	Df2-3	有(167)	楕円形	79×(48)	台形状カ	34	63.90	P386-P351	246			4
P351	Df2-2	有(166)	楕円形	74×54	台形状	54	63.85	P351-P782	214			
P782	Df2-1	無	楕円形カ	(30)×27	台形状カ	(10)	63.82					

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
34号掘立柱建物	梁間二間型	1間以上×2間	(3.37)×7.46	25.14	N-32°-W		47	47	
	重複遺構・新旧関係	<3・17・28掘立・49土・26・31溝,≠9・23・24・26・31掘立							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P710	Df1-2	無	楕円形カ	(45)×(41)	弧状	14	64.14	P710-P569	348	47	47	
P569	Cf3-2	無	円形	53×46	箱状	71	63.61	P569-P645	172			
P645	Cf2-2・3-2	無	円形	22×20	階段状	53	63.82	P645-P698	161			
P698	Cf2-2	無	円形	46×44	V字状	52	63.53	P698-P607	251			
P607	Ce1-5,Cf1-1	無	楕円形	(80)×(58)	台形状	57	63.48	P645-P780	(283)			
P780	Ce2-5	無	円形カ	(11)×(18)	U字状	32	63.79	P710-P540	68			
P540	Cf5-1	無	楕円形カ	(26)×(22)	U字状カ	(20)	63.82					

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
35号掘立柱建物	梁間一間型	2間×1間	3.86×3.44	13.28	N-6.5°-W	碁石(107)	48	48	
	重複遺構・新旧関係	<21掘立・20・22・29溝,≠3・9・10・17・24・25・28・30～32掘立							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P548	Cf5-3	無	楕円形	50×37	台形状	29	63.93	P548-P438	344	48	48	
P438	Df1-3・2-3・1-4・2-4	無	円形	34×30	台形状	(29)	63.81	P438-P387	189			
P387	Df1-4	無	楕円形	(39)×(32)	台形状	40	63.85	P387-P493	198			
P493	Df1-5	無	不整形	61×(32)	V字状	(38)	63.83	P493-P528	325			
P528	Cf4-5	無	円形カ	(31)×(30)	U字状	(55)	63.78	P528-P547	224			
P547	Cf5-4	有	円形カ	(35)×(33)	U字状	50	63.71	P547-P548	179			

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
36号掘立柱建物	梁間二間型	4間カ×2間	7.20×2.88	20.74	N-60°-E		49	49	
	重複遺構・新旧関係	<29掘立・45土・16・17溝,>10掘立・48土・18溝,≠3・4・18・24・27・30・33掘立・1竪							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P502	Df2-2・3-2	無	楕円形	33×27	台形状	32	63.95	P502-P319	146	49	49	
P319	Df3-2	無	楕円形	22×(16)	台形状	30	64.01	P319-P344	185			
P344	Df4-1・4-2	無	円形	24×20	階段状	37	63.94	P344-P507	392			
P507	Ef1-1	無	楕円形	42×35	階段状	19	64.05	P507-P288	151			
P288	Ef1-2	無	円形	39×36	階段状	28	64.03	P288-p299	138			
P299	Ef1-2	無	楕円形	26×18	台形状	35	63.90	P299-P362	385			
P362	Df4-3	無	長方形	34×26	V字状	(33)	63.83	P362-P423	212			
P423	Df3-3・4-3	無	円形	35×30	袋状カ	(20)	63.83	P423-P352	133			
P352	Df3-3	無	方形	31×28	U字状	49	63.82	P352-P327	141			
P327	Df3-2	無	円形	36×36	階段状	61	63.70	P327-P502	141			
P305	Df4-2	無	円形	36×33	半円状	25	64.07	P344-P305	143			
P328	Df3-2	無	楕円形	48×33	台形状	23	64.09	P305-P362	129			
								P319-P328	140	—	—	—
								P328-P423	137			
								P305-P328	191			
								P328-P327	140			

遺構名	分　類	規　模	桁行×梁行（m）	面積（㎡）	主軸方位	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
37号掘立柱建物	梁間二間型カ	2間以上×1間以上	(5.83)×(2.45)	(14.28)	N-57.5°-E		50	50	
	重複遺構・新旧関係	<33土							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P212	Ef5-1	無	円形	19×19	台形状	(23)	64.08	P212-P216	309	50	50	
P216	Ef3-2	無	楕円形	23×(16)	形状	13	64.17	P216-P221	276			
P221	Ef2-2	無	円形	22×20	台形状	10	63.93	P221-P269	148			
P269	Ef2-1	無	円形カ	(31)×(26)	V字状	(17)	63.90				50	

竪穴建物

遺構名	平面形態	長軸×短軸（m）	面積（㎡）	主軸方位	関連遺構	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
1号竪穴建物	方形	3.23×3.09	9.98	N-21°-W		青磁碗(20),中世土師器皿片,珠洲片口鉢片	51	51	4
	重複遺構・新旧関係	<3・24掘立,≠4・10・27・36掘立・20溝							

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P361	Df4-3	無	不整形	42×33	台形状	25	63.94	P361-P363	94	51	51	
P363	Df5-3	無	楕円形	34×27	台形状	34	63.79	P363-P802	147			
P803	Df5-3	無	円形カ	(14)×(13)	台形状カ	(5)	63.90	P802-P667	229			
P622	Df4-4	無	楕円形	20×16	U字状	27	63.87	P667-P392	110			
P392	Df5-4	無	円形カ	(22)×(20)	U字状カ	(25)	63.79	P392-P622	114		51	
P667	Df5-4	無	円形カ	(21)×(18)	台形状カ	34	63.83	P622-P361	218			

柵列

遺構名	長さ（m）	主軸方位	関連遺構		重複遺構・新旧関係	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
1号柵列	5.41	N-20°-W			<2柵		52	52	2

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P1	Bd3-2・3-3	無	円形	39×37	U字状	58	63.46	P1-P55	190	52	52	
P55	Bd3-3・3-4	無	楕円形	39×26	階段状	33	63.73	P55-P9	185			
P9	Bd3-4	無	不整形	44×30	階段状	38	64.23	P9-P11	170			
P11	Bd3-5	無	円形カ	34×(29)	階段状	64	63.45					

遺構名	長さ（m）	主軸方位	関連遺構		重複遺構・新旧関係	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
2号柵列	4.30	N-22.5°-W			>1柵		52	52	2

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P10	Bd3-5	無	楕円形	(32)×(27)	台形状カ	34	63.71	P10-P13	211	52	52	
P13	Be3-1	無	楕円形カ	(42)×34	階段状	47	63.59	P13-P18	221			
P18	Be3-2・3-3	無	不整形	50×32	階段状	30	63.74					

遺構名	長さ（m）	主軸方位	関連遺構		重複遺構・新旧関係	出土遺物	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
3号柵列	8.44	N-71°-E			<23土・9溝,>10溝,≠11・12・16掘立		52	52	

柱穴	グリッド	柱根	平面形	長軸×短軸（cm）	断面形	深さ（cm）	底面標高（m）	柱間寸法（cm）		挿図 平面	挿図 断面	写真図版
P756	Cg5-2	無	楕円形カ	29×(20)	台形状カ	(18)	64.10	P756-P108	297	52	52	
P108	Dg1-2・2-2	無	円形カ	(28)×(24)	台形状	47	63.94	P108-P191	294			
P191	Dg3-2	無	円形カ	(32)×(26)	台形状	(21)	63.98	P191-P142	255			
P142	Dg4-2	無	円形	38×36	半円状	25	64.17					

井戸・土坑・ピット

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm） 長軸	短軸	深さ	底面標高	断面形	出土遺物	重複遺構・新旧関係	挿図 平面	挿図 断面	写真図版
1号井戸	Bg2-2・2-3・3-2・3-3	楕円形	247	207	48	63.61	弧状	砥石(102),珠洲片口鉢片	>P47	53	53	4
2号井戸	Dg2-4・2-5・3-4・3-5・4-4・4-5	不整形	324	285	79	63.54	台形状	越前擂鉢(21・22),砥石(103)				5
3号井戸	Bh3-1	円形	135	123	86	63.27	台形状	瀬戸美濃天目茶碗(23)				4
1号土坑	Bc1-5,Bd1-1	不整形	102	76	19	63.76	弧状			54	54	
2号土坑	Bd1-4・1-5・2-4・2-5	方形	146	123	25	63.94	弧状					
3号土坑	Bd1-5・2-5	円形	119	(104)	26	63.88	台形状		>4土			
4号土坑	Bd2-5	円形	(112)	(93)	20	63.95	台形状カ	肥前磁器小皿(24)	<3土			
5号土坑	Bd3-4	楕円形カ	(85)	(65)	12	64.07	弧状					
6号土坑	Be2-3・2-4・3-3	不整形	147	74	13	63.84	弧状					
7号土坑	Be3-3	楕円形カ	66	63	8	63.97	弧状					
8号土坑	Be2-1	楕円形カ	(94)	107	35	63.76	階段状		>13土			
9号土坑	Bf2-3・2-4	円形	120	(105)	24	63.76	台形状	下駄(126),折敷(127)	>10土			
10号土坑	Bf2-3	長方形カ	(86)	69	6	63.98	箱状カ		<9土			
11号土坑	Bf1-2	楕円形	84	74	10	63.81	弧状			55	55	
12号土坑	Bf2-5,Bg2-1	円形	185	178	32	63.65	弧状		<8溝,>1掘立・P46・794			
13号土坑	Bd2-5,Be2-1	不整形	(161)	(62)	(10)	63.77	台形状カ		<8土	54	54	
14号土坑	Cg1-4	楕円形	99	51	46	64.04	台形状			55	55	
15号土坑	Cg1-5	楕円形	129	63	18	64.27	弧状		>2掘立			
16号土坑	Cg2-4	長方形カ	(67)	36	30	64.15	台形状		<8掘立			
17号土坑	Cg1-2・1-3	方形カ	(77)	(63)	14	64.17	不明		<2掘立,>57土			
18号土坑	Cg5-2・5-3,Dg1-2・1-3	円形	191	(159)	25	64.19	台形状		<P146,>2・11掘立,≠8・16掘立			
19号土坑	Cg2-1	楕円形カ	(56)	49	(12)	64.16	台形状カ		<P51	56	56	
20号土坑	Cg3-2	円形	81	67	24	64.06	箱状		<11溝			5
21号土坑	Cg3-2	楕円形カ	(81)	(63)	27	63.90	半円状	下駄(128)	<P119			
22号土坑	Dg5-5,Dh1-5	方形カ	(162)	(152)	17	64.18	台形状カ					
23号土坑	Dg3-1・3-2	円形	(135)	122	23	64.19	箱状		>3柵,≠13掘立・9溝			
24号土坑	Dg2-1・3-1	楕円形カ	(106)	(57)	16	64.10	不明		<4・10溝			
25号土坑	Dg3-1・4-1	不整形	107	57	17	64.28	台形状					
26号土坑	Fg2-5	楕円形カ	(69)	98	15	64.59	台形状					
27号土坑	Eh1-1・2-1	円形カ	(111)	105	53	64.27	台形状		>55土・14溝	57	57	
28号土坑	Eh2-1・3-1	円形	83	77	30	64.62	半円状		>29・56土			
29号土坑	Eh2-1・3-1	円形カ	84	61	16	64.64	弧状カ		<28土			
30号土坑	Ef5-3	円形	98	83	18	64.22	弧状					
31号土坑	Ef5-2	楕円形	122	99	21	64.19	台形状		>P268			
32号土坑	Ef2-4・2-5	円形	95	87	15	64.30	弧状	砥石(104),越前壺甕片				
33号土坑	Ef1-1・2-1	円形	106	(100)	15	64.05	台形状		>37掘立・45土			

遺構名	グリッド	平面形	規模（cm）			底面標高	断面形	出土遺物	重複遺構・新旧関係	挿図		写真
			長軸	短軸	深さ					平面	断面	図版
34号土坑	Ff1-3	長方形カ	(69)	59	7	64.41	弧状		<15溝			
35号土坑	Ff1-3・1-4	楕円形	80	55	12	64.42	弧状			57	57	
36号土坑	Ef2-2	円形	82	71	19	64.13	半円状					
37号土坑	Eg1-2・1-3・2-2・2-3	楕円形	212	169	17	64.34	弧状カ		<38土・P231,>39土			
38号土坑	Eg1-2・2-2	楕円形カ	(248)	(195)	12	64.37	弧状		>37・39土・P280			
39号土坑	Eg1-1・1-2・2-1・2-2	不整形	363	289	15	64.32	弧状カ		<37・38土,>P278	58	58	
40号土坑	Ef2-2・2-3・3-2・3-3・3-4・4-3	方形	338	290	39	63.73	弧状	瀬戸美濃花瓶(25),珠洲片口鉢(26),茶臼(105)	<P214,>P283～287			5
41号土坑	Dg5-3・5-4	楕円形	162	99	15	64.34	弧状	肥前陶器片	<P297,>17溝			
42号土坑	Ef1-3	円形	116	97	31	63.98	台形状カ		<9・17溝			
43号土坑	Df2-2・2-3・3-2・3-3	楕円形カ	(125)	(64)	25	64.02	不明		<P515,>18掘立,≠29掘立			
44号土坑	Df3-1	方形カ	(137)	(64)	25	64.07	箱状		<19溝			
45号土坑	Ef1-1	長方形カ	(61)	(99)	33	63.97	台形状カ		<33土,>36掘立			
46号土坑	Df3-3・3-4・4-3・4-4	不整形	157	109	8	64.14	台形状		<P358,>4・10・27掘立・P444	59	59	
47号土坑	Df2-1	長方形カ	(202)	227	(29)	63.97	階段状カ	青磁碗(27),肥前陶器皿(28)	<27掘立,>3・31・33掘立・22溝・P505・520・626～628・783・784,≠19溝カ			
48号土坑	Df2-2・3-2	長方形カ	(122)	(45)	16	63.95	弧状カ	肥前陶器碗(29),越前壺甕片	<33・36掘立・P529・19溝			
49号土坑	Cf1-1	不整形カ	(107)	(121)	40	63.79	不明	瀬戸美濃瓶子(30),肥前陶器擂鉢(31)	>34掘立・P606・744・745,≠30・31溝カ			
50号土坑	Cf3-2・3-3・3-4・4-3・4-4	長方形	278	216	31	64.09	台形状	越前擂鉢(32・33),珠洲壺片,須恵器杯片	<P492,>3・9掘立・P674・683～687・689～691・694・747・785～787,≠20溝	60	60	5
51号土坑	Dg2-3	不整形	94	60	12	64.27	弧状					
52号土坑	Cf4-2	方形カ	68	67	22	64.11	半円状		>24掘立			
53号土坑	Ef2-1	円形カ	(41)	(65)	28	64.08	半円状カ		>54土			
54号土坑	Ef2-1・3-1	円形カ	(51)	(73)	30	64.09	台形状カ		<53土			
55号土坑	Dg5-4・5-5,Dh5-1,Eg1-4・1-5・2-4・2-5,Eh1-1・2-1	方形カ	400	(353)	42	64.29	箱状カ	珠洲片口鉢(34)	<27・56土	61	61	
56号土坑	Eg2-5・3-5,Eh2-1・3-1	長方形カ	(289)	(173)	44	64.38	箱状カ	瀬戸美濃縁釉小皿(35)	<28・29土・P257,>55土			
57号土坑	Cg1-3	楕円形カ	(96)	(38)	11	64.20	弧状		<2掘立・17土	55	55	
P284	Ef3-2	楕円形カ	(29)	(23)	(48)	63.70	U字状		<40土			
P426	Ef1-1	円形カ	(40)	(35)	37	63.57	U字状		<19溝			
P468	Cf2-2	長方形カ	39	21	28	63.90	U字状	青白磁片				
P586	Cf4-4	楕円形カ	(27)	(24)	(17)	64.04	台形状		<20溝・P560	62	62	
P736	Cf2-1	楕円形カ	(51)	(21)	(33)	63.90	U字状カ		<P466・734・737,>27溝・P735			
P783	Df1-1・2-1	楕円形カ	(9)	(9)	(36)	63.95	台形状カ		<47土・P626			
P797	Df2-2	円形カ	(29)	(20)	(13)	63.90	台形状カ		<22溝,>P510			

溝

遺構名	グリッド	規模（cm）			断面形	主軸方位	出土遺物	重複遺構・新旧関係	挿図		写真
		長さ	幅	深さ					平面	断面	図版
1号溝	Be1-5・2-5・3-5,Bf1-1	(569)	(64)	14	V字状	N-65°-E N-3°-W	近世土師器小皿カ(42),漆器椀(129)				
2号溝	Bf1-1・2-1・3-1	(554)	(48)	20	V字状	N-65°-E	肥前陶器皿(43)		9		
3号溝	Bf1-1・2-1・3-1	(558)	(38)	27	階段状	N-86°-E N-60.5°-E					
4号溝	Dg1-2・2-2・2-3・3-3・3-4	(522)	(107)	28	半円状	N-37.5°-W	瓦質土器鉢(44),石鉢(109)	<9溝,>24土・10溝	12		6
5号溝	Af5-3,Bf1-3	(332)	(35)	8	階段状	N-81°-E	肥前陶器擂鉢(45)	>7・8溝			
6号溝	Bf1-3・1-4	(144)	(22)	10	V字状	N-43°-W		>7・8溝			
7号溝	Af5-3,Bf1-3・1-4・1-5	(587)	(61)	21	半円状	N-84.5°-E N-30°-W	硯(110)	<5・6溝,>8溝	9	63	
8号溝	Af5-3,Bf1-3・1-4・2-4・2-5	(1005)	(56)	23	階段状カ	N-85°-E N-24.5°-W		<5・6・7溝,>12土・P40・41			
9号溝	Cg4-2・5-2,Df5-5,Dg1-2・2-2・3-2・4-1・4-2・5-1・5-2,Ef1-3・1-4・1-5・2-1・2-2・2-3	(2611)	(76)	13	半円状	N-1°-E N-71°-E	肥前磁器碗(46),青磁碗(47),肥前陶器火入れまたは小壺(48),珠洲壺甕片(49),越前壺甕片,砥石(111)	>12・16掘立・3柵・42土・4・10・13・17溝・P117・120・148・149・159・161・291・333,≠23土	12		
10号溝	Cg4-2・5-1・5-2,Df3-5,Dg1-1・2-1・3-1	(1074)	(86)	35	台形状	N-1°-E N-52.5°-E	肥前陶器小碗(50),越前擂鉢(51),越前壺甕片	<3・13・21・30掘立・3柵・751・752,>24土・P159			6
11号溝	欠　番										
12号溝	Cg5-1・5-2	(82)	(71)	8	弧状	N-36°-W		>11掘立・10溝			
13号溝	Dg3-1	(107)	(45)	15	弧状	N-18.5°-W	珠洲片口鉢(52)	<9溝			
14号溝	Eh1-1	(156)	(85)	15	弧状	N-69°-E	中世土師器(53・54)	<27土	12	63	6
15号溝	Ef5-3・5-4,Ff1-1・1-2・1-3	(613)	(50)	18	弧状	N-28.5°-W N-37°-E		<P267,>34土・P266			

遺構名	グリッド	規模（cm）			断面形	主軸方位	出土遺物	重複遺構・新旧関係	挿図		写真
		長さ	幅	深さ					平面	断面	図版
16号溝	Df3-2・3-3	(197)	(31)	7	台形状	N-28.5°-W		>3・36掘立・P529・535	12	63	
17号溝	Df5-5,Dg5-1・5-2・5-3, Ef1-2・1-3・1-4・1-5・2-2	(1461)	(82)	10	台形状カ	N-4°-E N-19°-W	砥石(112),肥前磁器碗片	<41土・9溝,>36掘立・42土・P297			
18号溝	Df2-3・3-3・4-3	(292)	(31)	21	階段状	N-56°-E		<18・33・36掘立			
19号溝	Df2-1・3-1・4-1・5-1,Ef1-1	(656)	(130)	35	台形状	N-70°-E	珠洲片口鉢(52),肥前陶器小杯(55),肥前陶器碗(56),肥前陶器擂鉢(57),青磁碗片,越前甕片,粉引臼(113)	<21溝,>3・10・18・24・27掘立・44・47・48土・20・24溝・P419・426・612			
20号溝	Cf4-4・5-4, Df1-4・2-4・3-4・4-4・5-2・5-3・5-4 Ef1-1・1-2・3-1・4-1	(1773)	(67)	23	台形状	N-11°-E N-59°-E	白磁皿(58),青磁碗片,越前壺甕片,肥前陶器壺甕片	<3・27掘立・1竪・50土・19・21・22溝・P378,>4・9・17・24・28・30・35掘立・10・25号溝・P391・399～400・445・446・448・521・560・586・662・668・715・724・789	12	63・64	6
21号溝	Ef1-1・2-1	(191)	(23)	5	台形状	N-87°-E		<9溝,>19・20溝・		64	
22号溝	Df2-2・2-3・2-4	(544)	(69)	20	半円状	N-20°-W	肥前陶器ひだ皿(59)	<47土,>27・30・31・32・35掘立・20・23溝・P350・393・409・421・428・440・495・504・797			
23号溝	Df2-3・2-4	(192)	(31)	14	階段状	N-16°-W		<22溝,>24・32・33掘立・P353			
24号溝	Df5-2	(217)	(50)	11	台形状	N-21°-W	珠洲壺片	<1竪・19溝・P321,>25溝・P425・572			
25号溝	Df5-2	(179)	(71)	16	半円状	N-77°-E		<20・24溝			
26号溝	Cf5-1	(161)	(24)	4	台形状	N-16°-W		>3・9・28・34掘立			
27号溝	Cf2-1	(118)	(35)	9	台形状	N-49.5°-E		<17・23掘立・31溝・P736			
28号溝	Df1-2	(368)	(38)	19	台形状	N-23°-W	肥前磁器碗(60),肥前陶器皿(61),肥前陶器碗片,肥前磁器片,焼成粘土塊	<17・24・25・29掘立・P413・414・635,>32掘立			
29号溝	Cf3-5・4-5・5-5,Cg3-1・4-1・5-1	(931)	(197)	10	弧状	N-76°-E N-13°-W		>3・9・16・21・22・25・35掘立・32溝・P482・503・522・523・526・527・542・545・546・559・675・692			
30号溝	Cf1-1・1-2・1-3・2-1・2-2・2-3	(634)	(72)	6	不明	不明	肥前磁器碗(62),肥前陶器皿(63)	>22掘立・31溝・P509・P594～598			
31号溝	Cf1-1・1-2・1-3・2-1・2-2・2-3	(622)	(53)	16	階段状	N-76°-E N-18°-W	肥前陶器皿カ(64),肥前陶器擂鉢(65),瀬戸美濃碗・皿片	>34掘立・49土・27溝・P603～605・650			
32号溝	Cf4-5,Cg4-1	(42)	(44)	32	台形状	N-26°-W		<3・9掘立・29溝			

表３　遺物観察表

・計測値：()内の数値は，推定値または残存値を示す。
・遺存度：特に部位を特定していないものは，全体の中の遺存度を示す。
・成形・調整・施文：「→」は調整の順序((先)→(後))。
・胎土の略称：石＝石英，長＝長石，黒雲＝黒雲母，金雲＝金雲母，角＝角閃石，骨＝海面骨針，白＝白色粒子，赤＝赤色粒子，黒＝黒色粒子

土器・陶磁器

掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径	遺存度	胎土	成形・調整・施文・焼成方法	釉調	分類・時期	備考	挿図	写真図版
1	3掘立 P309	Dg4-1	柱痕	白磁 (福建カ)	皿	11.0	—	—	口縁部 1/8	灰白色 (2.5Y8/1)	ロクロナデ→外面体部下半ロクロケズリ	灰白色 (5Y8/1)の透明釉が薄くかかる	森田D群 (15世紀代)		67	8
2	3掘立 P309	Dg4-1		白磁 (福建カ)	皿	—	—	—	体部1/8	灰白色 (2.5Y8/1)	ロクロナデ→外面体部下半ロクロケズリ	灰白色 (10Y8/1)の透明釉	森田D群 (15世紀代)			
3	3掘立 P466	Cf2-1・ 3-1		磁器 (肥前)	碗	—	—	4.2	底部 完存	灰白色 (10YR8/1)	高台際に2条の圏線，畳付露胎	灰白色 (10Y8/1)の透明釉	大橋Ⅲ期 (17世紀後半)	体部打ち欠きカ		
4	3掘立 P471	Cf2-3		磁器 (肥前)	折縁皿	—	—	—	口縁部片	灰白色 (2.5Y8/1)	口縁部内外面に各1条の圏線と内面に蓮弁文を描く	透明釉がやや厚めにかかる	大橋Ⅱ-2期(1620～1640年代)			
5	9掘立 P470	Cf2-3		白磁 (福建カ)	小杯	—	—	—	口縁部～ 底部片	灰白色 (2.5Y7/1)	畳付露胎	灰白色 (5Y8/1)の透明釉	森田E群 (16世紀)			
6	9掘立 P359	Cf5-2	掘方	陶器 (瀬戸美濃)	平碗	—	—	—	口縁部片	にぶい黄橙 (10YR7/3)	ロクロナデ	浅黄色 (5Y7/2)の灰釉	藤澤 古瀬戸後期(14世紀後半から～15世紀)			
7	9掘立 P735	Cf2-1		白磁 (福建カ)	鍔皿	—	—	—	口縁部片	灰白色 (2.5Y7/1)	ロクロナデ	灰白色(N8/0)の透明釉が厚くかかる	森田E群 (15～16世紀)			
8	9掘立 P359 P464 P476	Cf5-2 Cf5-5・ Df1-5 Df1-5	掘方	陶器 (肥前)	壺または甕	—	—	24.0	体部下端 1/3,底部 1/6	黒褐色 (7.5YR3/1)	底部叩き締め，体部下端外面ナデ・内面オサエ，体部叩き，内面同心円状のあて具痕	—	大橋Ⅱ期 (17世紀前半)			
9	9掘立 P359 17掘立 P709	Cf5-2 Df1-2	掘方 下層	陶器 (肥前)	皿	14.7	3.8	5.0	口縁部・ 体部1/4, 底部完存	灰白色 (10YR7/1)	ロクロナデ→高台部削り出し，砂目積み	灰白色 (2.5Y7/1)の灰釉がかかる	大橋Ⅱ-1期(1610～1630年代)			
10	10掘立 P708	Df1-1		陶器 (福建カ)	天目茶碗	—	—	4.1	底部 完存	灰白(N7/0)	ロクロナデ→底部ロクロケズリ	黒色(N1.5/0)の鉄釉が厚くかかる	不明	内底面に細かな傷多	68	
11	17掘立 P459	Cf5-4 Cf	Ⅱa層	青磁 (龍泉窯系)	盤	—	—	—	口縁部片	褐灰色 (10YR6/1)	ロクロナデ→鍔縁部内面に刻花波涛文	灰白色 (10YR8/2)	14世紀後半以降	二次的に被熱，内外面の一部と破断面全面に漆付着		
12	17掘立 P459	Cf5-4 Cf	Ⅰa層	陶器 (瀬戸美濃)	縁釉小皿	—	—	5.6	底部2/3	灰黄色 (2.5Y7/2)	ロクロナデ，回転糸切り	オリーブ灰色 (10Y6/2)の灰釉	藤澤 古瀬戸後Ⅲ期 (15世紀前葉)			
13	17掘立 P709	Df1-2	上層	陶器 (瀬戸美濃)	丸皿	9.8	2.3	4.3	口縁部 1/4, 底部 完存	灰白色 (10YR7/1)	ロクロナデ→高台部削り出し，内底面に印花菊花文，高台部露胎	灰褐色 (5YR4/2)の鉄釉	藤澤 大窯第3段階後半(16世紀後葉後半)	内面擦れ顕著		
14	17掘立 P734	Cf2-1	掘方	陶器 (瀬戸美濃)	小天目茶碗	8.8	—	—	口縁部 1/8	灰白色 (2,5Y7/1)	ロクロナデ→外面体部下半ロクロケズリ	黒色 (2.5Y2/1)の鉄釉がやや厚くかかる	藤澤 古瀬戸後Ⅲ期 (15世紀前葉)			
15	17掘立 P536	Df1-1・ 1-2		中世土師器カ	小皿カ	—	—	—	口縁部片	灰黄褐色 (10YR5/2)	ロクロナデ	—	15世紀後半カ	二次的に被熱		
16	17掘立 P536 29掘立 P473	Df1-1 Df1-1		陶器 (肥前)	擂鉢	—	—	10.9	体部下端 7/8,底部 完存	黄灰色 (2.5Y5/1)	ロクロナデ→内面8条一単位の擂目，回転糸切り	褐色 (7.5YR4/4)の錆釉が薄くかかる	大橋Ⅱ～Ⅲ期(17世紀代)	内面擦れ		
17	25掘立 P532	Df1-3	掘方	陶器 (肥前)	鉢	—	—	7.3	底部5/8	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	ロクロナデ，回転糸切り→高台部削り出し，内底面に胎土目カ	オリーブ褐色 (2.5Y4/4)の灰釉	大橋Ⅰ期 (16世紀末～1610年代後半)	二次的に被熱し，一部に煤付着		
18	28掘立 P467	Cf3-2 Cf	Ⅰa層	陶器 (瀬戸美濃)	平碗	17.8	—	—	口縁部 1/8	灰白色 (2.5Y7/1)	ロクロナデ	オリーブ黄色 (5Y6/4)の灰釉	藤澤 古瀬戸後Ⅱ～Ⅲ期(14世紀後葉～15世紀前葉)			

掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径	遺存度	胎土	成形・調整・施文・焼成方法	釉調	分類・時期	備考	挿図	写真図版
19	33掘立P351	Df2-2		陶器(肥前)	皿	—	—	3.5	底部1/3	にぶい赤褐色(5YR5/3)	ロクロナデ→高台部削り出し	灰オリーブ色(5Y4/2)の灰釉	大橋Ⅰ期(16世紀末～1610年代後半)		68	8
20	1竪	Df4-3	2層	青磁(龍泉窯系)	碗	13.8	—	—	口縁部1/8	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロナデ	オリーブ灰色(2.5GY6/1)の釉が厚くかかる	上田D-Ⅱ類(14世紀末～15世紀)			
21	2井	Dg3-4	1層	陶器(越前)	擂鉢	—	—	—	体部片	浅黄橙色(10YR8/4)	ロクロナデ→内面擂目	—	田中・木村Ⅳ-1～Ⅴ-1期(15世紀前半～16世紀前葉)			
22	2井	Dg4-5	1層	陶器(越前)	擂鉢	—	—	—	体部片	灰褐色(7.5YR5/2)	ロクロナデ→内面擂目	—	田中・木村Ⅳ-1～Ⅴ-1期(15世紀前半～16世紀前葉)			
23	3井	Bh3-1	1層	陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	10.6	—	—	口縁部1/6	灰白色(10YR7/1)	ロクロナデ	灰褐色(5YR4/2)の鉄釉	藤澤 古瀬戸後Ⅳ期(新)(15世紀後葉)			
24	4土	Bd2-5		磁器(肥前)	小皿	11.8	—	—	口縁部1/8	灰白色(5Y7/1)	ロクロナデ	透明釉が薄くかかる	大橋Ⅳ-1期(17世紀末～18世紀前半)			
25	40土	Ef2-3	2層	陶器(瀬戸美濃)	花瓶(Ⅰ類)	—	—	5.0	底部2/5	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロナデ→脚部外面ロクロケズリ,回転糸切り	灰白色(5Y7/2)の灰釉	藤澤 古瀬戸後Ⅳ期(新)(15世紀後葉)		69	9
26	40土	Ef3-2 Cf	2層 Ⅰa層	陶器(珠洲)	片口鉢	—	—	—	体部1/8	黄灰色(2.5Y6/1)	ロクロナデ→内面擂目	—	吉岡Ⅳ期(14世紀中葉)	内面擦れ顕著		8
27	47土	Df2-1	底面	青磁(龍泉窯系)	碗	—	—	—	口縁部片	灰白色(10YR7/1)	口縁部～体部外面に簡略化された刻花細蓮弁文	灰オリーブ色(7.5Y5/2)	上田B-Ⅳ類(15世紀後半)			9
28	47土	Df2-1		陶器(肥前)	皿	11.3	—	—	口縁部1/6	にぶい黄橙色(10YR7/4)	ロクロナデ	にぶい黄褐色(10YR5/3)の透明釉が薄くかかる	大橋Ⅱ～Ⅲ期(17世紀代)			
29	48土	Df2-2・3-2 Df	Ⅰa層	陶器(肥前)	碗	11.9	7.4	4.6	口縁部1/6,体部1/3,底部完存	にぶい黄橙色(10YR7/2)	ロクロナデ→底部削り出し	灰黄色(2.5Y7/2)の灰釉	大橋Ⅰ期(16世紀末～1610年代後半)			
30	49土	Cf1-1		陶器(瀬戸美濃)	瓶子	—	—	—	肩部片	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロナデ	灰オリーブ色(7.5Y6/2)の灰釉	藤澤 古瀬戸後期(14世紀後半～15世紀)			
31	49土	Cf1-1		陶器(肥前)	擂鉢	(31.7)	—	—	口縁部1/10	褐灰色(10YR6/1)	ロクロナデ→内面14条一単位の擂目	灰褐色(7.5YR4/2)の鉄釉を口縁部のみ施釉	大橋Ⅳ-1期(17世紀末～18世紀初)			
32	50土	Cf3-4		陶器(越前)	擂鉢	—	—	—	体部片	灰白色(5Y7/1)	ロクロナデ→内面擂目	—	田中・木村Ⅳ-1～Ⅴ-1期(15世紀後半～16世紀前葉)	内面擦れ		
33	50土	Cf3-3		陶器(越前)	擂鉢	—	—	15.4	底部1/3	浅黄色(2.5Y7/3)	ロクロナデ→内面擂目	—	田中・木村Ⅴ-2～Ⅴ-3期(16世紀中葉～16世紀後葉)	二次的に被熱,内面擦れ顕著		
34	55土	Eh2-1	1層	陶器(珠洲)	片口鉢	—	—	11.5	底部1/2	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロナデ→内面擂目,静止糸切り	—	吉岡Ⅴ～Ⅵ期(15世紀)	内面擦れ顕著,擂目ほぼ磨滅		
35	56土	Eg3-5	1層	陶器(瀬戸美濃)	緑釉小皿	—	—	5.3	底部完存	灰黄色(2.5Y7/2)	ロクロナデ→内底部ロクロケズリ→回転糸切り	オリーブ灰色(10Y6/2)の灰釉	藤澤 古瀬戸後Ⅲ期(15世紀前葉)			
36	P12	Be3-1 DF	1層 Ⅰa層	陶器(肥前)	擂鉢	—	—	8.0	底部1/8	褐灰色(7.5YR6/1)	ロクロナデ→内面擂目カ,高台部ロクロケズリ	—	大橋Ⅱ期(17世紀前半)	二次的に被熱,内面擦れ顕著,擂目磨滅	70	
37	P52	Cg2-4		陶器(珠洲)	壺(T種)または甕	—	—	—	体部片	灰色(N5/0)長・石・骨多	(外)叩き(内)おさえ→板状工具の木口面で板ナデ	—	吉岡Ⅳ期(14世紀中葉)以前			

掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径	遺存度	胎土	成形・調整・施文・焼成方法	釉調	分類・時期	備考	挿図	写真図版
38	P307	Df5-4		陶器(瀬戸美濃)	天目茶碗	—	—	—	体部片	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロナデ→外面体部下半ロクロケズリ	黒色(2.572/1)の鉄釉	不明		70	9
39	P358	Df3-4	掘方	陶器(肥前)	擂鉢	—	—	—	体部片	灰色(N5/0)	ロクロナデ→内面9条一単位の擂目	—	大橋Ⅱ～Ⅲ期(17世紀代)	内面擦れ		
40	P456	Cf5-2		青磁(龍泉窯系)	碗	—	—	—	口縁部片	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロナデ→口縁部外面に刻花文(崩れた雷文カ)	オリーブ灰色(10Y5/2)	上田C-Ⅱ類(15世紀代)カ			
41	P679	Cf2-5		陶器(越前)	擂鉢	—	—	—	口縁部片	褐灰色(7.5YR5/1)	ロクロナデ→内面擂目	—	田中・木村Ⅴ期(16世紀代)	内面擦れ		
42	1溝	Bf2-5	1層	近世土師器カ	小皿(手づくね)	(10.2)	(1.6)	(7.0)	口縁部1/8	にぶい橙色(7.5YR7/4)長・金雲少	手づくね→口縁ナデ	—	近世カ	焼成：酸化軟質		
43	2溝	Af4-1		陶器(肥前)	皿	—	—	4.8	底部1/2	(内)黄灰色(2.5Y6/1)(外)にぶい橙色(7.5YR6/4)	削り出し高台,底部外面露胎,砂目積み	灰白色(10Y7/1)の灰釉	大橋Ⅱ-1期(1610～1630年代)			
44	4溝	Dg2-2	1層	瓦質土器(在地カ)	鉢	—	—	—	口縁部片	にぶい橙色(7.5YR7/4)石・長・金雲多	口縁部ロクロナデ	—	15世紀前半以降	粘土紐接合痕顕著,焼成やや不良,黒斑有		
45	5溝	Bf1-1	1層	陶器(肥前)	擂鉢	—	—	—	体部片	黄灰色(2.5Y5/1)	擂目密	—	大橋Ⅱ～Ⅲ期(17世紀代)			
46	9溝	Ef1-3		磁器(肥前)	丸碗	11.4	5.8	4.6	口縁部1/10未満,体部1/4,底部1/2	灰白色(5Y8/1)	体部外面に雁行文,高台脇に1条,高台際に2条,高台内に1条の圏線を描く。畳付無釉	透明釉	大橋Ⅳ期前半(17世紀末～18世紀前半)			
47	9溝	Ef2-3		青磁(龍泉窯系)	碗	—	—	5.8	底部1/4	灰色(5Y6/1)	高台部削り出し,内底面・高台内釉剥ぎ	暗オリーブ色(5Y4/4)の釉が厚くかかる	上田B-Ⅱ-2類(14世紀後半～15世紀)	高台部に重ね焼きによる付着物,内底面擦れ顕著		
48	9溝	Dg5-2	1層	陶器(肥前)	火入れか小壺	—	—	—	口縁部片	黄灰色(2.5Y6/1)	ロクロナデ	黒褐色(10YR3/2)の鉄釉が薄くかかる	大橋Ⅰ～Ⅱ期(16世紀末～17世紀前半)			
49	9溝	Ef1-4		陶器(珠洲)	壺(T種)または甕	—	—	—	胴部片	灰色(5Y5/1)石・長・雲・白・骨多	外面斜め～縦方向の叩き	—	不明			
50	10溝	Dg1-1		陶器(肥前)	小碗	10.2	—	—	口縁部1/4	黄灰色(2.5Y5/1)	口縁部～体部上半ロクロナデ,体部下半ロクロケズリ,外面体部下半は露胎	暗オリーブ色(5Y4/3)の灰釉	大橋Ⅰ期(16世紀末～1610年代後半)			
51	10溝	Df3-5		陶器(越前)	擂鉢	—	—	—	口縁部片	にぶい黄橙色(10YR7/2)長・石	ロクロナデ→内面12条一単位の擂目	—	田中・木村Ⅳ-3～Ⅴ-1期(15世紀後葉～16世紀前葉)	内面擦れ		
52	13溝 19溝	Dg3-1 Df		陶器(珠洲)	片口鉢	—	—	—	口縁部片	灰色(5Y6/1)長・石・黒多,骨微	ロクロナデ→口端部板状工具の木口面による面取り,内面擂目	—	吉岡Ⅳ期(13世紀末～14世紀中葉)	擂目磨滅顕著,二次的に被熱		
53	14溝	Eh1-1		中世土師器	皿(手づくね)	14.4	2.1	7.6	1/4	灰黄褐色(10YR5/2)長・石・黒雲・金雲多	指頭によるおさえ→口縁部ヨコナデ	—	16世紀前半	焼成：酸化軟質,内面～口縁部外面スス付着	71	
54	14溝	Eh1-1		中世土師器	皿(手づくね)	14.0	2.1	7.1	口縁部9/10,底部3/4	灰黄褐色(10YR5/2)長・石・黒雲・金雲多	指頭によるおさえ→口縁部～体部内面ヨコナデ	—	16世紀前半	内外面に橙色の付着物		
55	19溝	Df2-1		陶器(肥前)	小杯	—	—	—	口縁部片	にぶい褐色(7.5YR6/3)	ロクロナデ	暗灰黄色(2.5Y4/2)の灰釉	大橋Ⅰ期(16世紀末～1610年代後半)			
56	19溝	Df2-1		陶器(肥前)	碗	—	—	5.0	底部完存,高台部1/2	灰褐色(7.5YR4/2)	ロクロナデ→外面体部下半ロクロケズリ,高台部削り出し,外面体部下半～底部露胎	灰色(7.5Y6/1)の藁灰釉が厚くかかる	大橋Ⅰ-2～Ⅱ-1期(17世紀前半)			
57	19溝	Df4-1 Ad	1層 Ⅰa層	陶器(肥前)	擂鉢	—	—	8.6	底部1/2	にぶい赤褐色(5YR5/3)	ロクロナデ→内面7条一単位の擂目,回転糸切り→高台部削り出し	—	大橋Ⅱ期(17世紀前半)	擂目やや磨滅,体部下端指抜き痕		

掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径	遺存度	胎土	成形・調整・施文・焼成方法	釉調	分類・時期	備考	挿図	写真図版
58	20溝	Cf4-4		白磁(福建カ)	皿	—	—	3.1	底部	灰白色(2.5Y7/1)	内底面ロクロナデ,高台部削り出し	灰白色(10Y8/1)の釉が薄くかかる	森田D群(15世紀前半)		71	10
59	22溝	Df2-3		陶器(肥前)	ひだ皿(菊皿)	13.4	—	—	口縁部1/8	灰色(5Y6/1)	ロクロナデ→指頭で押圧してひだを作る	灰色(5Y5/1)の灰釉	大橋Ⅰ期(16世紀末～1610年代後半)	外面に漆付着カ		9
60	28溝	Df1-3		磁器(肥前)	丸碗	10.0	—	—	口縁部1/8	灰白色(10YR8/2)	口縁部下と体部下半に1条の線を引き、蔦状の文様と窓を描く	灰白色(7.5Y8/1)の白濁した透明釉	大橋Ⅲ期(17世紀中頃～後半)			
61	28溝P472	Df1-2		陶器(肥前)	皿	12.4	—	—	口縁部1/6	灰色(5Y6/1)	ロクロナデ→高台部削り出し,内底面不明鉄絵文	灰オリーブ色(5Y5/2)の灰釉	大橋Ⅰ期(16世紀末～1610年代後半)			
62	30溝	Cf1-2		磁器(肥前)	碗	—	—	3.8	底部1/3	灰白色(5Y7/1)	高台際に1条の圏線,畳付釉剥ぎ,砂目付着	透明釉	大橋Ⅱ-2～Ⅲ期(1640～1660年代)			10
63	30溝	Cf1-2		陶器(肥前)	皿	—	—	4.3	底部1/3	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロナデ→高台部削り出し,内底面輪状釉剥ぎ,高台部露胎,砂目積み	(内)緑灰色(10G5/1)の銅緑釉(外)灰オリーブ色(7.5Y6/2)の灰釉	大橋Ⅳ-1期(17世紀末～18世紀前半)			
64	31溝	Cf1-4		陶器(肥前)	皿カ	—	—	3.9	底部1/4	黄灰色(2.5Y6/1)	ロクロナデ→高台部削り出し	—	大橋Ⅰ期(16世紀末～1610年代後半)	内面に自然釉		
65	31溝	Cf1-4		陶器(肥前)	擂鉢	—	—	—	体部片	灰色(2.5Y5/1)	ロクロナデ→内面擂目	—	大橋Ⅱ～Ⅲ期(17世紀代)	内面擦れ顕著		
66	堀	Fg・Gg	中層	青磁(龍泉窯系)	碗	11.2	—	—	口縁部1/5	灰白色(5Y7/1)	ロクロナデ→体部外面劃花蓮弁文,口縁部に砂付着	緑灰色(7.5GY6/1)の釉が厚くかかる	上田B-Ⅱ類(15世紀前半)			
67	堀	Fg・Gg	中層	青磁(龍泉窯系)	碗	—	—	5.6	底部1/2	黄灰色(2.5Y6/1)	ロクロナデ→高台部削り出し	オリーブ灰色(2.5GY6/1)の釉が薄くかかる	上田D-Ⅰ類(14世紀後半)			
68	堀	Ff	下層	陶器(瀬戸美濃)	内禿皿(Bc類)	—	—	5.8	底部2/3	灰白色(10YR8/2)	ロクロナデ→高台部削り出し	黒色(5YR1.7/1)の鉄釉が厚くかかる	藤澤 大窯第4段階前半(16世紀末)	内底面にトチン痕,高台内に輪ドチ痕		
69	攪乱	Bg3-1		陶器(信楽)	壺または甕	—	—	—	胴部片	灰色(5Y6/1)	(内)オサエ→板ナデ(外)ロクロナデ	自然釉	不明			
70	攪乱	Df1-5		陶器(肥前)	壺または甕	—	—	—	底部片	灰褐色(5YR4/2)	粘土紐接合痕,体部下端～底部ナデ→体部平行叩き,内面同心円あて具痕	—	大橋Ⅱ期(17世紀前半)			
71	攪乱	Oh		陶器(越中瀬戸または瀬戸美濃)	広口小壺	(7.3)	—	—	口縁部1/9	灰黄色(2.5Y7/2)	ロクロナデ,口端部釉剥ぎ	黒色(10YR2/1)の鉄釉が薄くかかる	17世紀カ			
72	攪乱	Eh4-1		中世土師器	皿	15.0	—	—	口縁部1/6	浅黄橙(10YR8/3)長・石・金雲	ロクロナデ	—	16世紀前半	体部外面磨滅		
73	攪乱	Hg2-2		陶器(珠洲)	片口鉢または壺	—	—	14.6	底部1/8	灰色(N6/0)	ロクロナデ	—	吉岡Ⅱ～Ⅲ期(13世紀～14世紀)	内面やや擦れ		
74		Ac5-2	Ⅰa層	陶器(珠洲)	片口鉢	—	—	—	口縁部片	灰オリーブ色(5Y6/2)	ロクロナデ→内面擂目	—	吉岡Ⅵ期(15世紀中葉)	内面擦れ顕著	72	
75		Af	Ⅰa層	青白磁(景徳鎮窯系)	碗	—	—	4.4	底部1/4	灰白色(5Y8/1)	高台部削り出し,高台内～高台露胎,内底面・高台部砂付着	明オリーブ灰色(2.5GY7/1)の透明釉が薄くかかる	森田B群(15世紀)カ			
76		Bf	Ⅰa層	陶器(瀬戸美濃)	折縁皿	10.0	—	—	口縁部1/8	灰白色(10YR8/2)	ロクロナデ	オリーブ黄色(5Y6/3)の灰釉	藤澤 大窯第4段階(16世紀末～17世紀初頭)			
77		Cf	Ⅰa層	白磁(福建カ)	皿	(11.6)	—	—	口縁部1/9	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロナデ	灰白色(5Y7/1)の白濁した透明釉	森田E-2類(16世紀前半)			
78		Cf	Ⅰa層	青磁(龍泉窯系)	碗	—	—	—	口縁部片	灰白色(10YR7/1)	口縁部～体部外面に簡略化された刻花細蓮弁文	オリーブ灰色(5GY6/1)	上田B-Ⅳ類(15世紀後半)			

掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径	遺存度	胎土	成形・調整・施文・焼成方法	釉調	分類・時期	備考	挿図	写真図版
79		Cg	Ⅰa層	青磁(肥前)	花瓶カ	8.8	—	—	口縁部1/6	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロナデ	明オリーブ灰色(5GY7/1)の青磁釉	不明		72	10
80		Cg	Ⅰa層	陶器(越前)	壺または甕	—	—	—	肩部片	にぶい褐色(7.5YR5/3)	粘土紐接合痕,内面ナデ,外面縦方向に2条のヘラ記号	外面に自然釉が厚くかかる	田中・木村Ⅳ-2期(15世紀中葉)以降			
81		Df2-2 Df	Ⅱa層	陶器(瀬戸美濃)	折縁皿	10.0	2.0	5.9	口縁部1/3,底部3/4	灰白色(10YR8/1)	ロクロナデ→内底面板状工具木口面でロクロケズリ,高台部削り出し,底部内外面に輪ドチ痕	浅黄色(5Y7/3)の灰釉	藤澤 大窯第4段階後半(17世紀初頭前後)	内底面擦れ顕著(墨痕カ),畳付擦れ		
82		Df2-2	Ⅱa層	陶器(肥前)	皿	—	—	—	口縁部片	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロナデ→内底面に不明鉄絵文様	灰オリーブ色(5Y6/2)の灰釉	大橋Ⅰ期(16世紀末～1610年代後半)			
83		Dg	Ⅰa層	陶器(中国)	長胴瓶または壺	—	—	9.0	底部1/8	灰赤色(10R4/2)	ロクロナデ	灰黄褐色(10YR4/2)の錆釉が薄くかかる	不明			
84		Ff・Gf	Ⅰb層	青磁(龍泉窯系)	碗	—	—	—	口縁部片	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロナデ	緑灰色(7.5GY6/1)	上田B-ⅠまたはD類(15世紀前半)			
85		Ff・Gf	Ⅰb層	青花(漳州窯系)	皿	8.6	2.0	5.0	1/4	灰白色(2.5Y8/1)	(外)口縁部・高台際に各1条の圏線,その間に牡丹唐草文を描く(内)口縁部に1条,内底面に2条の圏線と十字花文を描く。高台部釉剥ぎ	透明釉	小野染付皿BⅠ(Ⅳ)(15世紀後半～16世紀前半)			
86		Fi	Ⅰa層	白磁(福建カ)	壺	—	—	—	胴部片	灰白色(N8/0)	ロクロナデ	明オリーブ灰色(2.5GY7/1)の透明釉	不明			
87		Gf	Ⅰb層	瓦質土器	瓦燈カ	—	—	—	肩部片	灰黄褐色(10YR5/2)長・金雲・石少	ミガキ→燻し	—	不明			
88		Gg	Ⅰb層	磁器(肥前)	碗	—	—	4.2	底部1/3	灰白色(2.5Y7/1)	内底面に2条,外面体部下半に1条,高台際に2条の圏線を描く。畳付釉剥ぎ	灰黄色(2.5Y7/2)に変色した透明釉が薄くかかる	大橋Ⅳ期前半(17世紀末～18世紀前半)			
89		Gh	Ⅰb層	青白磁(景徳鎮カ)	皿	—	—	—	口縁部片	灰白色(5Y8/1)	ロクロナデ	明緑灰色(10GY7/1)の透明釉が薄くかかる	15世紀代			
90		Gh	Ⅰb層	陶器(肥前)	皿	—	—	11.6	底部1/3高台部1/6	灰白色(5Y7/1)	ロクロナデ→高台部削り出し,内底面輪状釉剥ぎ、砂目積み	(内)オリーブ灰色(10Y4/2)の銅緑釉(外)灰オリーブ色(5Y6/2)の灰釉	大橋Ⅳ期前半(17世紀末～18世紀前半)	二次的に被熱		
91		排土		陶器(信楽)	皿	(11.0)	—	—	口縁部1/9	灰白色(2.5Y7/1)	ロクロナデ,外面口唇部より下露胎,内底面に三又トチンの痕	灰白色(5Y7/2)の灰釉が薄くかかる	18世紀末～19世紀頃			
92		排土		陶器(越前)	甕	—	—	—	口縁部片	褐灰色(10Y6/1)	ロクロナデ	内外面に自然釉がかかる	田中・木村Ⅴ-1期(16世紀初頭)			
93		排土		陶器(珠洲)	甕	—	—	13.8	底部1/2	青灰色(5B6/1)	底部オサエ→体部叩き→内面ナデ	—	吉岡Ⅳ期(13世紀)以降			
94		表採		磁器(肥前)	丸碗	—	—	4.0	底部2/3,高台部1/4	灰白色(2.5Y8/1)	ロクロナデ,体部外面に一重網目文と1条の圏線を描く,畳付釉剥ぎ	明緑灰色(5G7/1)の透明釉が厚くかかる	大橋Ⅱ期末～Ⅲ期(1640～1670年頃カ)	内面一部に漆付着	73	
95		表採		陶器(肥前)	皿	11.4	—	—	口縁部1/7	灰黄色(2.5Y7/2)	ロクロナデ	にぶい黄色(2.5Y6/3)の灰釉	大橋Ⅰ-2～Ⅱ-1期(17世紀前半)	破断面の一部に煤付着		
96		表採		陶器(肥前)	擂鉢	—	—	11.2	底部1/2	にぶい褐色(7,5YR6/3)	ロクロナデ→内面13条一単位の擂目,回転糸切り	—	大橋Ⅱ～Ⅲ期(17世紀代)	内面一部わずかに擦れ		11

土製品

掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	胎土	成形・焼成	備考	挿図	写真図版
97	27掘立 P427	Df2-4		土製品	焼成粘土塊	5.5	5.3	2.8	47.1	黒色 (2.5Y2/1) 長・石・金雲多	酸化軟質	完存。		
98	P431	Cf5-3		土製品	焼成粘土塊	3.8	3.0	1.7	9.4	にぶい橙 (7.5YR7/4) 長・石・金雲多	酸化良好	完存。		
99	堀		最下層	土製品	加工円盤	7.5	—	0.6	—	にぶい橙 (5YR6/3)	龍泉窯系青磁碗の体部を上方から打ち欠く	2/3残存。二次的に被熱し,高台部～外底面の一部煤付着。ロクロナデ→内底面1条の圏線→高台部削り出し。にぶい褐色(7.5YR6/3)の釉が内面～高台部外面までかかる。上田B-Ⅱ-b類(14世紀後半～15世紀初)。高台部擦れ顕著	74	11
100	堀		4層	土製品	加工円盤	(5.9)	—	0.8	—	灰白色 (10YR7/2)	龍泉窯系青磁碗の体部を上方から打ち欠く	1/2残存。ロクロナデ→内底面不明刻花文→高台部削り出し。緑灰色(7.5GY6/1)の釉が厚くかかる。高台内に目痕。上田B-Ⅲ-b類(15世紀前半)		
101		Gg	Ⅰb層	土製品	加工円盤	8.7	7.2	0.4	—	にぶい黄橙 (10YR7/2)	肥前陶器皿の体部を上下から打ち欠く	完存。ロクロナデ→高台部削り出し。内面緑灰色(10G5/1)の銅緑釉施釉後内底面輪状釉剥ぎ,外面灰白色(5Y7/2)の灰釉施釉後畳付釉剥ぎ。高台部に砂目痕、内底面重ね焼き痕。大橋Ⅳ期前半(17世紀末～18世紀前半)		

石製品

掲載番号	遺構	グリッド	層位	器種	用途	計測値(cm) 長さ(口径)	幅(高さ)	厚さ(底径)	重量(g)	遺存度	石材	加工・使用状況	備考	挿図	写真図版
102	1井	Bg2-2		砥石	仕上砥	6.7	3.1	2.0	68.5	—	凝灰岩				
103	2井	Dg3-5	1層	砥石	中砥カ	8.1	6.3	1.8	138.1	—	流紋岩		磨面の剥落顕著		12
104	32土	Ef2-4	1層	砥石	中砥カ	16.5	11.5	6.5	2040.0	—	流紋岩		被熱によりスス付着		
105	40土	Ef3-2		石臼	茶臼(下臼)	(18.2)	8.9	27.4	(3290.0)	1/2	閃緑岩	8条8分割の磨目,側面磨き,受皿部丁寧な磨き,基台部側面・底面小割り,基台部内面ノミによるハツリ,受皿部破砕後廃棄カ			11
106	P123	Cg4-1		砥石	仕上砥	9.4	3.3	1.1	67.1	—	頁岩	縁辺部ノコギリ痕カ	鳴滝砥	75	12
107	35掘立 P438	Df2-4		碁石(黒石)	—	2.8	2.7	0.6	6.7	完存	頁岩	全面磨き			11
108	P469	Cf1-4		砥石	中砥カ	7.4	3.3	0.8	44.1	—	結晶片岩				12
109	4溝	Dg2-2		石鉢	—	(15.9)	—	—	(919.0)	底部1/9	花崗閃緑岩	内面・外面体部下端片刃での小割り→外底面ノミでのハツリ	内部被熱痕		11
110	7溝	Bf1-3		硯	—	—	—	—	(20.8)	角の一部残存,縁上面・底面縁辺部を欠く	頁岩	縁側面に平タガネ痕カ,陸部・底面擦れ顕著			
111	9溝	Cg4-2	1層	砥石	中砥	6.3	4.3	1.5	47.4	—	輝緑岩				12
112	17溝	Dg5-2		砥石	中砥	10.9	5.8	4.5	435.4	—	流紋岩				
113	19溝	Df2-1		石臼	粉引臼(下臼カ)	(19.0)	—	—	109.2	磨面側面1/8	閃緑岩	側面ノミ状工具でのハツリ	磨面擦れ		11
114	堀	Fh3-5	最下層	砥石	中砥	8.3	5.6	3.0	179.3	—	流紋岩	端面の一部を細かく加工	伊予砥	76	12
115		Cf	Ⅰa層	砥石	仕上砥	8.1	4.2	1.1	68.1	—	頁岩		鳴滝砥		
116		Ff・Gf	Ⅰb層	砥石	中砥	8.5	4.8	2.7	155.5	—	流紋岩		磨面の剥落顕著		

銭貨

掲載番号	遺構	グリッド	層位	銭種	細分	計測値(cm) 外径	穿径	厚さ	重量(g)	背面	材質	鋳造年代	備考	挿図	写真図版
117	3掘立 P471	Cf5-3		寛永通寶	古寛永	2.5	0.6	0.1	3.3	無文	銅	寛永13(1636)年～万治2(1659)年			
118	3掘立 P471	Cf5-3		寛永通寶	古寛永	2.5	0.6	0.1	2.9	無文	銅	寛永13(1636)年～万治2(1959)年			
119	3掘立 P471	Cf5-3		寛永通寶	古寛永	2.4	0.5	0.1	3.8	無文	銅	寛永13(1636)年～万治2(1959)年			
120		Af	Ⅰa層	寛永通寶	古寛永	2.4	0.6	0.1	3.1	無文	銅	寛永13(1636)年～万治2(1959)年		77	11
121		Dg	Ⅰa層	寛永通寶	新寛永	2.4	0.6	0.1	2.9	無文	銅	元禄9(1697)年～延享4(1747),明和4(1767)～天明元(1781)年			
122		Ff・Fg	Ⅲ層	寛永通寶	新寛永	2.3	0.7	0.1	1.6	無文	銅	元禄9(1697)年～延享4(1747),明和4(1767)～天明元(1781)年			

掲載番号	遺構	グリッド	層位	銭種	細分	計測値（cm）			重量(g)	背面	材質	鋳造年代	備考	挿図	写真図版
						外径	穿径	厚さ							
123	表採			寛永通寶	新寛永（文銭）	2.5	0.6	0.2	2.9	「文」	銅	寛文8(1668)年～天和3(1683)年		77	11
124	4トレンチ			寛永通寶	新寛永	2.4	0.7	0.1	2.8	無文	銅	元禄9(1697)年～延享4(1747),明和4(1767)～天明元(1781)年			

金属製品

掲載番号	遺構	グリッド	層位	器種	用途	計測値（cm）			重量(g)	遺存度	材質	製作方法・使用状況	備考	挿図	写真図版
						長さ（口径）	幅（高さ）	厚さ（底径）							
125	攪乱	Cf1-4		煙管	吸口	6.4	0.4～1.0	0.2～1.0	4.1	完存	真鍮	真鍮の板を筒状に丸めて接合,口元部分噛み痕の凹み		77	11

木製品

掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	木取り	材質	加工・技法・文様	備考	挿図	写真図版
						長さ（口径）	幅（高さ）	厚さ（底径）							
126	9土	Bf2-3		木製品	下駄	(13.7)	(5.7)	2.9	1/2	柾目	スギ	連歯下駄	樹種同定試料№1	78	13
127	9土	Bf2-3		木製品	折敷	(18.7)	3.7	0.6	下部欠	柾目	―	底板,上部・右側面に孔あり			
128	21土	Cg3-2		木製品	下駄	(14.0)	7.7	3.0	後部欠	柾目	モクレン属	連歯下駄,上面使用による摩滅あり	樹種同定試料№2		
129	1溝	Be2-5		木製品	漆器椀	-	(2.1)	(5.6)	底部1/2	横木取り	―	外面一部に赤色漆残存			
130	川跡	Gg2-2	中層	木製品	漆器蓋	(10.1)	(3.1)	(3.9)	1/6	横木取り	―	内外面赤色漆を施す			
131	川跡	Ff	中層	木製品	漆器椀	-	(0.8)	(5.6)	底部のみ	横木取り	―	内外面に赤色漆を施す。底面黒色の文様あり			13
132	川跡	Fg・Gg	中層	木製品	漆器椀	-	(1.1)	5.2	底部のみ	横木取り	―	内外面に黒色漆を施す。内面に赤色漆の文様あり			
133	堀	Fh	最下層	木製品	不明	14.1	3.6	0.8	完形	柾目	―	曲物の転用か。2カ所孔あり。右側面切り込み複数あり			
134	-	Dg5-3		木製品	漆器蓋	(10.4)	―	(2.9)	口縁部1/6,高台部欠	横木取り	―	内外面赤色漆を施す			
135	1掘立P33	Bf2-4		木製品	柱	(33.8)	12.8	10.8	上部欠	丸木取り	コナラ属コナラ節	底面チョウナによる粗い削り	樹種同定試料№3,放射性炭素年代測定試料№3	79	
136	1掘立P36	Bf2-4		木製品	柱	(38.8)	13.6	10.4	上部欠	丸木取り	コナラ属コナラ節	表面多角形に割り裂き,底面チョウナによる粗い削り	樹種同定試料№4,放射性炭素年代測定試料№4		
137	1掘立P45	Bf2-5・Bg2-1		木製品	柱	(17.7)	5.7	4.0	上部上半欠	偏ミカン割	―	底面二方向から斜めに削り出し			13
138	2掘立P767	Cg2-4		木製品	柱	(17.5)	13.2	12.1	上部欠	丸木取り	カキノキ属	底面チョウナにより水平に削り出し	樹種同定試料№24, 放射性炭素年代測定試料№24		
139	3掘立P300	Df4-4		木製品	柱	(38.6)	18.8	17.0	上部欠	丸木取り	コナラ属コナラ節	表面多角形に打ち割り,底面チョウナによる粗い削り	樹種同定試料№5,放射性炭素年代測定試料№5		
140	3掘立P356	Cf5-1		木製品	柱	(46.6)	31.8	34.4	上部欠	丸木取り	クリ	底面チョウナにより逆台形状に削り出し,下半部チョウナ削り	樹種同定試料№8,放射性炭素年代測定試料№8		
141	3掘立P450	Cf5-5		木製品	柱	(21.3)	22.8	16.5	上部欠	丸木取り	クリ	底面水平に作出するが、加工痕不明瞭	樹種同定試料№13,放射性炭素年代測定試料№13		
142	3掘立P486	Cf5-5		木製品	板材	22.9	9.8	3.8	完存	板目	―	上部木口面チョウナによる粗い削り,下部木口面・右木端面ノコギリによる切断痕,上場・下場チョウナ削り,左木端面チョウナ削り後ノコギリ・ノミで溝を作出			
143	3掘立P486	Cf5-5		木製品	板材	14.6	7.4	3.8	完存	流れ柾目	―	上下木口面・左木端面ノコギリによる切断痕,上場・下場・右木端面上半打ち割り後チョウナ削り,ヤリガンナ仕上げ			

掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm）			遺存度	木取り	材質	加工・技法・文様	備考	挿図	写真図版
						長さ（口径）	幅（高さ）	厚さ（底径）							
144	3掘立P553	Cf4-5		木製品	柱	(30.0)	25.0	23.2	上部欠	丸木取り	クリ	底面～下端部チョウナにより二方向から削り出し	樹種同定試料№21，放射性炭素年代測定試料№21	79	13
145	3掘立P543・9掘立P639	Cf5-4		木製品	柱カ	(27.9)	9.6	5.4	上部欠	偏半割	―	底面ノコギリによる切断痕，下半ノミ状工具による抉りが上下2個所	中央部炭化	80	14
146	3掘立P543・9掘立P639	Cf5-4		木製品	柱カ	(28.1)	9.8	7.0	上部欠	芯去ミカン割	―	底面ノコギリによる切断痕，下半ノミ状工具による抉りが上下2個所			
147	9掘立P359	Cf5-2		木製品	柱	(52.4)	32.0	32.2	上部欠	丸木取り	クリ	底部チョウナにより逆台形状に削り出し，下半部にノミによりU字状のエツリ穴を穿つ	底面一部土付着，樹種同定試料№9，放射性炭素年代測定試料№9		
148	10掘立P354	Df1-2・1-3		木製品	杭	(17.5)	3.9	4.5	上部欠	削り出し	―	下端部四方向から粗い削り出し	端部炭化		
149	16掘立P65	Cg3-4		木製品	杭	(32.0)	4.7	4.3	上半部一部欠	丸木取り	―	下端部多方向から粗い削り出し			
150	17掘立P459	Cf5-4		木製品	柱	(25.7)	19.3	21.2	上部欠	丸木取り	クリ	底面チョウナにより二方向からV字状に削り出し	底面一部土付着，樹種同定試料№15，放射性炭素年代測定試料№15		
151	17掘立P536	Df1-2		木製品	柱	(35.8)	19.0	19.4	上部欠	丸木取り	クリ	底面チョウナにより二方向からV字状に削り出し	樹種同定試料№20，放射性炭素年代測定試料№20		
152	18掘立P322	Df3-3		木製品	柱	(8.4)	14.5	10.1	底部のみ	芯持ミカン割	―	底面水平に作出するが、加工痕不明瞭			13
153	18掘立P514	Cf2-4		木製品	柱	(15.5)	8.7	7.2	上部欠	芯去ミカン割	―	底部チョウナによる粗い削り後，チョウナによる斜め削り出し			
154	24掘立P442	Df4-3		木製品	柱	(60.4)	22.2	17.6	上部・内部欠	ミカン割	クリ	底部チョウナによる斜め削り出し	樹種同定試料№12，放射性炭素年代測定試料№12	81	14
155	24掘立P483	Df2-2		木製品	柱	(10.8)	17.8	12.2	底部のみ	半割	クリ	表面チョウナにより多角形に削り出し，底面チョウナにより水平に粗く削り出す	樹種同定試料№16，放射性炭素年代測定試料№16		
156	24掘立P534	Df1-2		木製品	柱	(27.0)	21.8	21.6	底部のみ	丸木取り	クリ	底面チョウナにより二方向から削り出し	樹種同定試料№19，放射性炭素年代測定試料№19		
157	24掘立P562	Cf4-2		木製品	柱	(17.1)	20.0	14.6	底部のみ	丸木取り	クリ	チョウナにより下端部を斜めに，底部を二方向から斜めに削り出す	樹種同定試料№22，放射性炭素年代測定試料№22		
158	25掘立P388	Cf5-3		木製品	柱	(34.6)	20.8	20.6	上部欠	丸木取り	クリ	底部チョウナによる粗い削り	樹種同定試料№11，放射性炭素年代測定試料№11		
159	25掘立P496	Df1-4		木製品	柱	(31.6)	30.0	22.6	上部欠	丸木取り	クリ	底面水平に作出するが、加工痕不明瞭	樹種同定試料№17，放射性炭素年代測定試料№17		
160	25掘立P512	Dg1-1		木製品	柱	(9.4)	20.1	14.1	底部のみ	偏ミカン割	クリ	底面チョウナによる粗い削り	樹種同定試料№18，放射性炭素年代測定試料№18		
161	26掘立P454	Cf5-2		木製品	柱	(17.3)	22.4	14.1	上部欠	偏ミカン割	クリ	底面チョウナにより水平に粗い削り出し	樹種同定試料№14，放射性炭素年代測定試料№14	82	

掲載番号	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm） 長さ（口径）	幅（高さ）	厚さ（底径）	遺存度	木取り	材質	加工・技法・文様	備考	挿図	写真図版
162	27掘立 P625	Df2-1		木製品	柱	(22.4)	11.7	11.2	上部欠	丸木取り	クリ	底部をチョウナによりV字状に削り出す	樹種同定試料№23,放射性炭素年代測定試料№23	82	14
163	30掘立 P409	Df1-4		木製品	柱	(12.6)	11.9	9.3	底部のみ	偏半割	―	底面削り出し。			13
164	32掘立 P447	Df2-4		木製品	柱	(12.2)	6.0	5.8	底部のみ	偏ミカン割	―	下端部四方向から粗い削り出し			
165	33掘立 P329	Df4-3		木製品	柱	(28.5)	18.9	18.0	上部欠	丸木取り	コナラ属コナラ節	底面チョウナによる粗い削り,下半部チョウナ削り後ノミによりT字状のエツリ穴を穿つ	樹種同定試料№6,放射性炭素年代測定試料№6		14
166	33掘立 P351	Df2-2		木製品	柱	(26.1)	17.8	15.5	上部欠	芯去りミカン割	クリ	底面チョウナによる粗い削り,下半部チョウナ削り	底面一部砂付着,樹種同定試料№7,放射性炭素年代測定試料№7		
167	33掘立 P386	Df2-3		木製品	柱	(14.1)	20.3	15.6	底部のみ	偏半割	クリ	底面チョウナによる粗い削り	底面一部土付着,樹種同定試料№10,放射性炭素年代測定試料№10		
168	P284	Ef3-2		木製品	柱カ	(19.2)	7.7	4.6	上部欠	芯去ミカン割	―	底面チョウナによる粗い削り,下半部の一部にチョウナによる削り出し		83	
169	P479	Cf5-2		木製品	材	(18.9)	8.4	2.9	完存カ	流れ柾目	―	下部木口面チョウナによる粗い削り,下半部側面チョウナ削り			
170	P521	Cf2-4		木製品	材	17.6	12.8	4.6	完存カ	柾目	―	上下木口面にチョウナによる粗い削り			
171	P521	Cf2-4		木製品	材	(12.5)	14.0	5.2	上部欠	流れ柾目	―	下部木口面チョウナによる粗い削り			
172	P521	Cf2-4		木製品	材	15.1	8.1	4.7	完存カ	流れ柾目	―	両木口面チョウナによる粗い削り,上部を浅く凹状に削り出す			
173	P521	Cf2-4		木製品	材	19.8	19.9	10.0	完存	板目	―	下部木口面チョウナによる粗い削り,上部木口面・表面片側チョウナ削り			
174	P521	Cf2-4		木製品	材	15.1	8.0	4.6	完存	芯去ミカン割	―	上下木口面チョウナによる粗い削り,表面下半チョウナにより斜め削り出し			
175	P521	Cf2-4		木製品	材	(11.3)	12.5	10.0	上部欠カ	偏ミカン割	―	下部木口面チョウナによる粗い削り			
176	P521	Cf2-4		木製品	材	18.5	9.5	8.6	完存	芯去ミカン割	―	上下木口面チョウナによる粗い削り			
177	P521	Cf2-4		木製品	材	22.8	14.9	12.7	完存カ	柾目	―	上下木口面チョウナによる粗い削り			
178	P529	Cf2-2		木製品	柱	(13.1)	12.9	14.4	上部欠	丸木取り	―	底面チョウナによりV字状に削り出し			14
179	P586	Cf4-4		木製品	柱	(20.0)	17.6	8.6	上部欠	芯去ミカン割	―	底面をチョウナにより平坦に粗削り			
180	P783	Df1-1		木製品	柱	(42.4)	13.8	11.1	上部・内部欠	丸木取りカ	クリ	底面チョウナによる水平に粗い削り出し	樹種同定試料№25,放射性炭素年代測定試料№25		
181	1杭列	Df2-1		木製品	杭	(55.3)	5.6	4.0	上部欠	丸木取り	―	先端部多方向削り出し			13
182	1杭列	DF2-1		木製品	杭	(16.4)	2.3	2.2	上部欠	丸木取り	―	中程枝払い,先端部斜め削り出し			
183	1杭列	DF2-1		木製品	杭	(45.0)	4.5	4.2	上部欠	丸木取り	―	中程枝払い,先端部多方向削り出し			
184	1杭列	DF2-1		木製品	杭	23.4	2.6	2.4	完存	丸木取り	―	先端部斜め削り出し			
185	1杭列	DF2-1		木製品	杭	20.1	4.6	4.5	ほぼ完存カ	削り出し	―	先端部両側面削り出し			
186	1杭列	DF2-1		木製品	杭	24.2	4.1	3.6	ほぼ完存カ	丸木取り	―	先端部四方向削り出し			

石器

掲載番号	遺構	グリッド	層位	器種	石材	計測値 長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	遺存度	備考	挿図	写真図版
198		排土		石刃	珪質頁岩	9.9	2.1	1.0	15.75	完形	全体がローリングを受け磨滅	85	12
199		Dg	Ⅰa層	削器	珪質頁岩	(3.5)	3.4	0.7	7.03	上部欠損			
200		Fh	Ⅰa層	磨製石斧	輝緑岩	(5.9)	3.5	2.0	66.31	頭部欠損			
201	P191	Dg3-2		石核	黒曜石	3.7	2.4	1.4	11.65	―	板山産（肉眼観察）		
202	37土	Eg1-3		石核	黒曜石	1.6	2.6	1.5	6.41	―	板山産（肉眼観察）		

第Ⅳ章　自然科学分析

1　板山館跡出土木製品の樹種同定

（株）パレオ・ラボ　　黒沼　保子

（1）はじめに

新発田市に所在する板山館跡から出土した木製品の樹種同定を行った。

（2）試料と方法

試料は，下駄が２点と柱材が 22 点の，計 24 点である。調査所見から，遺跡は室町時代～近世前期まで屋敷地として利用されていたと推測されている。これらの試料から，剃刀を用いて３断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し，ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察・同定し，写真撮影を行った。

（3）結　果

樹種同定の結果，針葉樹ではスギのみ１分類群，広葉樹ではクリとコナラ属コナラ節（以下，コナラ節），モクレン属，カキノキ属の４分類群，計５分類群が確認された。

下駄はスギとモクレン属であった。柱材はクリが 18 点とコナラ節が４点，カキノキ属が１点であった。器種別の樹種構成を表１，結果の一覧を付表１に示す。

表１　器種別の樹種構成

樹種／器種	下駄	柱	計
スギ	1		1
クリ		18	18
コナラ属コナラ節		4	4
モクレン属	1		1
カキノキ属		1	1
計	2	23	25

以下に，同定根拠となった木材組織の特徴を記載し，光学顕微鏡写真を図版に示す。

ス　　ギ　*Cryptomeria japonica*（L.f.）D.Don　スギ科　図版１　1a-1c（No.1）

仮道管と放射組織，樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で，１分野に通常２個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で，切削加工は容易であり，割裂性は大きい。

ク　　リ　*Castanea crenata* Siebold et Zucc.　ブナ科　図版１　2a-2c（No.8），3a（No.15）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び，晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木である。材は重硬で，耐朽性および耐湿性に優れ，保存性が高い。

コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科　図版１　4a-4c（No.4）

大型の道管が年輪のはじめに１列程度並び,晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で，単列と広放射組織の２種類がある。

コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で，カシワとミズナラ，コナラ，ナラガシワがある。材は全体的に重硬で，加工困難である。

モクレン属　*Magnolia*　モクレン科　図版１　5a-5c（No.2）

小型の道管が，単独もしくは３～４個複合して均等に分布する散孔材である。木繊維の壁は薄い。道管相互壁孔は対列～階段状，道管の穿孔は単一である。放射組織は１～２列幅で，上下端の１～２細胞が直立もしくは方形細胞である異性である。

モクレン属は温帯から暖帯上部に分布する常緑または落葉の低木および高木で，タイサンボクやホオノキ，モクレン，コブシなどがある。材は一般にやや軽軟または中庸程度だが，緻密で狂いが少ない。

カキノキ属　*Diospyros*　カキノキ科　図版１　6a-6c（No.24）

径が中型で，厚壁で丸い道管が単独もしくは数個放射方向に複合して，まばらに分布する散孔材である。軸方向柔組織は線状である。道管の穿孔は単一である。放射組織は１～３列幅の異性で，接線断面において層界状に配列する。

カキノキ属は温帯から熱帯に分布する常緑または落葉の高木もしくは低木で，マメガキやカキノキなど７種がある。材は全体的にやや重硬で靭性がある。

（４）考　察

樹種同定の結果，下駄はスギとモクレン属であった。新潟県内の事例では，中世以降の履物にスギとモクレン属が多く利用されており（久田，2012），今回の分析結果とも一致する。

柱材はクリが 18 点で最も多く，その他にコナラ節とカキノキ属がみられた。クリ，コナラ節，カキノキ属はいずれも重硬な材である。カキノキ属は現在でも黒い心材の材がクロガキとして珍重され，床柱に用いられる（伊東ほか，2011）。新潟県内の事例では，縄文時代～江戸時代まで建築部材にクリを多用する傾向があり（久田，2012），今回の分析結果とも一致する。

引用文献

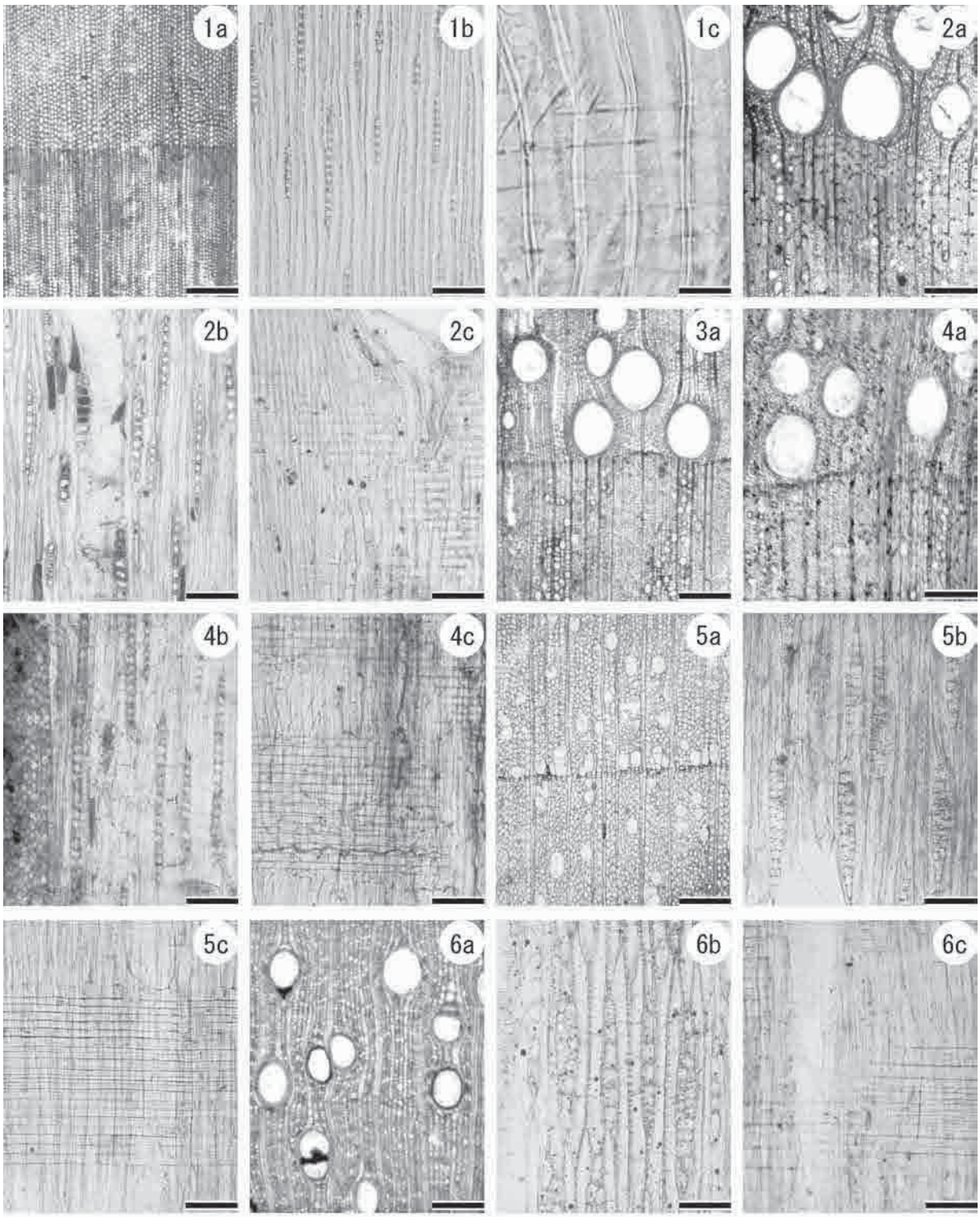
久田正弘（2012）中部日本海側－福井県・石川県・富山県・新潟県－．伊東隆夫・山田昌久編「木の考古学－出土木製品用材データベース－」：210-223，海青社.

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学－出土木製品用材データベース－．449p，海青社

伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌．238p，海青社

付表１　樹種同定結果一覧

試料 No.	遺構名	種別	樹種	木取り
1	9号土坑	下駄	スギ	板目
2	21号土坑	下駄	モクレン属	板目
3	P33	柱	コナラ属コナラ節	芯持丸木
4	P36	柱	コナラ属コナラ節	芯持丸木
5	P300	柱	コナラ属コナラ節	芯持丸木
6	P329	柱	コナラ属コナラ節	角材（芯持）
7	P351	柱	クリ	角材（芯持）
8	P356	柱	クリ	芯持丸木
9	P359	柱	クリ	芯持丸木
10	P386	柱	クリ	角材（芯持）
11	P388	柱	クリ	芯持削出（多角形）
12	P442	柱	クリ	芯持丸木
13	P450	柱	クリ	芯持丸木？
14	P454	柱	クリ	芯持丸木？
15	P459	柱	クリ	芯持丸木
16	P483	柱	クリ	芯持丸木
17	P496	柱	クリ	芯持丸木
18	P512	柱	クリ	芯持丸木
19	P534	柱	クリ	芯持丸木
20	P536	柱	クリ	芯持丸木
21	P553	柱	クリ	芯持丸木
22	P562	柱	クリ	芯持丸木
23	P625	柱	クリ	芯持丸木
24	P767	柱	カキノキ属	芯持丸木
25	P783	柱	クリ	芯持丸木



図版1　板山館跡出土木製品の光学顕微鏡写真
1a-1c．スギ（No.1），2a-2c．クリ（No.8），3a．クリ（No.15），4a-4c．コナラ属コナラ節（No.4），5a-5c．モクレン属（No.2），6a-6c．カキノキ属（No.24）
a：横断面（スケール=250 μ m），b：接線断面（スケール=100 μ m），c：放射断面（スケール=1：25 μ m，2-6：100 μ m）

２　板山館跡における放射性炭素年代測定（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

（１）測定対象試料

板山館跡は，新潟県新発田市板山字舘ノ越 2279 番地 1 ほか（北緯 37°　54′　16″，東経 139°　24′　32″）に所在する。板山川右岸に広がる緩傾斜地（標高約 64m）に立地し，東に丘陵が迫る。測定対象試料は，10 号溝出土炭化物 2 点と，柱穴出土柱材から採取された木片 23 点の合計 25 点である（表 1）。

10 号溝の底面では，焼土粒と炭化物が敷き詰められたような状態で出土し，試料 No.1，2 はそこから採取された。試料 No.3 ～ 25 が採取された柱材の木取りには，芯持丸材と芯持角材があり，総年輪数は約 10 ～ 90 年輪確認された（約 30 年輪以下のものが多い）。いずれも樹皮は認められず，残存最外年輪を含む数年輪分の木片を測定試料として採取した（最外年輪の部分の保存状態が悪く，数年輪分内側から採取したものもある）。

この館については，出土遺物に基づき，14 世紀後半には築かれ，改築を経て，18 世紀代まで利用されたと考えられている。

（２）測定の意義

溝の埋没年代，柱（及び建物）の構築年代を知るための手がかりとする。

（３）化学処理工程

１）メス・ピンセットを使い，根・土等の付着物を取り除く。

２）酸－アルカリ－酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後，超純水で中性になるまで希釈し，乾燥させる。AAA 処理における酸処理では，通常 1 mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い，0.001M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には「AAA」，1 M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。

３）試料を燃焼させ，二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し，グラファイト（C）を生成させる。

６）グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，測定装置に装着する。

（４）測定方法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し，^{14}C の計数，^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C），^{14}C 濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

（５）算出方法

① δ^{13}C は，試料炭素の ^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し，基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 1）。AMS 装置による測定値を用い，表中に「AMS」と注記する。

② ^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は，過去の大気中 14C 濃度が一定であったと仮定して測定され，1950 年を基準

年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には，Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977)。^{14}C 年代は δ^{13}C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表１に，補正していない値を参考値として表２に示した。^{14}C 年代と誤差は，下１桁を丸めて 10 年単位で表示される。また，^{14}C 年代の誤差（±１σ）は，試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2％であることを意味する。

③pMC（percent Modern Carbon）は，標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し，pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も δ^{13}C によって補正する必要があるため，補正した値を表１に，補正していない値を参考値として表２に示した。

④暦年較正年代とは，年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ，過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し，実年代に近づけた値である。暦年較正年代は，^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり，１標準偏差（１σ＝68.2％）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代，横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は，δ^{13}C 補正を行い，下１桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお,較正曲線および較正プログラムは,データの蓄積によって更新される。また，プログラムの種類によっても結果が異なるため，年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは，暦年較正年代の計算に，IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い，OxCalv4.2 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については,特定のデータベース，プログラムに依存する点を考慮し，プログラムに入力する値とともに参考値として表２に示した。暦年較正年代は，^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

（６）測定結果

測定結果を表１，２に示す。

10 号溝出土試料２点の ^{14}C 年代は，いずれも 360 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1σ）は，No.1 が 1464 ～ 1620cal AD，No.2 が 1469 ～ 1622cal AD の間に各々複数の範囲で示される。

柱材試料 23 点の ^{14}C 年代は，450 ± 20yrBP（No.6）から 90 ± 20yrBP（No.20）の間にある。暦年較正年代（1σ）は，最も古い No.6 が 1431 ～ 1450cal AD の範囲，最も新しい No.9 が 1668 ～ 1803cal AD の間に４つの範囲と 1937cal AD 以降の範囲で示される。なお，No.3，4，8，9，11，13，15 ～ 21，24，25 の較正年代については，記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する（表 2 下の警告参照)。

これらの試料 25 点の測定結果は，推定される館の存続年代とおおむね一致する。

試料の炭素含有率はすべて 50％を超え，化学処理，測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表１　放射性炭素年代測定結果（δ 13C 補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}C$（‰）(AMS)	$\delta^{13}C$ 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC（%）
IAAA-142810	No.1	10 号溝　底面	炭化物	AAA	-27.28 ± 0.32	360 ± 20	95.58 ± 0.29
IAAA-142811	No.2	10 号溝　底面	炭化物	AAA	-27.13 ± 0.43	360 ± 20	95.64 ± 0.29
IAAA-142812	No.3	P33　柱材	木片	AAA	-27.86 ± 0.58	110 ± 20	98.70 ± 0.29
IAAA-142813	No.4	P36　柱材	木片	AAA	-27.81 ± 0.36	100 ± 20	98.79 ± 0.30
IAAA-142814	No.5	P300　柱材	木片	AAA	-29.35 ± 0.52	370 ± 30	95.46 ± 0.30
IAAA-142815	No.6	P329　柱材	木片	AAA	-28.15 ± 0.55	450 ± 20	94.53 ± 0.28
IAAA-142816	No.7	P351　柱材	木片	AAA	-29.18 ± 0.53	380 ± 30	95.34 ± 0.30
IAAA-142817	No.8	P356　柱材	木片	AAA	-23.87 ± 0.40	260 ± 20	96.87 ± 0.29
IAAA-142818	No.9	P359　柱材	木片	AAA	-27.43 ± 0.46	180 ± 20	97.78 ± 0.28
IAAA-142819	No.10	P386　柱材	木片	AAA	-23.11 ± 0.46	300 ± 30	96.30 ± 0.30
IAAA-142820	No.11	P388　柱材	木片	AAA	-29.21 ± 0.64	130 ± 20	98.40 ± 0.30
IAAA-142821	No.12	P442　柱材	木片	AAA	-27.78 ± 0.85	310 ± 30	96.17 ± 0.31
IAAA-142822	No.13	P450　柱材	木片	AAA	-26.72 ± 0.67	270 ± 20	96.66 ± 0.28
IAAA-142823	No.14	P454　柱材	木片	AAA	-25.47 ± 0.46	340 ± 30	95.87 ± 0.31
IAAA-142824	No.15	P459　柱材	木片	AAA	-25.02 ± 0.67	190 ± 20	97.63 ± 0.30
IAAA-142825	No.16	P483　柱材	木片	AAA	-27.31 ± 0.63	270 ± 20	96.70 ± 0.29
IAAA-142826	No.17	P496　柱材	木片	AAA	-27.59 ± 0.52	250 ± 20	96.96 ± 0.29
IAAA-142827	No.18	P512　柱材	木片	AAA	-25.81 ± 0.63	150 ± 20	98.13 ± 0.30
IAAA-142828	No.19	P534　柱材	木片	AAA	-28.56 ± 0.66	220 ± 20	97.33 ± 0.30
IAAA-142829	No.20	P536　柱材	木片	AAA	-28.23 ± 0.45	90 ± 20	98.90 ± 0.29
IAAA-142830	No.21	P553　柱材	木片	AAA	-28.37 ± 0.53	210 ± 20	97.48 ± 0.28
IAAA-142831	No.22	P562　柱材	木片	AAA	-26.81 ± 0.40	300 ± 20	96.37 ± 0.30
IAAA-142832	No.23	P625　柱材	木片	AAA	-27.47 ± 0.75	310 ± 30	96.16 ± 0.30
IAAA-142833	No.24	P767　柱材	木片	AAA	-29.34 ± 0.46	210 ± 20	97.44 ± 0.29
IAAA-142834	No.25	P783　柱材	木片	AAA	-27.10 ± 0.68	180 ± 20	97.75 ± 0.30

［#7106］

表２　放射性炭素年代測定結果（δ 13C 未補正値，暦年較正用 14C 年代，較正年代）（１）

測定番号	δ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-142810	400 ± 20	95.13 ± 0.28	363 ± 24	1464calAD - 1521calAD (45.4%) 1592calAD - 1620calAD (22.8%)	1452calAD - 1526calAD (52.6%) 1556calAD - 1633calAD (42.8%)
IAAA-142811	390 ± 20	95.22 ± 0.28	358 ± 24	1469calAD - 1521calAD (40.3%) 1577calAD - 1583calAD (3.4%) 1591calAD - 1622calAD (24.5%)	1454calAD - 1527calAD (48.8%) 1554calAD - 1634calAD (46.6%)
IAAA-142812	150 ± 20	98.12 ± 0.27	105 ± 23	1695calAD - 1726calAD (22.2%)*** 1814calAD - 1838calAD (16.8%)*** 1843calAD - 1853calAD (6.6%)*** 1868calAD - 1892calAD (16.2%)*** 1908calAD - 1917calAD (6.3%)***	1685calAD - 1732calAD (26.9%)*** 1808calAD - 1928calAD (68.5%)***
IAAA-142813	140 ± 20	98.22 ± 0.29	97 ± 24	1697calAD - 1726calAD (23.4%)*** 1815calAD - 1836calAD (16.7%)*** 1845calAD - 1850calAD (3.7%)*** 1877calAD - 1895calAD (13.9%)*** 1904calAD - 1917calAD (10.6%)***	1689calAD - 1730calAD (25.9%)*** 1809calAD - 1926calAD (69.5%)***
IAAA-142814	450 ± 20	94.60 ± 0.28	373 ± 25	1455calAD - 1514calAD (52.2%) 1600calAD - 1617calAD (16.0%)	1448calAD - 1524calAD (60.7%) 1559calAD - 1564calAD (1.3%) 1569calAD - 1631calAD (33.4%)
IAAA-142815	500 ± 20	93.92 ± 0.26	452 ± 23	1431calAD - 1450calAD (68.2%)	1420calAD - 1461calAD (95.4%)
IAAA-142816	450 ± 20	94.52 ± 0.28	383 ± 25	1451calAD - 1496calAD (52.1%) 1508calAD - 1511calAD (2.1%) 1601calAD - 1616calAD (14.0%)	1445calAD - 1523calAD (69.3%) 1574calAD - 1628calAD (26.1%)
IAAA-142817	240 ± 20	97.09 ± 0.28	255 ± 24	1641calAD - 1665calAD (59.5%)* 1785calAD - 1793calAD (8.7%)*	1524calAD - 1559calAD (11.5%)* 1631calAD - 1670calAD (68.2%)* 1780calAD - 1800calAD (15.5%)* 1945calAD - 1948calAD (0.3%)*
IAAA-142818	220 ± 20	97.29 ± 0.26	180 ± 23	1668calAD - 1682calAD (13.2%)** 1738calAD - 1757calAD (15.3%)** 1762calAD - 1783calAD (19.6%)** 1798calAD - 1803calAD (4.6%)** 1937calAD - ... (15.5%)**	1661calAD - 1691calAD (18.5%)** 1728calAD - 1810calAD (56.0%)** 1925calAD - ... (20.9%)**
IAAA-142819	270 ± 20	96.67 ± 0.29	303 ± 25	1522calAD - 1575calAD (48.6%) 1585calAD - 1590calAD (2.9%) 1625calAD - 1645calAD (16.7%)	1492calAD - 1602calAD (71.3%) 1615calAD - 1650calAD (24.1%)

表２　放射性炭素年代測定結果（δ13C未補正値，暦年較正用14C年代，較正年代）（２）

測定番号	δ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-142820	200 ± 20	97.55 ± 0.26	129 ± 24	1683calAD - 1706calAD (11.6%)** 1720calAD - 1736calAD (8.8%)** 1805calAD - 1819calAD (7.7%)** 1833calAD - 1880calAD (28.8%)** 1915calAD - 1935calAD (11.3%)**	1677calAD - 1765calAD (34.5%)** 1773calAD - 1777calAD (0.7%)** 1800calAD - 1894calAD (45.3%)** 1906calAD - 1940calAD (14.9%)**
IAAA-142821	360 ± 20	95.62 ± 0.26	313 ± 25	1522calAD - 1576calAD (49.3%) 1585calAD - 1590calAD (4.1%) 1624calAD - 1641calAD (14.8%)	1491calAD - 1603calAD (74.0%) 1613calAD - 1646calAD (21.4%)
IAAA-142822	300 ± 20	96.32 ± 0.24	272 ± 23	1528calAD - 1551calAD (21.2%)* 1634calAD - 1660calAD (47.0%)*	1521calAD - 1576calAD (37.5%)* 1585calAD - 1590calAD (0.9%)* 1626calAD - 1666calAD (54.5%)* 1784calAD - 1795calAD (2.6%)*
IAAA-142823	350 ± 20	95.77 ± 0.29	339 ± 25	1492calAD - 1525calAD (22.7%) 1557calAD - 1602calAD (31.6%) 1612calAD - 1632calAD (13.9%)	1474calAD - 1637calAD (95.4%)
IAAA-142824	190 ± 20	97.63 ± 0.26	192 ± 24	1665calAD - 1680calAD (16.1%)** 1764calAD - 1801calAD (32.8%)** 1939calAD - ... (19.2%)**	1655calAD - 1685calAD (20.5%)** 1732calAD - 1808calAD (53.1%)** 1928calAD - ... (21.9%)**
IAAA-142825	310 ± 20	96.24 ± 0.26	269 ± 24	1529calAD - 1543calAD (15.4%)* 1634calAD - 1662calAD (52.8%)*	1521calAD - 1575calAD (33.4%)* 1585calAD - 1590calAD (0.7%)* 1626calAD - 1668calAD (56.7%)* 1782calAD - 1797calAD (4.6%)*
IAAA-142826	290 ± 20	96.45 ± 0.27	247 ± 24	1644calAD - 1665calAD (55.6%)* 1785calAD - 1793calAD (12.6%)*	1528calAD - 1551calAD (4.2%)* 1633calAD - 1670calAD (66.1%)* 1780calAD - 1800calAD (22.9%)* 1943calAD - ... (2.3%)*
IAAA-142827	160 ± 20	97.97 ± 0.27	151 ± 24	1674calAD - 1693calAD (11.6%)** 1728calAD - 1778calAD (33.4%)** 1799calAD - 1812calAD (8.3%)** 1919calAD - 1942calAD (15.0%)**	1667calAD - 1706calAD (16.2%)** 1719calAD - 1784calAD (35.3%)** 1796calAD - 1820calAD (10.8%)** 1832calAD - 1883calAD (14.9%)** 1914calAD - ... (18.3%)**

表２　放射性炭素年代測定結果（δ13C未補正値，暦年較正用14C年代，較正年代）（３）

測定番号	δ^{13}C 補正なし		暦年較正用（yrBP）	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age（yrBP）	pMC（%）			
IAAA-142828	280 ± 20	96.62 ± 0.26	217 ± 24	1651calAD - 1670calAD (26.9%)* 1780calAD - 1799calAD (30.9%)* 1944calAD - ... (10.4%)*	1645calAD - 1682calAD (36.7%)* 1738calAD - 1752calAD (2.9%)* 1762calAD - 1803calAD (41.8%)* 1937calAD - ... (14.0%)*
IAAA-142829	140 ± 20	98.25 ± 0.27	88 ± 23	1697calAD - 1724calAD (21.3%)*** 1815calAD - 1835calAD (15.1%)*** 1878calAD - 1917calAD (31.8%)***	1691calAD - 1729calAD (25.7%)*** 1810calAD - 1923calAD (69.7%)***
IAAA-142830	260 ± 20	96.80 ± 0.26	205 ± 23	1656calAD - 1678calAD (20.0%)* 1765calAD - 1800calAD (32.9%)* 1940calAD - ... (15.4%)*	1649calAD - 1684calAD (27.1%)* 1736calAD - 1805calAD (49.8%)* 1935calAD - ... (18.6%)*
IAAA-142831	330 ± 20	96.01 ± 0.29	297 ± 24	1523calAD - 1572calAD (49.9%) 1630calAD - 1647calAD (18.3%)	1497calAD - 1505calAD (1.4%) 1512calAD - 1601calAD (66.7%) 1616calAD - 1653calAD (27.2%)
IAAA-142832	360 ± 20	95.67 ± 0.26	314 ± 25	1522calAD - 1576calAD (48.5%) 1584calAD - 1591calAD (4.9%) 1623calAD - 1641calAD (14.8%)	1491calAD - 1603calAD (74.2%) 1613calAD - 1646calAD (21.2%)
IAAA-142833	280 ± 20	96.57 ± 0.27	208 ± 23	1655calAD - 1675calAD (22.3%)* 1777calAD - 1799calAD (30.8%)* 1941calAD - ... (15.2%)*	1648calAD - 1683calAD (29.2%)* 1737calAD - 1805calAD (48.6%)* 1936calAD - ... (17.6%)*
IAAA-142834	220 ± 20	97.33 ± 0.26	183 ± 24	1667calAD - 1682calAD (13.4%)** 1737calAD - 1784calAD (34.0%)** 1797calAD - 1804calAD (5.2%)** 1936calAD - ... (15.6%)**	1659calAD - 1690calAD (18.9%)** 1729calAD - 1810calAD (55.3%)** 1925calAD - ... (21.2%)**

［参考値］

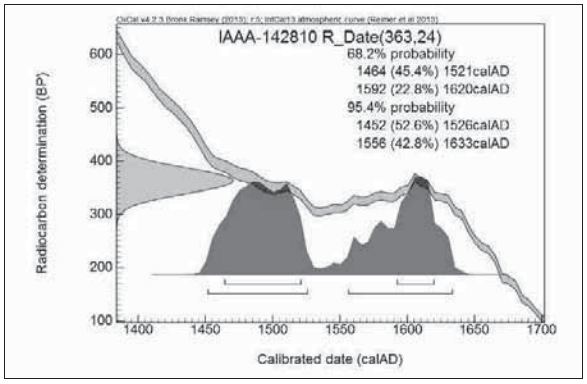
* Warning! Date may extend out of range

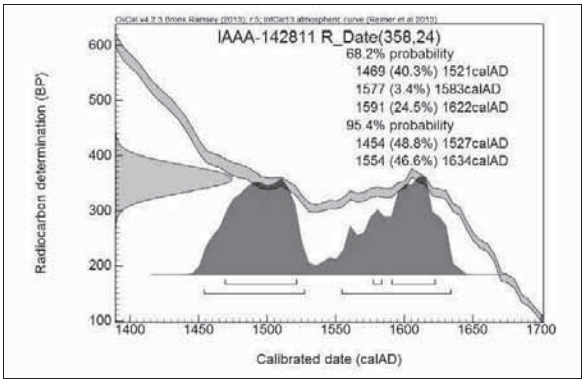
** Warning! Date may extend out of range

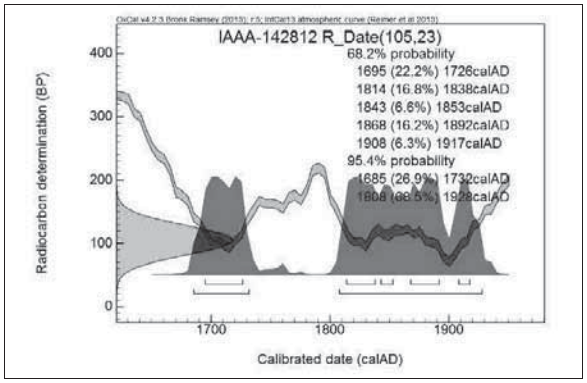
Warning! Date probably out of range

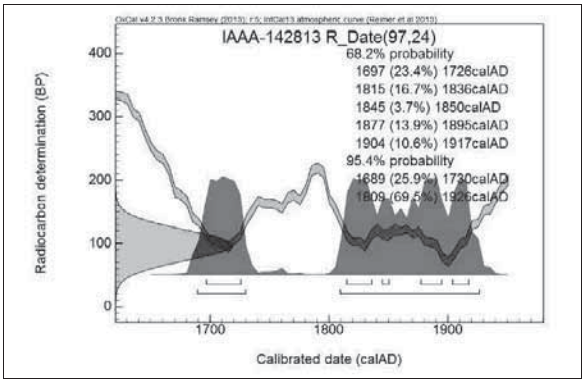
*** Warning! Date probably out of range

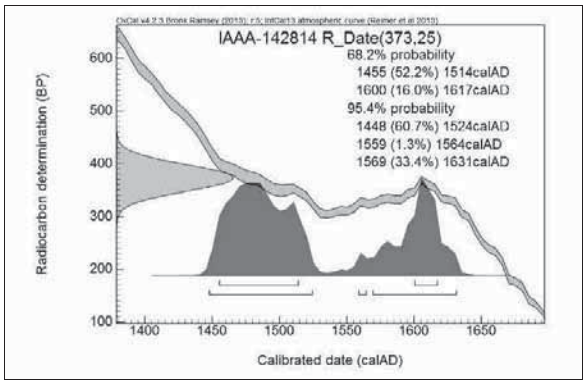
（これらの警告は較正プログラム OxCal が発するもので，試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が，当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。*，**，*** の順にその可能性が高くなる。）

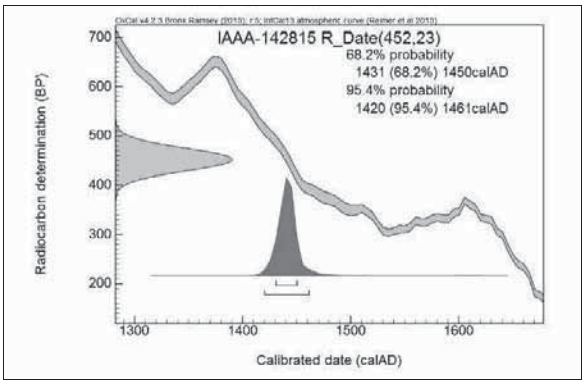

IAAA-142810 R_Date(363,24)
68.2% probability
1464 (45.4%) 1521calAD
1592 (22.8%) 1620calAD
95.4% probability
1452 (52.6%) 1526calAD
1556 (42.8%) 1633calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

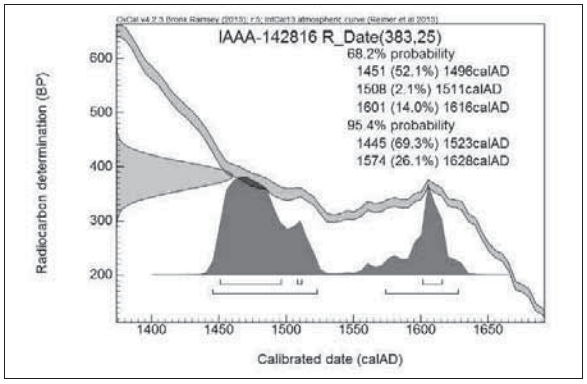

IAAA-142811 R_Date(358,24)
68.2% probability
1469 (40.3%) 1521calAD
1577 (3.4%) 1583calAD
1591 (24.5%) 1622calAD
95.4% probability
1454 (48.8%) 1527calAD
1554 (46.6%) 1634calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

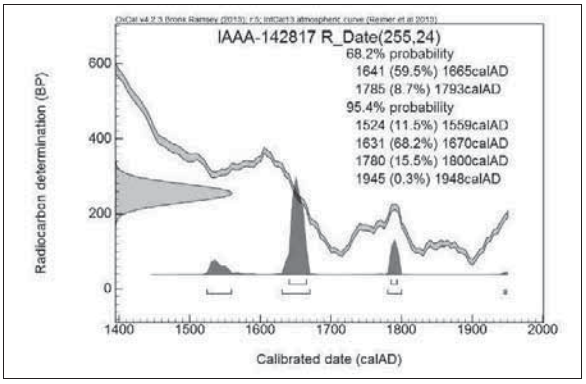

IAAA-142812 R_Date(105,23)
68.2% probability
1695 (22.2%) 1726calAD
1814 (16.8%) 1838calAD
1843 (6.6%) 1853calAD
1868 (16.2%) 1892calAD
1908 (6.3%) 1917calAD
95.4% probability
1685 (26.9%) 1732calAD
1808 (68.5%) 1928calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

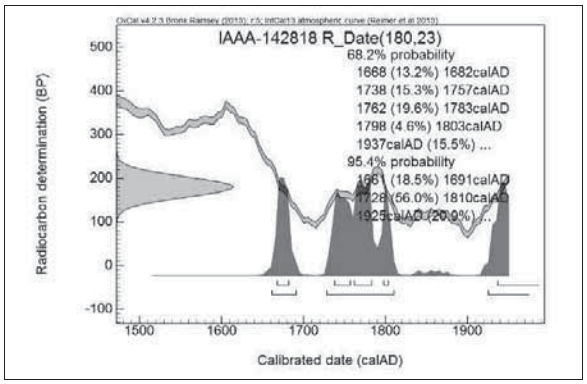

IAAA-142813 R_Date(97,24)
68.2% probability
1697 (23.4%) 1726calAD
1815 (16.7%) 1836calAD
1845 (3.7%) 1850calAD
1877 (13.9%) 1895calAD
1904 (10.6%) 1917calAD
95.4% probability
1689 (25.9%) 1730calAD
1809 (69.5%) 1926calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

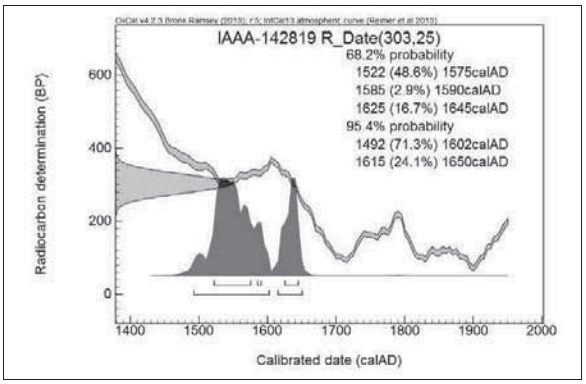

IAAA-142814 R_Date(373,25)
68.2% probability
1455 (52.2%) 1514calAD
1600 (16.0%) 1617calAD
95.4% probability
1448 (60.7%) 1524calAD
1559 (1.3%) 1564calAD
1569 (33.4%) 1631calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

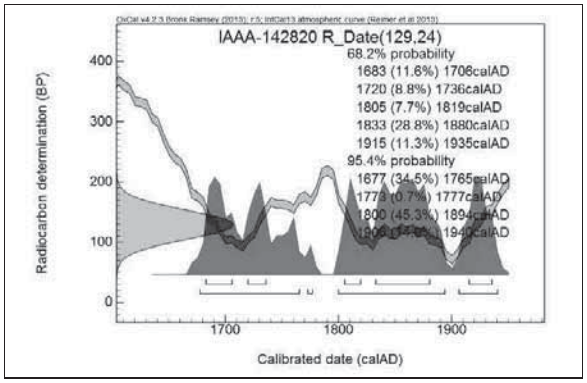

IAAA-142815 R_Date(452,23)
68.2% probability
1431 (68.2%) 1450calAD
95.4% probability
1420 (95.4%) 1461calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

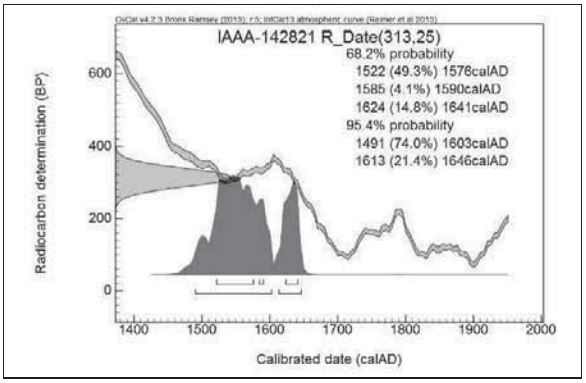

IAAA-142816 R_Date(383,25)
68.2% probability
1451 (52.1%) 1496calAD
1508 (2.1%) 1511calAD
1601 (14.0%) 1616calAD
95.4% probability
1445 (69.3%) 1523calAD
1574 (26.1%) 1628calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

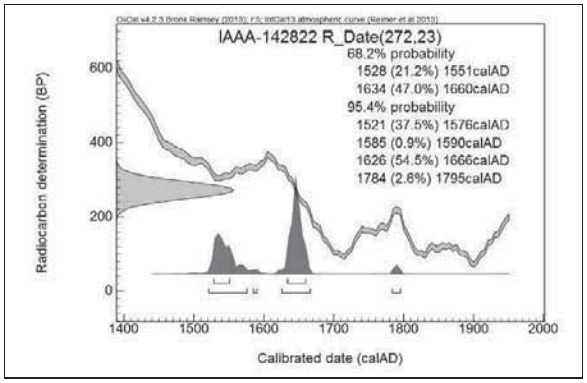

IAAA-142817 R_Date(255,24)
68.2% probability
1641 (59.5%) 1665calAD
1785 (8.7%) 1793calAD
95.4% probability
1524 (11.5%) 1559calAD
1631 (68.2%) 1670calAD
1780 (15.5%) 1800calAD
1945 (0.3%) 1948calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

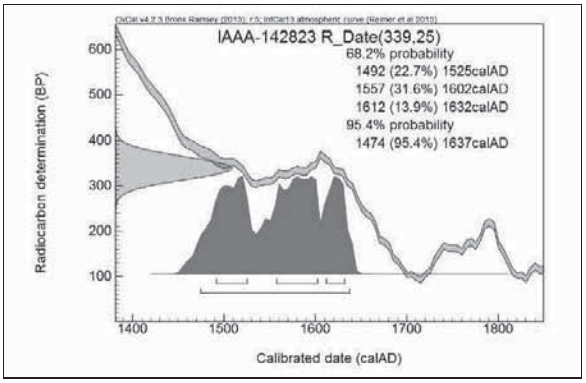

IAAA-142818 R_Date(180,23)
68.2% probability
1668 (13.2%) 1682calAD
1738 (15.3%) 1757calAD
1762 (19.6%) 1783calAD
1798 (4.6%) 1803calAD
1937calAD (15.5%) ...
95.4% probability
1661 (18.5%) 1691calAD
1728 (56.0%) 1810calAD
1925calAD (20.9%) ...
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

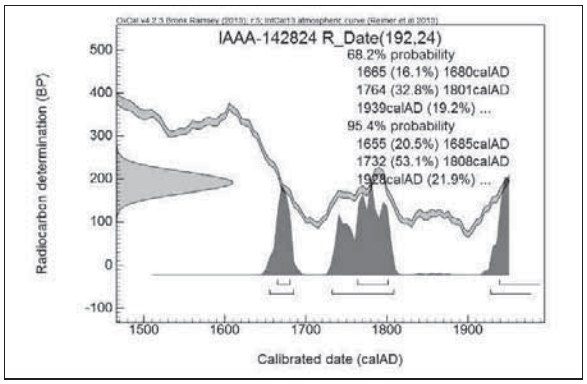

IAAA-142819 R_Date(303,25)
68.2% probability
1522 (48.6%) 1575calAD
1585 (2.9%) 1590calAD
1625 (16.7%) 1645calAD
95.4% probability
1492 (71.3%) 1602calAD
1615 (24.1%) 1650calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

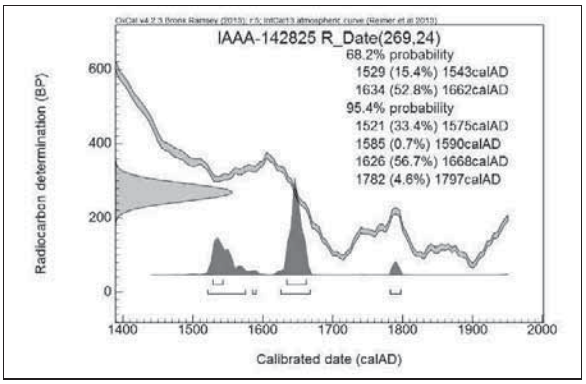

IAAA-142820 R_Date(129,24)
68.2% probability
1683 (11.6%) 1706calAD
1720 (8.8%) 1736calAD
1805 (7.7%) 1819calAD
1833 (28.8%) 1880calAD
1915 (11.3%) 1935calAD
95.4% probability
1677 (34.5%) 1765calAD
1773 (0.7%) 1777calAD
1800 (45.3%) 1894calAD
1906 (14.9%) 1940calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

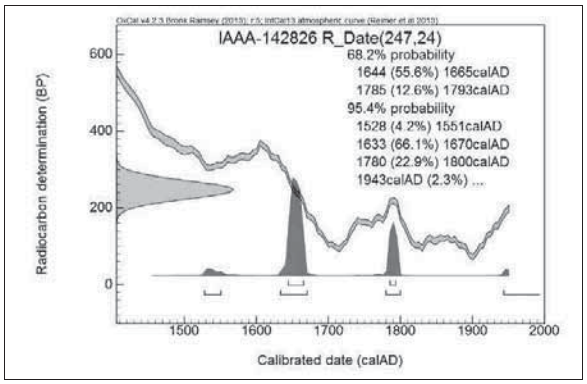

IAAA-142821 R_Date(313,25)
68.2% probability
1522 (49.3%) 1576calAD
1585 (4.1%) 1590calAD
1624 (14.8%) 1641calAD
95.4% probability
1491 (74.0%) 1603calAD
1613 (21.4%) 1646calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

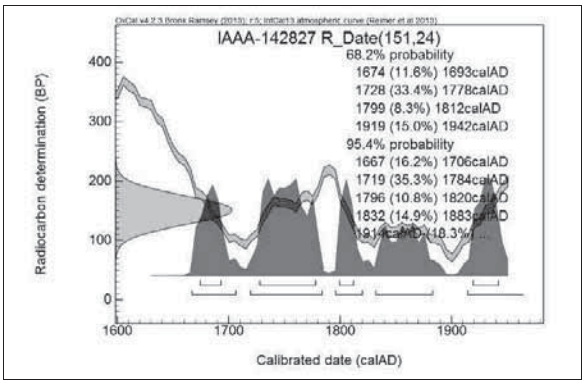

IAAA-142822 R_Date(272,23)
68.2% probability
1528 (21.2%) 1551calAD
1634 (47.0%) 1660calAD
95.4% probability
1521 (37.5%) 1576calAD
1585 (0.9%) 1590calAD
1626 (54.5%) 1666calAD
1784 (2.6%) 1795calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

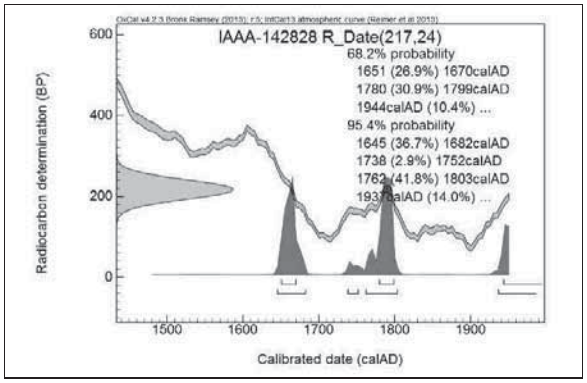

IAAA-142823 R_Date(339,25)
68.2% probability
1492 (22.7%) 1525calAD
1557 (31.6%) 1602calAD
1612 (13.9%) 1632calAD
95.4% probability
1474 (95.4%) 1637calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

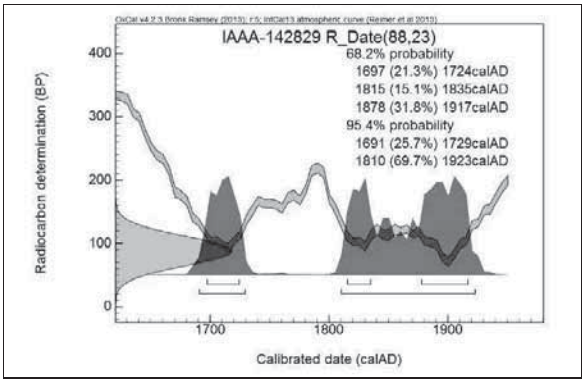

IAAA-142824 R_Date(192,24)
68.2% probability
1665 (16.1%) 1680calAD
1764 (32.8%) 1801calAD
1939calAD (19.2%) ...
95.4% probability
1655 (20.5%) 1685calAD
1732 (53.1%) 1808calAD
1928calAD (21.9%) ...
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

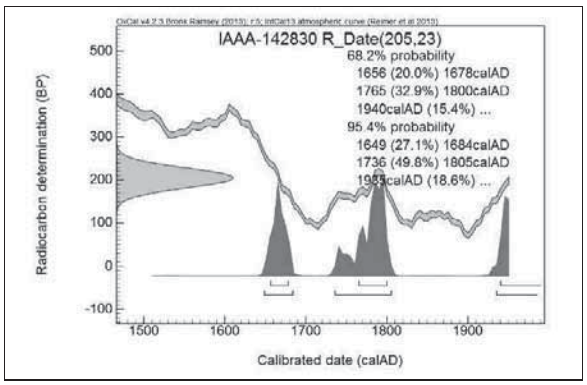

IAAA-142825 R_Date(269,24)
68.2% probability
1529 (15.4%) 1543calAD
1634 (52.8%) 1662calAD
95.4% probability
1521 (33.4%) 1575calAD
1585 (0.7%) 1590calAD
1626 (56.7%) 1668calAD
1782 (4.6%) 1797calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

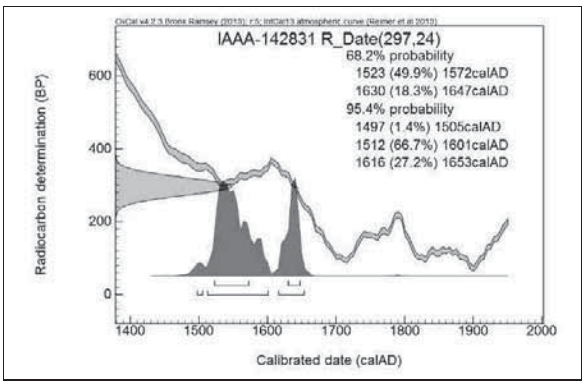

IAAA-142826 R_Date(247,24)
68.2% probability
1644 (55.6%) 1665calAD
1785 (12.6%) 1793calAD
95.4% probability
1528 (4.2%) 1551calAD
1633 (66.1%) 1670calAD
1780 (22.9%) 1800calAD
1943calAD (2.3%) ...
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

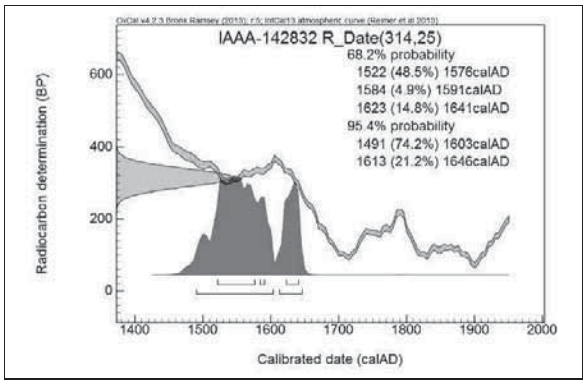

IAAA-142827 R_Date(151,24)
68.2% probability
1674 (11.6%) 1693calAD
1728 (33.4%) 1778calAD
1799 (8.3%) 1812calAD
1919 (15.0%) 1942calAD
95.4% probability
1667 (16.2%) 1706calAD
1719 (35.3%) 1784calAD
1796 (10.8%) 1820calAD
1832 (14.9%) 1883calAD
1914calAD (18.3%) ...
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

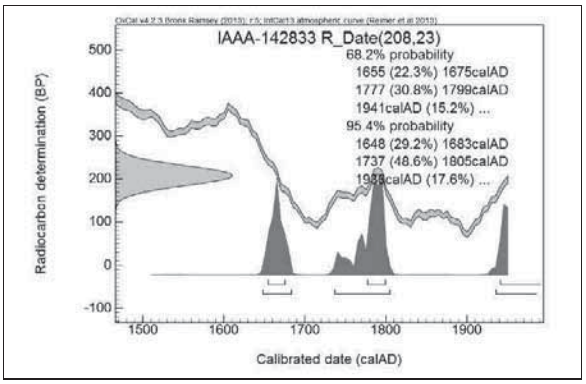

IAAA-142828 R_Date(217,24)
68.2% probability
1651 (26.9%) 1670calAD
1780 (30.9%) 1799calAD
1944calAD (10.4%) ...
95.4% probability
1645 (36.7%) 1682calAD
1738 (2.9%) 1752calAD
1762 (41.8%) 1803calAD
1937calAD (14.0%) ...
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)

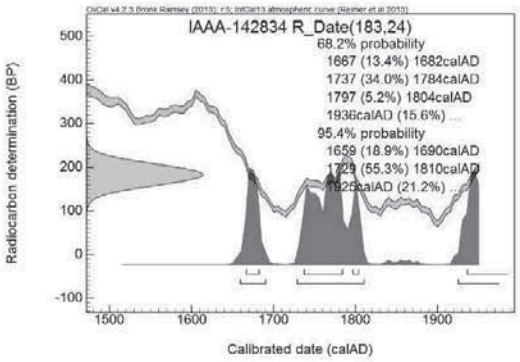

IAAA-142829 R_Date(88,23)
68.2% probability
1697 (21.3%) 1724calAD
1815 (15.1%) 1835calAD
1878 (31.8%) 1917calAD
95.4% probability
1691 (25.7%) 1729calAD
1810 (69.7%) 1923calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)


IAAA-142830 R_Date(205,23)
68.2% probability
1656 (20.0%) 1678calAD
1765 (32.9%) 1800calAD
1940calAD (15.4%) ...
95.4% probability
1649 (27.1%) 1684calAD
1736 (49.8%) 1805calAD
1933calAD (18.6%) ...
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)


IAAA-142831 R_Date(297,24)
68.2% probability
1523 (49.9%) 1572calAD
1630 (18.3%) 1647calAD
95.4% probability
1497 (1.4%) 1505calAD
1512 (66.7%) 1601calAD
1616 (27.2%) 1653calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)


IAAA-142832 R_Date(314,25)
68.2% probability
1522 (48.5%) 1576calAD
1584 (4.9%) 1591calAD
1623 (14.8%) 1641calAD
95.4% probability
1491 (74.2%) 1603calAD
1613 (21.2%) 1646calAD
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)


IAAA-142833 R_Date(208,23)
68.2% probability
1655 (22.3%) 1675calAD
1777 (30.8%) 1799calAD
1941calAD (15.2%) ...
95.4% probability
1648 (29.2%) 1683calAD
1737 (48.6%) 1805calAD
1933calAD (17.6%) ...
Radiocarbon determination (BP)
Calibrated date (calAD)



[図版]暦年較正年代グラフ(参考)

3　板山館跡採取土壌分析（トイレ遺構分析）

（株）古環境研究所

ここでは，新発田市板山字舘ノ越より採取された堆積物について，種実の抽出・同定を行った。

（1）はじめに

遺構の堆積物の遺体群集や性状を調べることによって，堆積環境や周辺の植生，利用植物，堆積物の生成の由来などが推定復原できる。トイレ遺構等では，寄生虫卵密度，花粉群集組成，種実群集組成において特異性を示し，その遺体群集からヒトが食べた食物を直接的に探ることができる。

ここでは，板山館跡の方形居館跡より検出された土坑の堆積物について，寄生虫卵分析，花粉分析，種実同定，珪藻分析を行い，トイレ跡の可能性について検討する。

（2）試料

分析の対象となった遺構は，室町時代から戦国時代（14 世紀代から 16 世紀）にかけて営まれた居館跡で，その後は江戸時代中期（18 世紀）まで屋敷地として利用されていた。分析試料は，付属建物と考えられる掘立柱建物の内部に位置する直径 70 ㎝，深さ約 20 ㎝の円形の 20 号土坑より採取された堆積物で，土坑内の箍内側，箍外側の試料２点である。試料となった堆積物はいずれも褐色シルト粘土で，砂礫が混じる。

（3）寄生虫卵分析

a. 原理

人，動物などに寄生する寄生虫の卵殻は堆積物中に残存しやすい。人が密度高く居住すると周囲の寄生虫卵の汚染度が高くなる。また，便所跡等の糞便の堆積物では寄生虫卵密度が高く，他の堆積物と識別ができ，トイレ遺構を確認することも可能である。さらに，寄生虫の特有の生活史や感染経路から食物を探ることもできる。

b. 方法

微化石分析法を基本に以下のように行った。

１）試料から１cm^3を採量

２）0.5%リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加え 15 分間湯煎

３）篩別により大きな砂粒や木片等を除去し，沈澱法を実施
４）25％フッ化水素酸を加え 30 分静置（２・３度混和）
５）水洗後サンプルを２分
６）２分したサンプルの一方にアセトリシス処理を実施
７）両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製
検鏡はプレパラート作製後直ちに，生物顕微鏡によって 300 ～ 1000 倍で行った。

c. 結果

①分類群

出現した寄生虫卵は５分類群である。これらの学名と和名および粒数を表１に示し，１cm^3 中の寄生虫卵数を図１に示す。出現した分類群は顕微鏡写真に示す。以下に出現した分類群の特徴を示す。

回虫　*Ascaris*（*lumbricoides*）　比較的大きな虫卵で，およそ 80 × 60 μｍあり楕円形で外側に蛋白膜を有し，胆汁色素で黄褐色ないし褐色を呈する。糞便とともに外界に出た受精卵は，18 日で感染幼虫包蔵卵になり経口摂取により感染する。回虫は，世界に広く分布し，現在でも温暖・湿潤な熱帯地方の農村地帯に多くみられ，卵には受精卵と不受精卵がある。遺跡の堆積物の分析では，堆積年数による風化や薬品処理の影響により，受精卵と不受精卵の区別は不明瞭である。

鞭虫　*Trichuris*（*trichiura*）**・羊鞭虫**　*Trichuris*（*trichiura*）*ovis*　虫の大きさは，50 × 30μｍでレモン形あるいは岐阜ちょうちん形で，卵殻は厚く褐色で両端に無色の栓がある。糞便とともに外界に出た虫卵は，３～６週間で感染幼虫包蔵卵になり経口感染する。鞭虫は，世界に広く分布し，現在ではとくに熱帯・亜熱帯の高温多湿な地域に多くみられる。

肝吸虫　*Clonorchis sinensis*　卵は，およそ 30 × 16 μｍでなすび型で一端に陣笠状の小蓋を有する。卵殻の表面には亀甲状の紋理が認められる。糞便とともに外界に出た虫卵は，水中で第１中間宿主のマメタニシに食べられ，セルカリアになり水中に遊出し，第２中間宿主のモツゴ，モロコ，コイ，フナ，タナゴに侵入してメタセルカリアとなり，魚肉とともにヒトに摂取され感染する。肝吸虫は，アジア地域に広く分布し，とくに中国，日本，ベトナム，韓国に多い。日本では岡山県南部，琵琶湖沿岸，八郎潟，利根川流域などが流行地として知られている。

日本海裂頭条虫　*Diphyllobothrium latum*(*nihonkaiense*)　卵の大きさは，66 ～ 75 × 45 ～ 53 で楕円形，小蓋がある。ケンミジンコ類などの第１中間宿主を経て，第２中間宿主のマスやサケの生食によって感染する。日本海裂頭条虫は，北半球に分布し，とくに北欧，北米，東北アジア地域に多い。

マンソン裂頭条虫　*Diphyllobothoyium mansoni*　卵の大きさは,70 × 35 μｍで両端がややとがり左右非対称で，一端に小蓋がある。終宿主はイヌ科，ネコ科の動物で，ヒトは第２中間宿主や待機宿主となる。ヒトへの感染は第１中間宿主のケンミジンコのいる生水や第２中間宿主（主にニワトリ，カモ，ブタ，イノシシ，カエル，ヘビなど），終宿主の生食などによる。

②寄生虫卵群集の特徴

箍内側　寄生虫卵密度が 2.0 × 10^2/ cm^3でやや高く，回虫卵が 75％以上を占め，次いで鞭虫卵が多く日本海裂頭条虫卵，マンソン裂頭条虫卵が検出される。明らかな消化残渣，石細胞などは認められない。

箍外側　寄生虫卵密度が 3.6 × 10/ cm^3で，密度は生活汚染程度である。回虫卵がやや多く，鞭虫卵，肝吸虫卵が検出されるが，明らかな消化残渣，石細胞などは認められない。

d. 所見

寄生虫卵密度は箍内側で 2.0 × 10^2/ cm^3でありやや高く，箍外側はやや低く 3.6 × 10/ cm^3で生活汚染程度である。回虫卵，鞭虫卵，少ないが肝吸虫，日本海裂頭条虫，マンソン裂頭条虫が検出され，ヒトの糞便に由来する。回虫と鞭虫は中間宿主を必要とせず，汚染された生水，生野菜などから経口感染し蔓延する。日本海裂頭条虫，マンソン裂頭条虫，肝吸虫はともに中間宿主を必要とし，その生育分布から地域的な感染がおこり，風土病の様相を呈す

表１　板山館跡における寄生虫卵・花粉分析結果

分類群		20号土坑	
学名	和名	箍内側	箍外側
Helminth eggs	寄生虫卵		
Ascaris(lumbricoides)	回虫卵	19	4
Trichuris(trichiura)	鞭虫卵	4	1
Clonorchis sinensis	肝吸虫卵		1
Diphyllobothrium latum(nihonkaiense)	日本海裂頭条虫卵	1	
Diphyllobothrium mansoni	マンソン裂頭条虫卵	1	
Total	計	25	6
Helminth eggs frequencies of 1cm^3	試料1cm^{3}中の寄生虫卵密度	2.0 ×10^2	3.6 ×10
Stone cell	石細胞	(−)	(−)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(−)	(−)
Arboreal pollen	樹木花粉		
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	9	10
Cryptomeria japonica	スギ	67	55
Taxaceae-Cephalotaxaxeae-Cupressaceae	イチイ科−イヌガヤ科−ヒノキ科	1	3
Salix	ヤナギ属	1	
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ	1	
Alnus	ハンノキ属	2	4
Betula	カバノキ属	1	
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属−アサダ		1
Castanea crenata	クリ	117	164
Castanopsis	シイ属		1
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	4	6
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属−ケヤキ	1	1
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属−ムクノキ		1
Ilex	モチノキ属	1	
Aesculus turbinata	トチノキ	7	2
Camellia	ツバキ属	2	
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉		
Moraceae-Urticaceae	クワ科−イラクサ科	5	5
Leguminosae	マメ科		1
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属−ガマズミ属		2
Nonarboreal pollen	草本花粉		
Gramineae	イネ科	48	44
Oryza type	イネ属型	14	9
Cyperaceae	カヤツリグサ科	6	6
Fagopyrum	ソバ属	3	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科−ヒユ科	3	3
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	1
Cruciferae	アブラナ科	4	5
Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属−フサモ属	2	1
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科		1
Apioideae	セリ亜科		1
Plantago	オオバコ属		1
Lactucoideae	タンポポ亜科	11	7
Asteroideae	キク亜科	2	2
Artemisia	ヨモギ属	8	7
Fern spore	シダ植物胞子		
Monolate type spore	単条溝胞子	11	20
Trilate type spore	三条溝胞子	15	15
Arboreal pollen	樹木花粉	214	248
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	5	8
Nonarboreal pollen	草本花粉	102	89
Total pollen	花粉総数	321	345
Pollen frequencies of 1cm^3	試料1cm^{3}中の花粉密度	1.5 ×10^4	1.3 ×10^4
Unknown pollen	未同定花粉	5	11
Fern spore	シダ植物胞子	26	35
Charcoal・woods fragments	微細炭化物・微細木片	(+)	(+)

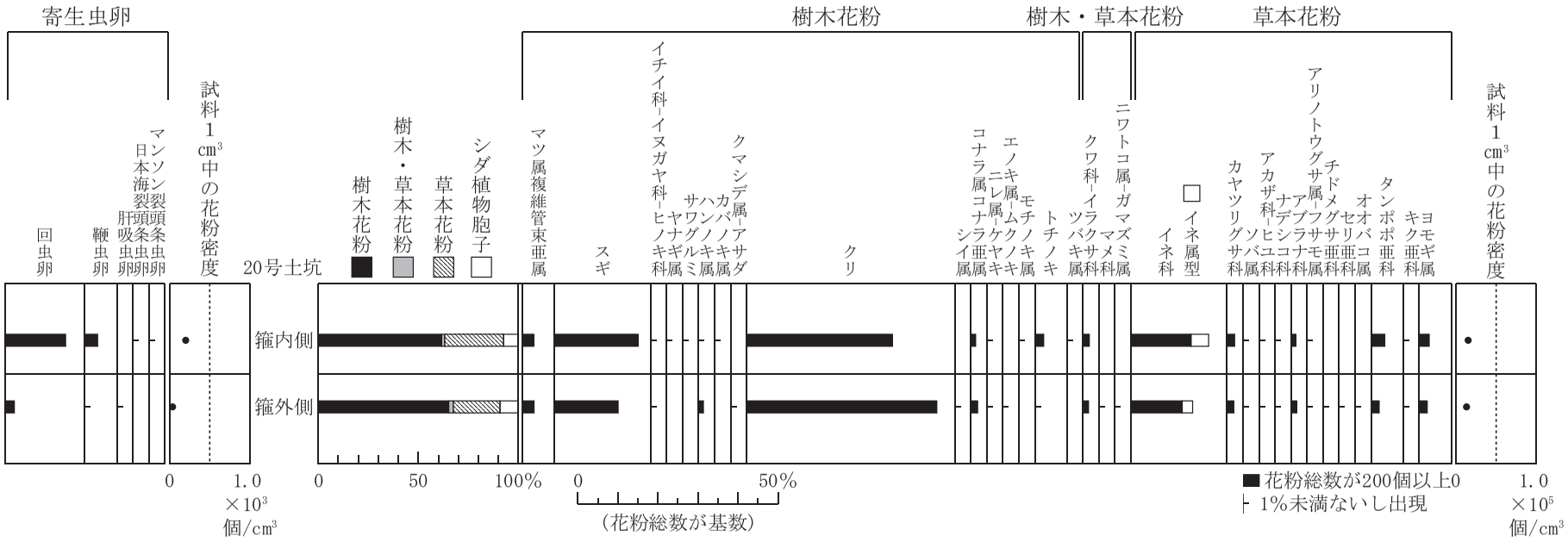


図１　板山館跡における寄生虫卵・花粉ダイアグラム

ることもある。これらの寄生虫卵の出現から，生水や野草ないし生野菜などを完全に熱処理をしないで食したり，サケ，コイ，フナなどの川魚，ニワトリ，カモ，イノシシなどの肉などを摂食していたとみなされる。

（4）花粉分析

a. 原理

花粉分析は，一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復元に応用されており，遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は，水成堆積物では保存状況が良好であるが，乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

b. 方法

寄生虫卵分析で２分しアセトリシス処理を施した沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し，グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製，検鏡・計数を行った。

検鏡は，生物顕微鏡によって 300 ～ 1000 倍で行う。花粉の同定は，島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして，所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって，科，亜科，属，亜属，節および種の階級で分類し，複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示す。イネ属については，中村（1974，1977）を参考にして，現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが，個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。また，この処理を施すとクスノキ科の花粉は検出されない。

c. 結果

①分類群

出現した分類群は，樹木花粉 16，樹木・草本花粉３，草本花粉 14，シダ植物胞子２形態の計 35 分類群である。これらの学名と和名および粒数を表１に示し，周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図１に示し，主要な分類群は顕微鏡写真に示した。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

マツ属複維管束亜属，スギ，イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科，ヤナギ属，サワグルミ，ハンノキ属，カバノキ属，クマシデ属－アサダ，クリ，シイ属，コナラ属コナラ亜属，ニレ属－ケヤキ，エノキ属－ムクノキ，モチノキ属，トチノキ，ツバキ属

〔樹木・草本花粉〕

クワ科－イラクサ科，マメ科，ニワトコ属－ガマズミ属

〔草本花粉〕

イネ科，イネ属型，カヤツリグサ科，ソバ属，アカザ科－ヒユ科，ナデシコ科，アブラナ科，アリノトウグサ属－フサモ属，チドメグサ亜科，セリ亜科，オオバコ属，タンポポ亜科，キク亜科，ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子，三条溝胞子

②花粉群集の特徴

箍内側　樹木花粉の占める割合が高く，60％以上を占める。クリが高率に出現し，次いでスギが多くマツ属複維管束亜属，トチノキなどが出現する。草本花粉では，イネ科（イネ属型を含む）を主にタンポポ亜科，ヨモギ属，カヤツリグサ科，アブラナ科，ソバ属が出現する。

箍外側　樹木花粉が 65％以上を占め，クリが高率に出現する。次いでマツ属複維管束亜属，コナラ属コナラ亜属が多い。草本花粉では，イネ科（イネ属型を含む）を主にタンポポ亜科，ヨモギ属，カヤツリグサ科，アブラナ科，ソバ属が出現する。

d. 所見

分析の結果，樹木花粉のクリ，スギが高率に出現し，箍の内と外には大きな差は認められない。これらは，堆積

表２　板山館跡における珪藻分析結果

分類群	20号土坑	
	籠内側	籠外側
貧塩性種（淡水生種）		
Achnanthes crenulata		1
Achnanthes hungarica		1
Achnanthes lanceolata	1	
Amphora copulata	5	6
Amphora montana	5	2
Amphora ovalis		1
Aulacoseira ambigua	1	
Aulacoseira canadensis	1	3
Aulacoseira sp.	1	
Caloneis bacillum		1
Caloneis hyalina	1	
Caloneis silicula	2	1
Cocconeis placentula	5	3
Cymbella cuspidata		1
Cymbella gracilis	3	1
Cymbella naviculiformis	2	1
Cymbella silesiaca	6	4
Diploneis elliptica		1
Eunotia minor	12	10
Eunotia sp.		1
Fragilaria arcus		1
Fragilaria capucina		1
Fragilaria exigua		2
Frustulia vulgaris	3	1
Gomphonema clevei		1
Gomphonema minutum	2	
Gomphonema parvulum	10	3
Gomphonema spp.	1	1
Hantzschia amphioxys	33	43
Meridion circulare v. *constrictum*	1	
Navicula clementis		2
Navicula cohnii	1	6
Navicula confervacea		1
Navicula contenta	1	2
Navicula cryptocephala	1	
Navicula cryptotenella	1	
Navicula elginensis	15	3
Navicula goeppertiana	1	
Navicula ignota		1
Navicula kotschyi	6	9
Navicula laevissima	1	2
Navicula mutica	49	24
Navicula placenta v. *obtusa*		2
Navicula veneta	3	
Neidium affine		2
Neidium alpinum	8	3
Neidium ampliatum	4	1
Nitzschia nana	2	
Nitzschia palea	6	5
Nitzschia spp.	4	9
Pinnularia acidophila	3	1
Pinnularia acrosphaeria	2	1
Pinnularia aestuarii	3	
Pinnularia appendiculata	11	1
Pinnularia borealis	5	11
Pinnularia braunii		1
Pinnularia divergens		1
Pinnularia gibba	1	
Pinnularia hemiptera	2	1
Pinnularia interrupta	2	
Pinnularia lagerstedtii	1	4
Pinnularia major	1	
Pinnularia microstauron	8	5
Pinnularia obscura	7	1
Pinnularia schoenfelderi	24	6
Pinnularia schroederii	8	2
Pinnularia subcapitata	18	11
Pinnularia viridis	5	6
Pinnularia spp.	2	2
Stauroneis lauenburgiana	1	1
Stauroneis phoenicenteron		1
Surirella angusta	6	2
Surirella tenera	1	
Tabellaria fenestrata-flocculosa	5	3
中−貧塩性種（汽−淡水生種）		
Nitzschia levidensis		1
Rhopalodia gibberula	8	11
合　計	322	236
未同定	9	9
破片	213	211
試料１cm^3中の殻数密度	1.7 $\times 10^5$	4.9 $\times 10^4$
完形殻保存率（%）	60.8	53.7

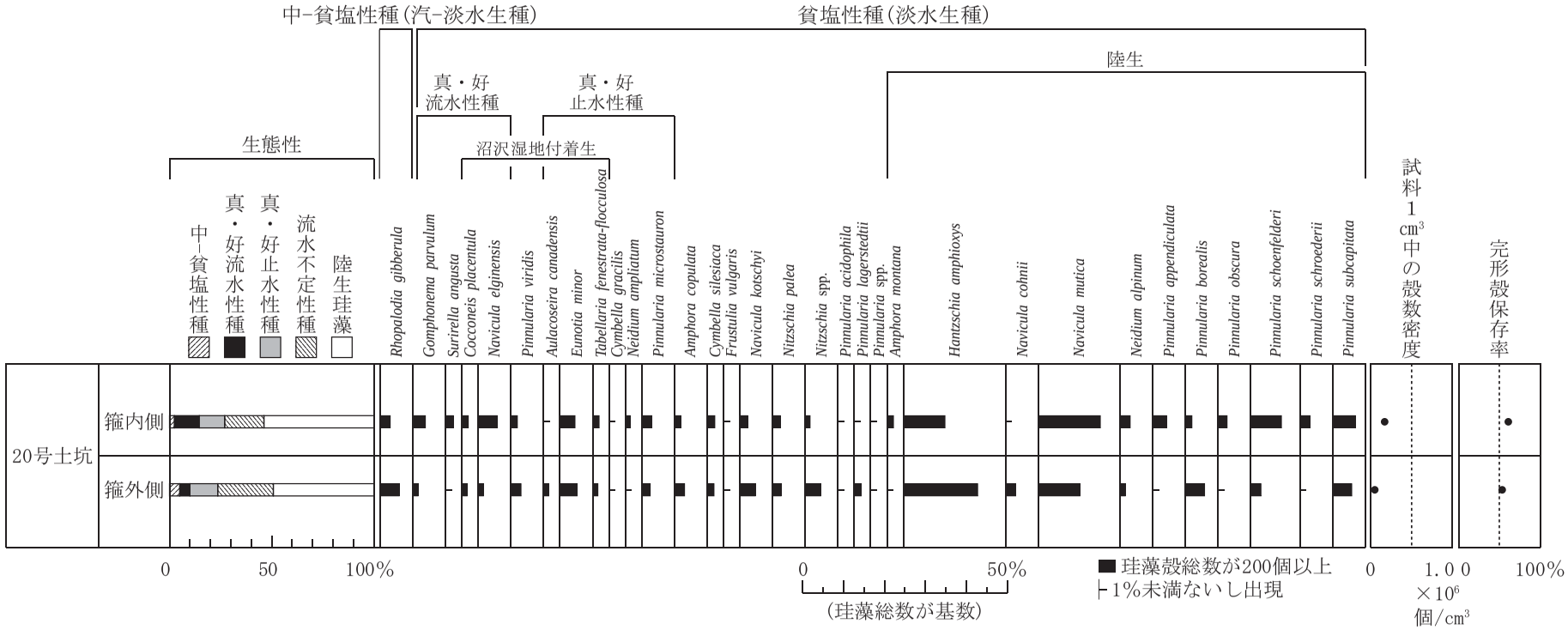


図２　板山館跡における主要珪藻ダイアグラム

地周辺の植生を反映しているとみなされ，近隣にはスギ林とクリ二次林が分布していたと推定される。イネ科にはイネ属型が伴われ，栽培植物を含むソバ属，アブラナ科も出現することから，周囲には水田や畑が分布していたと考えられる。また，参考のために珪藻分析を行ったところ（図２），湿潤な土壌に生育する陸生珪藻が優占し，流水不定性種，真・好止水性種，籠の内側では真・好流水性種も出現し，沼沢湿地付着生種も比較的多いことから流水の影響を受けつつ滞水したり乾燥したりする曖昧な環境が示唆される。

（５）種実同定

a. 原理

植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く，堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ，過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し，栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

b. 方法

試料（堆積物）に以下の物理処理を施して，抽出および同定を行った。

１）試料 500cm^3 に水を加え放置し，泥化

２）攪拌した後，沈んだ砂礫を除去しつつ，0.25mm の篩で水洗選別

３）残渣を双眼実体顕微鏡下で観察し，種実の同定計数

同定は形態的特徴および現生標本との対比で行い，結果は同定レベルによって科，属，種の階級で示す。

c. 結果

①分類群

樹木１，草本 11 の計 12 分類群が同定された。学名，和名および粒数を表３に示し，主要な分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

②種実群集の特徴

籠内側　草本種実のイネ穎破片が最も多く，次にイヌビエ属 33，カタバミ属 25，カヤツリグサ科 20，アカザ属 15，ミゾソバ 14，ナデシコ科 10，コナギ５，タデ属５，キランソウ属３と続き，樹木種実のキイチゴ属１が検出された。

籠外側　草本種実のイネ穎破片，イネ科 12，カタバミ属６，イヌビエ属５，ナデシコ科５が検出された。

d. 所見

種実は，籠内側で数，種類ともに多く検出され，イネ穎破片が多い。他の分類群も人里植物，耕地雑草の性格を持つものばかりで，堆積地周辺の人里や畑の環境を反映したとみなされる。

（６）考察とまとめ

a. 遺構の性格

花粉は，籠内側と籠外側とも周囲の植生を反映し，種実は堆積地周辺の人里や畑の環境を反映している。寄生虫卵は密度が低いものの種類が多く，また籠内側の方が多い。試料となった堆積物は，花粉と種実の検出状況からみて埋積時のものとみなされる。しかし，籠内側は籠外側より寄生虫卵が多いことから，本来糞便堆積が堆積し，その汚染が埋積時の堆積物に反映したとみなされる。以上のことから，土坑はトイレ遺構であり，籠が便層であったと考えられる。なお，イネ穎破片は埋積時に投棄されたりして堆積したと考えられる。寄生虫卵分析から示唆される食生活としては，生野菜などの摂食，コイ科とサケ科のコイ，フナ，サケなどの川魚，ニワトリ，カモ，イノシシ，イヌなどの肉を摂食していた可能性が考えられる。

b. 周囲の植生および環境

花粉分析と種実同定の結果から，周囲にはやや森林が多く，クリ林とスギ林が分布していた。土坑の周辺はイネ

科，カタバミ属，イヌビエ属，ナデシコ科，アブラナ科，タンポポ亜科，ヨモギ属などの人里に多い草本が繁茂し，周辺地域では水田やソバ属などの畑の分布が示唆される。

表３　板山館跡における種実同定結果

分類群		部位	20 号土坑	
学名	和名		篩内側	篩外側
Arbor	樹木			
Rubus	キイチゴ属	核	1	
Herb	草本			
Oryza sativa L.	イネ	穎(破片)	(+++)	(+)
Echinochloa Beauv.	イヌビエ属	穎(破片)	33	5
Gramineae	イネ科	穎		12
Cyperaceae	カヤツリグサ科	果実	20	
Monochoria vaginalis Presl var. plantaginea Solms-Laub.	コナギ	種子	5	
Polygonum Thunbergii S. et Z.	ミゾソバ	果実	14	
Polygonum	タデ属	果実	5	
Chenopodium	アカザ属	種子	15	
Caryophyllaceae	ナデシコ科	種子	10	5
Oxalis	カタバミ属	種子	25	6
Ajuga	キランソウ属	果実	3	
Total	合計		131	28

（500cm^3 中 0.25mm 篩）

参考文献

Peter J.Warnock and Karl J.Reinhard (1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils.Jounal of Archaeological Science, 19, p.231-245.

金子清俊・谷口博一（1987）線形動物・扁形動物．医動物学，新版臨床検査講座，8，医歯薬出版，p. ９-55.

金原正明・金原正子（1992）花粉分析および寄生虫．藤原京跡の便所遺構－藤原京７条１坊－，奈良国立文化財研究所，p.14-15.

金原正明（1999）寄生虫．考古学と動物学，考古学と自然科学，２，同成社，p.151-158.

中村純（1967）花粉分析．古今書院，p.82-102.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第 10 巻古代資料研究の方法,角川書店,p.248-262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集，60p.

中村純（1967）花粉分析．古今書院，p.82-102.

中村純（1974）イネ科花粉について，とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究,13,p.187-193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第 10 号，p.21-30.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第 13 集，91p.

南木睦彦（1992）低湿地遺跡の種実．月刊考古学ジャーナル No.355，ニューサイエンス社，p.18-22.

Hustedt,F.(1937－1938)Systematische und ologishe Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java,Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch. Hydrobiol,Suppl.15,p.131－506.

Lowe,R.L.(1974)Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh－water diatoms. 333p., National Environmental Reserch.Center.

K. Krammer・H.Lange-Bertalot(1986-1991) Bacillariophyceae・１－４.

Asai,K.&,Watanabe,T.(1995)Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution(２) Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,p.35-47.

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用．東北地理，42，p.73-88.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌，６,p.23-45.

小杉正人（1986）陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－．植生史研究，第１号，植生史研究会，p.29-44.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，p. １-20.

渡辺仁治（2005）淡水珪藻生態図鑑　群集解析に基づく汚濁指数DAIpo，pH耐性能．内田老鶴圃，666p.

笠原安夫（1985）日本雑草図説，養賢堂，494p.

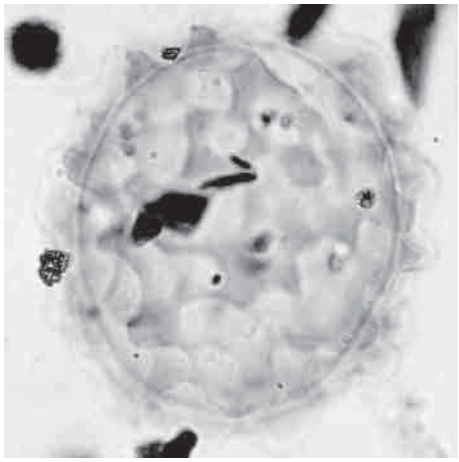
笠原安夫（1988）作物および田畑雑草種類．弥生文化の研究第２巻生業，雄山閣　出版，p.131－139.

南木睦彦（1991）栽培植物．古墳時代の研究第４巻生産と流通Ⅰ，雄山閣出版株式会社，p.165－174.

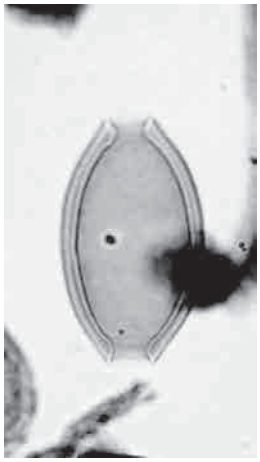
南木睦彦（1993）葉・果実・種子．日本第四紀学会編，第四紀試料分析法，東京大学出版会，p.276－283.

吉崎昌一（1992）古代雑穀の検出．月刊考古学ジャーナルNo.355，ニューサイエンス社，p. ２－14.

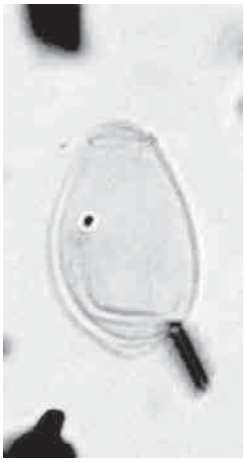
板山館跡の寄生虫卵・花粉



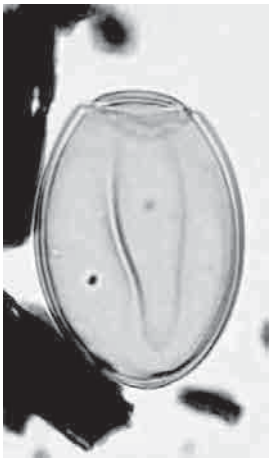
1　回虫卵(籠内側)



2　鞭虫卵(籠内側)

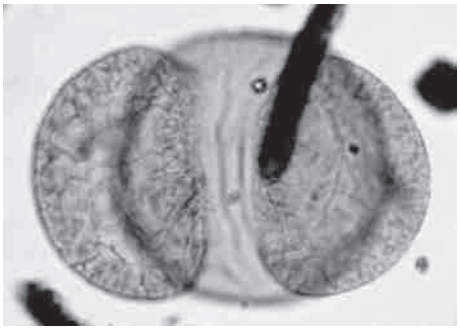


3　肝吸虫卵(籠外側)

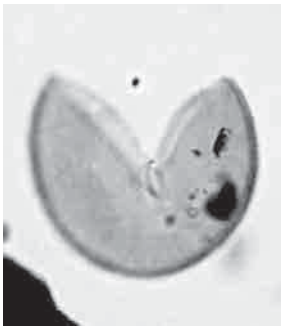


4　日本海裂頭条虫卵(籠内側)

5　マンソン裂頭条虫卵(籠内側)



6　マツ属複維管束亜属(籠内側)



7　スギ(籠内側)

8　ハンノキ属(籠外側)

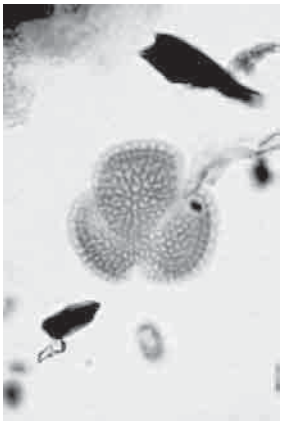
9 クリ(籠内側)

10　トチノキ(籠内側)

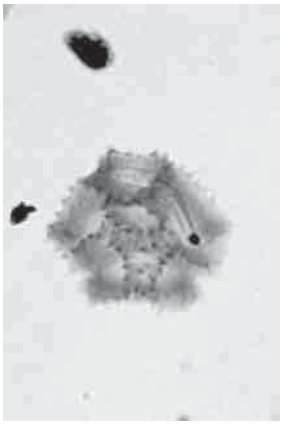
11 イネ属型(籠内側)

12　カヤツリグサ科(籠内側)

13　ソバ属(籠内側)



14　アブラナ科(籠内側)



15　タンポポ亜科(籠内側)

16　ヨモギ属(籠内側)

10 μm

板山館跡の種実

1　キイチゴ属核(籠内側)　0.5mm

2　イネ穎破片(籠内側)　1.0mm

3　イヌビエ属穎破片(籠内側)　0.5mm

4　イネ科穎(籠外側)　0.5mm

5　カヤツリグサ科果実(籠内側)　0.5mm

6　コナギ種子(籠内側)　0.1mm

7　ミゾソバ果実(籠内側)　1.0mm

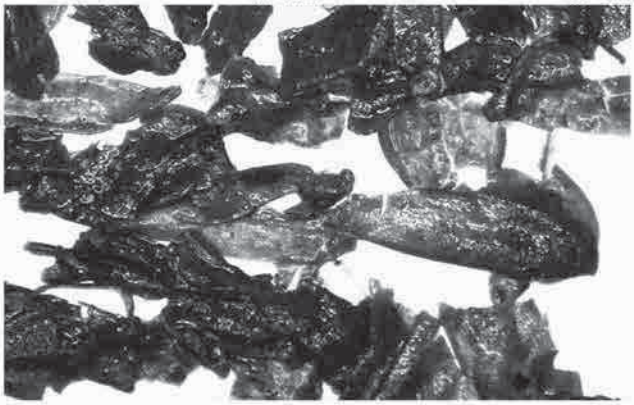
8　タデ属果実(籠内側)　0.5mm

9　アカザ属種子(籠内側)　0.5mm

10　ナデシコ科種子(籠外側)　0.1mm

11　カタバミ属種子(籠内側)　0.5mm

12　キランソウ属果実(籠内側)　0.5mm



13　イネ穎破片(籠内側)　1.0mm

14　イネ穎破片(籠内側)　1.0mm

第Ⅴ章　まとめ

1　土器・陶磁器の変遷（第 86 図）

今回の板山館跡の調査では，中・近世の陶磁器は平箱３箱分が出土した。土師器・瓦質土器，中国陶磁器の青磁・白磁・青花・陶器，国産の瀬戸美濃焼・珠洲焼・越前焼・信楽焼・肥前系磁器・肥前系陶器・越中瀬戸焼があり，その大半は破片資料である。接合できたものや，接合の結果全容がわかるようになったものは極めてわずかであっ

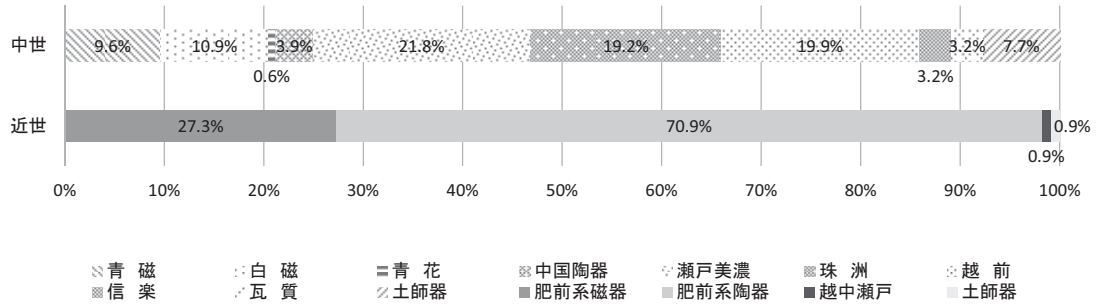
土器・陶磁器　産地・器種別破片数

時期	分類	器種 産地	供膳具						調理具	貯蔵具			その他								合計	
			天目	碗	皿	杯	盤	鉢	擂鉢 (片口鉢)	甕 (T種)	壺 (R種)	瓶	香炉 類	花瓶 花入	風炉	火鉢	火入	灯明 皿	蓋	不明		
中世	磁器	青　磁		14			1														15	156
		白　磁		1	11	2						3									17	
		青　花			1																1	
	陶器	中国陶器	1								5										6	
		瀬戸美濃	4	11	10	2		1				3		1						2	34	
		珠　洲							10	18	2										30	
		越　前							8	23											31	
		信　楽									5										5	
	土器	瓦　質						4						1							5	
		土師器			12																12	
近世	磁器	肥前系		21	2							3	2	1			1			2	32	117
	陶器	肥前系		11	27	1		1	29	10		2					1	1			83	
		越中瀬戸									1										1	
	土器	土師器			1																1	
																						273

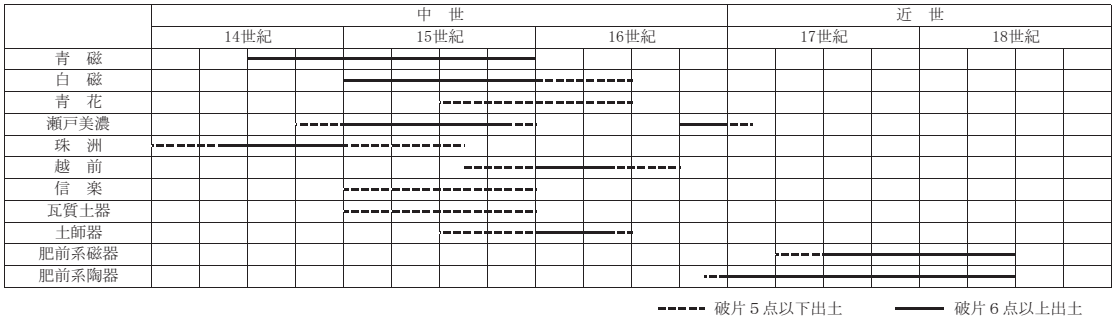
【参考】調査面積 1,878㎡÷出土貿易陶磁破片数 39点＝48.15㎡（貿易陶磁器１点が出土する面積）

土器・陶磁器の時期別器種・産地 組成表

※ 数字は，時代ごとの総破片数に占める割合



土器・陶磁器 消長表



第86図　土器・陶磁器の組成と消長

た。接合後の総破片点数（同一個体と見られる破片でも，接合できないものはそれぞれを１点として数えた点数）は 273 点で，その内訳は第 86 図上段に記載し，中世・近世の各時代における，土器・陶磁器の産地・器種別の総破片数に占める各割合を示したグラフ（中段）や，各時期における消長を示した表（下段）も併せて掲載した。なお，瀬戸美濃焼は大窯第４段階の終わりが 17 世紀初頭，肥前系陶器はⅠ期の始まりが 16 世紀末となっていることから，瀬戸美濃焼大窯期は近世，肥前系陶器は中世の時期のものが一部含まれている可能性はあるが，ここでは大窯段階の瀬戸美濃焼は中世，肥前系陶器はいずれも近世として取り扱った。

まず，中世全体の土器・陶磁器の組成を概観すると，中国産の陶磁器類，瀬戸美濃焼，珠洲焼，越前焼がいずれも 20％前後の量で，何かが卓越して多いという状況は認められない。

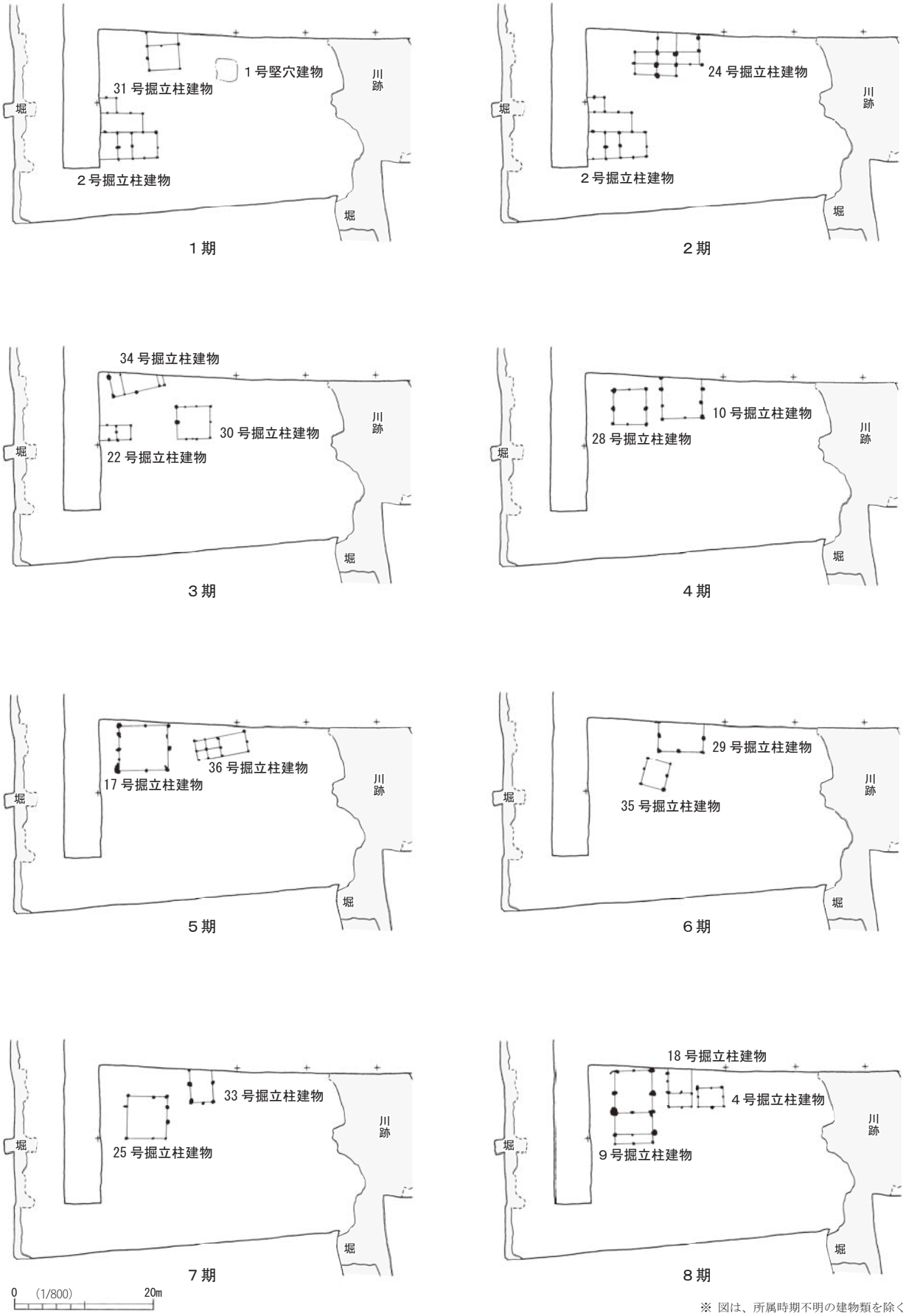
本遺跡出土の中世遺物で，最も古い時期に位置付けられるのは吉岡編年Ⅱ～Ⅲ期頃の珠洲焼である。ただし，13 世紀代に該当するそれらの遺物がごく少量出土しているに過ぎないため，本遺跡の始まりをこの時期に求めることは難しいであろう。遺物の組成にバリエーションが見られるようになるのは，14 世紀後半になってからである。上田分類Ｂ－Ⅱ類の青磁碗と吉岡編年Ⅳ期の珠洲焼が出土している。14 世紀後葉から末頃になると，新たに瀬戸美濃焼が組成に加わる。15 世紀に入ると，これまで組成の中心であった珠洲焼が激減する。減少した珠洲焼に代わり組成に加わるのが，瓦質土器擂鉢と信楽焼壺である。また，森田分類Ｂ群やＤ群の白磁皿類，藤澤編年古瀬戸後Ⅲ期から後Ⅳ期の碗皿類が新たに加わり，上田分類Ｂ類やＤ類の碗とともに供膳具を構成する。このような組成は 15 世紀中葉までは大きく変わらない。15 世紀後葉頃からは，越前焼Ⅳ期以降の擂鉢や壺・甕類が組成に加わり，手づくね成形の京都系土師器皿類も出土し始めるが，瀬戸美濃焼は減少し，信楽焼，瓦質擂鉢とともに 15 世紀末頃には組成から姿を消している。16 世紀前葉は，供膳具では森田分類Ｅ群の白磁皿や京都系土師器皿，田中・木村編年Ｖ期の越前焼の擂鉢と壺・甕類という組成になるが，前代に比べると全体の出土量は減少する。16 世紀中葉の遺物は見られず，16 世紀後葉後半頃になると大窯第３段階の瀬戸美濃焼の皿類が出土し始め，16 世紀末には大窯第４段階の瀬戸美濃焼皿類と，大橋編年Ⅰ期の肥前系陶器碗・皿類が出土する。

近世になると，中世段階で見られたような器種や産地のバリエーションは見られなくなり，肥前系の陶磁器類でほぼ構成されるようになる。17 世紀初頭頃は肥前系陶器の碗・皿などの食膳具で占められるが，17 世紀の前葉後半を過ぎた頃になると，肥前系磁器の碗・皿類のほかに，肥前系陶器の擂鉢や壺・甕類も出土するようになる。17 世紀後半に入ると，肥前系磁器碗の出土量も増え，本遺跡における肥前系陶磁器類の出土量がピークに達する。18 世紀に入ると遺物の出土量は減少し，18 世紀前半代に本遺跡は終焉を迎える。

以上が，本遺跡出土の中・近世の土器・陶磁器の変遷である。14 世紀代までは珠洲焼が調理具や貯蔵具の多くを占め，15 世紀には珠洲焼が減少，それを補完するように瓦質土器擂鉢や信楽焼壺が組成に加わり，15 世紀末頃に越前焼が入ってくる状況などは既往の研究成果（水澤 2009b）を追認する結果といえる。また，中世段階までは様々な産地の器種により構成されていた陶磁器組成が，近世には肥前系陶磁器類が卓越するという状況も，これまでの調査や研究成果と概ね調和的であると評価できよう。

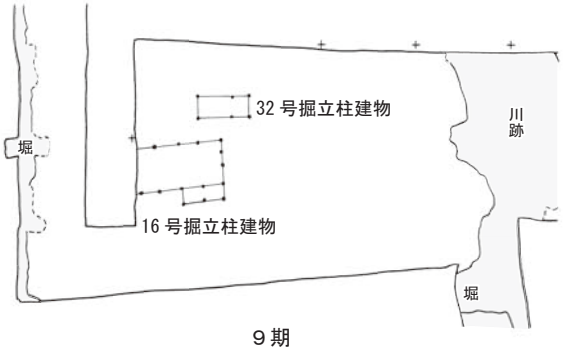
２　建物の消長と遺跡の変遷（第 87・88 図）

発掘調査では，800 基を超えるピットとそれらから復元した掘立柱建物 37 棟，柵列３列，竪穴建物１棟を検出した。これらの遺構のほとんどが 10 m× 10 mの大グリッド３つ分の範囲に密集した状態で検出されていることから，限られた狭い範囲の中で幾度も建物が改築されていたことが想定できる。検出された建物の中で，重複関係にあるものの先後関係を整理し，建物を中心にその変遷を整理したところ，第 87・88 図に示した通り，11 期に分かれることが判明した。なお，同図には所属時期を特定できない１・５～８・11・13 ～ 15・19・20・23・26・37 号

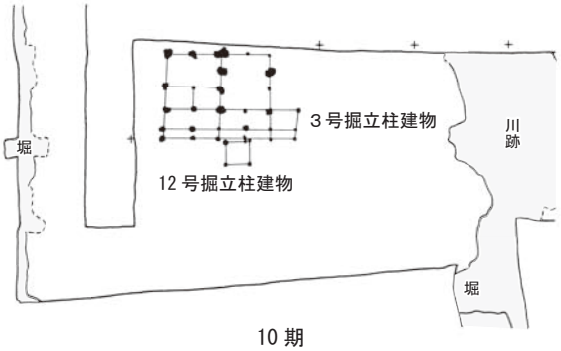


※ 図は、所属時期不明の建物類を除く

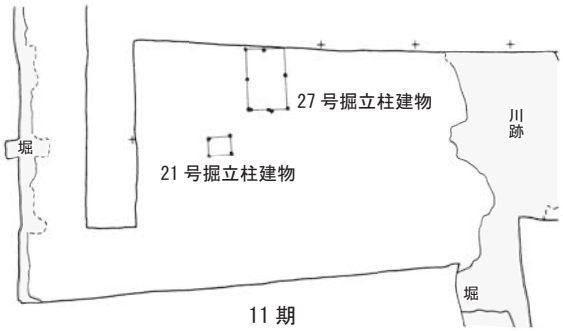
第87図　建物類の変遷（1）



9 期



10 期



11 期

※ 図は、所属時期不明の建物類を除く

0 (1/800) 20m

遺構名	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	備　考
1号掘立柱建物	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	
2号掘立柱建物	━	━										
3号掘立柱建物										━		
4号掘立柱建物								━				
5号掘立柱建物	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	
6号掘立柱建物	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	
7号掘立柱建物	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	14・15・19号掘立柱建物とは併存しない
8号掘立柱建物				┅	┅	┅	┅	┅		┅	┅	20号掘立柱建物とは併存しない
9号掘立柱建物								━				
10号掘立柱建物				━								
11号掘立柱建物				┅	┅	┅	┅	┅		┅		3号柵列とは併存しない
12号掘立柱建物										━		
13号掘立柱建物	┅	┅		┅	┅	┅	┅	┅	┅		┅	
14号掘立柱建物	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	7・19号掘立柱建物とは併存しない
15号掘立柱建物	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	7・19号掘立柱建物とは併存しない
16号掘立柱建物									━			
17号掘立柱建物					━							
18号掘立柱建物								━				
19号掘立柱建物	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	7・14・15号掘立柱建物とは併存しない
20号掘立柱建物				┅	┅	┅	┅	┅		┅	┅	8号掘立柱建物とは併存しない
21号掘立柱建物											━	
22号掘立柱建物			━									
23号掘立柱建物						┅	┅		┅		┅	26号掘立柱建物とは併存しない
24号掘立柱建物		━										
25号掘立柱建物							━					
26号掘立柱建物							┅		┅		┅	23号掘立柱建物とは併存しない
27号掘立柱建物											━	
28号掘立柱建物				━								
29号掘立柱建物						━						
30号掘立柱建物			━									
31号掘立柱建物	━											
32号掘立柱建物									━			
33号掘立柱建物							━					
34号掘立柱建物			━									
35号掘立柱建物						━						
36号掘立柱建物					━							
37号掘立柱建物	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	
1号竪穴建物	━											
1号柵列	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	2号柵列とは併存しない
2号柵列	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	1号柵列とは併存しない
3号柵列	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅	┅			┅	11号掘立柱建物とは併存しない

━ 建物等が存在していた時期　┅ 建物等が存在してた可能性のある時期

第88図　建物類の変遷（2）

掘立柱建物と１～３号柵列は掲載していない。

１期　２号掘立柱建物と，その北東に位置する 31 号掘立柱建物，31 号掘立柱建物の東に位置する 1 号竪穴建物で構成される。又下屋を有する２号掘立柱建物が，その規模から主屋の可能性がある。

２期　１期から継続して２号掘立柱建物が残り，それと新たに建てられた 24 号掘立柱建物で構成される。24 号掘立柱建物も，総柱建物の可能性のある比較的大きな規模の建物であることから，２号掘立柱建物とは異なる性格の建物と想定される。底面から炭化物が大量に検出された 10 号溝も，この時期に当たる。

３期　庇または下屋を有する 34 号掘立柱建物と，その南東側に 30 号掘立柱建物，南西側に 22 号掘立柱建物で構成される。34 号掘立柱建物が調査区外へ延びているため全容は不明だが，平面構造から主屋に類する建物と想定される。

４期　10 号掘立柱建物と，その西側に位置する 28 号掘立柱建物で構成される。いずれもあまり大きな建物ではないが，主屋が 10 号掘立柱建物で，28 号掘立柱建物はそれに付属する建物と想定される。

５期　17 号掘立柱建物と，その東に位置する 36 号掘立柱建物で構成される。この時期の建物もあまり大きな規模ものはないが，17 号掘立柱建物が主屋と考えられる。

６期　29 号掘立柱建物と，その南西に位置する 35 号掘立柱建物で構成される。北側が調査区外へと延びるため全容は不明だが，29 号掘立柱建物が主屋で，35 号掘立柱建物はそれに付属する建物であろう。

７期　25 号掘立柱建物と，その北東側に隣接する 33 号掘立柱建物で構成される。33 号掘立柱建物は，調査区北側へ延びていくため全容は不明だが，やや小規模な建物と考えられる。

８期　妻庇を有する９号掘立柱建物と，その東側に隣接する 18 号掘立柱建物・４号掘立柱建物で構成される。建物規模から９号掘立柱建物が主屋で，４・18 号掘立柱建物がそれに付属する建物であろう。

９期　南東部分に下屋を有する 16 号掘立柱建物と，その北側に位置する 32 号掘立柱建物で構成される。建物規模から，16 号掘立柱建物が主屋で，32 号掘立柱建物はそれに付属する建物と考えられる。

10期　今回の調査で検出された建物のうち，最も大きな規模の建物で主屋となる３号掘立柱建物と，その南に隣接する付属屋となる 12 号掘立柱建物で構成される。

11期　27 号掘立柱建物と，その南西に位置する 21 号掘立柱建物で構成される。建物の規模から，27 号掘立柱建物が主屋で，21 号掘立柱建物は付属する建物であろう。

以上の 11 期に分けて遺跡の変遷をたどることができる。

各期の年代であるが，前節で示したとおり中世と近世で出土する陶磁器類の産地・器種の構成が全く異なる点に着目したい。４期以前の遺構からは中世の遺物のみが出土しているのに対し，５期以降はほとんどの時期の建物から肥前系陶磁器が出土している。このような状況から，本遺跡における中世と近世の境は４期と５期の間にあると考えることとしたい。そして，２期に位置付けられる 10 号溝から出土した炭化物の放射性炭素年代測定結果と，土器・陶磁器類の年代観から，１期を 14 世紀後半から 15 世紀中頃，２期を 15 世紀中頃から 16 世紀前葉，３・４期を 16 世紀代と考える。また，それに続く５期以降 11 期までを 16 世紀末以降から 18 世紀前半までの時期に当たるとし，出土遺物から 10 期は 17 世紀後半以降の年代を考えたい。

３　結　　語

今回の調査の結果，方半町規模の中世の方形居館といわれていた板山館跡は，中世だけでなく，近世に移行した後もその敷地を屋敷地として利用されていたことが判明した。館は，東側に山と川を背負うように立地し，南，西，北の三方に堀を巡らし築かれていた。出土遺物の年代から，14 世紀後半から，16 世紀中葉頃に一時その足跡は途

絶えるが，18 世紀前半までその敷地は利用され，少なくとも 11 回にわたり建物の建替えが行われていたことが明らかとなった。中世の館の主は不明ではあるが，方半町という館の規模から小領主クラスの館と考えられ，中国製や瀬戸美濃焼の天目茶碗や茶臼を保有し，茶を嗜んでいたことが推測される。近世に入ってからも館の敷地は屋敷地として利用されていたことはこれまでも述べてきたが，その際に規模の大きな建物も築かれていることから，庄屋や名主といった地域の有力者クラスの屋敷地であったと想定される。

板山の地は，会津街道を赤谷方面から下関・米沢へと向かう際，小戸で加治川を渡り，板山から東へ折れて山沿いを北上し，南俣，田貝，虎丸，三光から菅谷へと抜ける往時の道（菅 1961）の，山際と平野部の境にあたる交通の要衝であった。そして板山館の位置する場所は，秋葉山城が立地する秋葉山を東側に背負い，西側の平野部を広く望むことができ，また，山から流れ出る水が平野部へと注がれる入口にもあたる。これらのことが，板山を治める領主がこの地を館を築く場所として選んだ要因であることは，想像に難くないのではないだろうか。

引用・参考文献

相羽 重徳　2011「第Ⅵ章　まとめ　２　中世　Ｂ　加工円盤の分類と用途」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 207 集　北陸新幹線関係発掘調査報告書ⅩⅣ　姫御前遺跡Ⅱ・竹花遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

阿部 洋輔　2017「付編　五十公野氏と新発田氏についての粗描」『五十公野館跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

伊藤 喜代子・鈴木 暁ほか　2008『加治天王前遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

伊藤 喜代子・鶴巻 康志ほか　2006『太田遺跡・箱館跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

伊藤 啓雄　2006「新潟県における中世土師器皿と輸入陶磁器・瀬戸美濃製品―中世後半～近世初頭の様相―」『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』北陸中世考古学研究会

伊万里市史編さん委員会編　2006『伊万里市史 陶磁器編 古唐津・鍋島』伊万里市

上田 秀夫　1982「14 ～ 16 世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』第２号，日本貿易陶磁研究会

大橋 康二　1989『考古学ライブラリー 55　肥前陶磁』ニューサイエンス社

小野 正敏　1982「15，16 世紀の染付碗，皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』第２号，日本貿易陶磁研究会

加藤 学　1999「第Ⅴ章　上層の調査　１．遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 93 集　上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ　和泉Ａ遺跡（本文・観察表編）』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤 学・猪狩俊哉　2004「第Ⅴ章 遺物　５　木製品　Ｂ　柱根・礎板・根絡み　２　柱根の観察・計測項目」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ　青田遺跡（本文・観察表編）』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤 学・石垣 義則ほか 2014『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 247 集 一般国道７号新発田拡幅事業関係発掘調査報告書 小船渡遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

亀井 明徳編 2002『明代前半期陶瓷器の研究―首里城京の内 SK01 出土品― 専修大学アジア考古学研究報告書１』

九州近世陶磁学会事務局編 2000『九州陶磁の編年―九州近世陶磁学会 10 周年記念―』九州近世陶磁学会

新発田市史編纂委員会編 1980『新発田市史』上巻，新発田市

菅 善四郎編 1961『川東郷土史料』川東公民館

鈴木 暁・田中 耕作ほか 2004『上新田Ｂ遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

関 雅之 1999「所謂「新潟県新発田市板山産黒曜石」について―発見の経緯と分布についての覚書―」『北越考古学』第 10 号，北越考古学研究会

高桑 弘美 2003「Ⅰ 土器 ５ 瓦質土器」東北中世考古学会編『中世奥羽の土器・陶磁器』高志書院

髙橋 保雄・高橋 保ほか 2005『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 141 集 磐越自動車道関係発掘調査報告書 北野遺跡Ⅱ（上層）本文編』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

田中 耕作 1983『小戸Ａ遺跡・小戸館跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

田中 耕作・坂野井 絵里ほか 2007『狐森Ｂ遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

田中 耕作・鈴木 暁ほか 2014『中野遺跡・庄道田遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

田中 耕作・鶴巻 康志 1992『館ノ内遺跡Ｄ地点の調査』新発田市教育委員会

田中 耕作・鶴巻 康志ほか 1990『三光館跡・宝積寺館跡』新発田市教育委員会

田中 照久・木村 孝一郎 2005「越前窯」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～ 資料集』全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会

津田 憲司 2011『太斎館跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

鶴巻 康志・清水 美和ほか 1997『新発田城跡発掘調査報告書Ⅱ（第７～ 10 地点）』新発田市教育委員会

鶴巻 康志・永井いずみほか 2005『荒神裏Ａ遺跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

鶴巻 康志・高橋 正志 1999『寺内館跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会

戸根 与八郎・田中 耕作ほか 2017『五十公野館跡 発掘調査報告書』新発田市教育委員会

扉山遺跡発掘調査会 1988「縄文早期扉山遺跡発掘調査報告」『北越考古学』創刊号，北越考古学研究会

中村 隼人 2015「南部諸城の研究」『紀要』第 34 号，（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

藤澤 良祐 2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『（財）瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第 10 輯，財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

水澤 幸一 2004「15 世紀前葉から中葉の貿易陶磁器様相」『貿易陶磁研究』第 24 号，日本貿易陶磁研究会

2005「越後の中世土器」『新潟考古』第 16 号，新潟県考古学会

2009a「15 世紀末～ 16 世紀中葉の陶磁器様相―貿易陶磁と越前―」『新潟県の考古学Ⅱ』新潟県考古学会

2009b『日本海流通の考古学―中世武士団の消費生活―』高志書院

2017「中世後期の青磁盤」『中近世陶磁器の考古学』第五巻，雄山閣

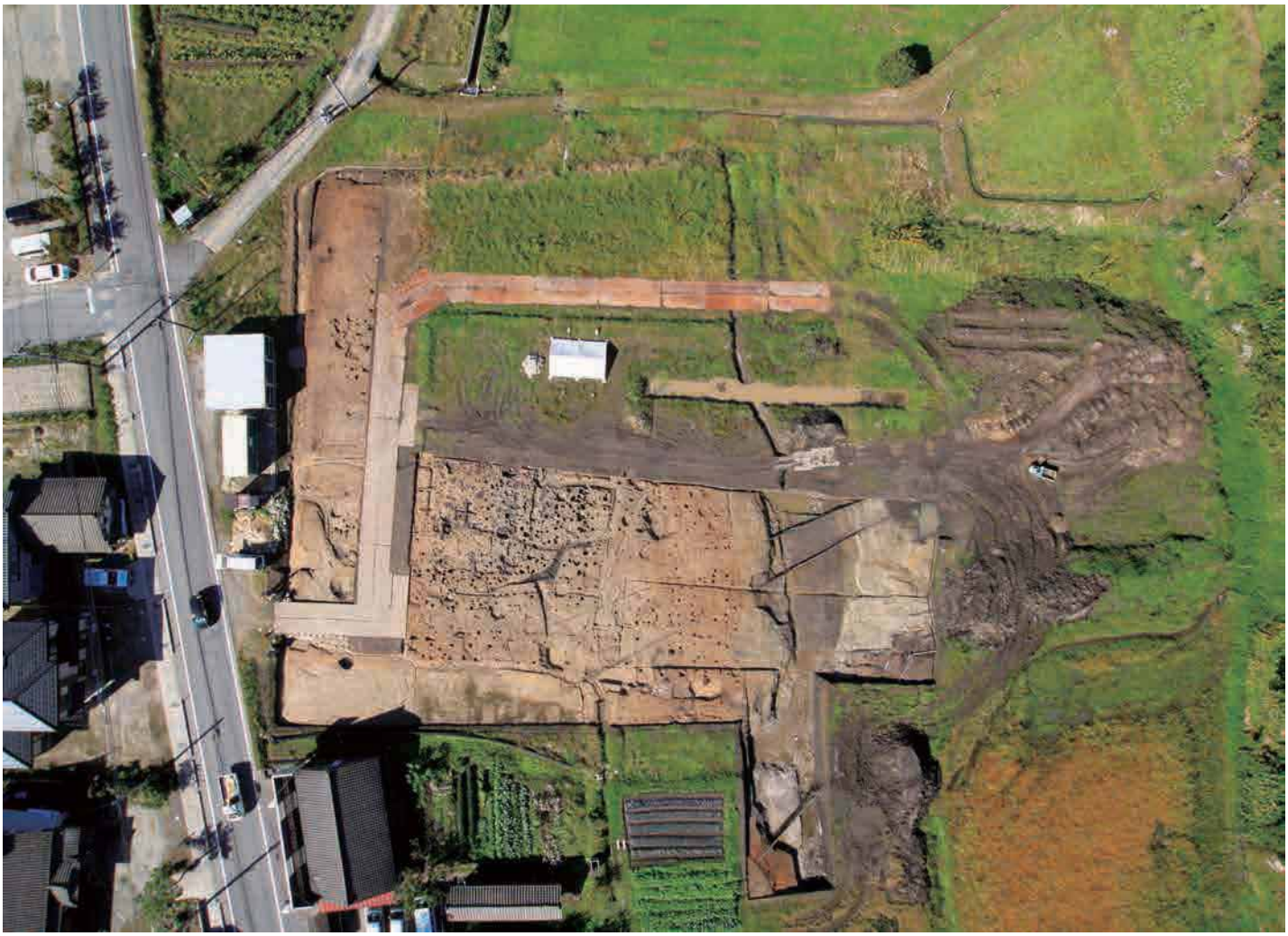
宮本 長二郎 1999「日本中世住居の形成と発展」『建築史の空間―関口欣也先生退官記念論文集』中央公論美術出版

森田 勉 1982「14 ～ 16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』第２号，日本貿易陶磁研究会

矢田 俊文・新潟県立歴史博物館編 2009『越後文書宝翰集 大見安田・水原氏文書』新潟県立歴史博物館

吉岡 康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

調査区遠景（南東から）



調査区全景

図版２　基本土層，遺構検出状態，１・２号柵列

Be３－５ 調査区基本土層（西から）

Dg５－１ 調査区基本土層（南から）

Eh１－３ 調査区基本土層（北から）

Fi ３－５ 調査区基本土層（東から）

Cf～Fhグリッド 遺構検出状態

Ｃｆ・Dfグリッド 柱穴検出状態

Ｃg・Dgグリッド 柱穴検出状態

１・２号柵列 完掘状態

3号掘立柱建物P300 土層堆積状態（北から）

3号掘立柱建物P356 土層堆積状態（南から）

3号掘立柱建物P543・9号掘立柱建物P639 柱根検出状態（南から）

3号掘立柱建物P553 土層堆積状態（西から）

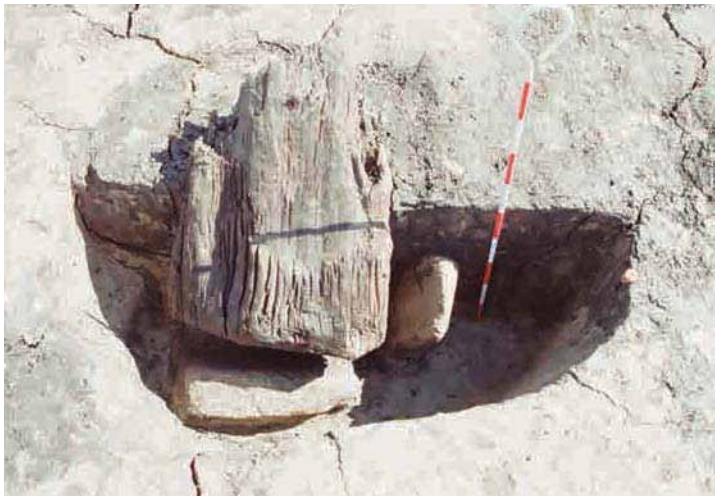
9号掘立柱建物P359 柱根検出状態（西から）

17号掘立柱建物P734 底面植物遺存体検出状態（東から）

24号掘立柱建物P442・33号掘立柱建物P329 柱根検出状態（北から）

24号掘立柱建物P720 土層堆積状態（東から）

図版４　25・26・33号掘立柱建物柱穴，1 号竪穴建物，1 ・ 3 号井戸



25号掘立柱建物P388 土層堆積状態（西から）

25号掘立柱建物P496 柱根検出状態（南から）

26号掘立柱建物P454 柱根検出状態（北から）

33号掘立柱建物P386 柱根検出状態（西から）

1 号竪穴建物　土層堆積状態（南から）

1 号竪穴建物 完掘状態（東から）

1 号井戸 完掘状態（東から）

3 号井戸 検出状態（南から）

２号井戸 土層堆積状態（東から）

２号井戸 完掘状態（東から）

20号土杭 検出状態（西から）

20号土杭 箍検出状態（北西から）

40号土杭 土層堆積状態（南東から）

40号土杭 検出状態（南から）

50号土杭 土層堆積状態（南から）

50号土杭 検出状態（西から）

図版６　４・10・14・20号溝，１号杭列，堀

４号溝 土層堆積状態（東から）

10・20号溝 土層堆積状態（西から）

10号溝 土層堆積状態（南西から）

10号溝 完掘状態（南西から）

14号溝 土層堆積状態（西から）

14号溝 完掘状態（南東から）

１号杭列 断ち割り断面（東から）

堀（周辺） 土層堆積状態（南から）

堀（南辺西側） 土層堆積状態（東から）

堀（南辺東側） 土層堆積状態（東から）

堀（北西隅） 完掘状態（西から）

堀（南西隅） 完掘状態（北から）

堀（南東隅） 完掘状態（南東から）

川跡北壁 土層堆積状態（南西から）

川跡南壁 土層堆積状態（北東から）

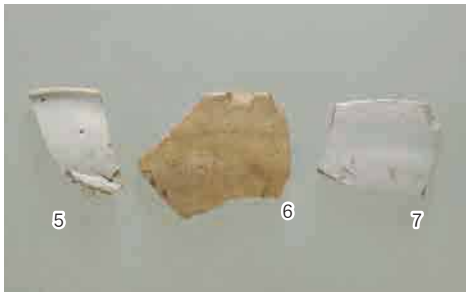
川跡 川底検出状態（南西から）

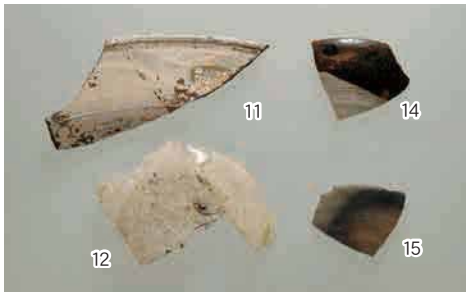
図版８　土器・陶磁器（１）

1
3
2
4

10

16（内底面）


5
6
7


11
14
12
15

16

8（内底面）

13（外底面）

16（外底面）

8

13

19

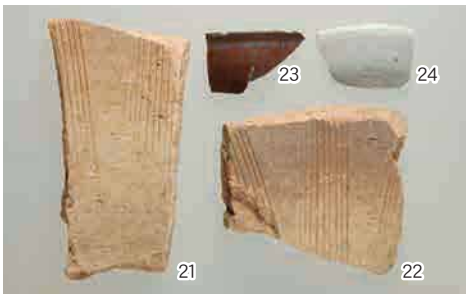
9（内底面）

13（外底面）

20

9

17


23
24
21
22

9（外底面）

18（外面）
18（内面）

26

25

34（内底面）

53

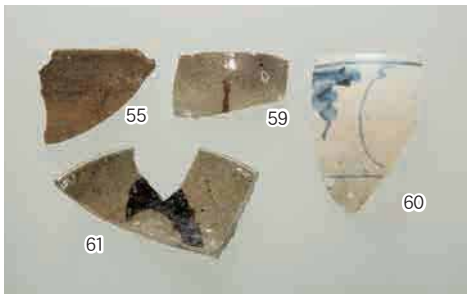
25（外底面）

34（外底面）

54

27
28
30
32
35

38
40
41
37
36
39


55
59
60
61

29

42
44
43

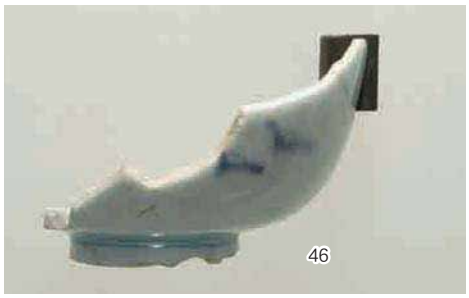
56

31（外面）
31（内面）

50
48
49
47
45

57（内底面）

33（内底面）


46

57

33

51
52

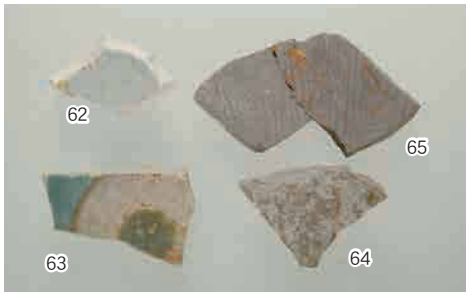
57（外底面）

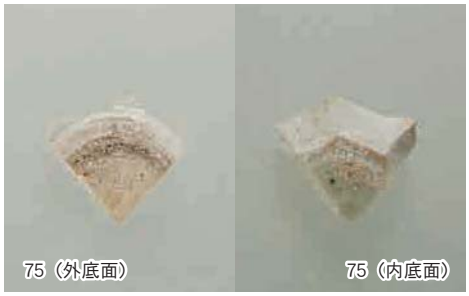
図版10　土器・陶磁器（3）

58

74
93

81（内底面）


62
65
63
64


75（外底面）
75（内底面）

81

66
68
67
（内面）

76
82
87
91
95

81（外底面）

66
68
67
（外面）

77
84
89
86
78
83

85（内底面）

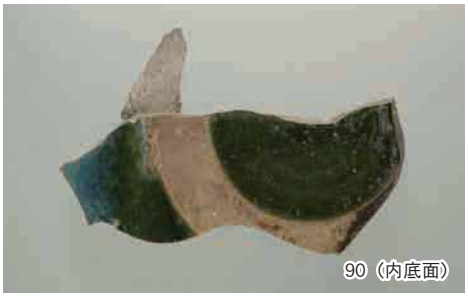
70
69
（内面）

79
88

85

70
69
（外面）

80
92

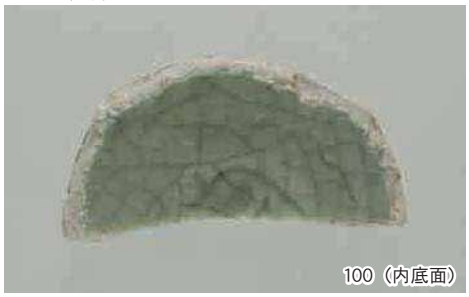

90（内底面）

71
73
72

94

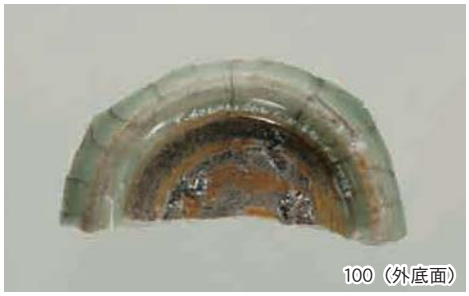
90（外底面）

96（内底面）


100（内底面）

105（底面）

96


100（外底面）

105

96（外底面）

101（内底面）

105（底面）

99（内底面）

101（外底面）

109（内面）

99（外底面）

187

109（外面）

97

98

107

125

110

113

117 118 119 120 121 122 123 124

図版12　石製品，石器

126
128
127
129
131
132
133
134
135
136
139
140
144
138
137
141
163
182
164
153
152
181
184
183
185
186

図版14　木製品（2）

147
150
151
154
156
157
155
158
159
160
161
162
165
166
167
178
179
180

報　告　書　抄　録

ふりがな	いたやまやかたあと はっくつちょうさほうこくしょ
書名	板山館跡 発掘調査報告書
副書名	県営担い手育成基盤整備事業（加治川右岸地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ
シリーズ名	新発田市埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第57
編著者名	本田 祐二・田中 耕作・黒沼 保子（㈱パレオ・ラボ）・ ㈱加速器分析研究所・㈱古環境研究所
編集機関	新発田市教育委員会
所在地	〒959－2323　新潟県新発田市乙次281番地２　　TEL　0254-22-9534　FAX　0254-26-3755
発行年月日	平成30（2018）年3月20日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
板山館跡（いたやまやかたあと）	新発田市板山字舘ノ越（しばたしいたやまあざたてノこし）2279番１ほか	15206	96	37° 54′ 16″	139° 24′ 32″	20130529～ 20131225	1,878	県営担い手育成基盤整備事業（加治川右岸地区）

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
城館跡 その他 （屋敷跡）	中世 近世	掘立柱建物37棟，竪穴建物１棟，柵列３列，井戸３基，土坑57基，溝31条，杭列１列，堀，川跡１筋	中世土師器，青磁，白磁，青花，中国陶器，瀬戸美濃焼，珠洲焼，越前焼，信楽焼，瓦質土器，肥前系陶器，肥前系磁器，加工円盤，茶臼，粉引臼，砥石，寛永通寶，漆器	川を利用して築かれた14世紀後半から16世紀代の半町規模の方形居館で，近世には屋敷地となり，18世紀前半まで使用されていた。

要　　約

板山館跡は，標高約64mの，加治川により開析された河成段丘を板山川が開析して形成した河成段丘中位面に立地している。遺跡は，方半町規模の中世の方形居館と考えられてきたが，調査の結果，河川沿いに立地することで残る三方のみに堀を掘削した中世の方形居館が，近世には屋敷地として利用されていたと判明した。

堀は，上面幅3.21m，底面幅2.89m，深さ0.69mの断面逆台形の箱堀で，土塁の痕跡は確認されていない。郭内からは，掘立柱建物37棟，竪穴建物１棟，柵列３列，井戸３基などを検出した。建物等は11期に渡り建て替えられ，出土遺物から，16世紀中葉頃の様相は不明であったが，14世紀後半から18世紀前半の期間に，ほぼ継続的に館または屋敷地として利用されていたことが明らかとなった。

館の主は不明だが，館の規模から小領主層の人物と考えられる。また、近世には大きな規模の建物が築かれていたため，その時代は名主や庄屋などの地域の有力者層の屋敷地であったと想定される。

遺跡の場所は，かつての交通の要衝であるとともに，山から流れ出る水が平野へと流れ込む入口にあたることから，この場所に館が築かれたと考えられる。

板山館跡 発掘調査報告書

県営担い手育成基盤整備事業（加治川右岸地区）
に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅳ

発　行　　平成 30（2018）年 3 月 20 日
新発田市教育委員会
新潟県新発田市乙次 281 番地 2
印　刷　　㈱エンジュ